

ILLUST

YOONGONJI

STORY

GOSONJAK

新

新世界

VOLUME.

01



VOLUME.

01

CONTENTS

- | | |
|-----|----|
| 第1話 | 幕開 |
| 第2話 | 欲望 |
| 第3話 | 逆転 |
| 第4話 | 亀裂 |
| 第5話 | 追跡 |

A WONDERFUL
NEW WORLD

す
ば
ら
し
き
新
世
界

僕は
たなか 一郎
田中 一郎

第1話 幕開

しかし
政府の就業支援
プログラムを受け
この度無試験で…

三流大出身

資格は皆無

日本の
最大手企業

社員証



人事管理部 田中一郎



うちゅう
宇宙グループ
本社に就職した

冴えない
スペックの
持ち主だ



問題は一つ

おはよう
ございます
田中一郎です…

入社から
一年も経つと
いうのに

同僚からの視線が
ずっと厳しい
ってことだ

コネ入社
のヤツだろ？
試験も受けて
ないって？

三流大
なんだろ？

キナ臭い
よな



政府の横暴だとか
世間はうるさかったが
そんなことは知らない



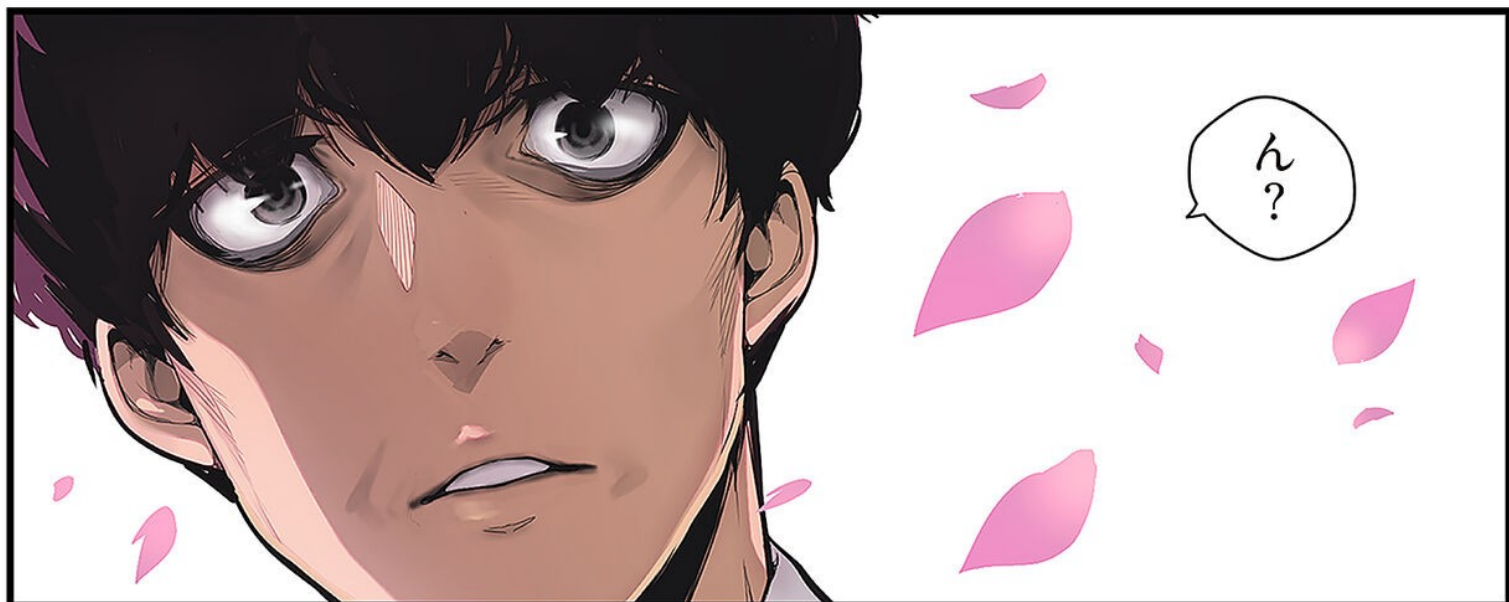
僕は大手に
在籍してさえ
すればいいのだ

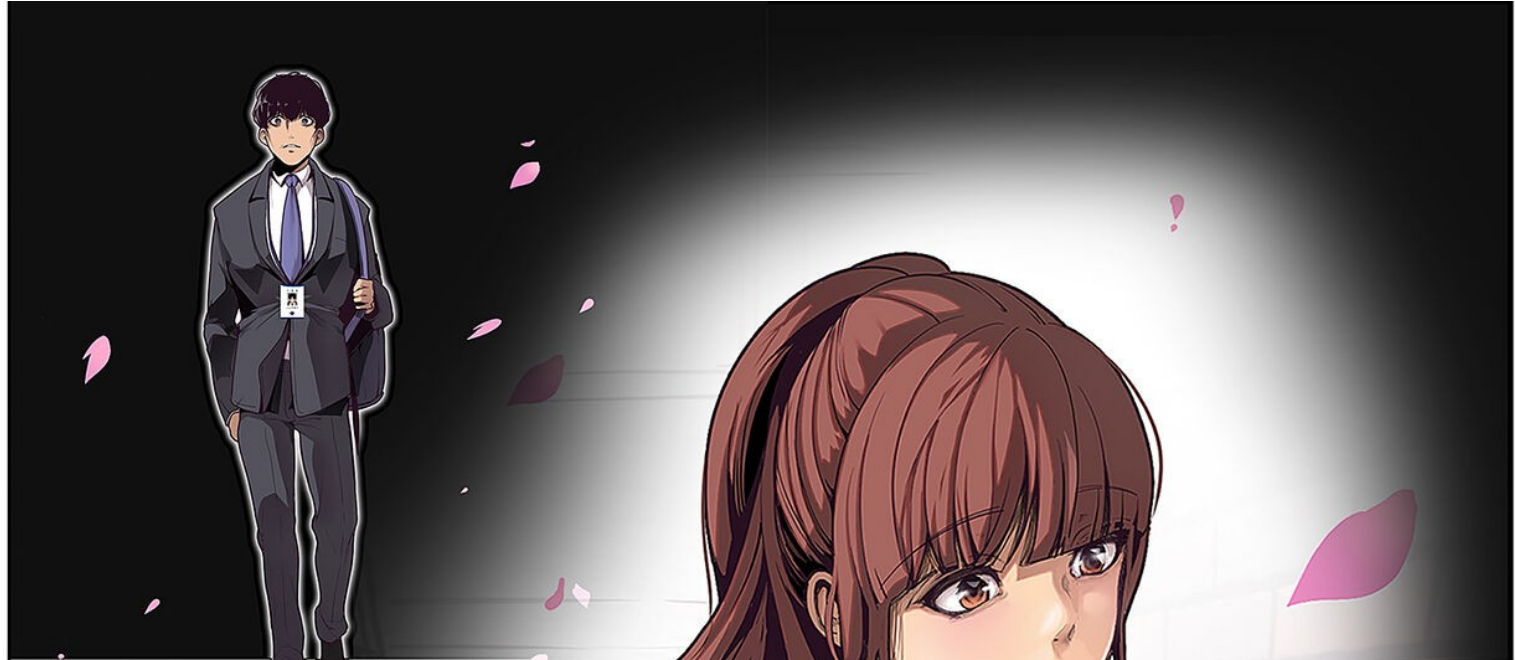


でも真面目に
やったら

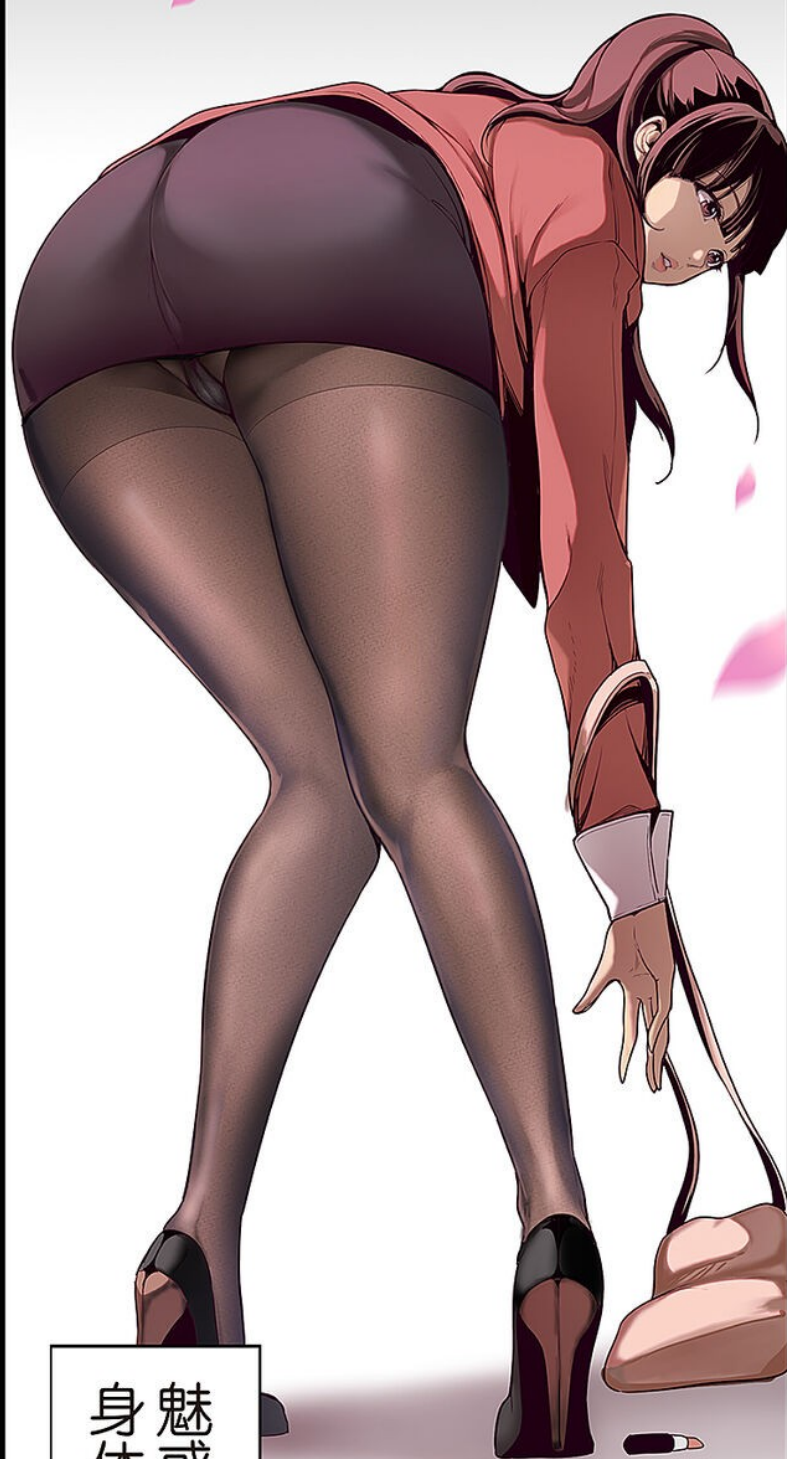
いつか認めて
もらえるかな？

今日も
ファイトだ！

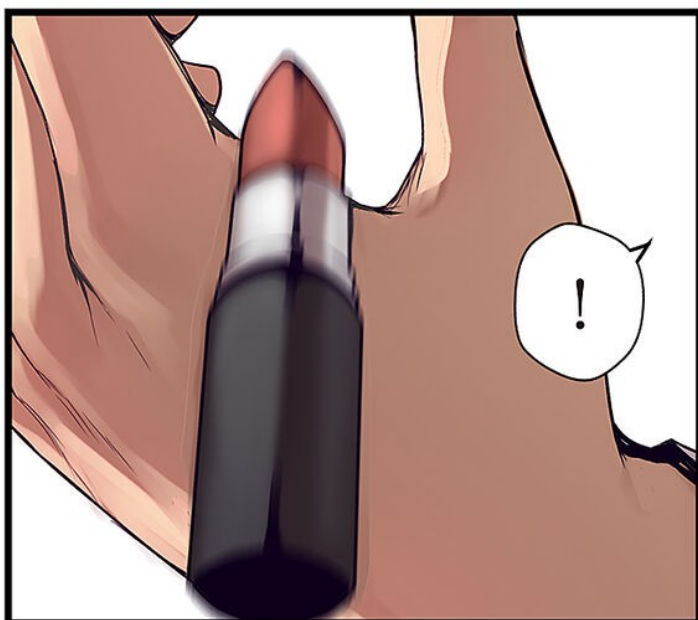
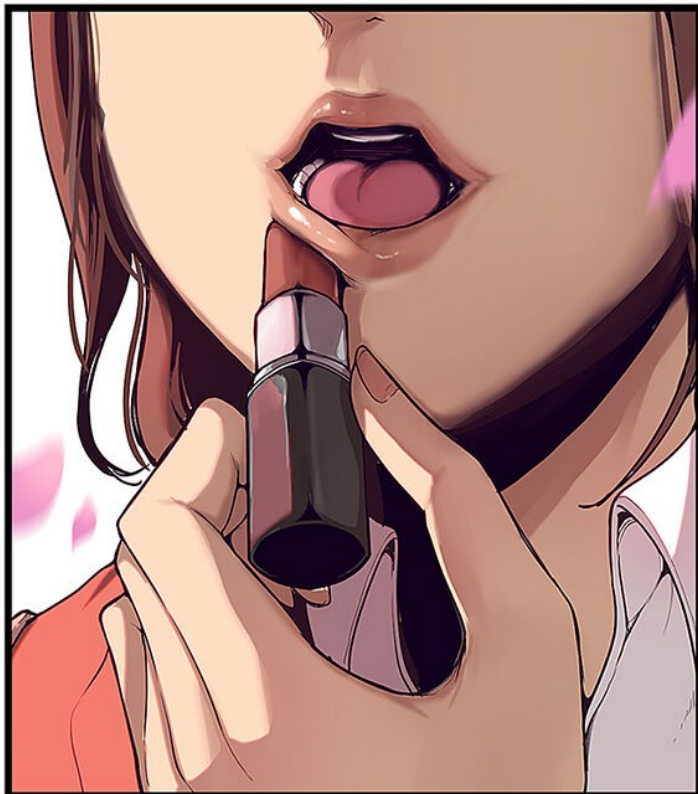




清楚な
顔立ちに



魅惑的な
身体



彼女は

しらとりみく
白鳥美紅

僕の階下の
住人で
顔見知りだ

当然彼氏
いるよな？

こんないい女
どんな男も
ほうっておかない

近所っただけで
興奮する男も
いるんだ

あっ

おはよう
ございます

お：お：
おはよう：
ございます：





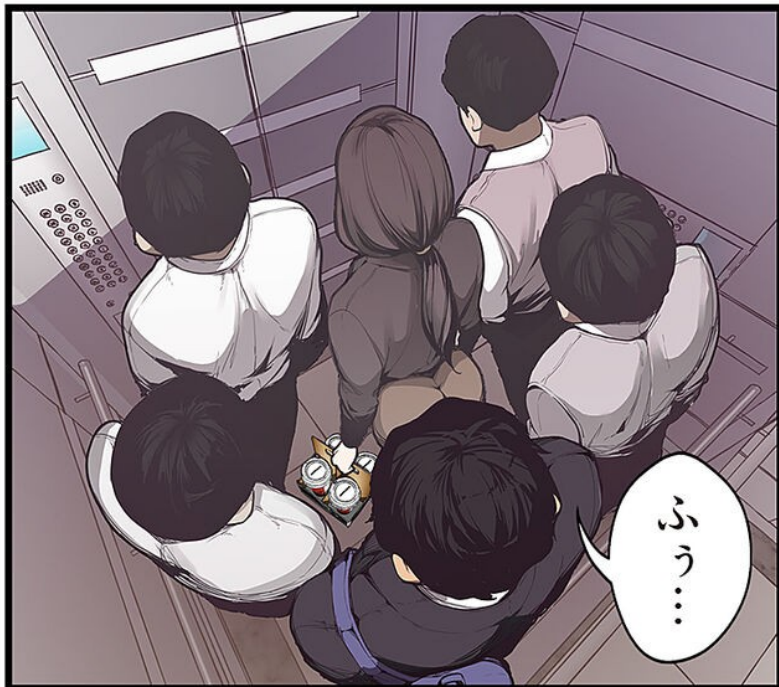




僕がソイツ
だったら

自転車なんか
ほっぽって

毎日
美紅さんに
乗るのに…



家賃に
教育ローン



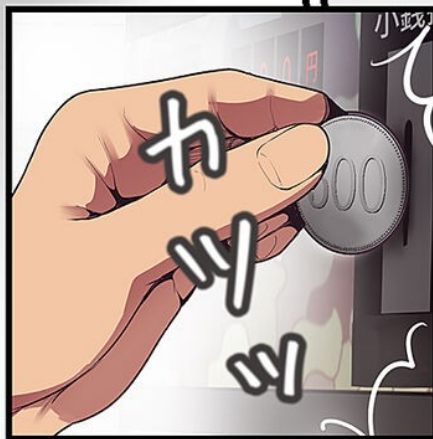
両親への
仕送りまでしたら
給料なんて
ほとんど残らない
ってのに…



なんでこんな
高いコーヒーを
飲むんだ？
金が有り余ってん
のか？

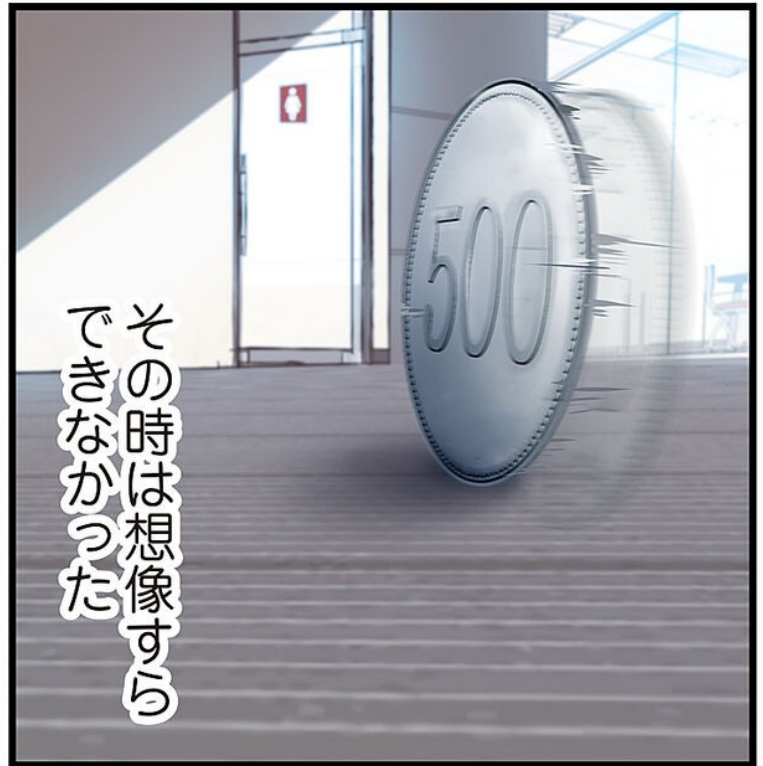


やっぱり
コーヒーは
自販機が一番



あっ…!

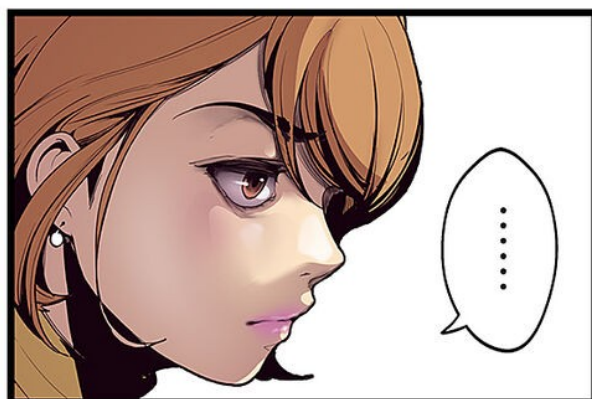
チャリートム

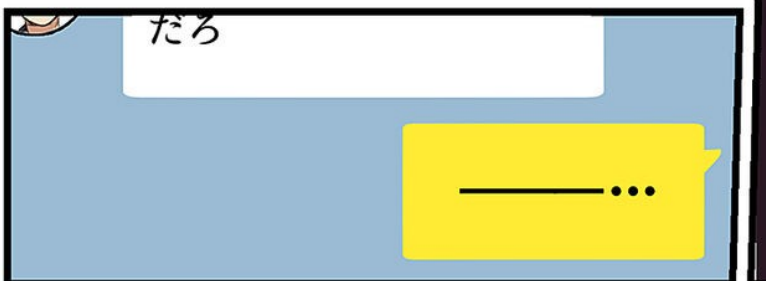
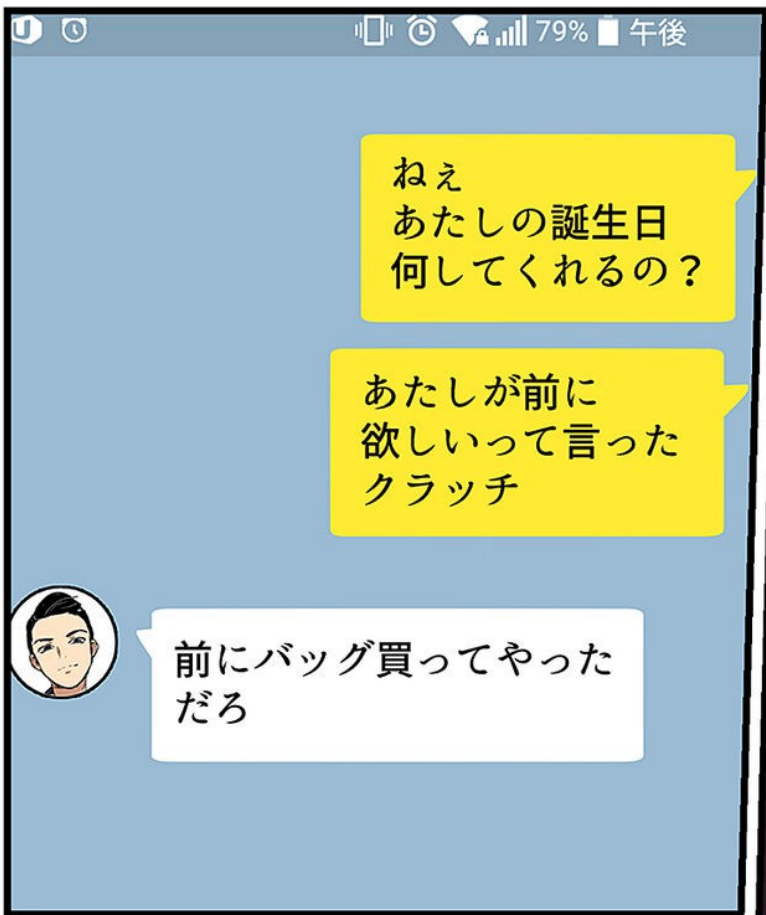
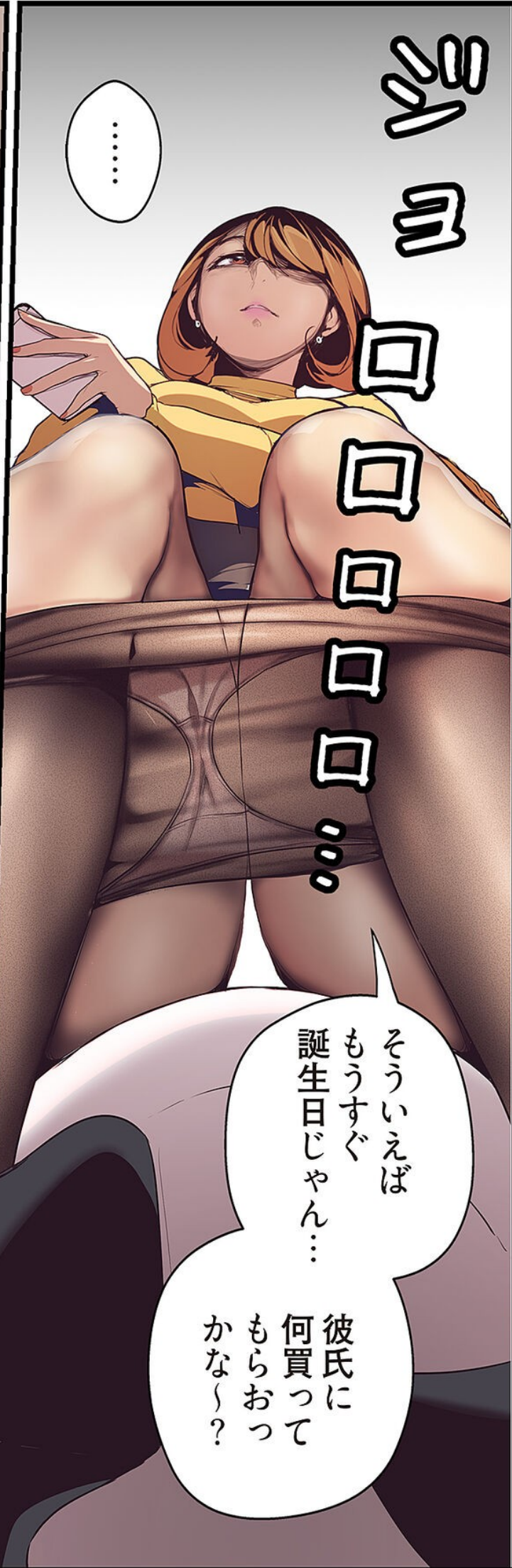
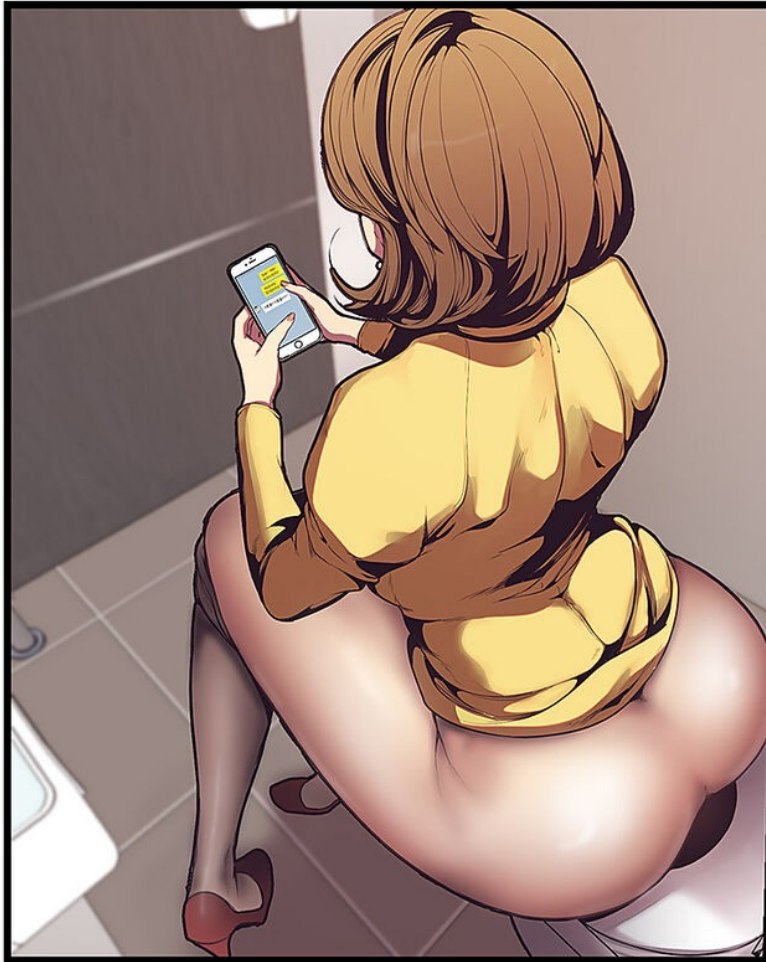




AMAZON
NEW WORLD

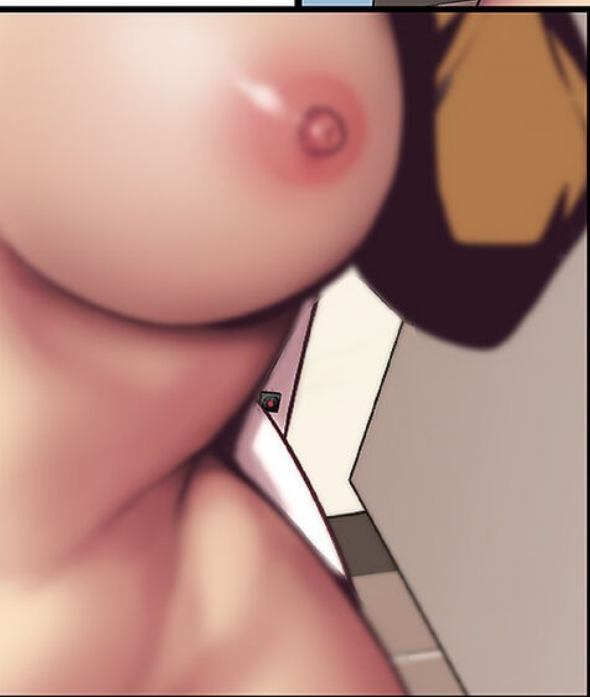
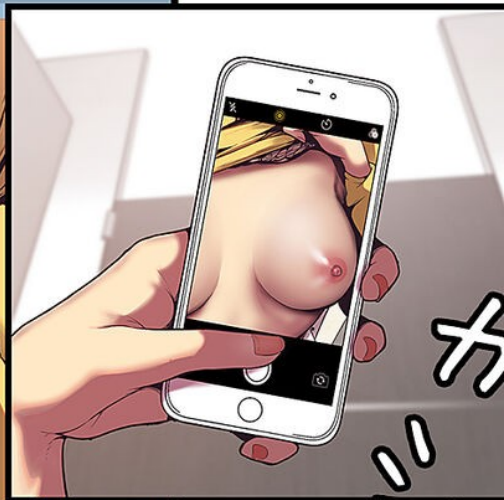
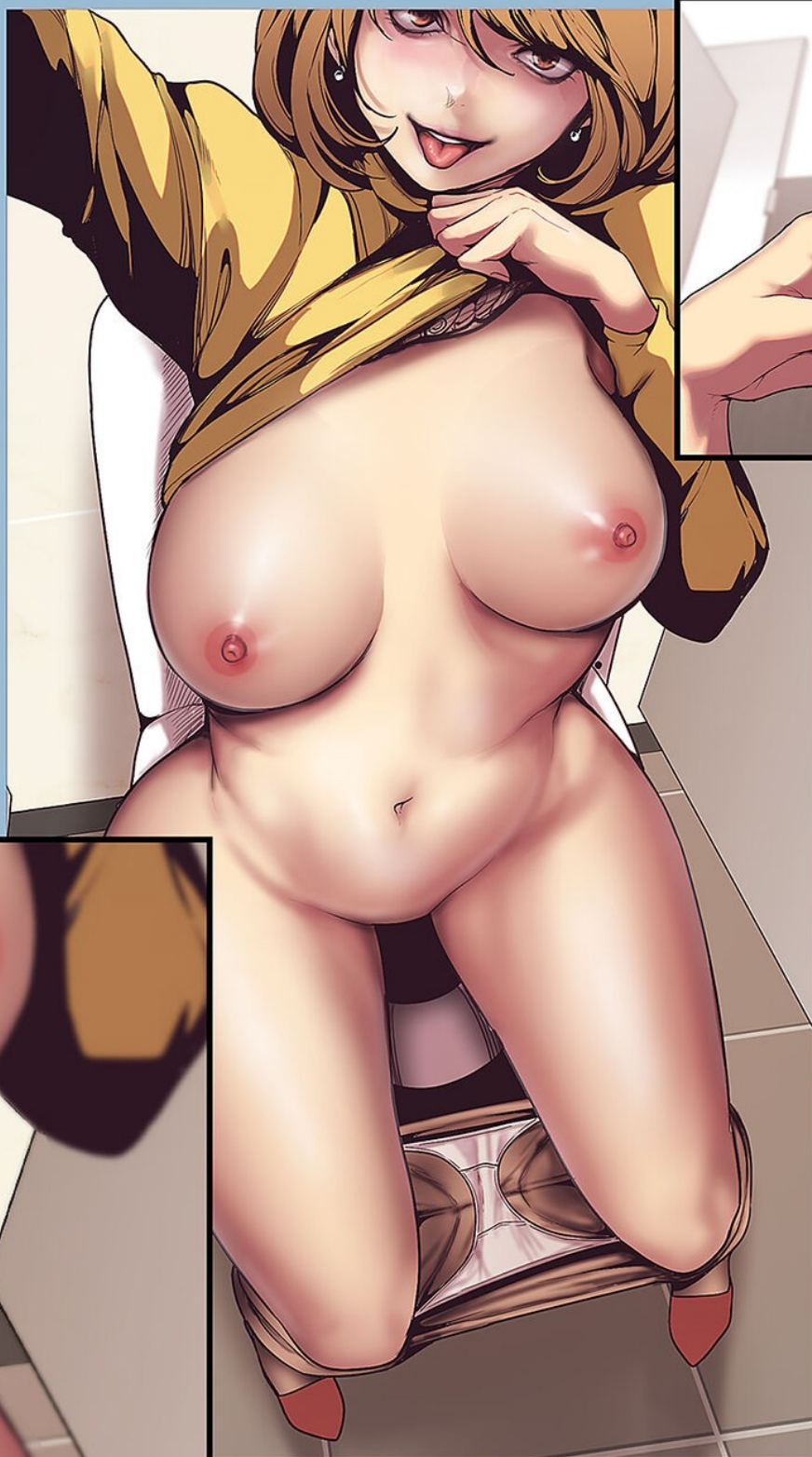
すばらしき
新世界





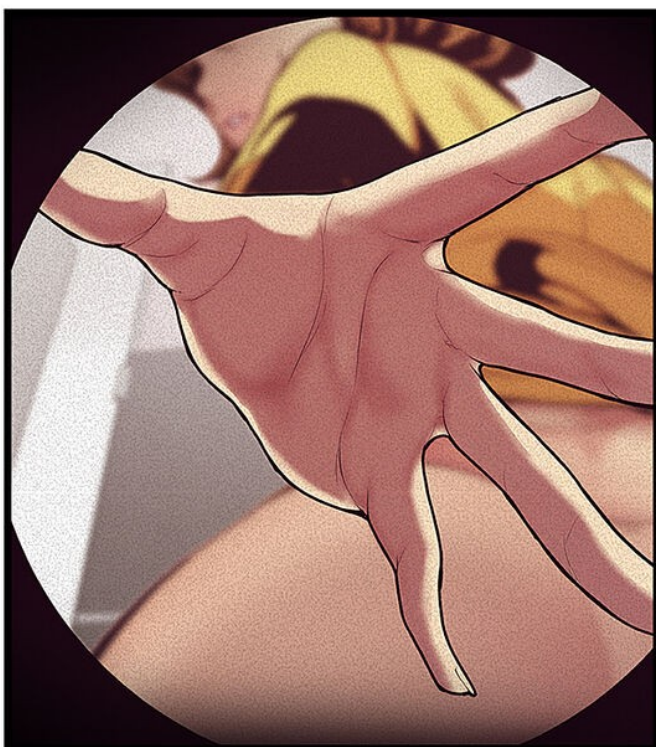
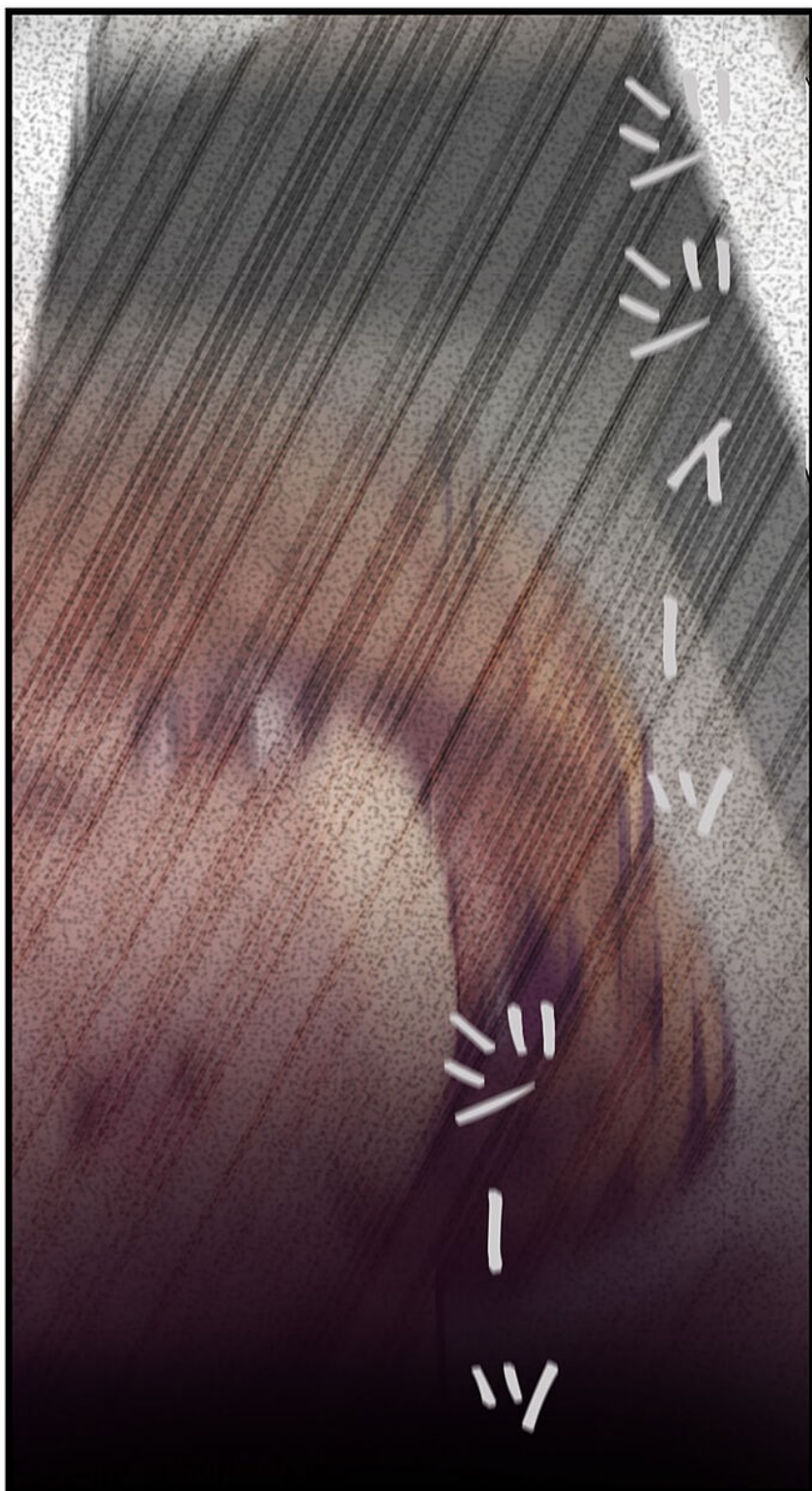
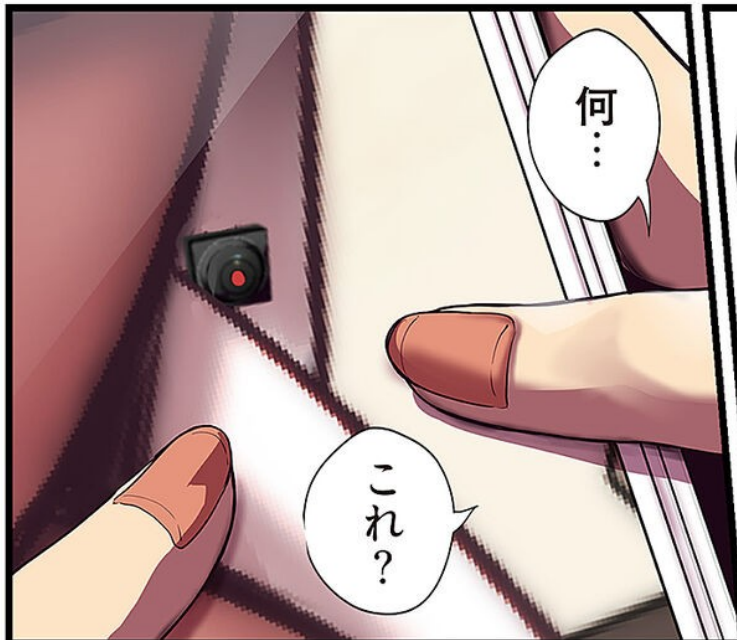


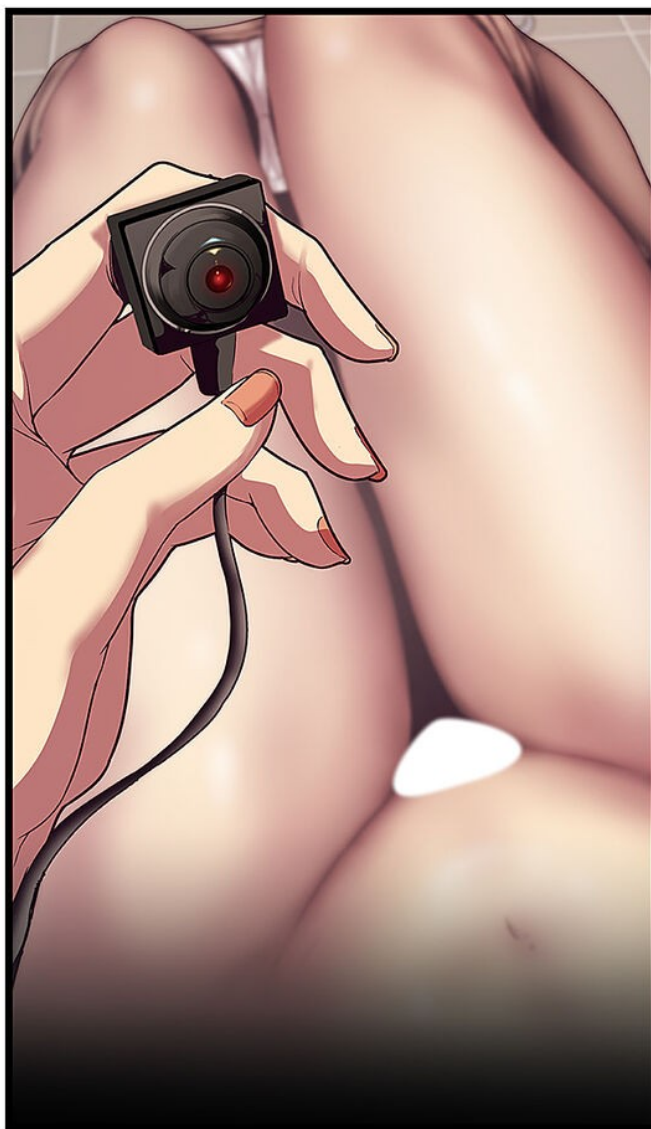
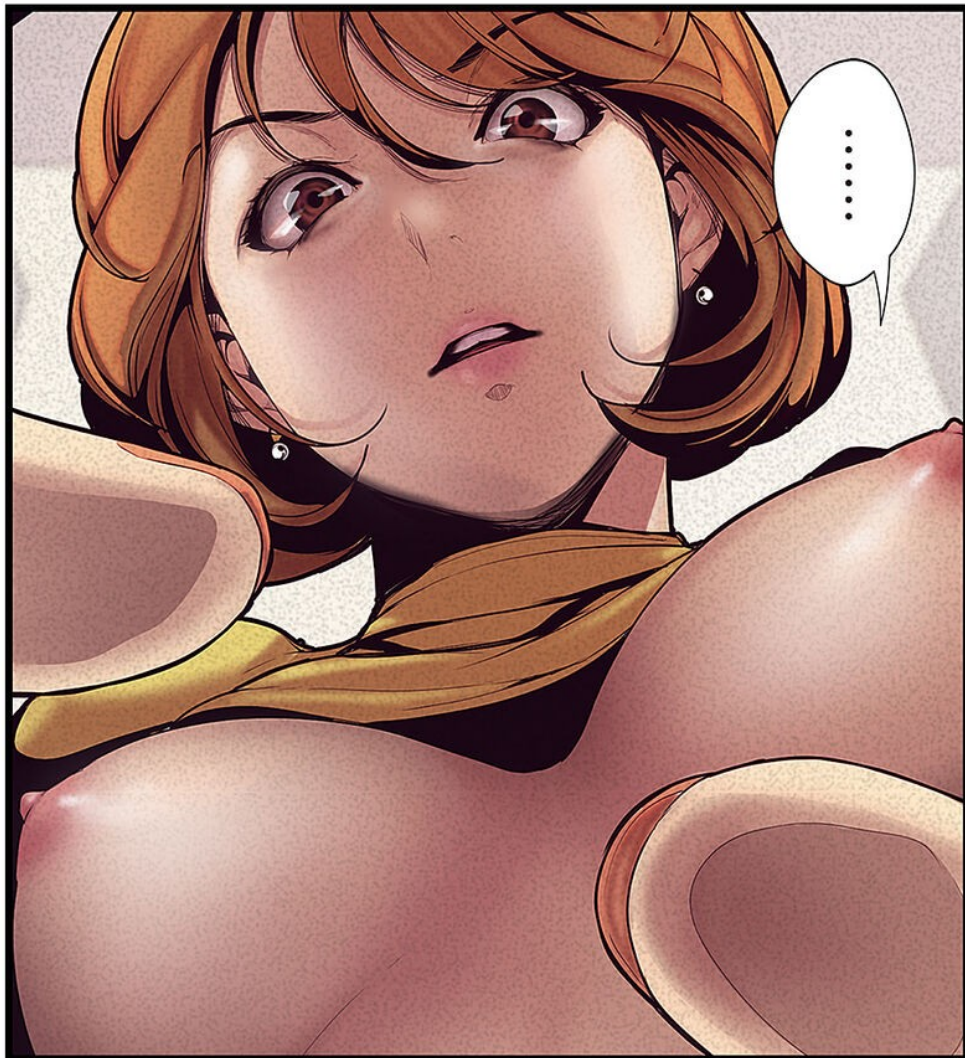
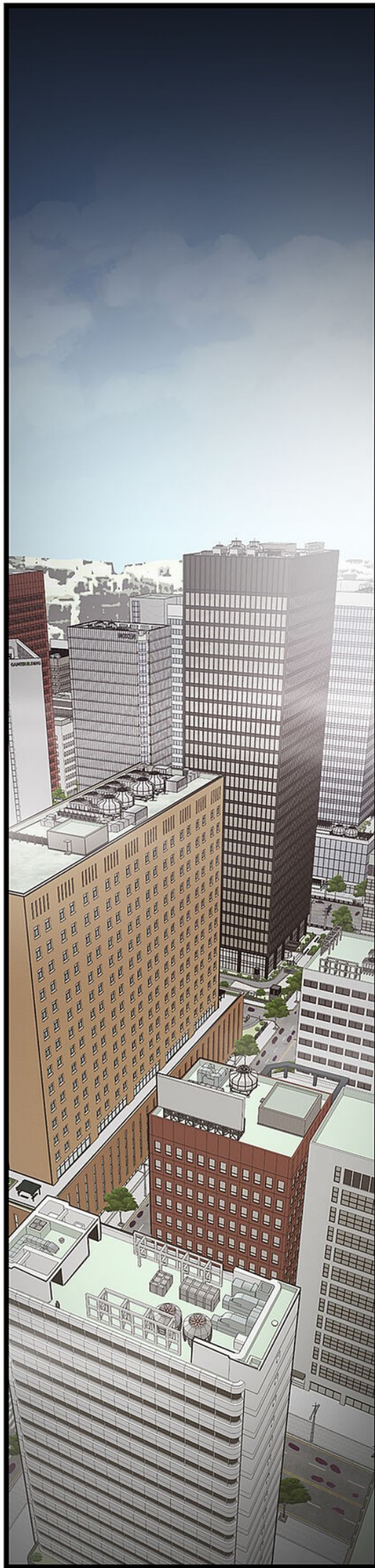
79% 午後



買ってくれるで
しょ？







誰だか
知らないけど
アタマ
おかしいわ

AVでも
見てりや
いいのに

魚で言や
AVってのは
養殖だからな

変態の
ヤツらは
天然物が
好きなのさ

おい…
その言い方
って…

何が
あったの？

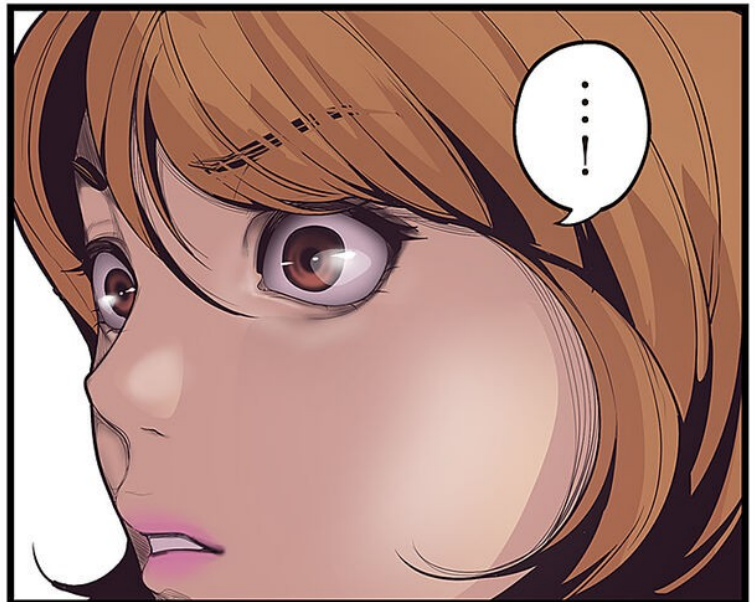
それが…

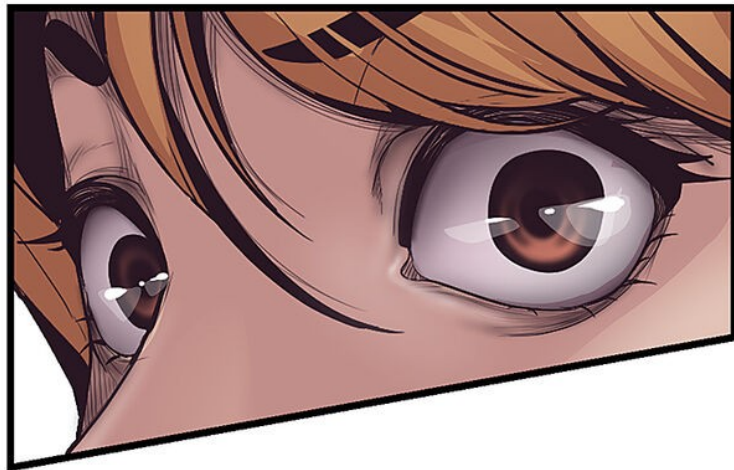
女子トイレに
隠しカメラが
仕掛けられて
たって

隠しカメラ？

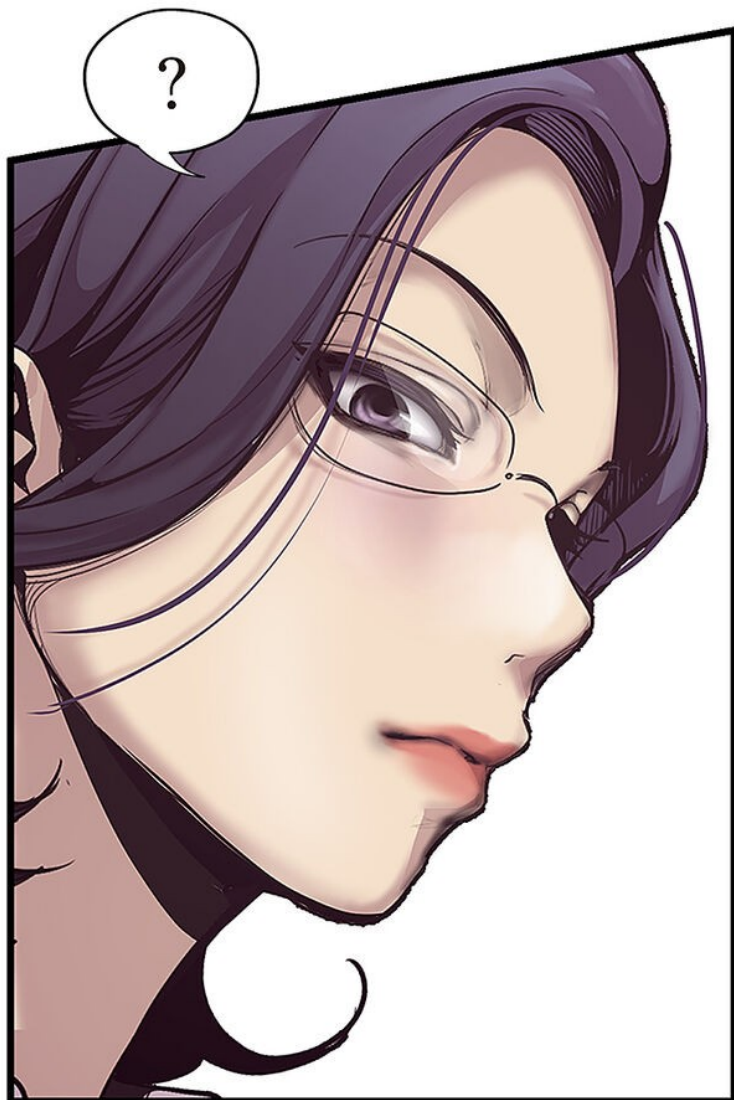
なかむらまい
中村麻衣
さん？

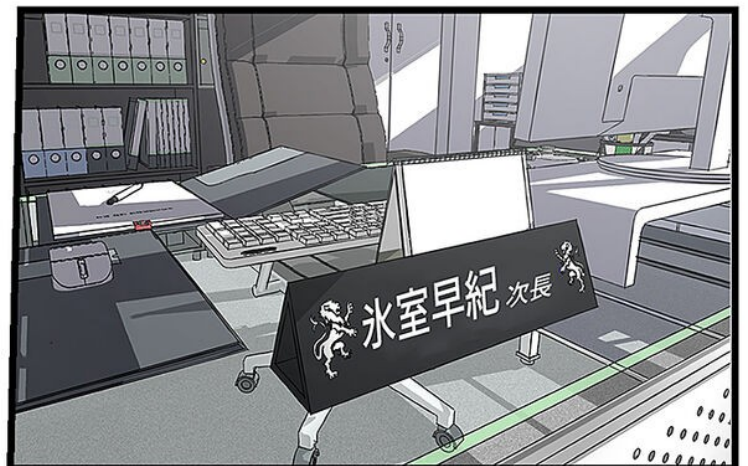
…はい

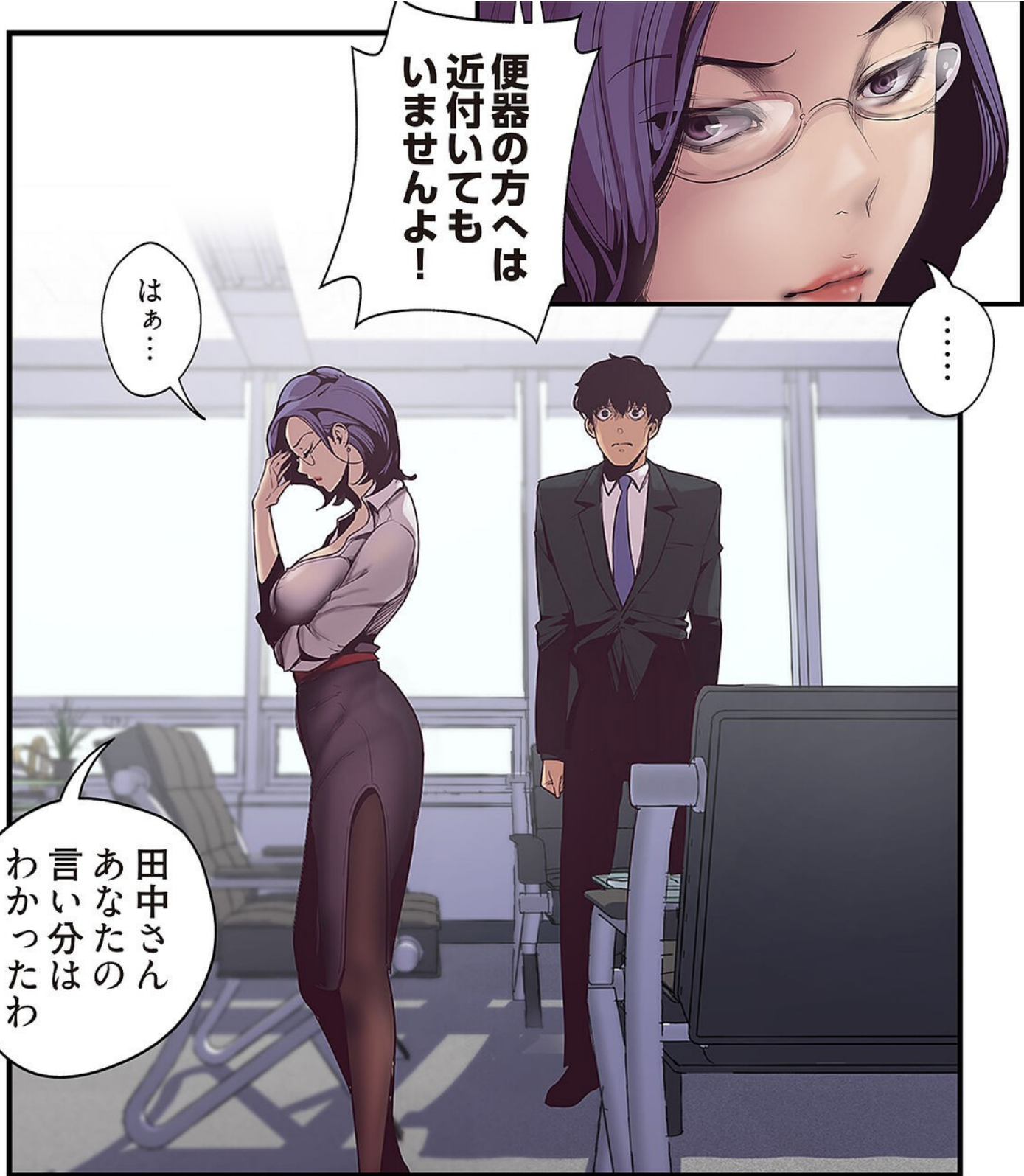




あの…
次長…







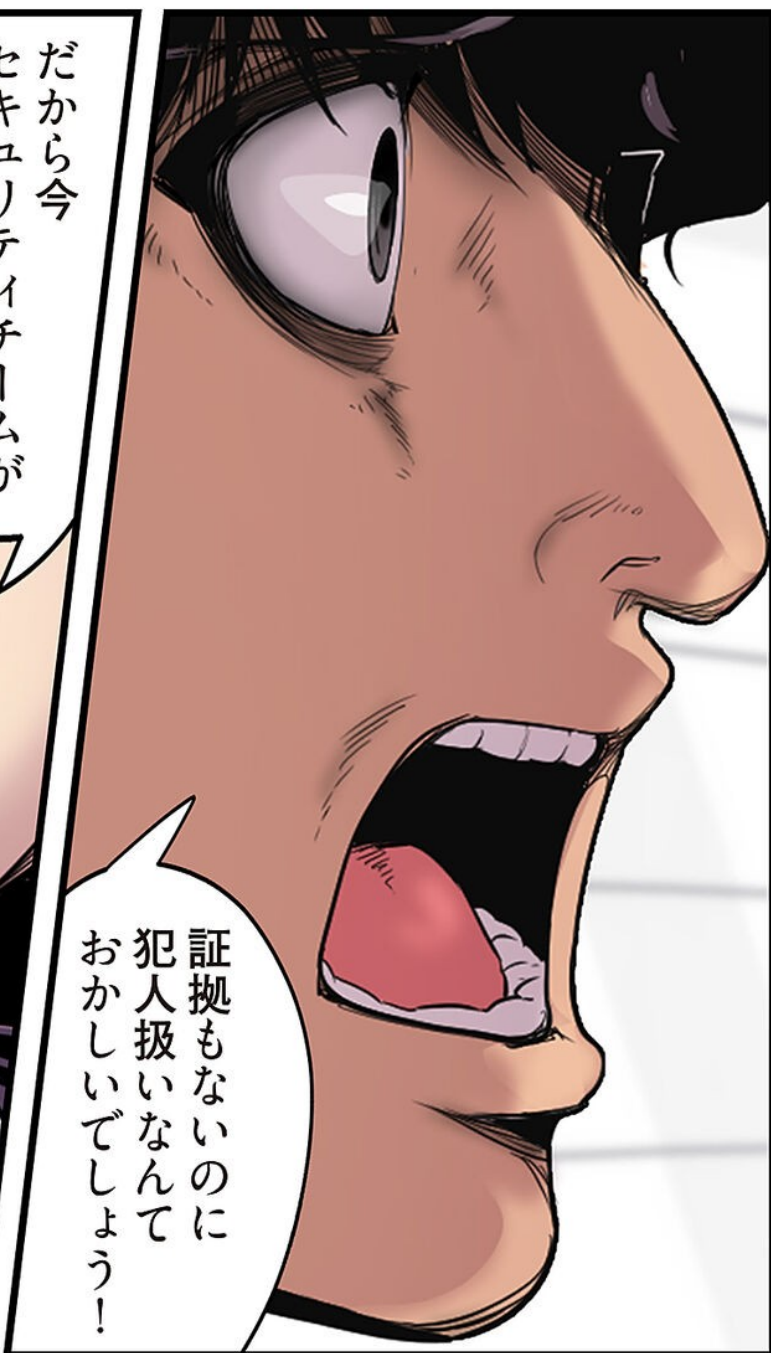
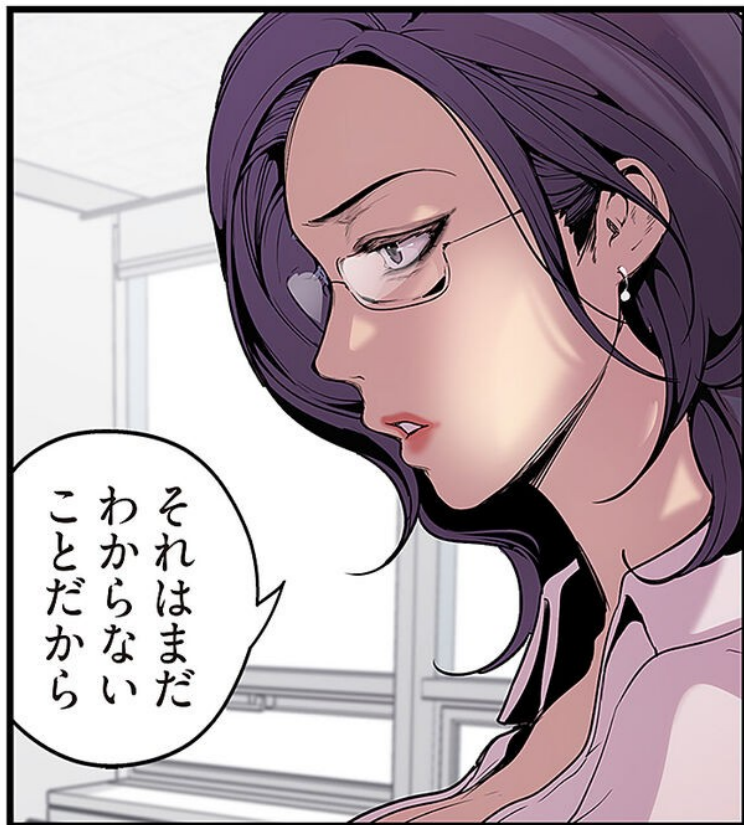


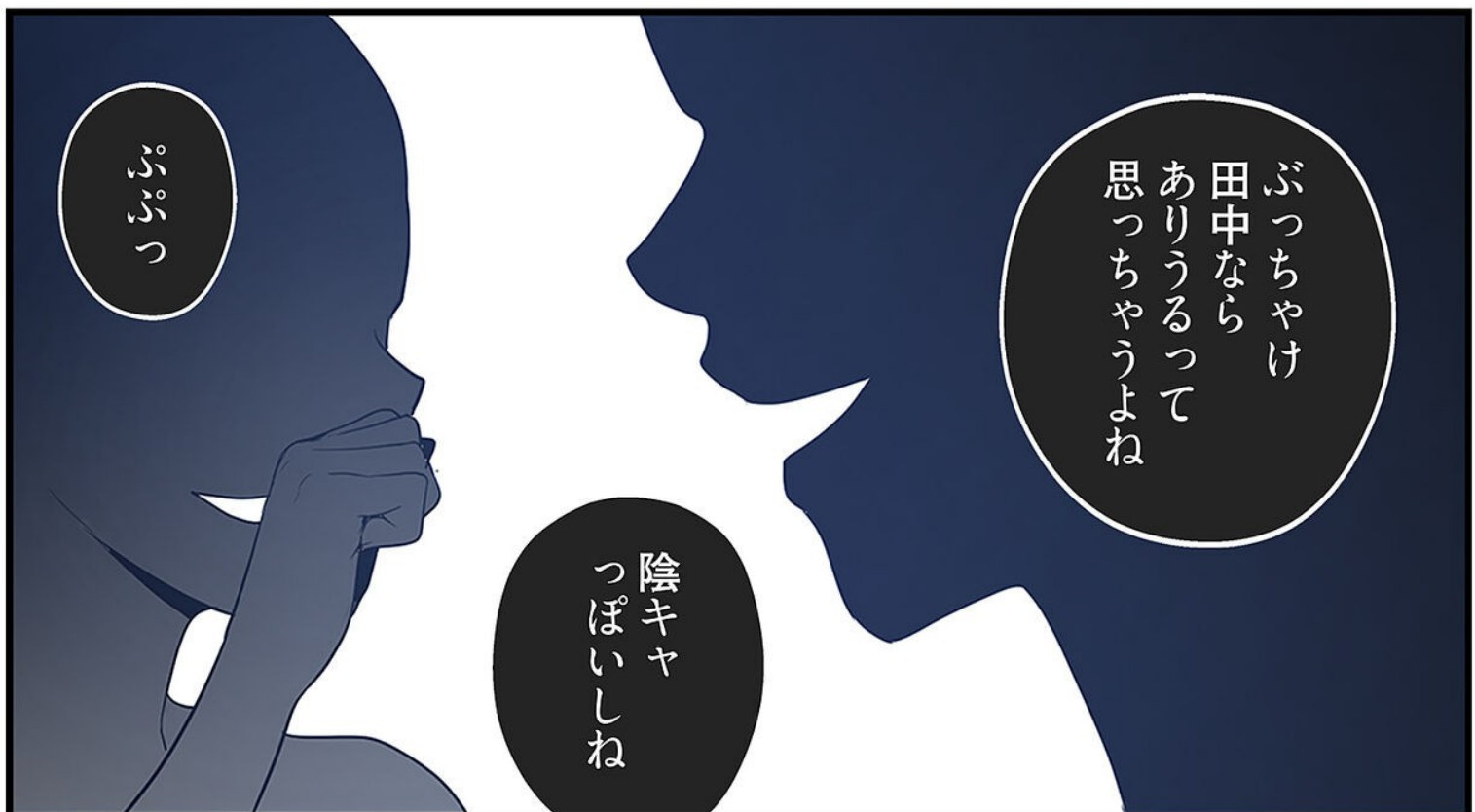
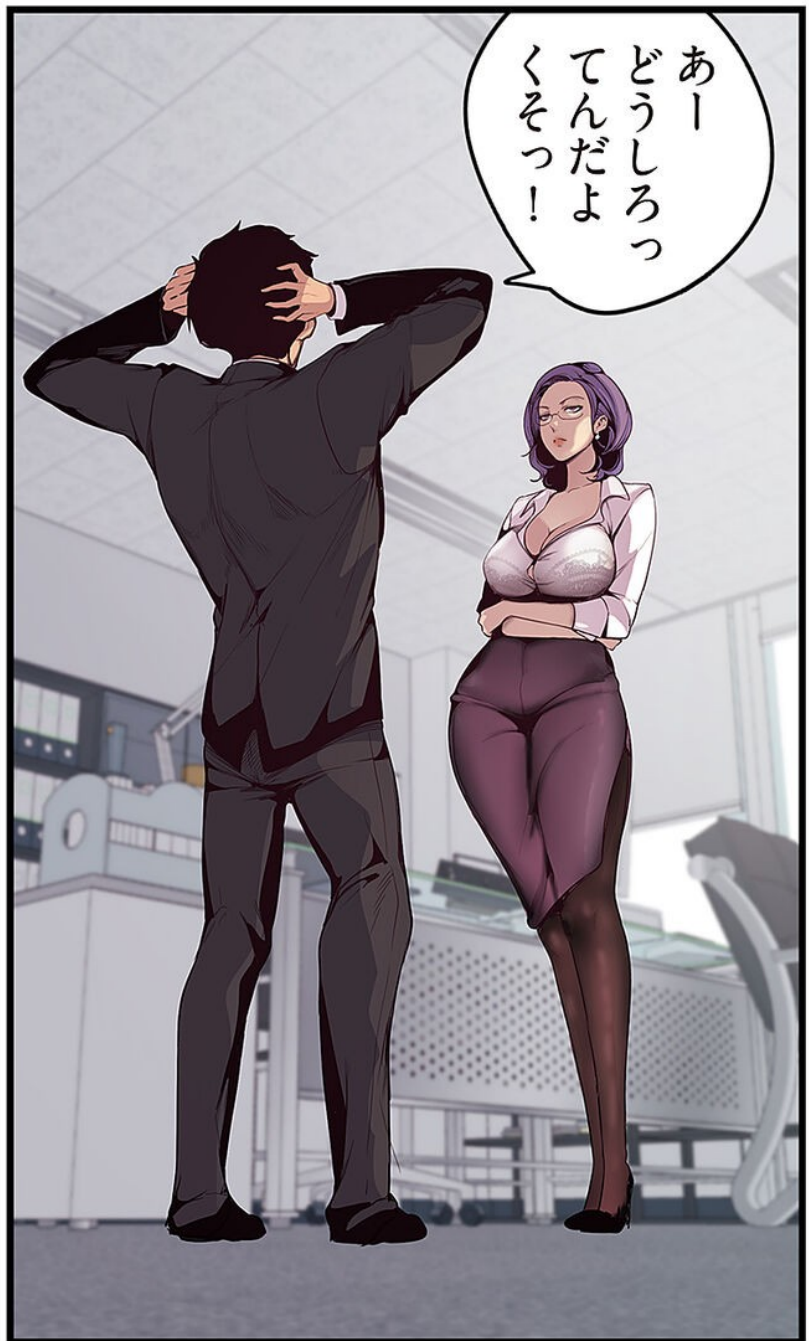
AMAZON
NEW WORLD

すばらしき
新世界

す
ば
ら
し
き
新
世
界

A WONDERFUL
NEW WORLD







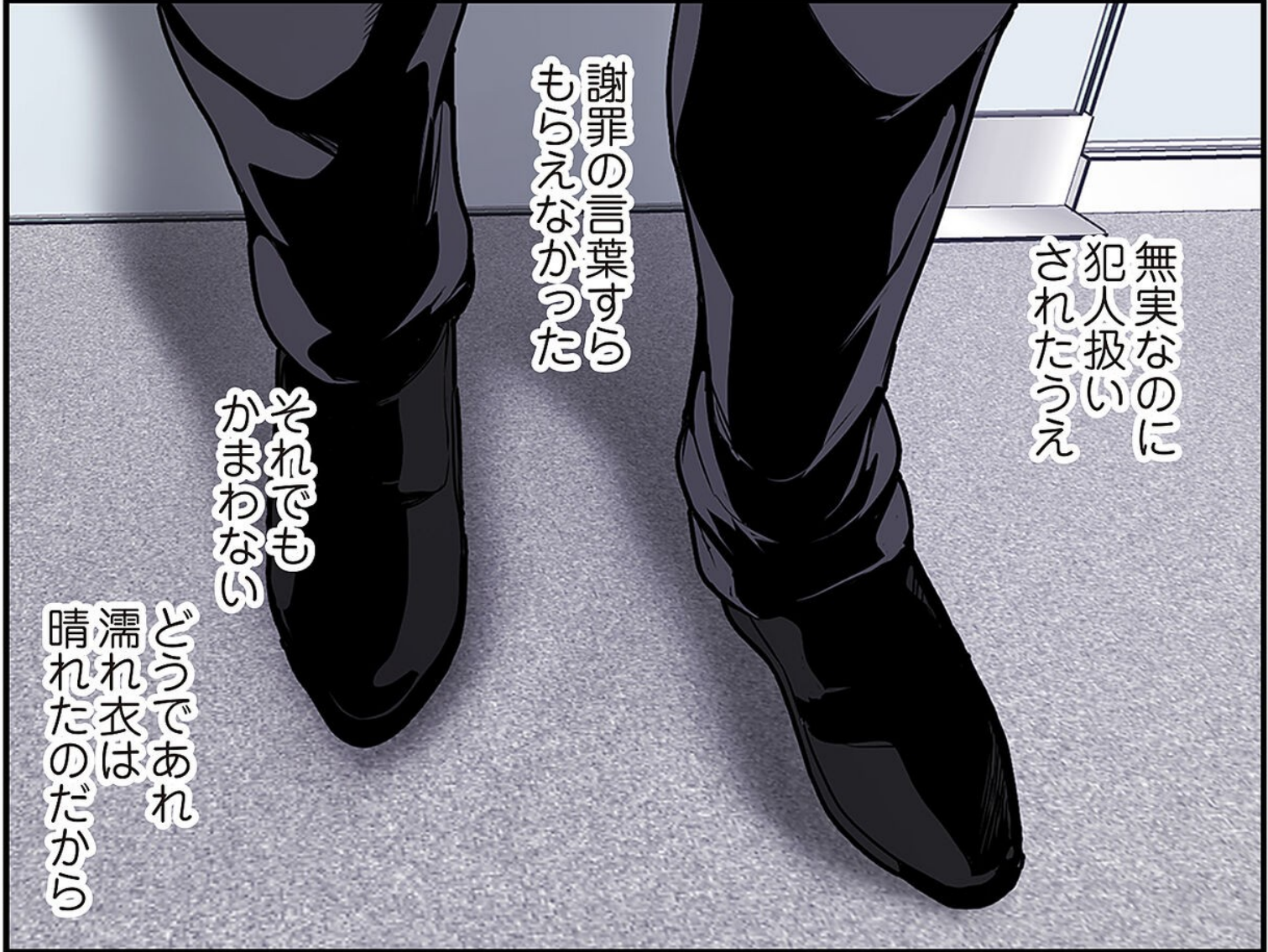




これからは
誤解を招くような
行動は慎むことね



...



無実なのに
犯人扱い
されたうえ

謝罪の言葉すら
もらえなかった

それでも
かまわない

どうであれ
濡れ衣は
晴れたのだから



人を見下すような
視線には
慣れていたが



ここに
流れる沈黙が
物語っていた

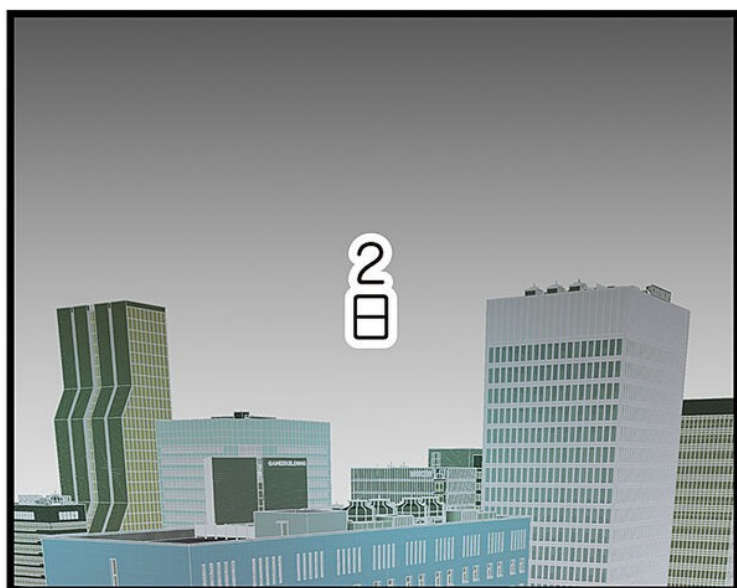
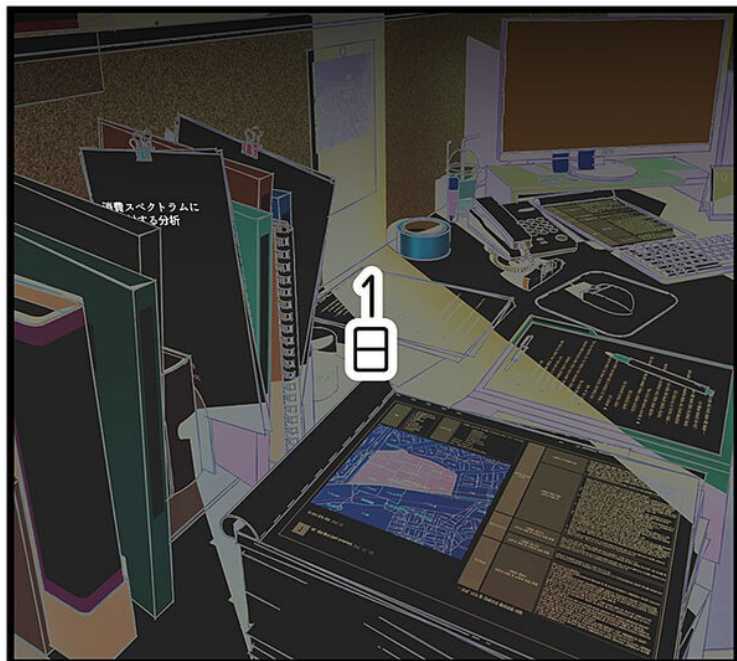
全員が僕を



それなのに
ドアを開けた瞬間に
浴びせられたのは
いつもより更に
冷たい視線……

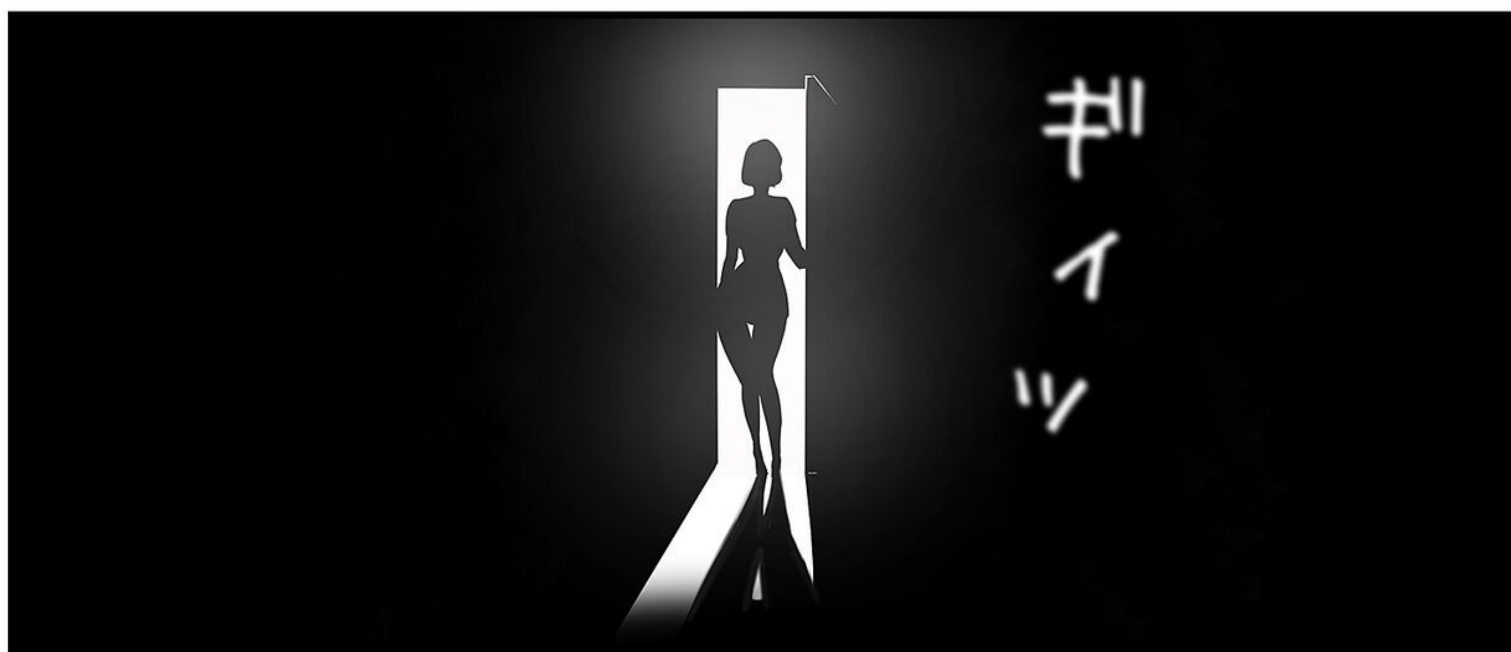
何かが
おかしいと

本能的に
悟った



1週間が
過ぎても

泥沼は深まる
ばかりだった





ねえ どこ？



ふふふ...

びっくり
したあ...

グ
ッ

ねえ どこ？

ふざけてないで
早く出てきて

もうっ：
仕事が終わって
からにしようって
言ったのに：



何
言っ
てん
のよ

オフィスで
麻衣の脚見たら
勃っちゃってさ
我慢できねえん
だよ

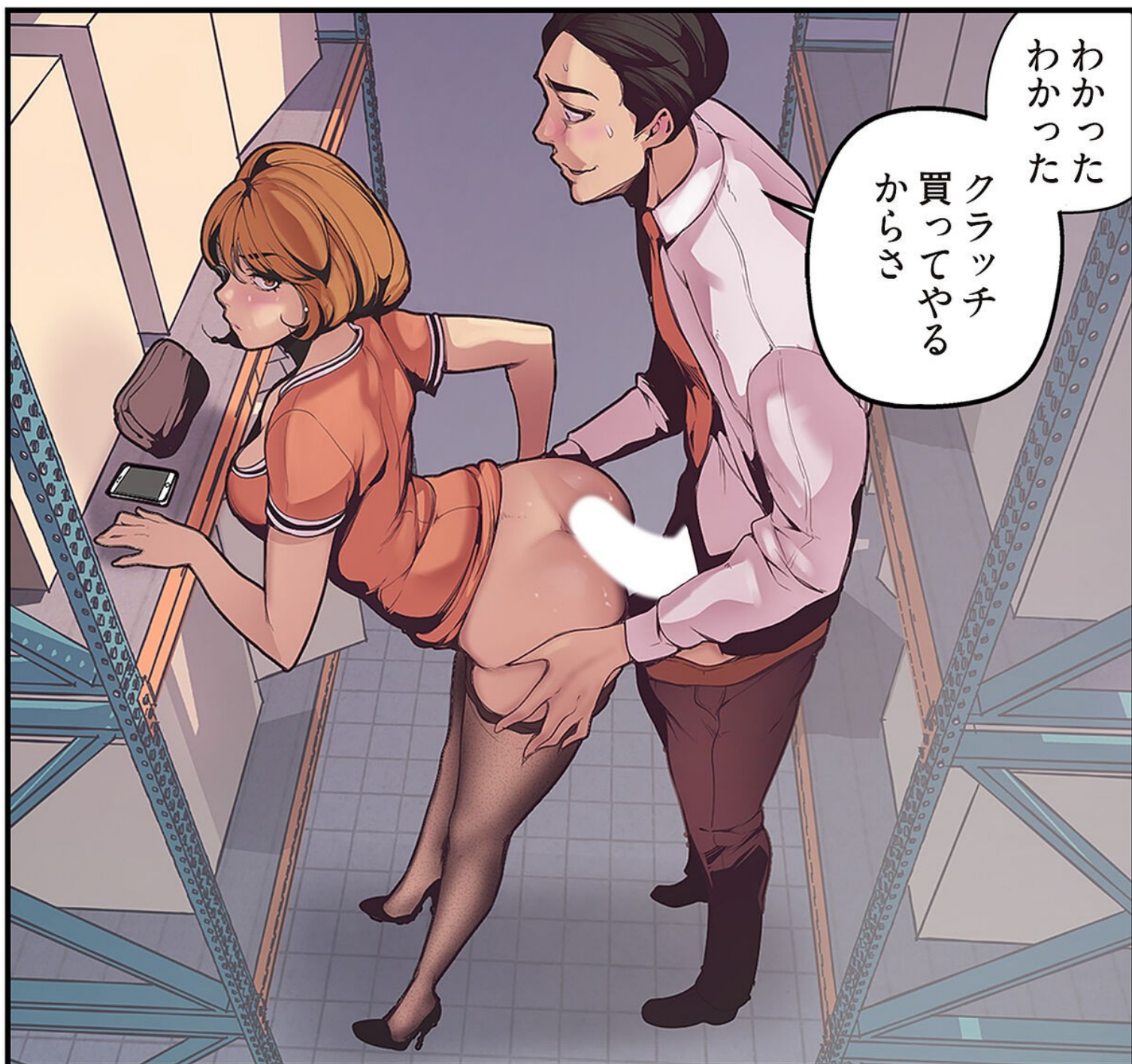
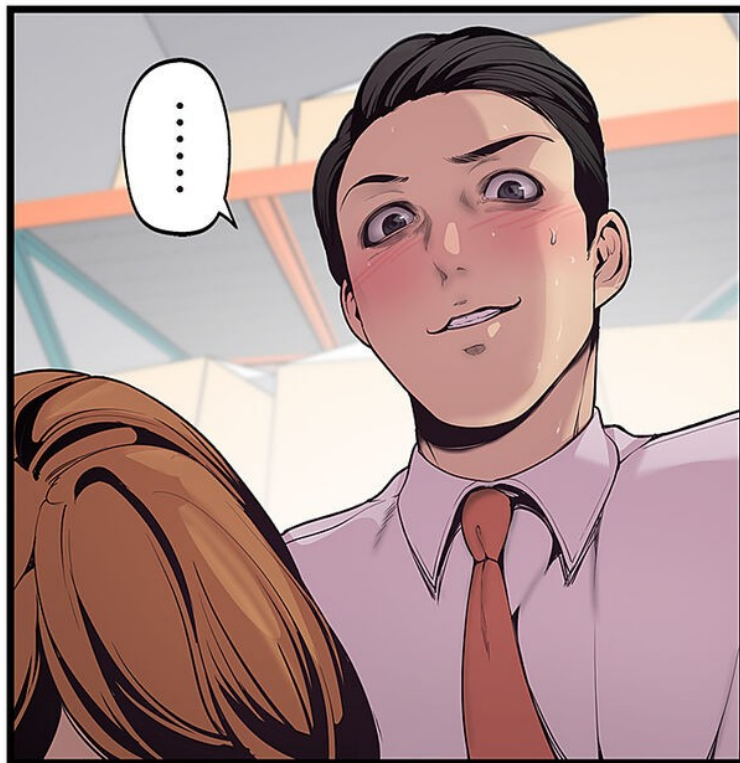
ただでさえ
田中のせいで
ムカついてるのに

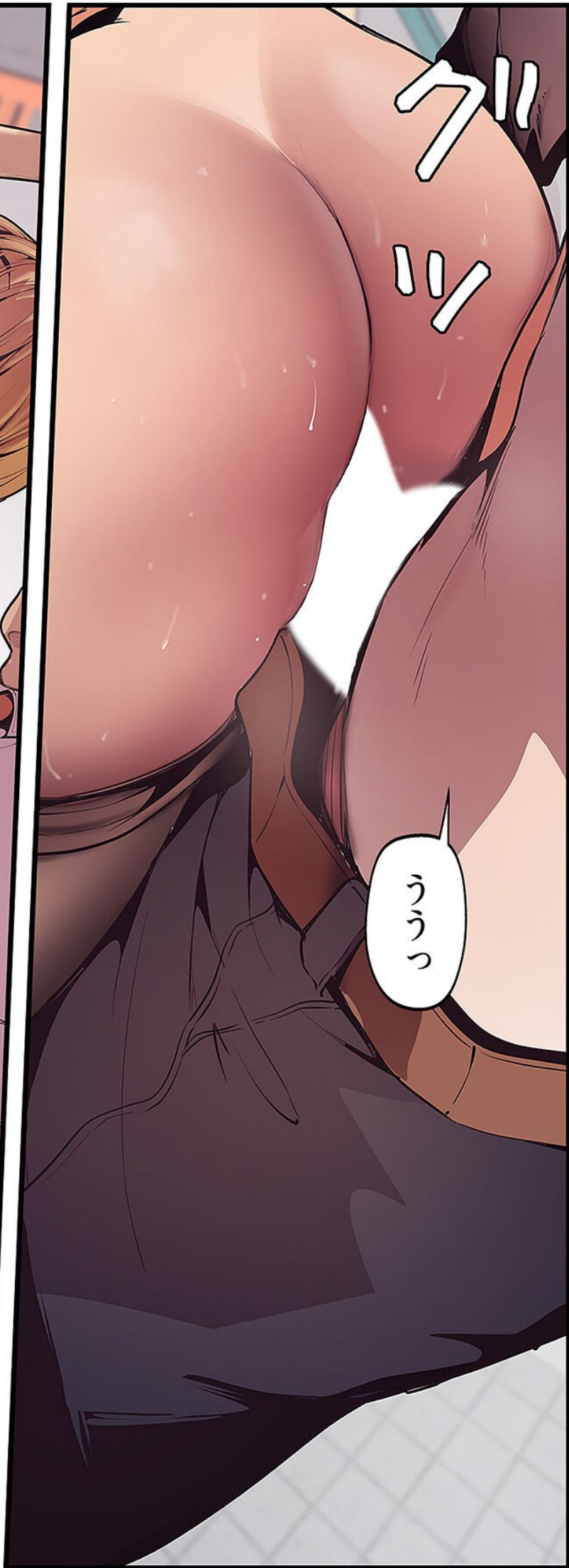
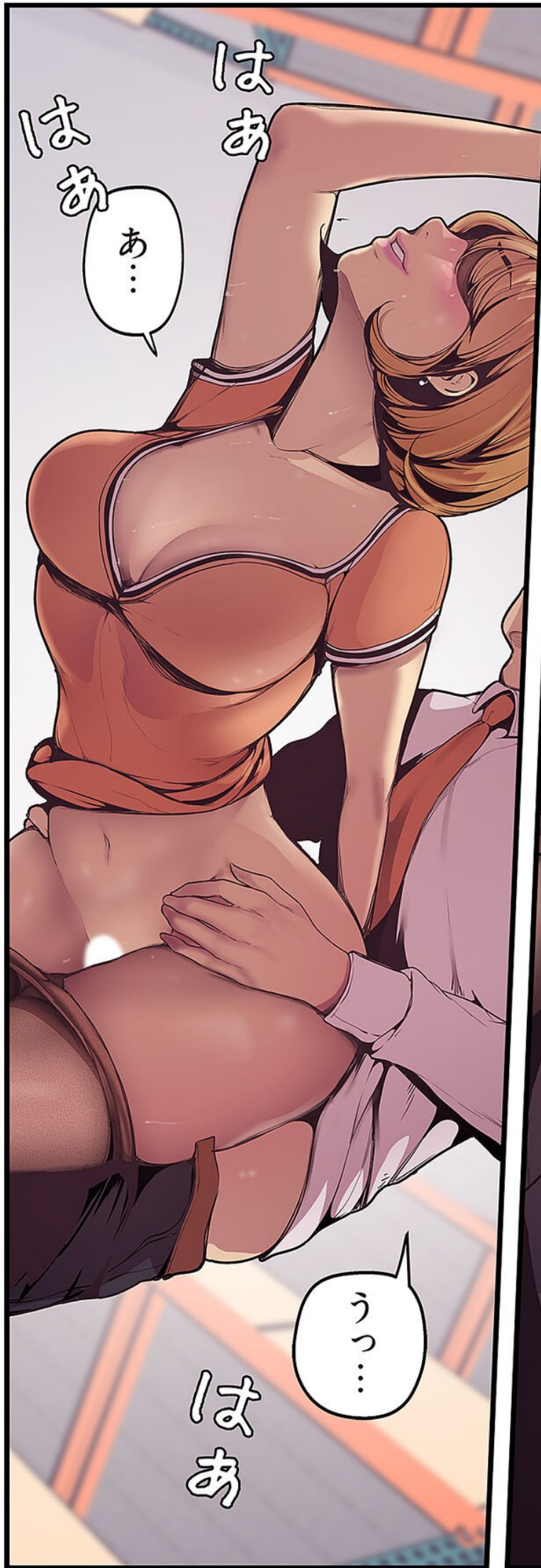
だから俺が
スツキリさせて
やるって
言ってるんだろ？

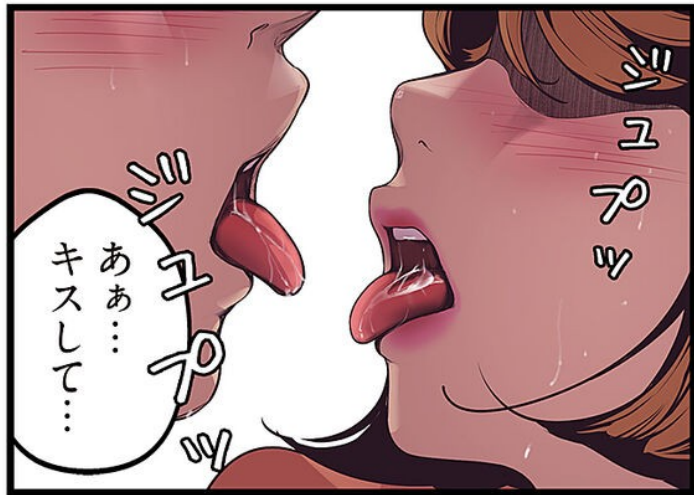


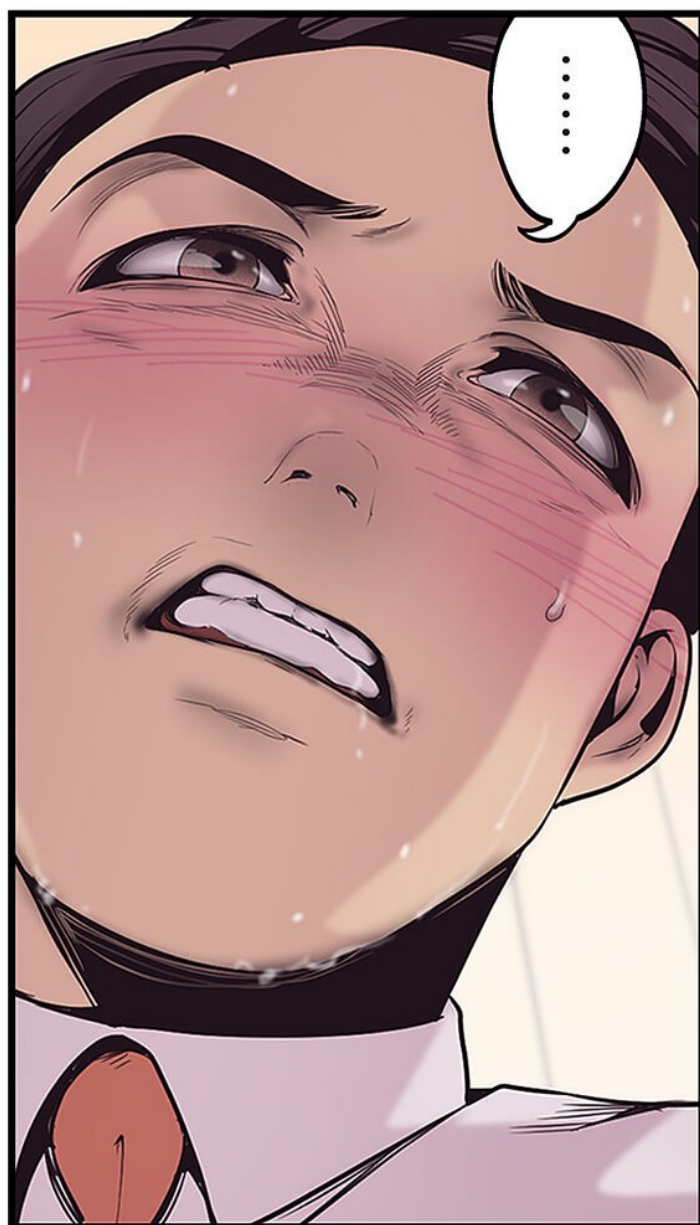
たかだか
こんなもんで？

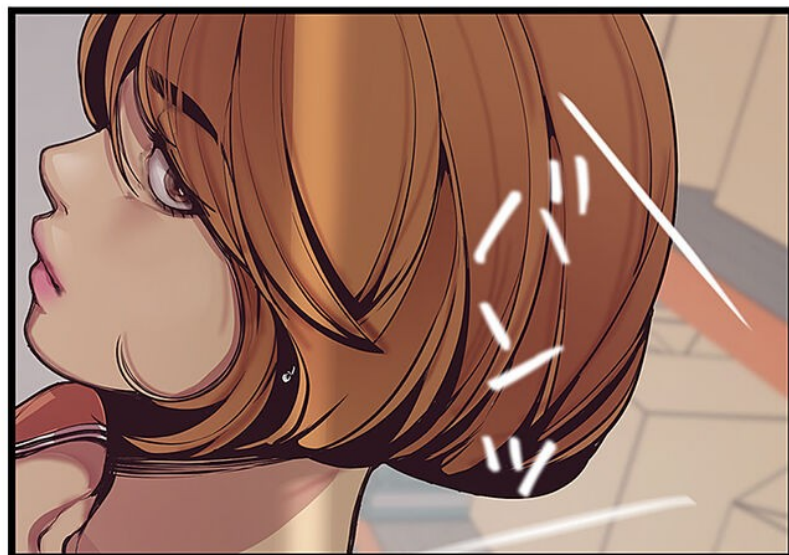
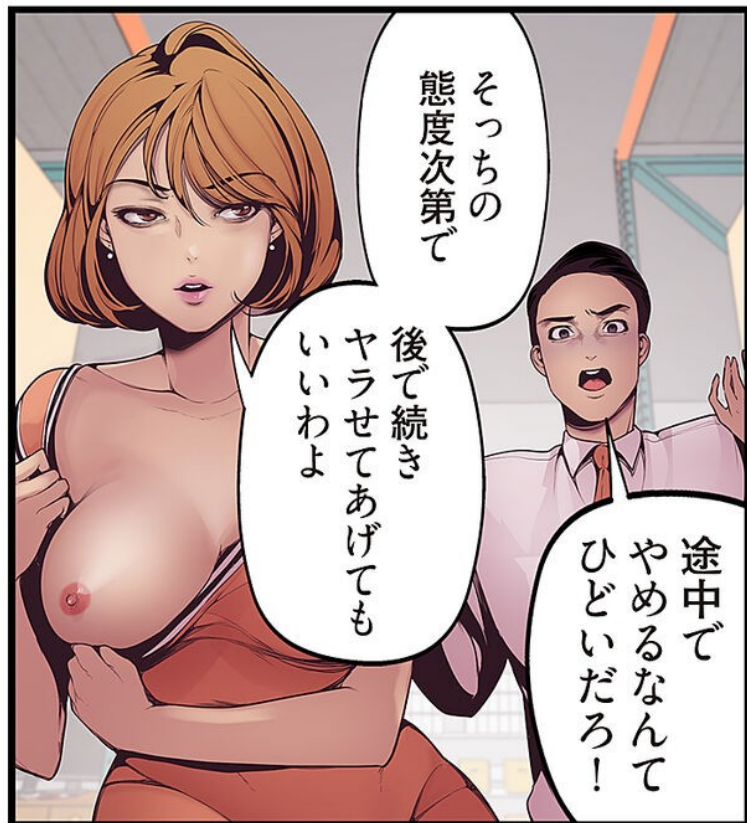
……

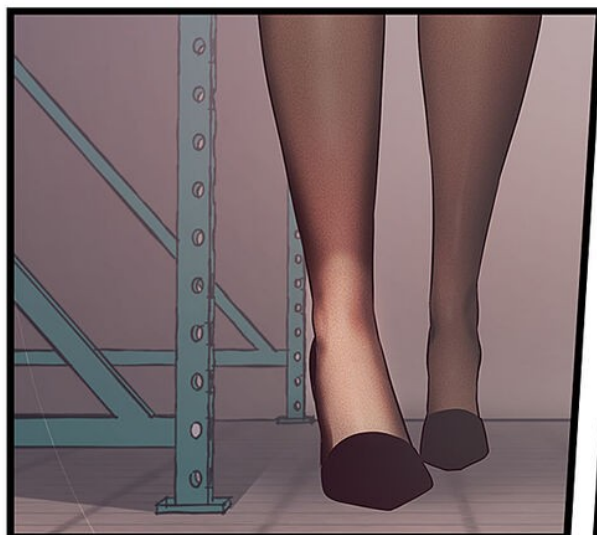
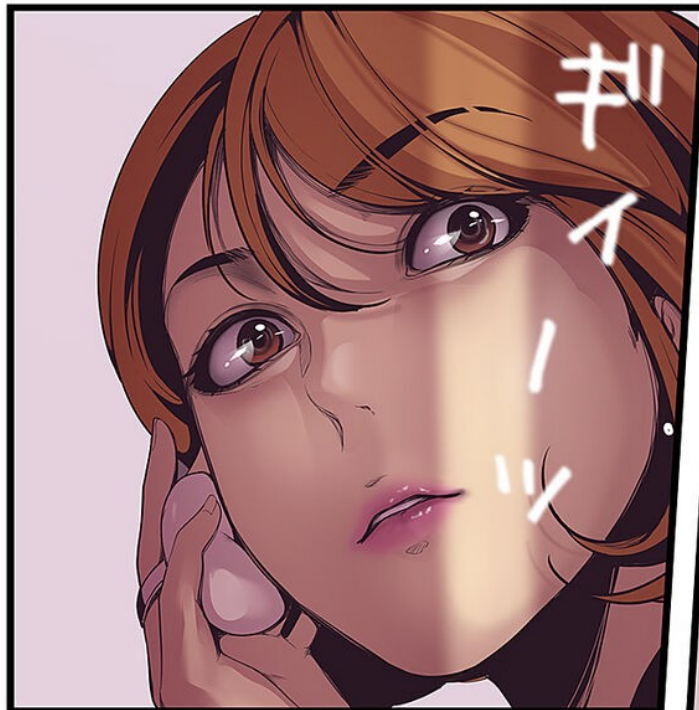


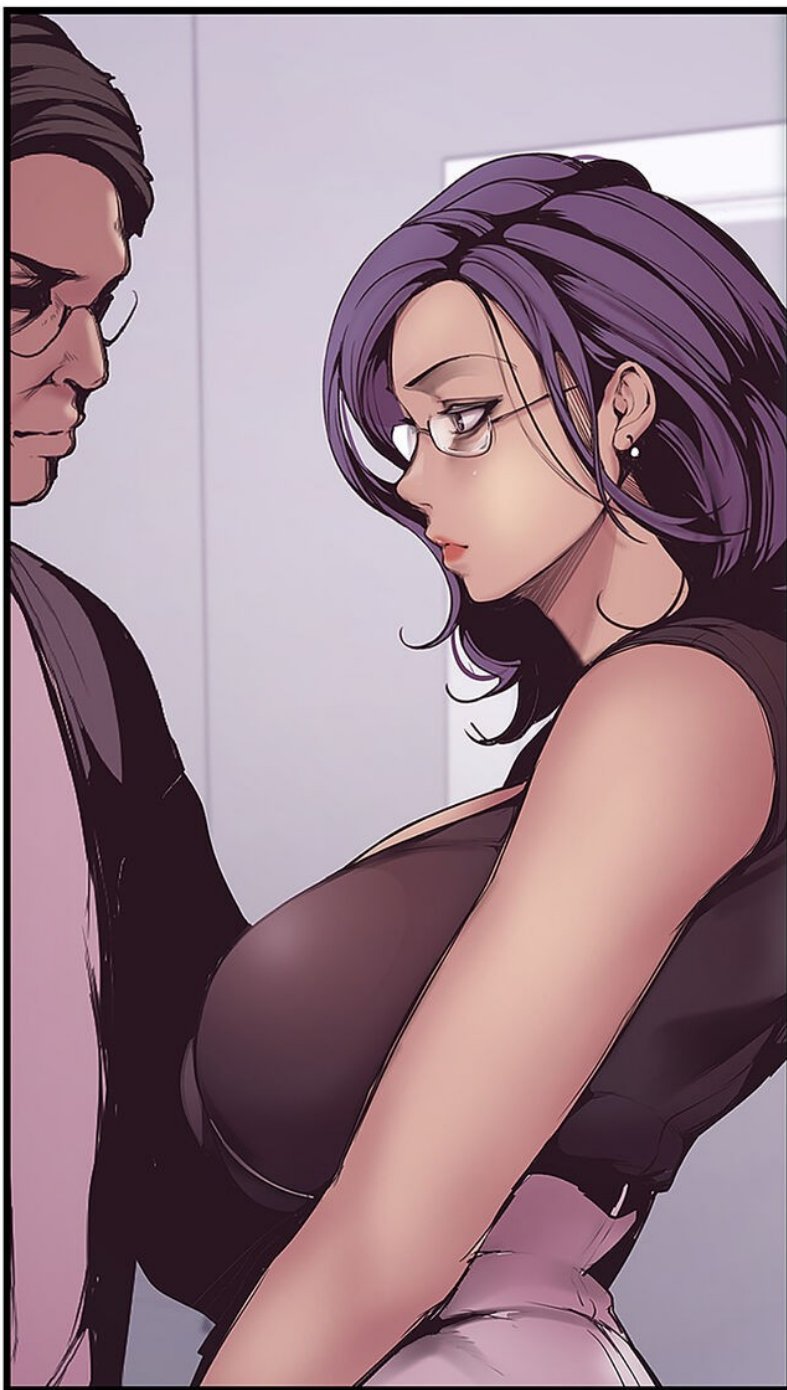
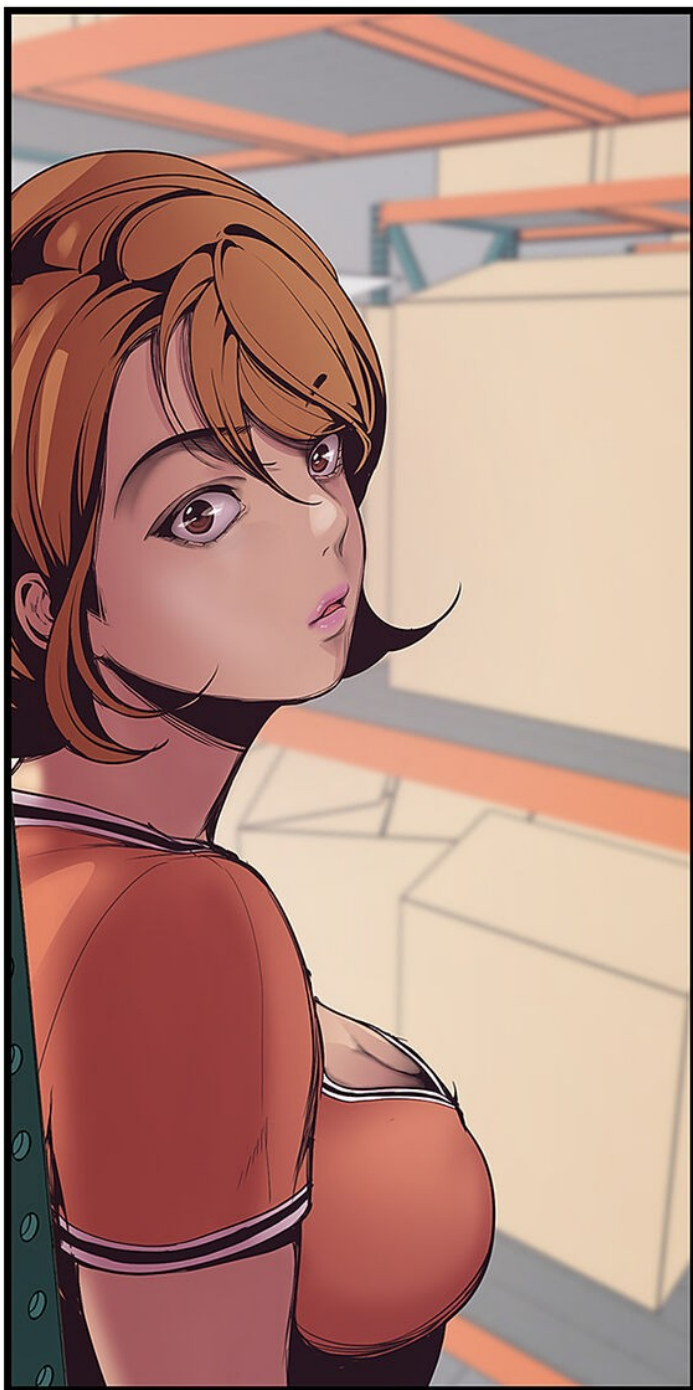
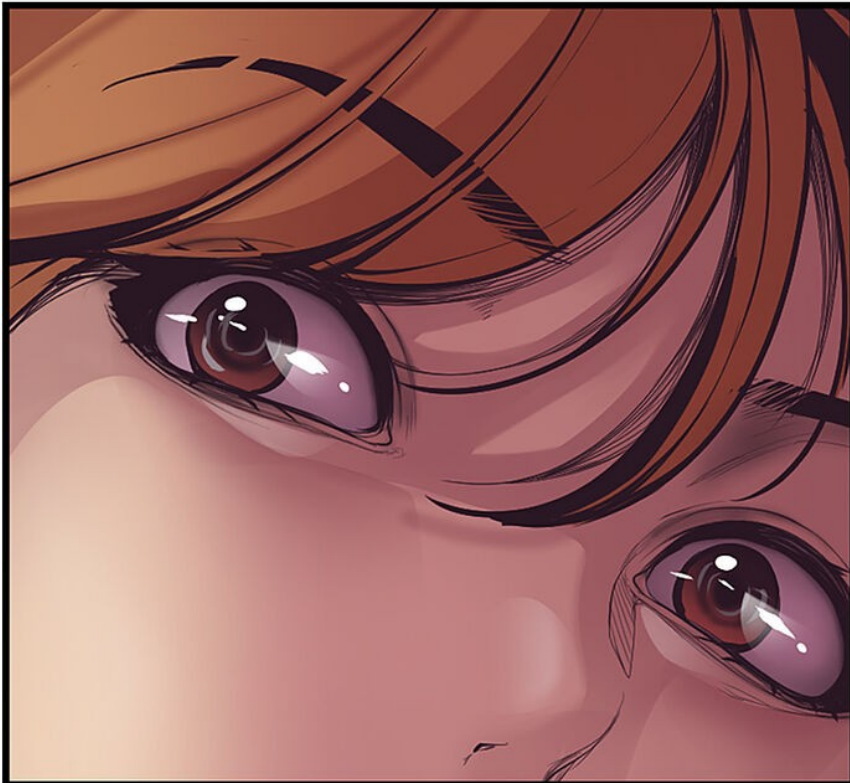
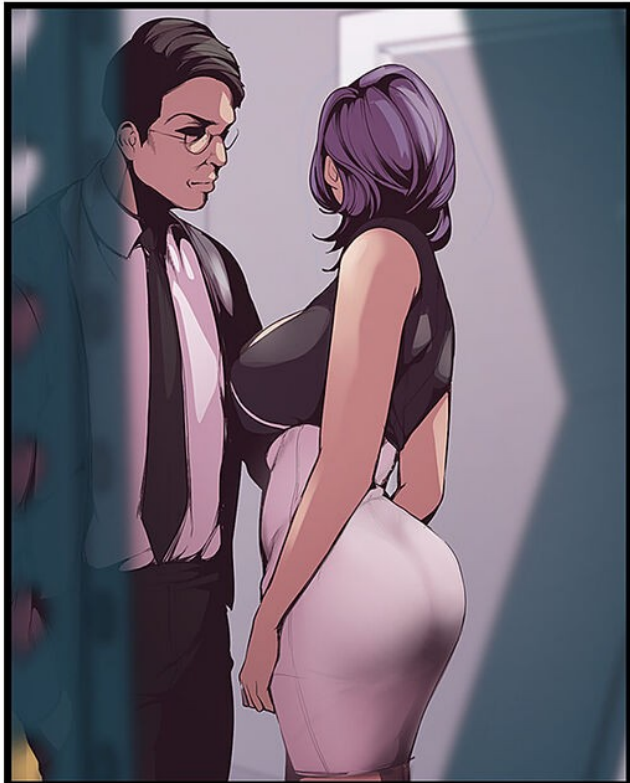


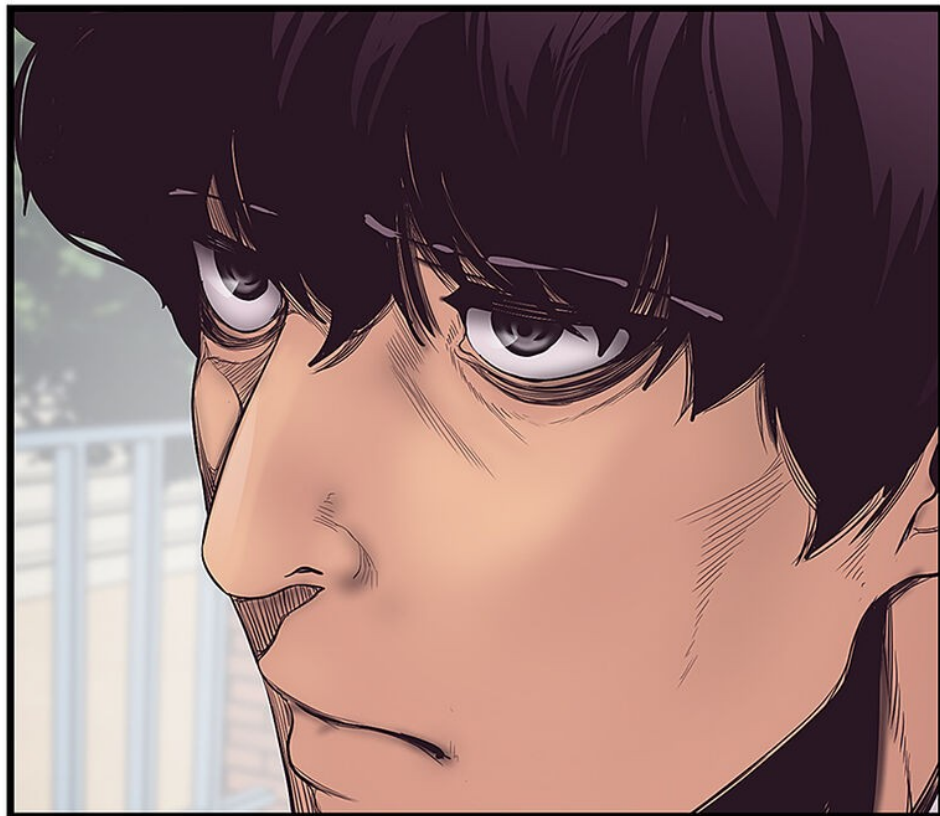


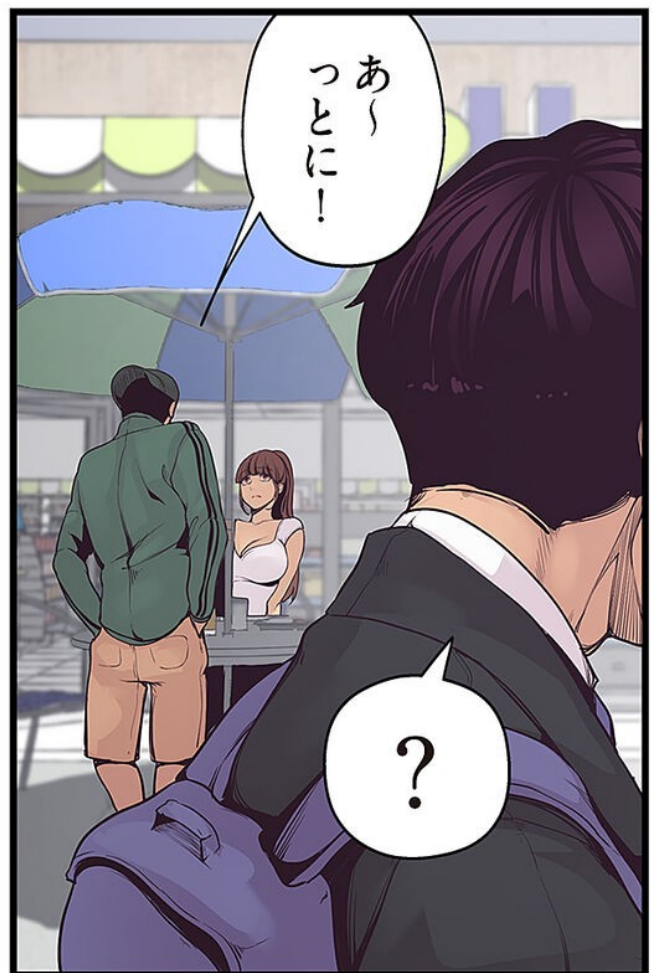


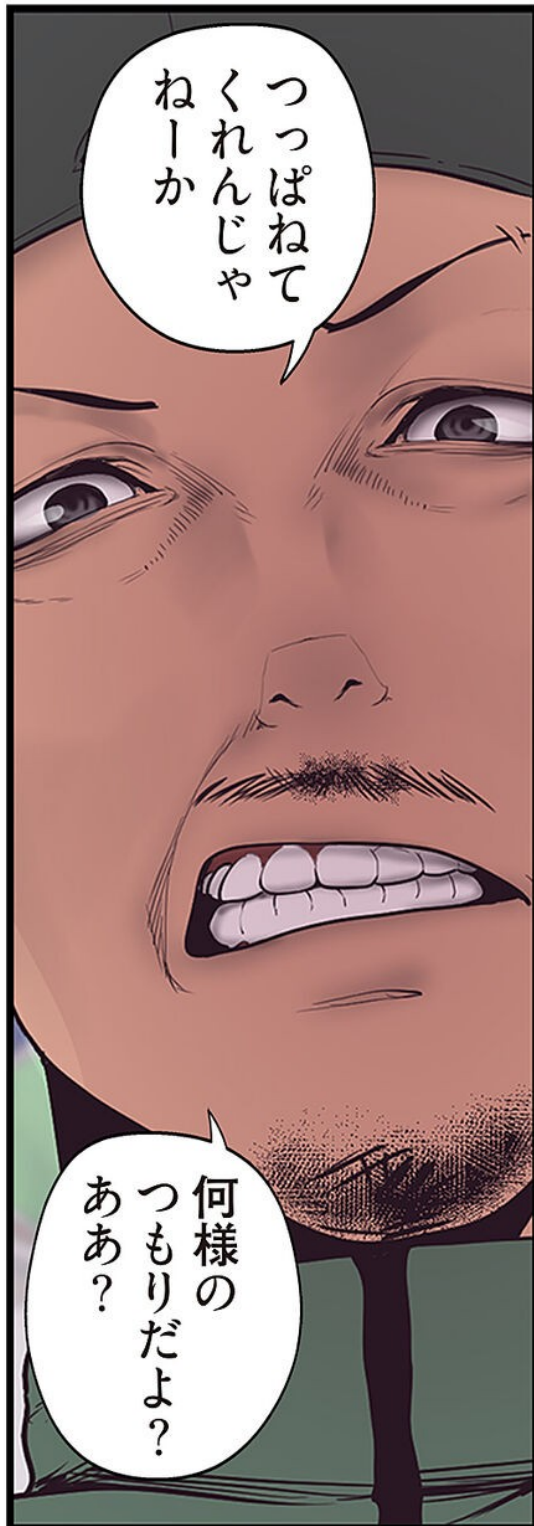


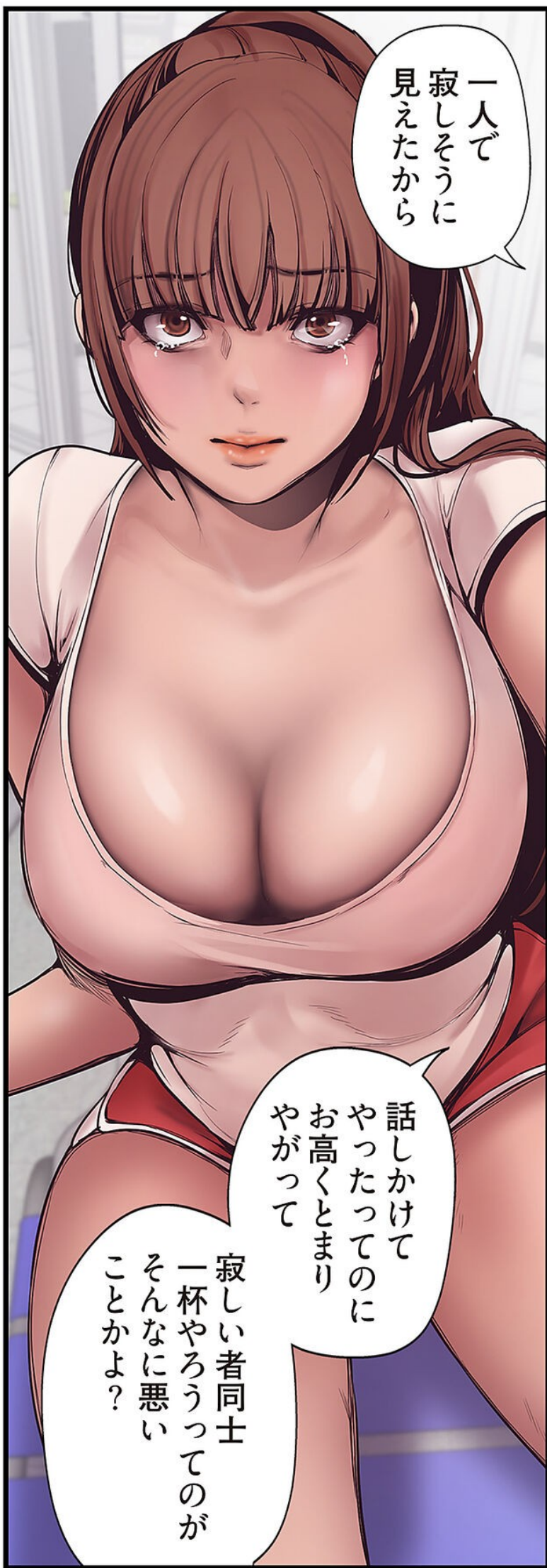
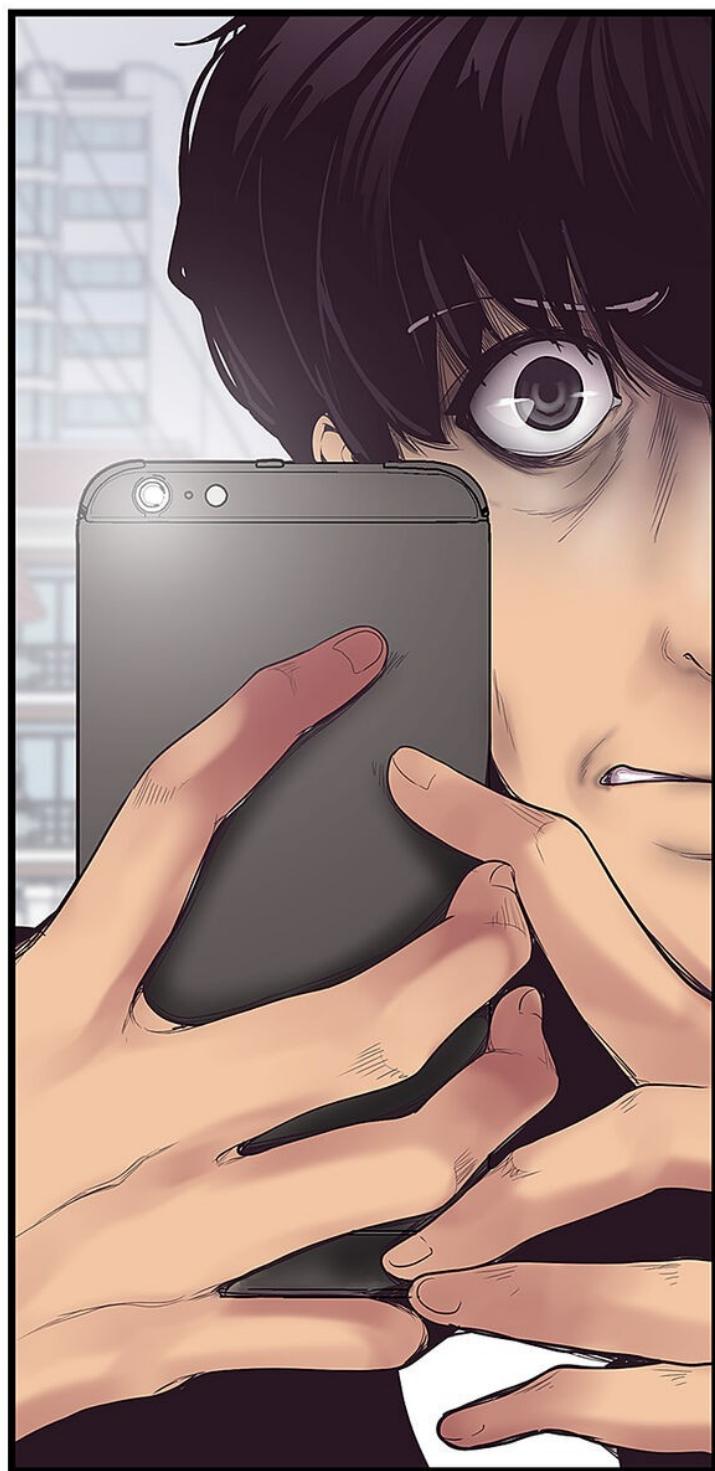








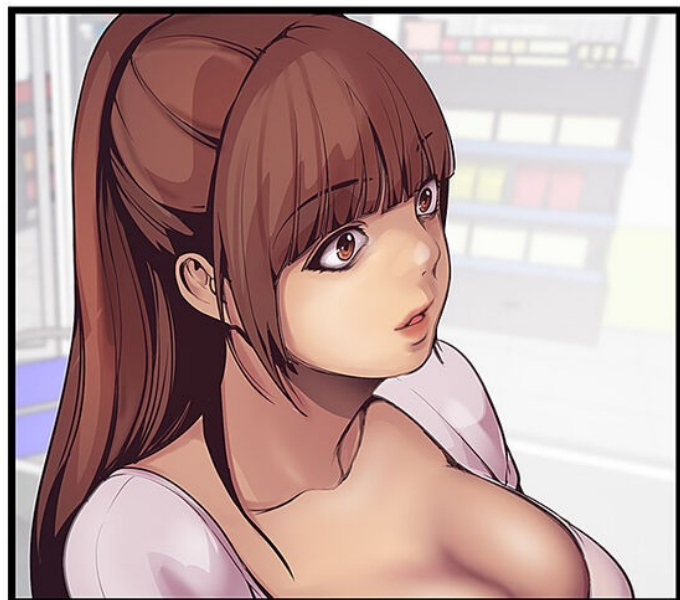








肖像権の
侵害だからな
消せよ絶対！



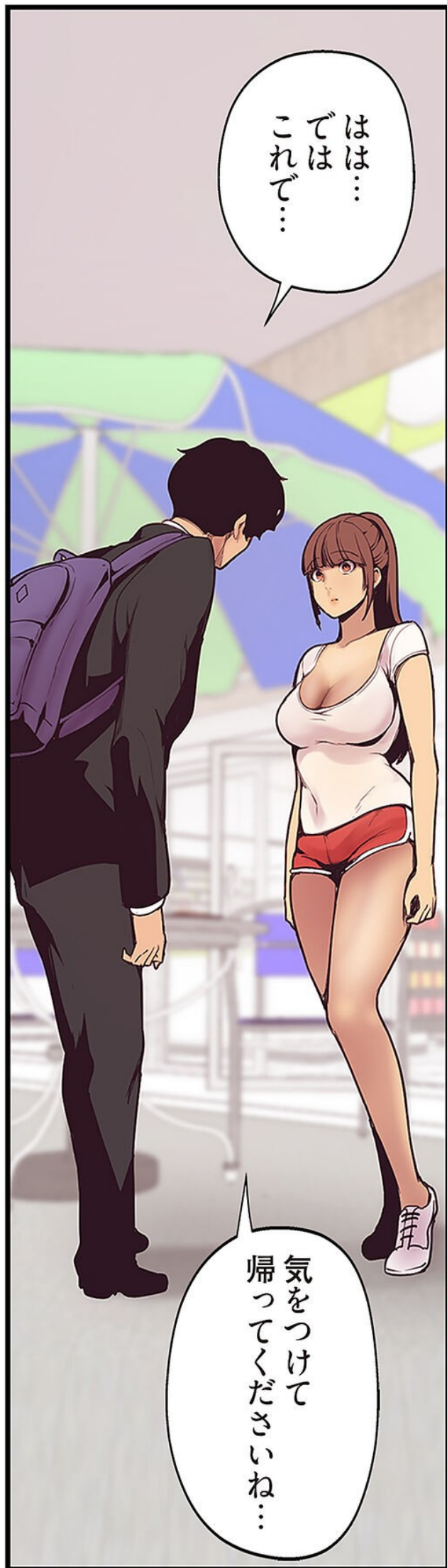
はあ…

警察に
通報する前に
早く行った
ほうがいい
ですよ

てめえ…
面倒くせえから
勘弁してやるよ

動画は消せよ
ああ？







お酒も
いっぱい
残ってるし…

私と飲みま
せんか？

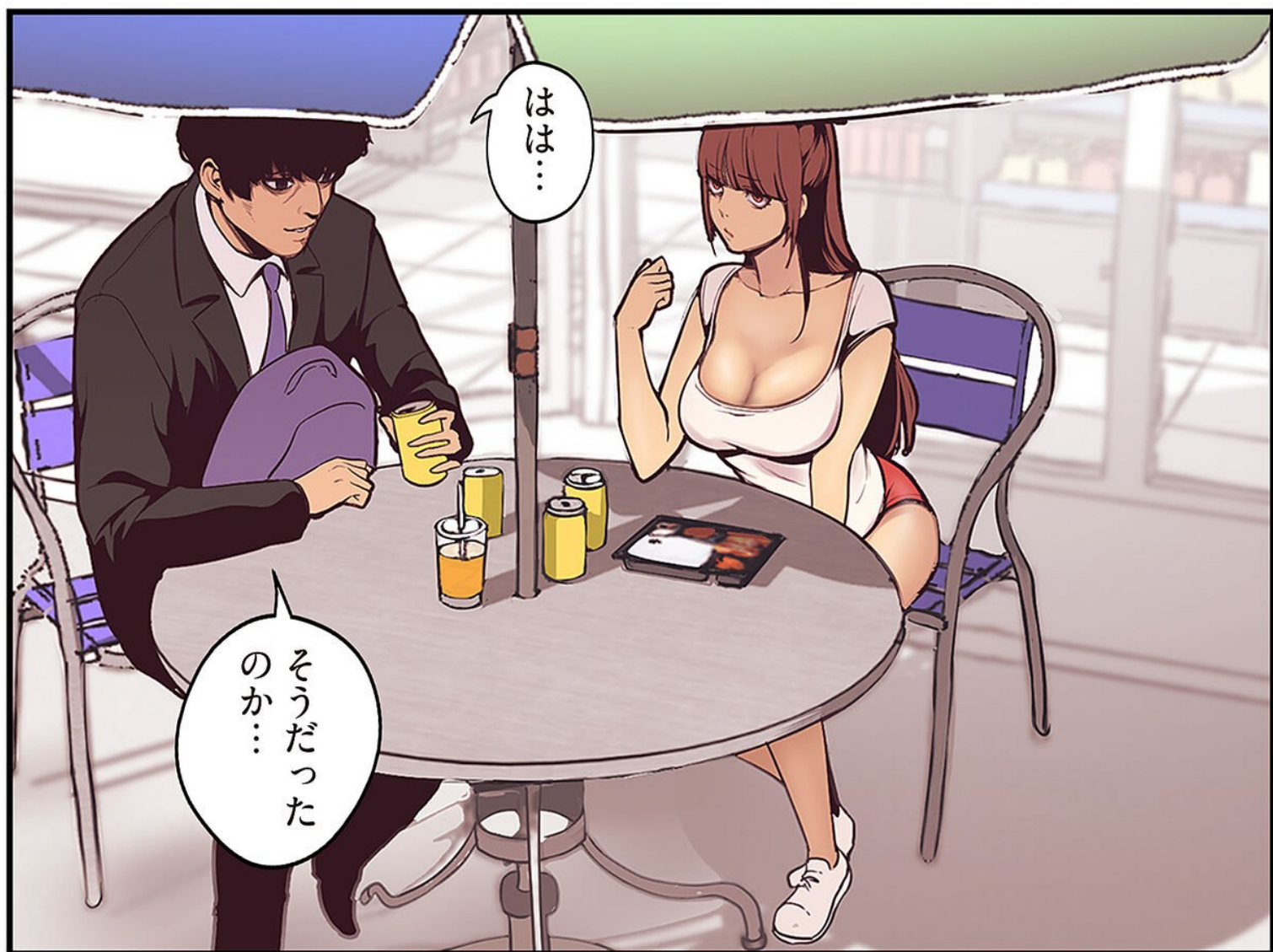
ご近所さん
だし
ふふっ…

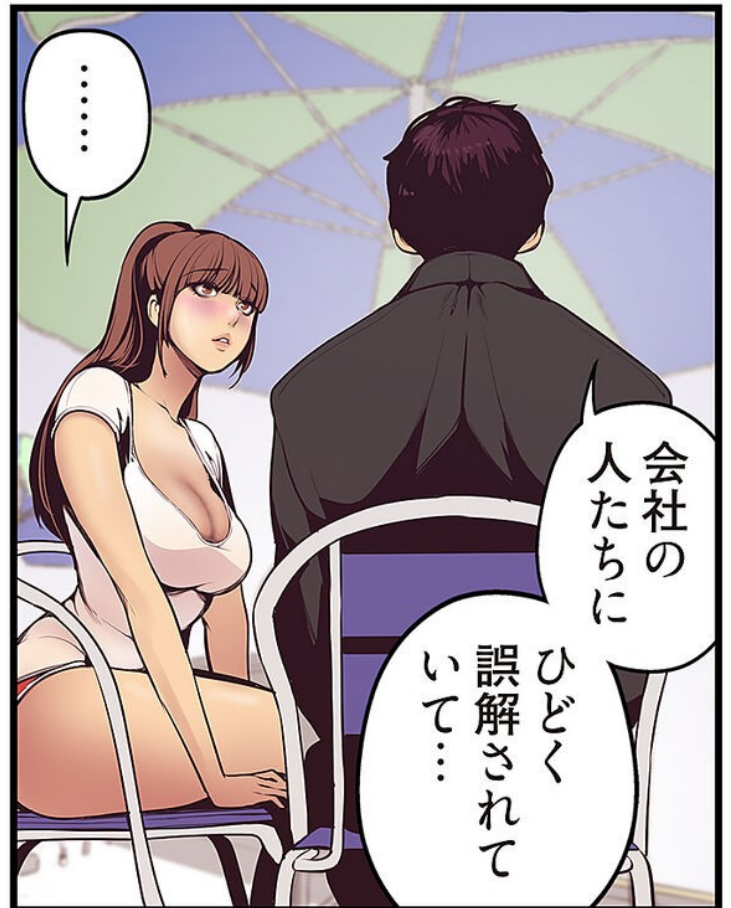
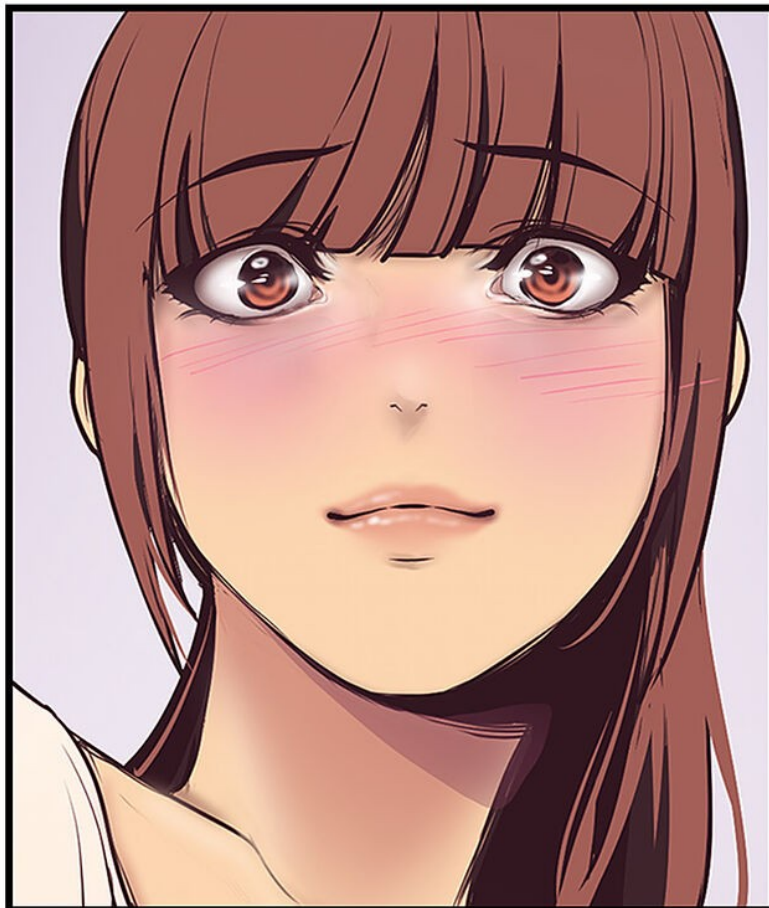
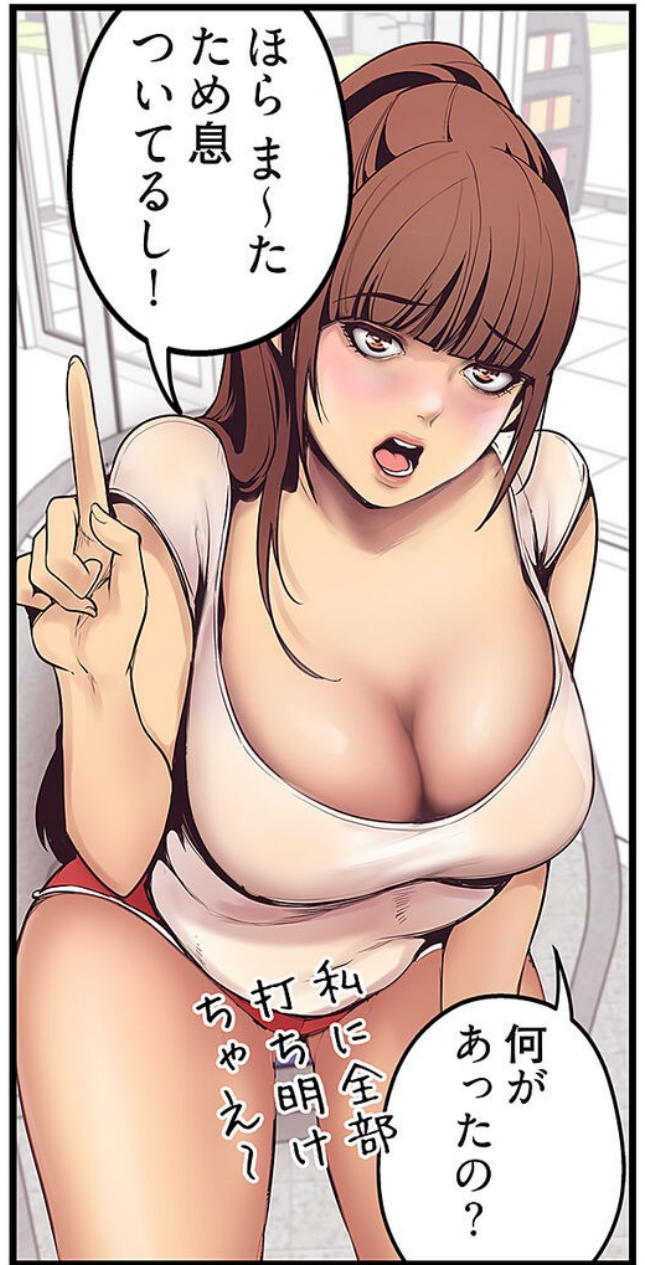
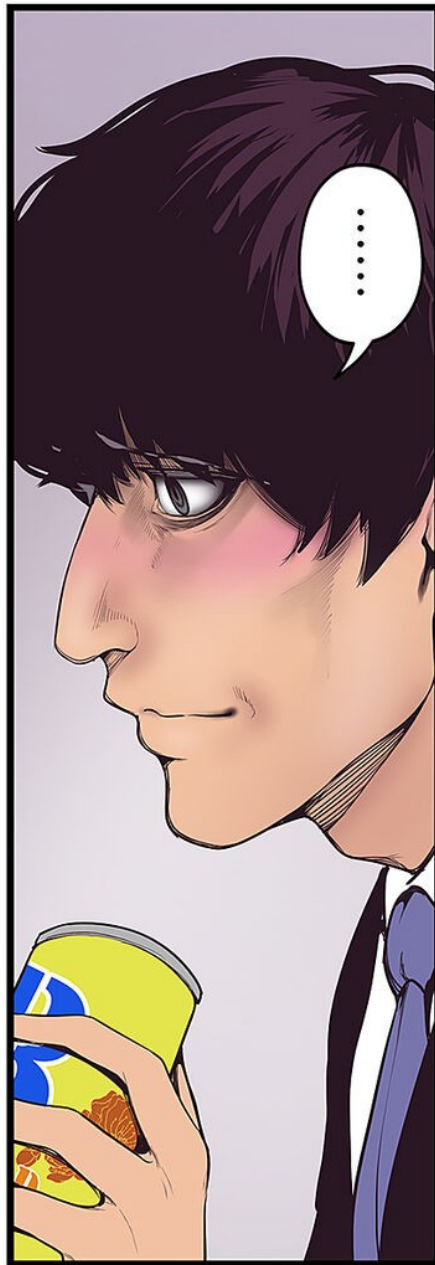
す
ば
ら
し
き
新
世
界

A WONDERFUL
NEW WORLD



「1時間前…」







私だって…

やっとの思いで
仕事先ゲット
したんだから！

あ…面接
受けるって
言っていました
よね？

お…おめでとう
ございます！

え？
まあ…

正社員じゃ
ないん
だけど…

それはともかく
誤解を解くための
努力はしたの？



ちよつとおく

何
バカなこと
言ってるの？

え…？



今時就職するのどんなに
大変かわかってる？
周りに何か
言われたくらいで
仕事を辞めるなんて！



乾杯ーっ！

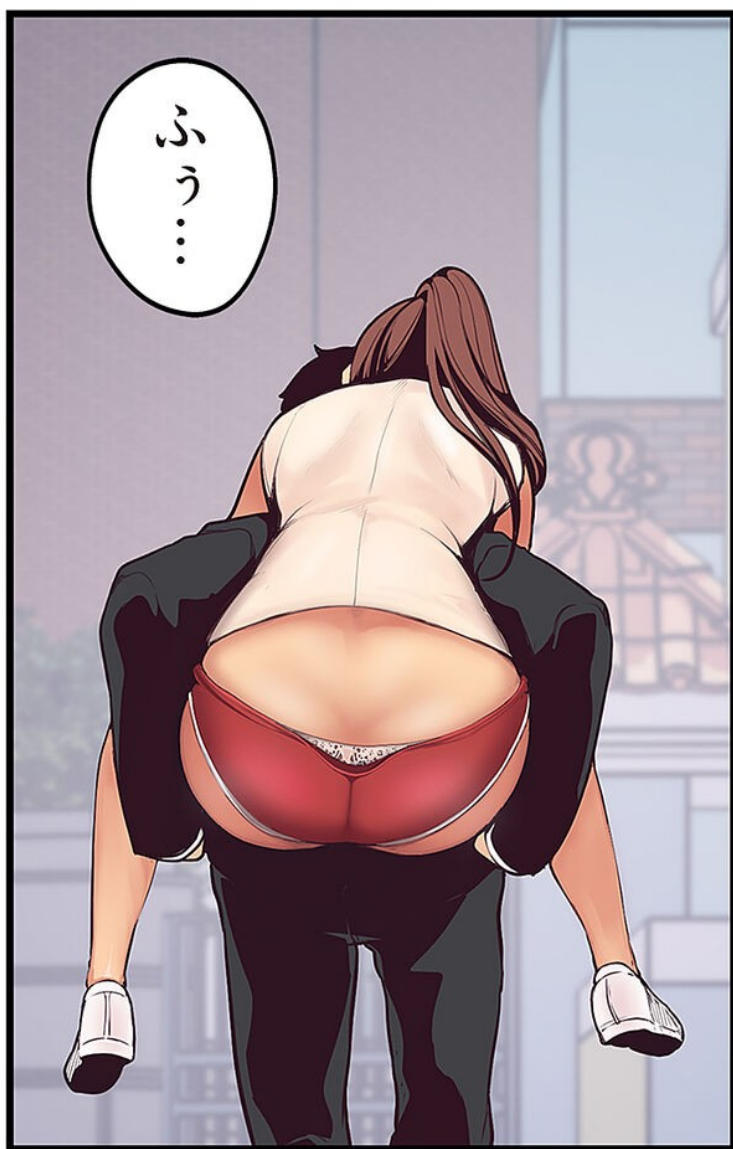
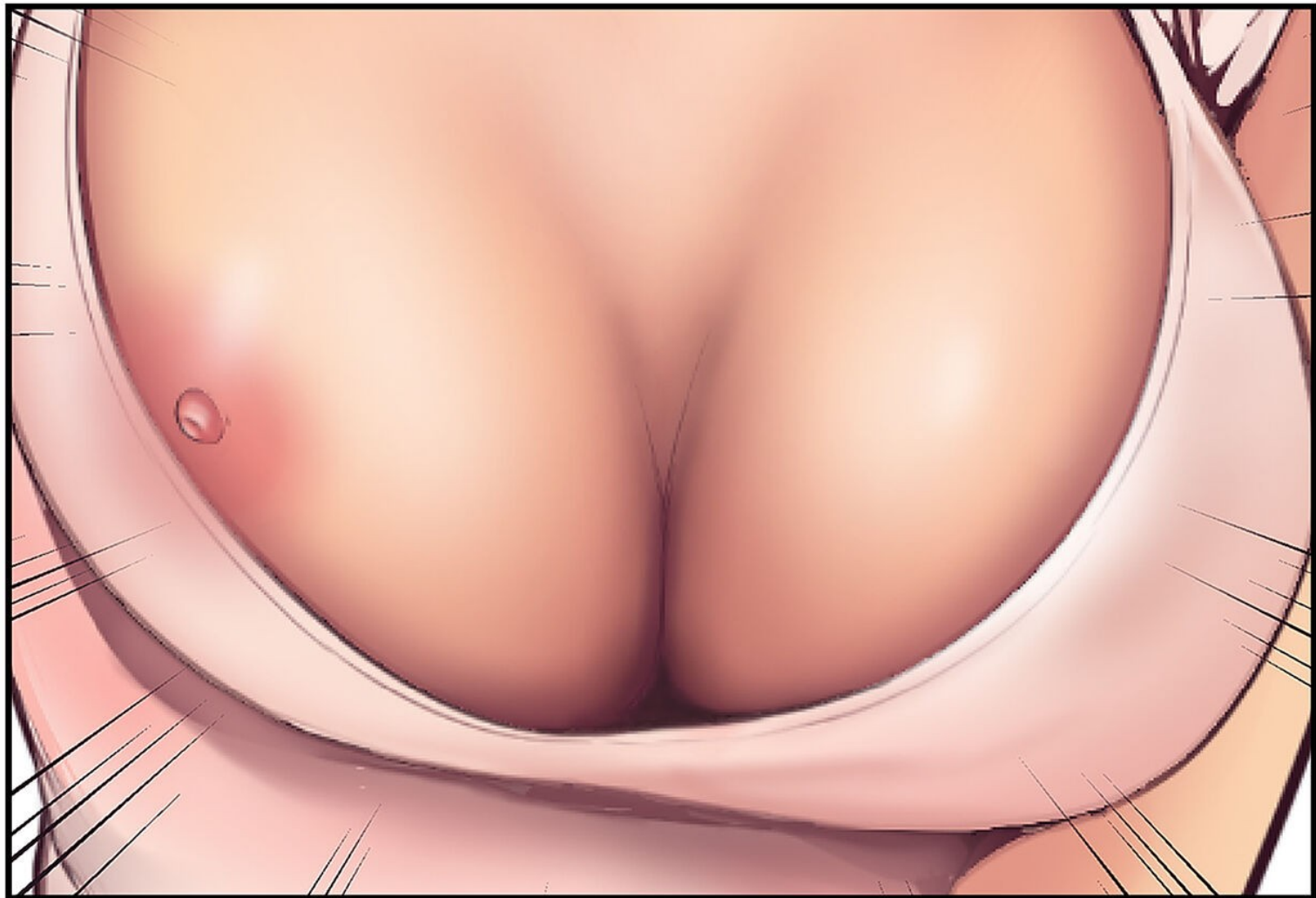


あ…
はは…

じゃあ私たち…
お互い応援する
ってことで

乾杯しよっ

じゃあ
私たちの
未来に…



今日は
いろんな
意味で…



しんどいな



でも他の男には
あんなにガードが
硬かったのに

なんで僕には
こんなに無防備
なんだ？



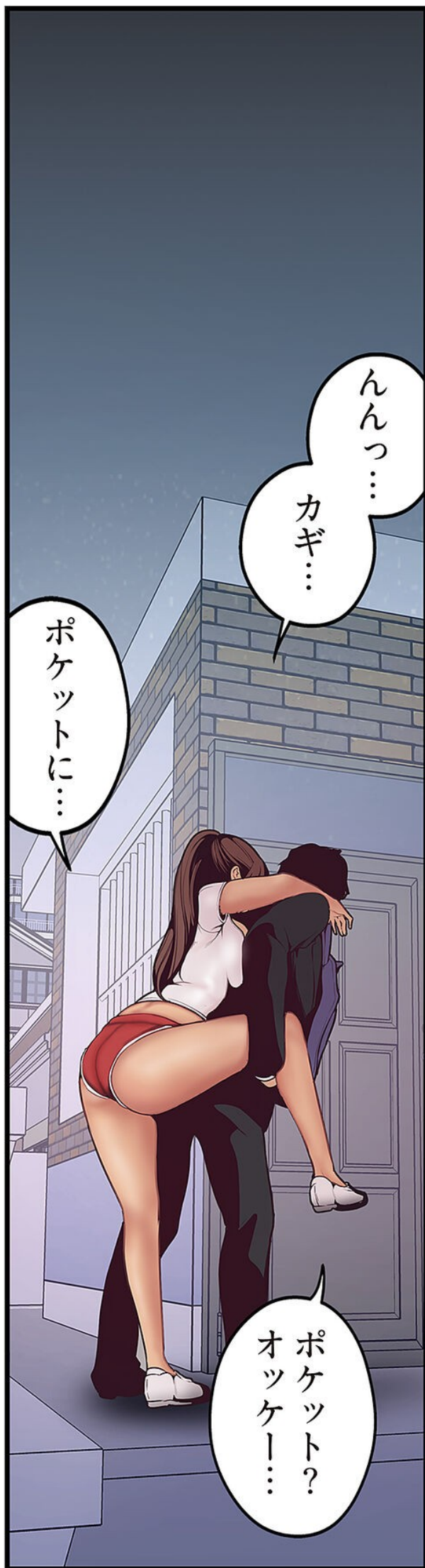
僕は男として
見られてないって
ことか？





ちよつと待て
これって…

…?
ゴーサイン

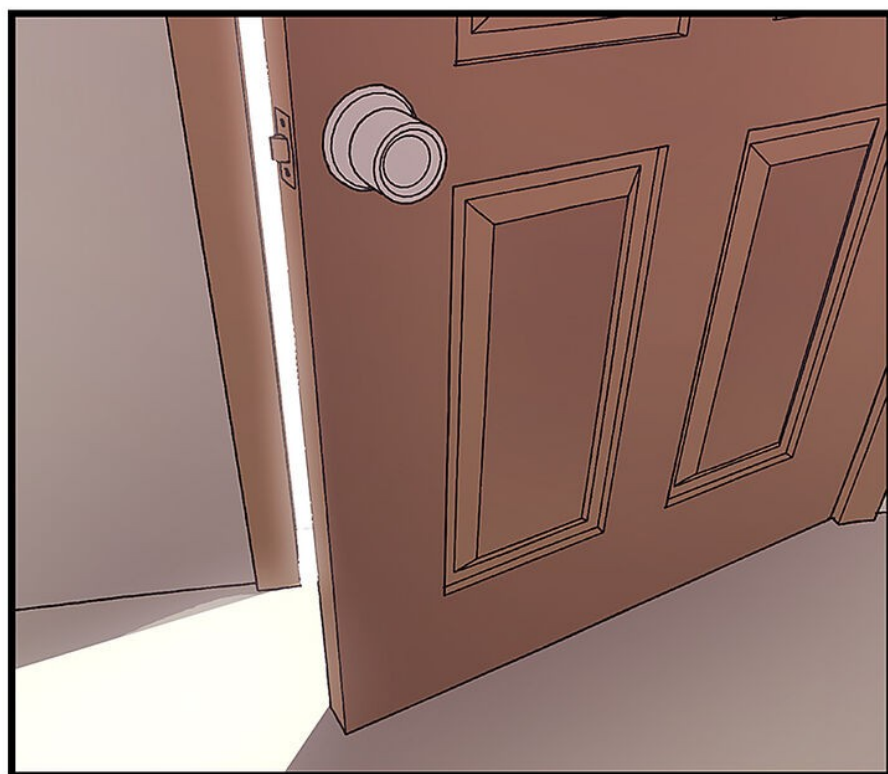


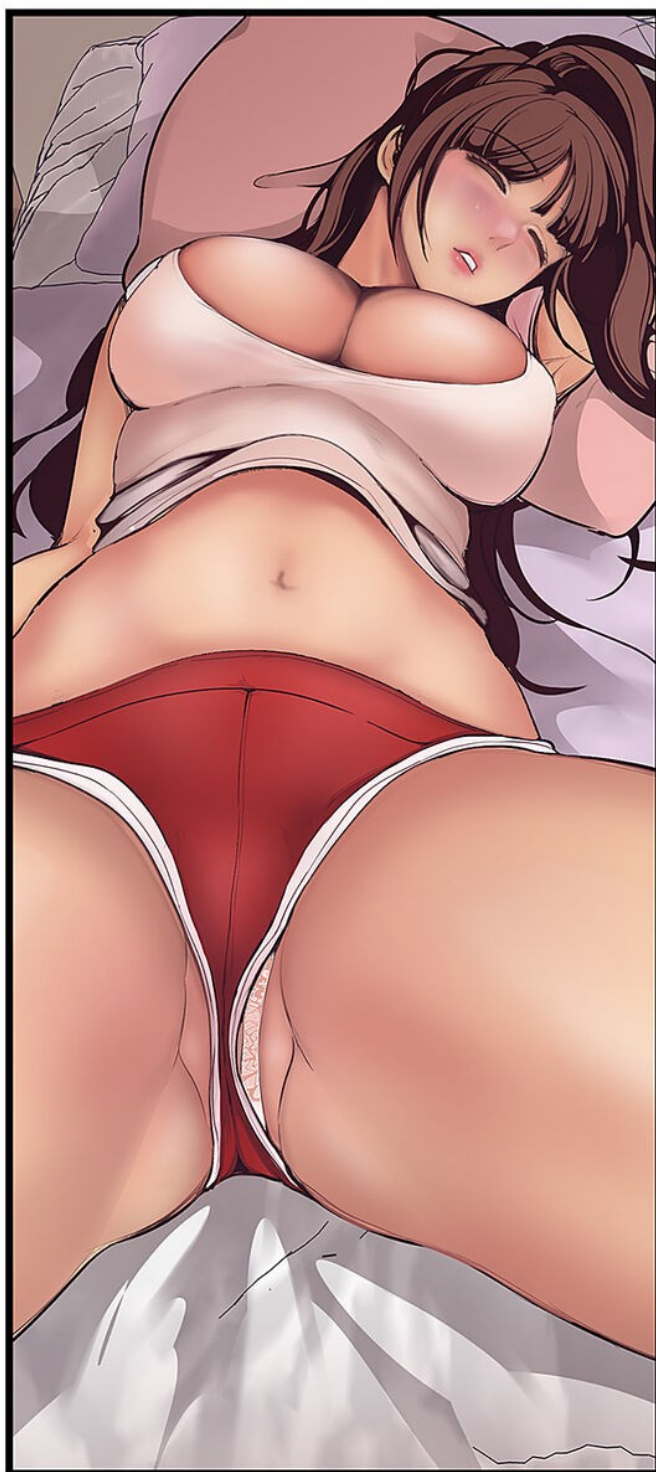
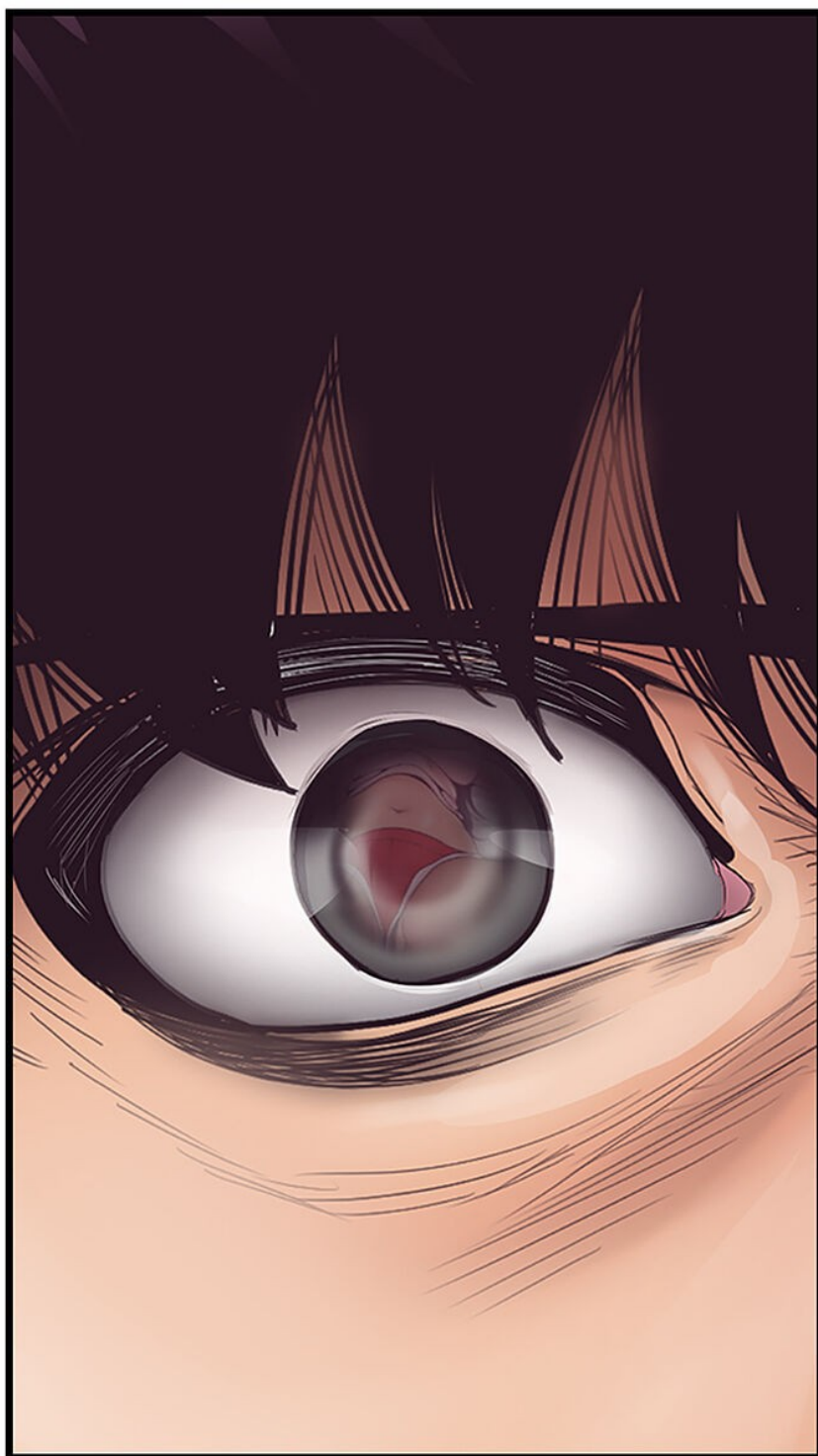
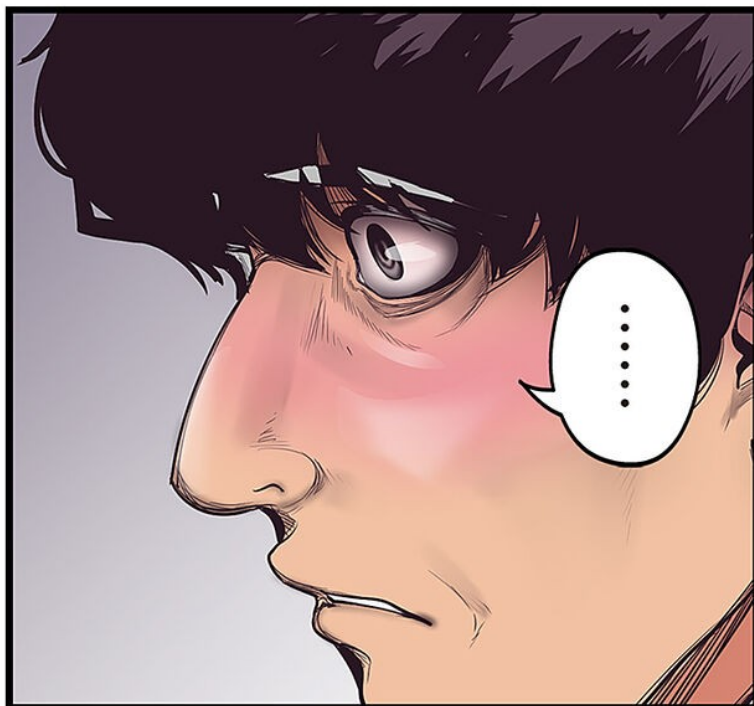
んんっ…

カギ…

ポケットに…

ポケット？
オツケー…

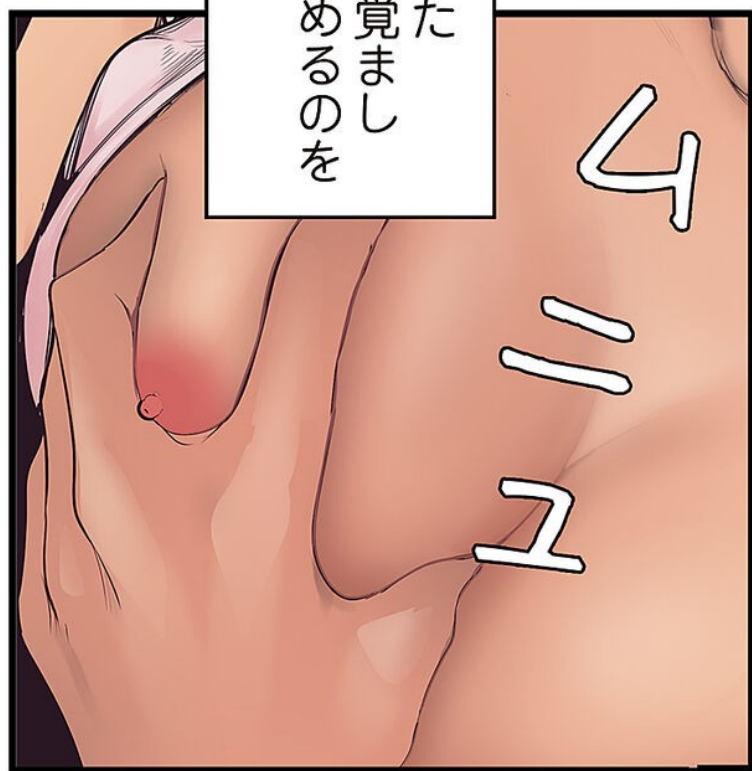






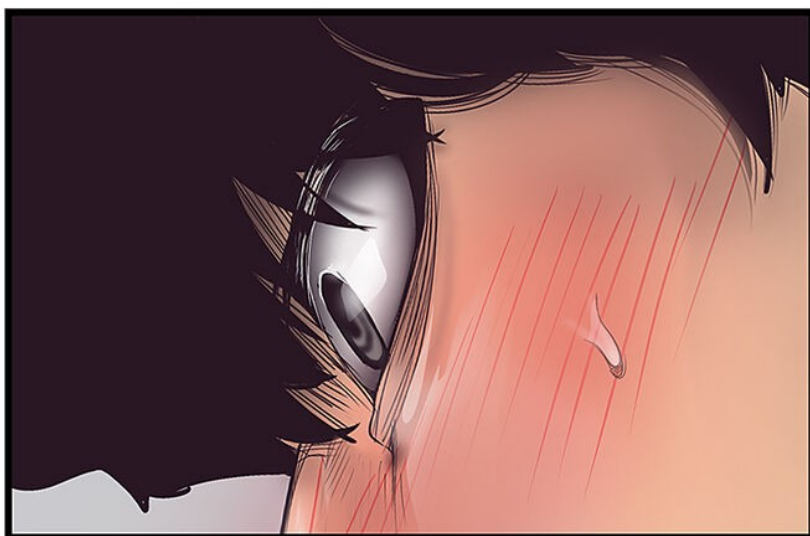
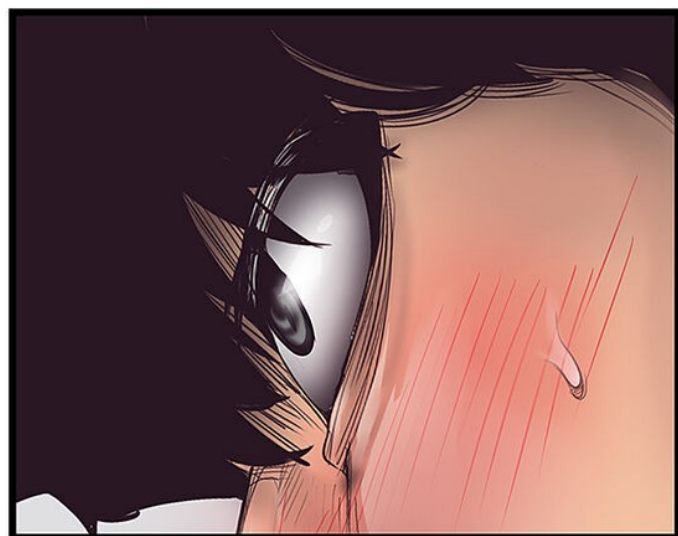
僕の中の
片隅では

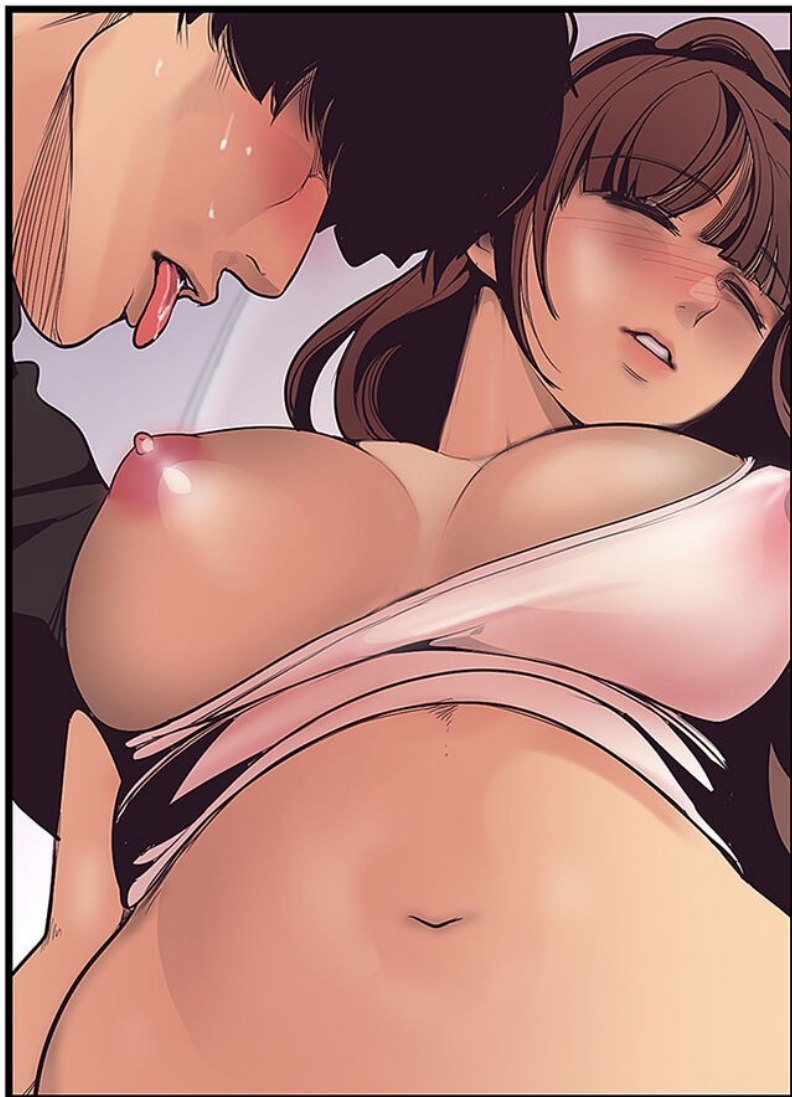
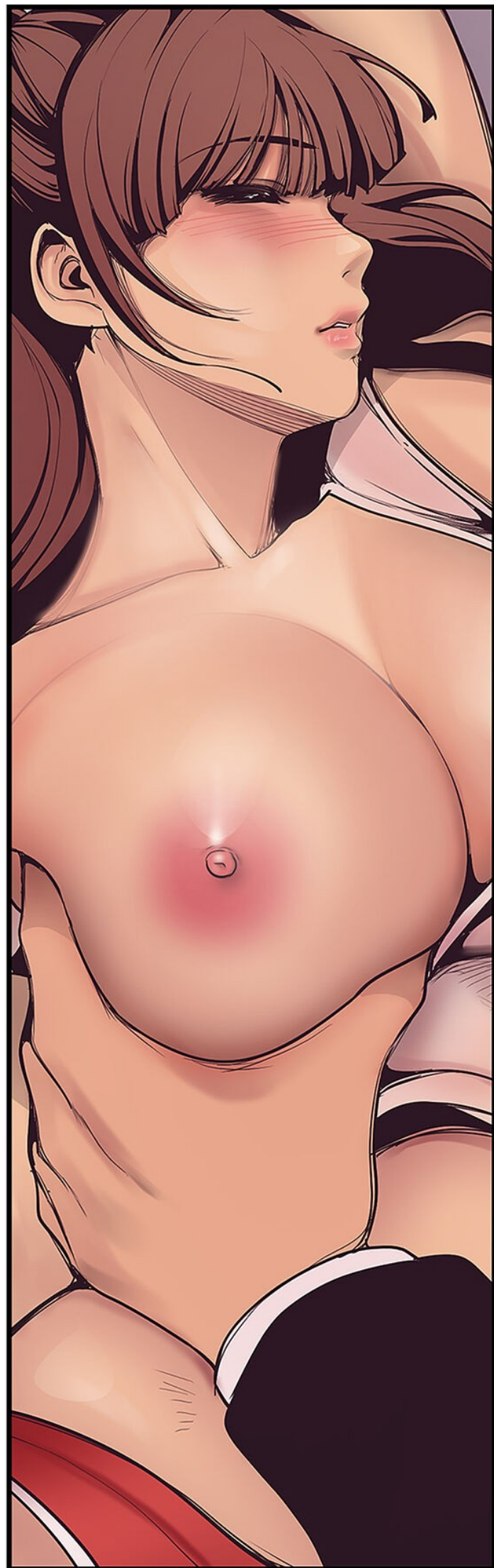
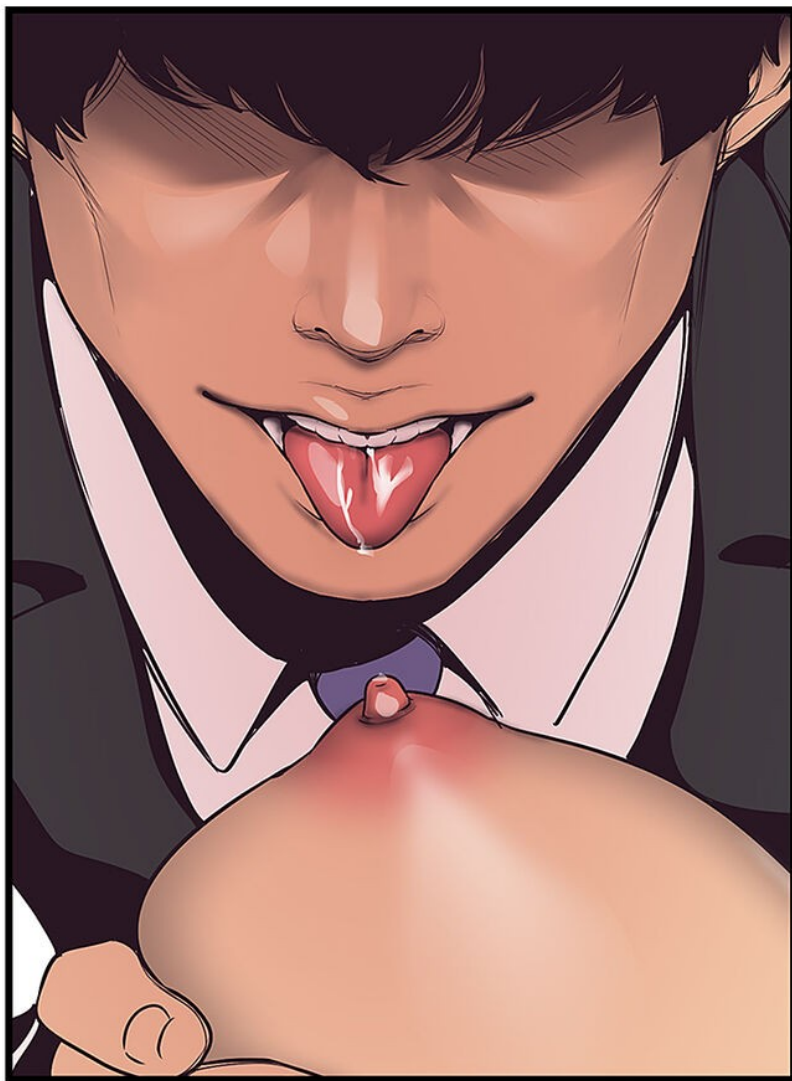
野獣にも似た
欲望が目を覚まし
うごめき始めるのを
感じていた

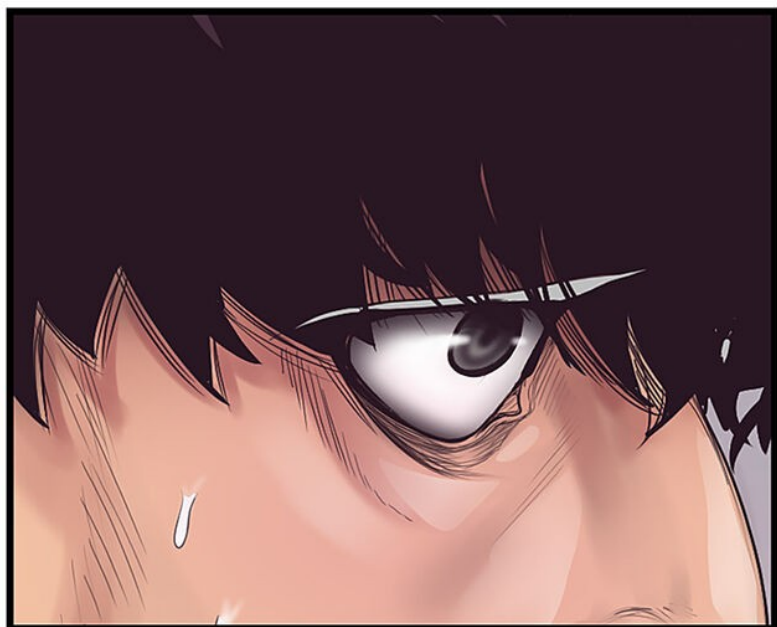
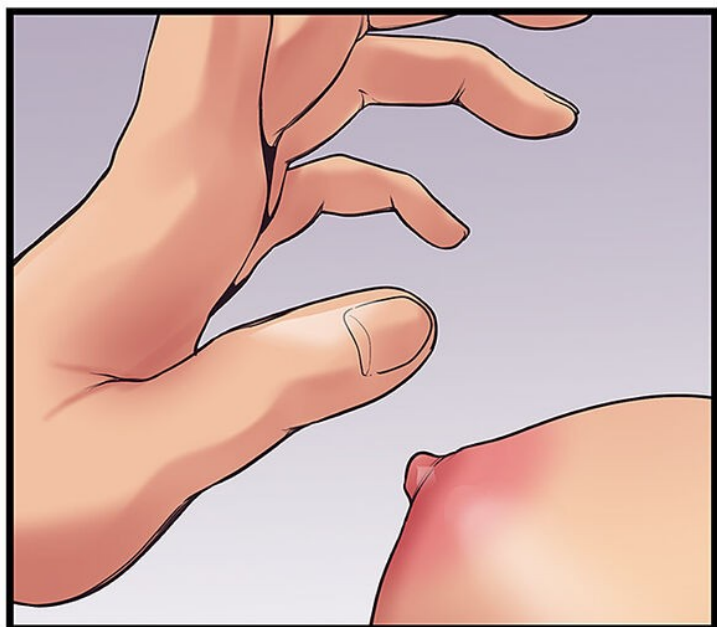
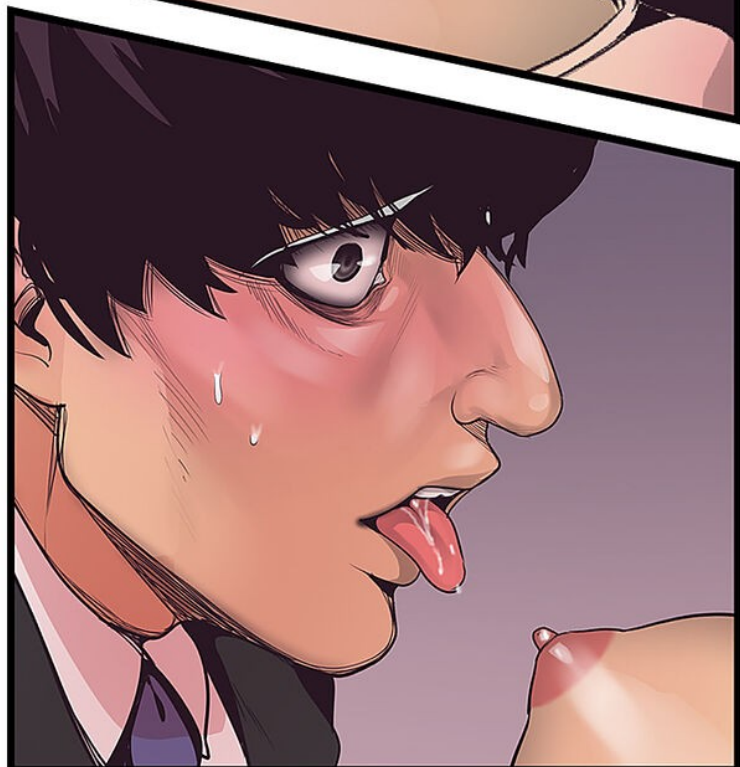
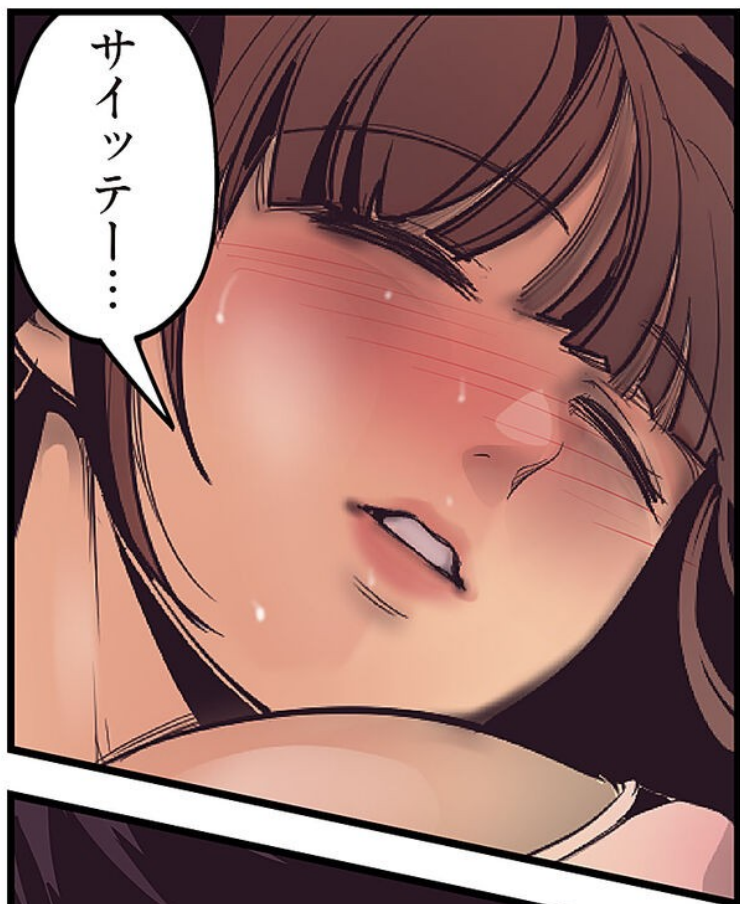


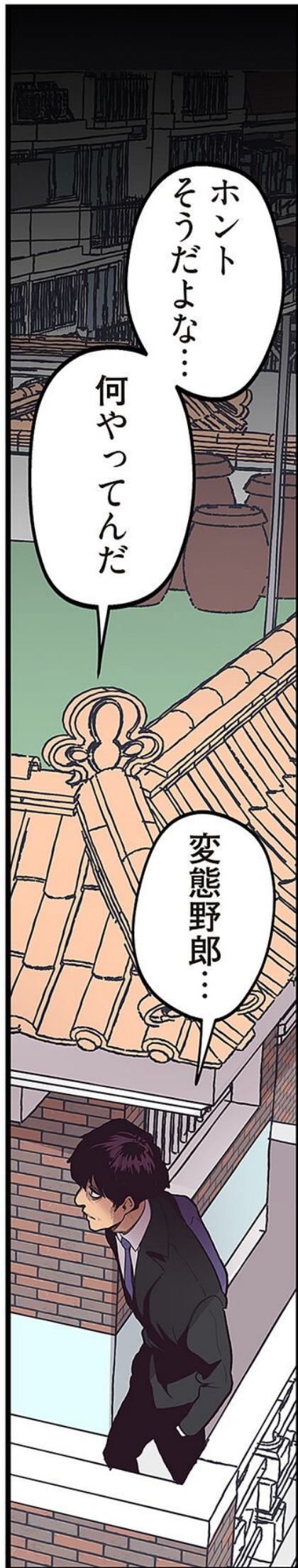
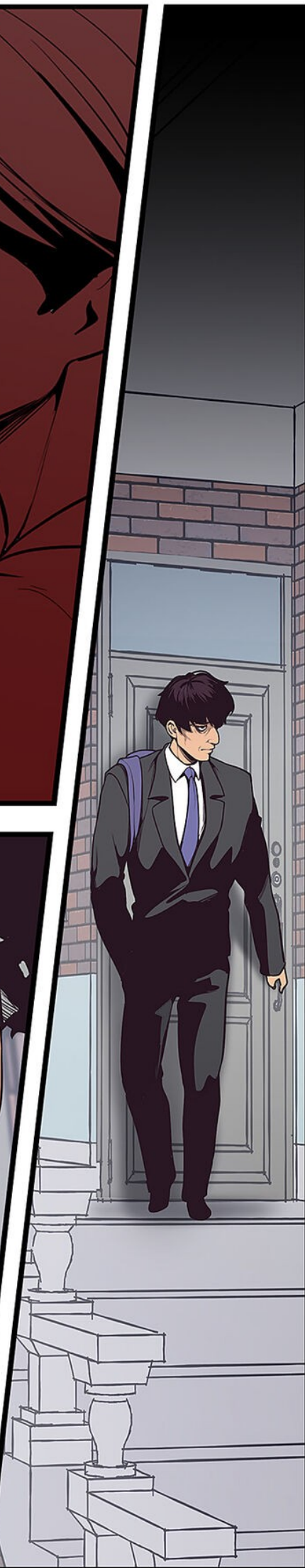
その時

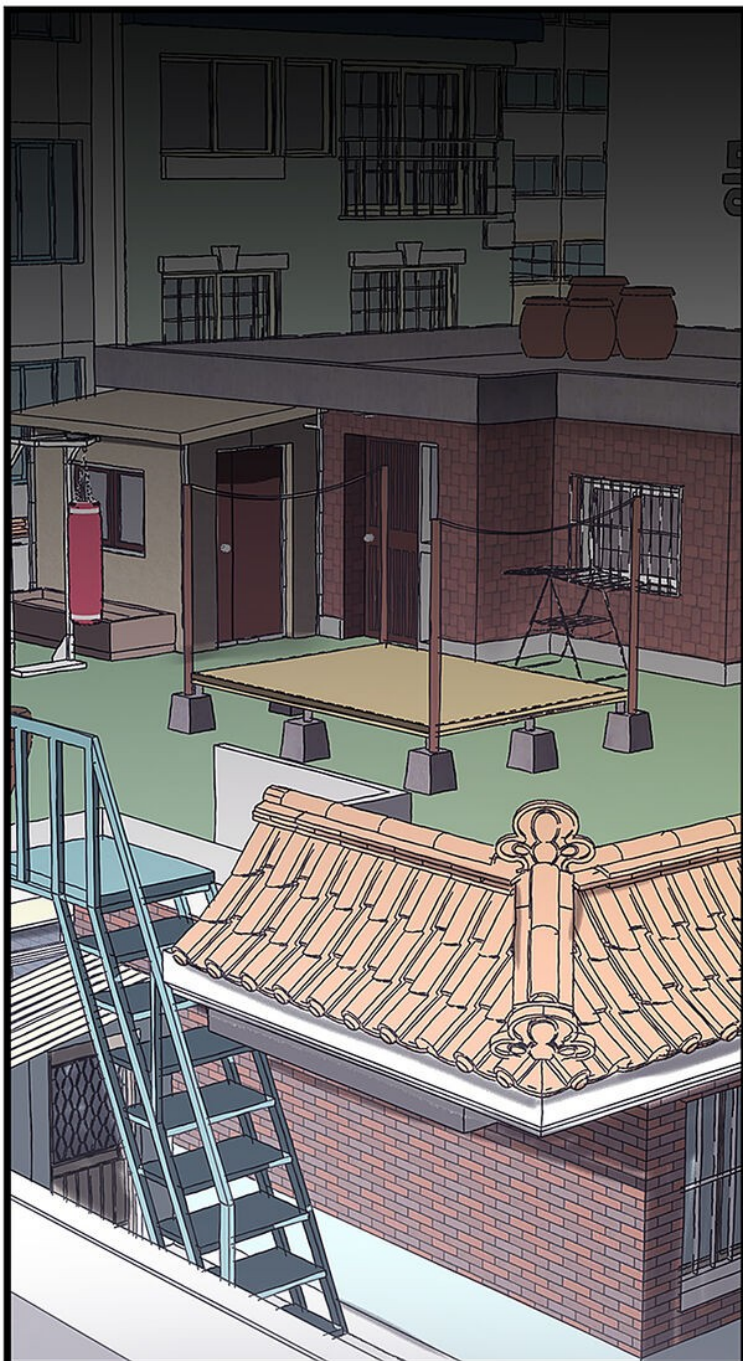
理性的には
ダメだと
わかっていたのに











後悔の念と
羞恥心にとらわれ
なかなか
寝付けなかった
あの夜







唯一手を
差し伸べて
くれた



変態野郎…

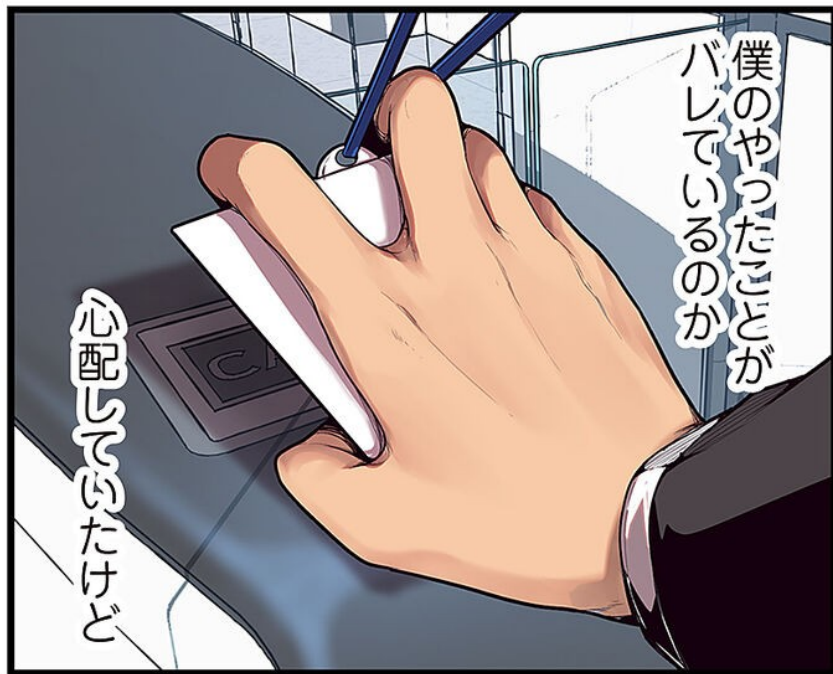
女神だった
のに…

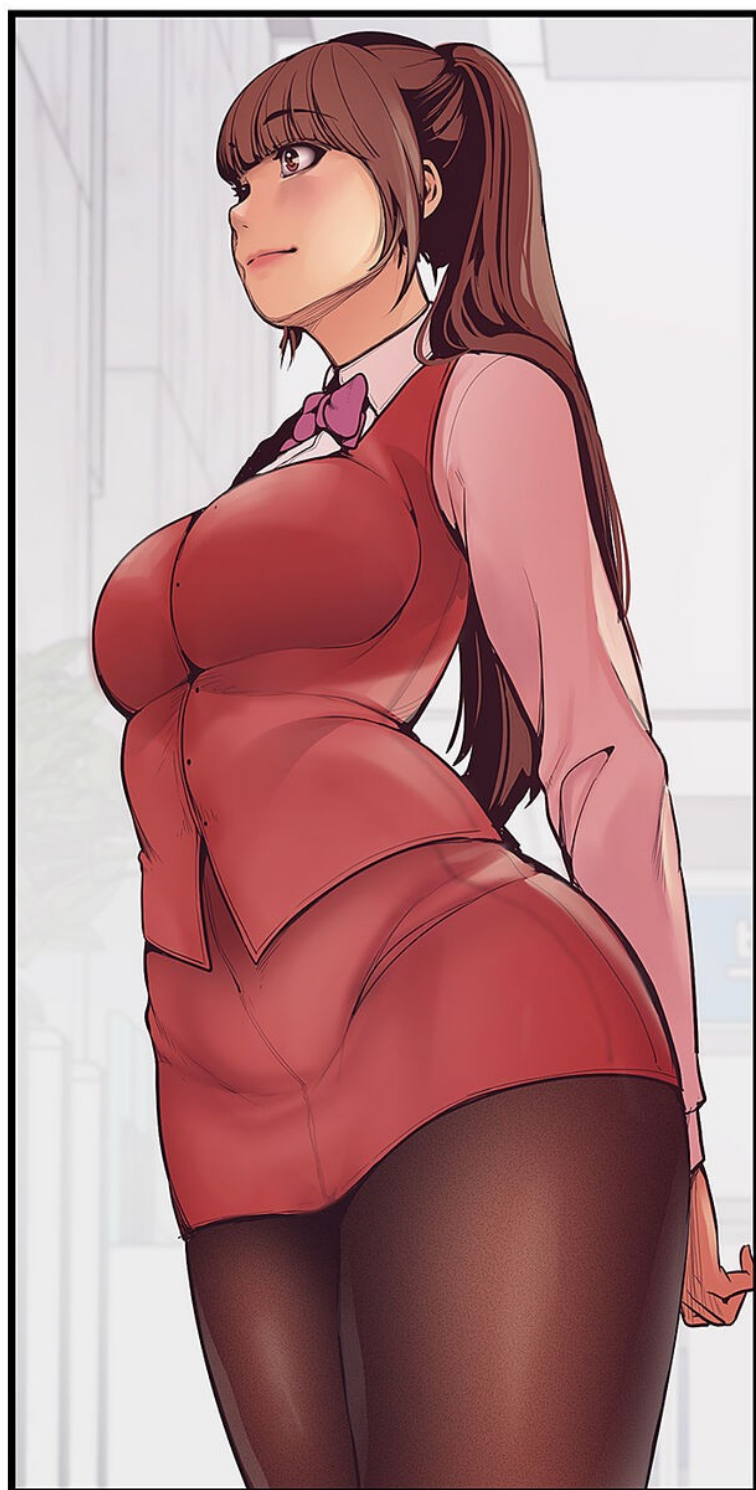


それから



数日間
美紅さんと
会うことは
なかった





何あれ…

田中
今日はやけに
ニヤニヤ
してるけど

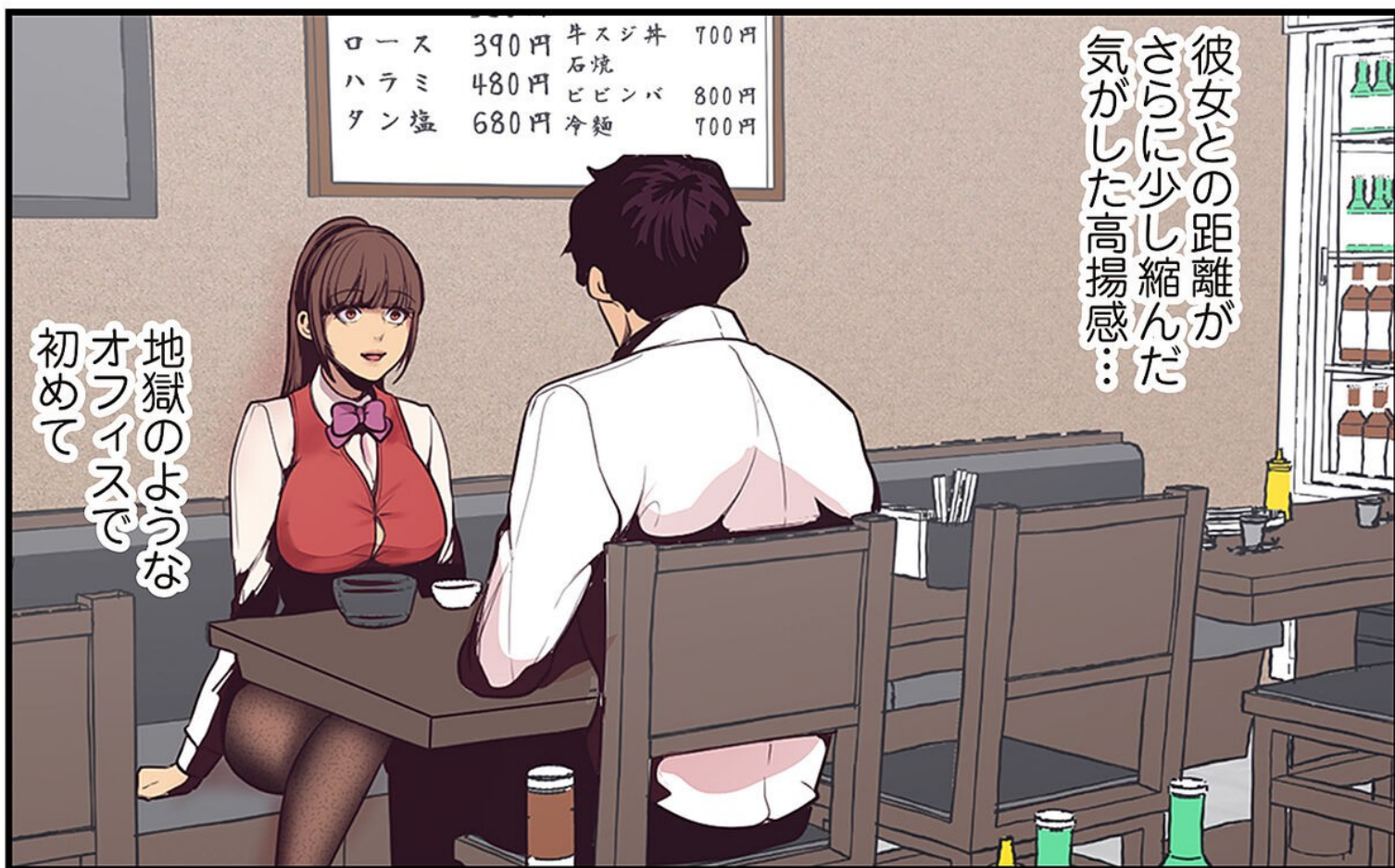
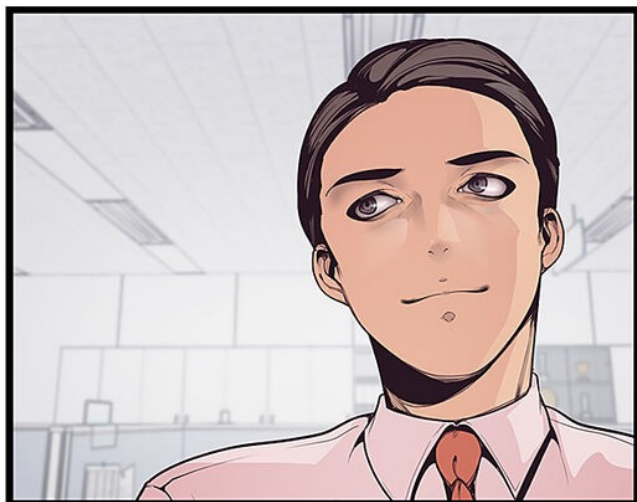
なんか
悪い物でも
食べたんじや
ない？

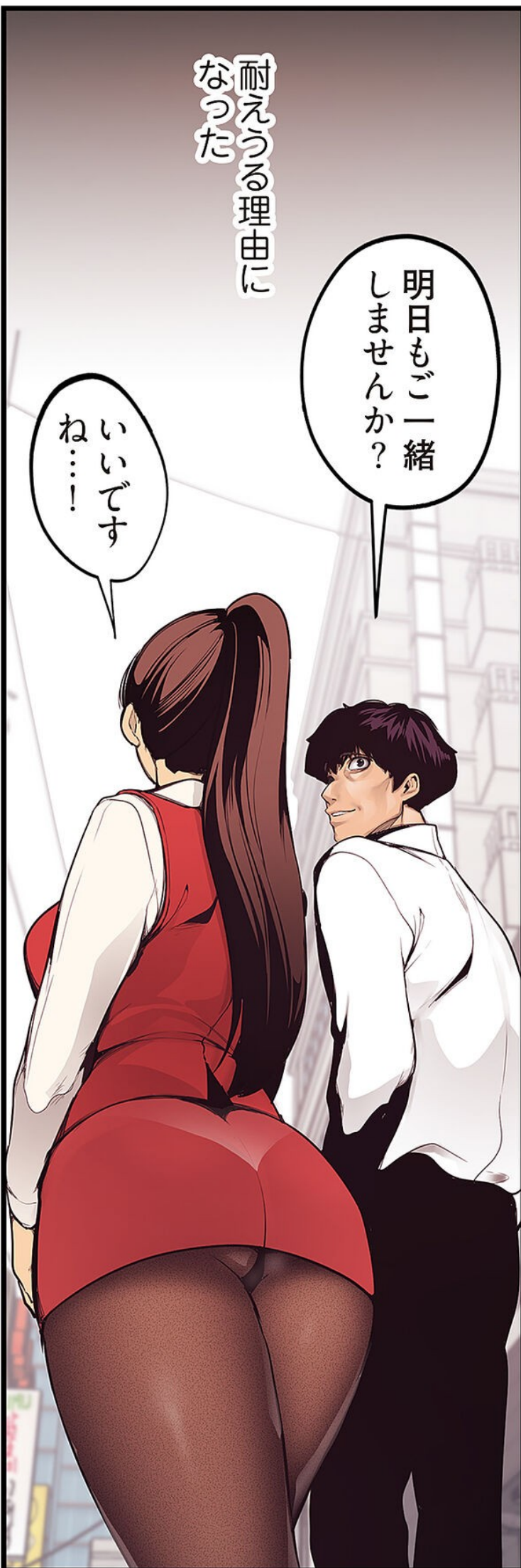
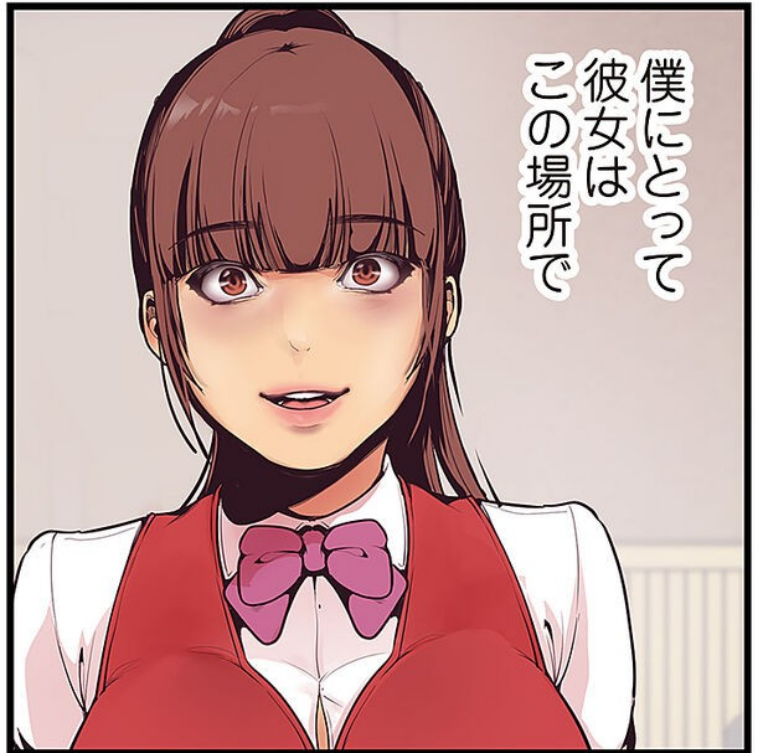


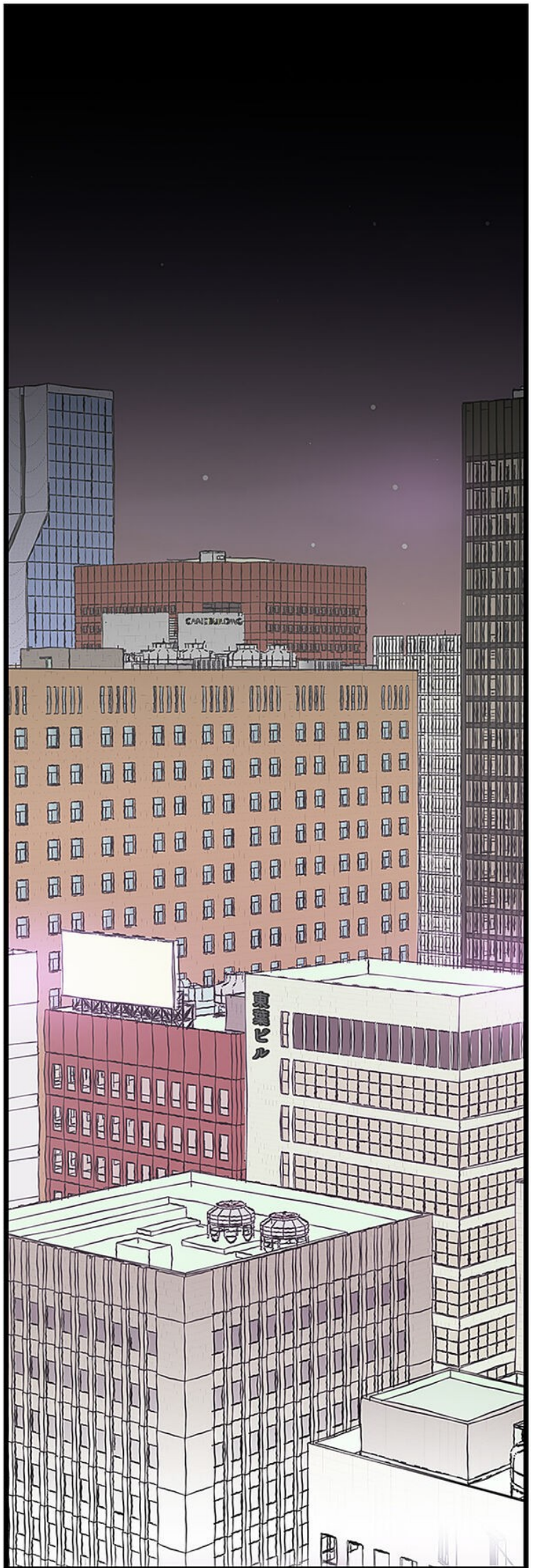
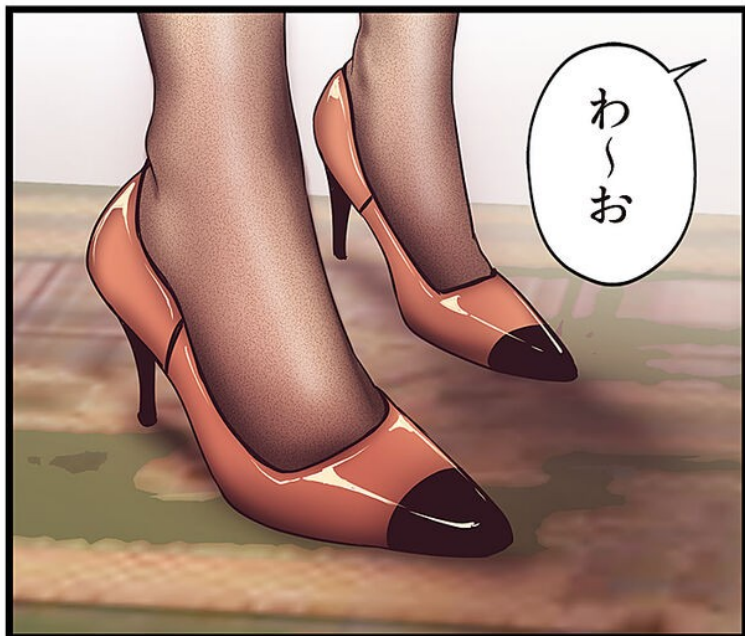
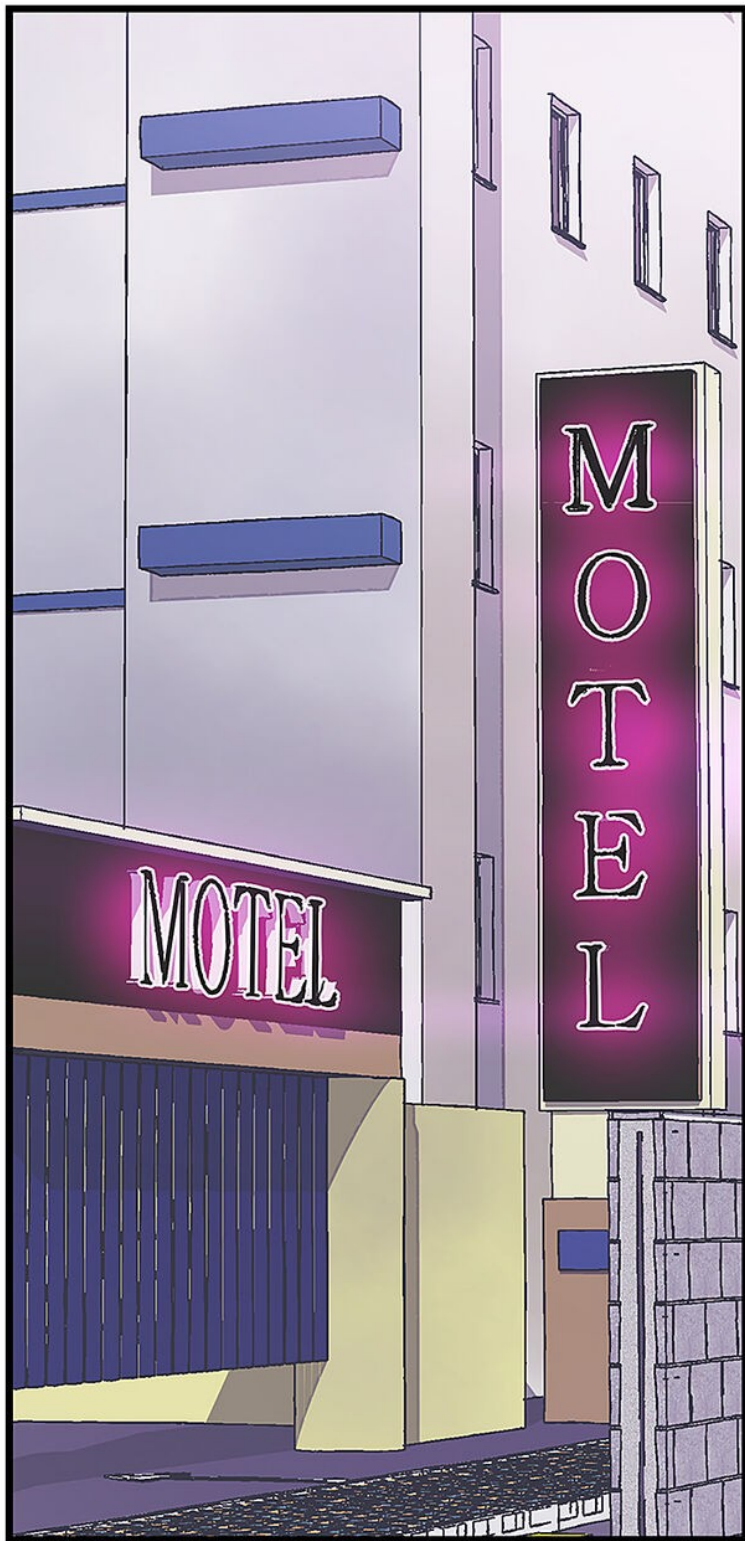
へ！…

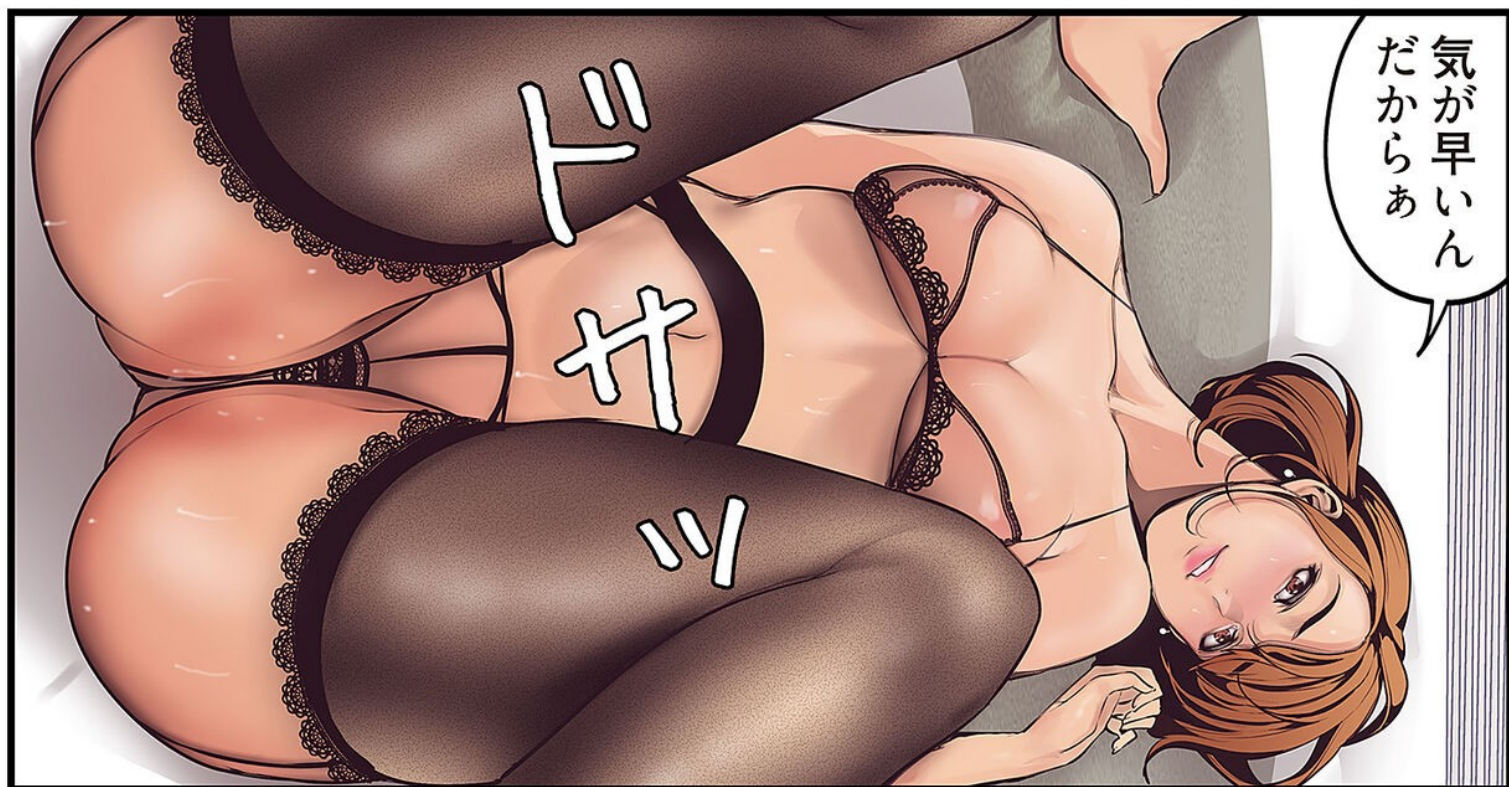
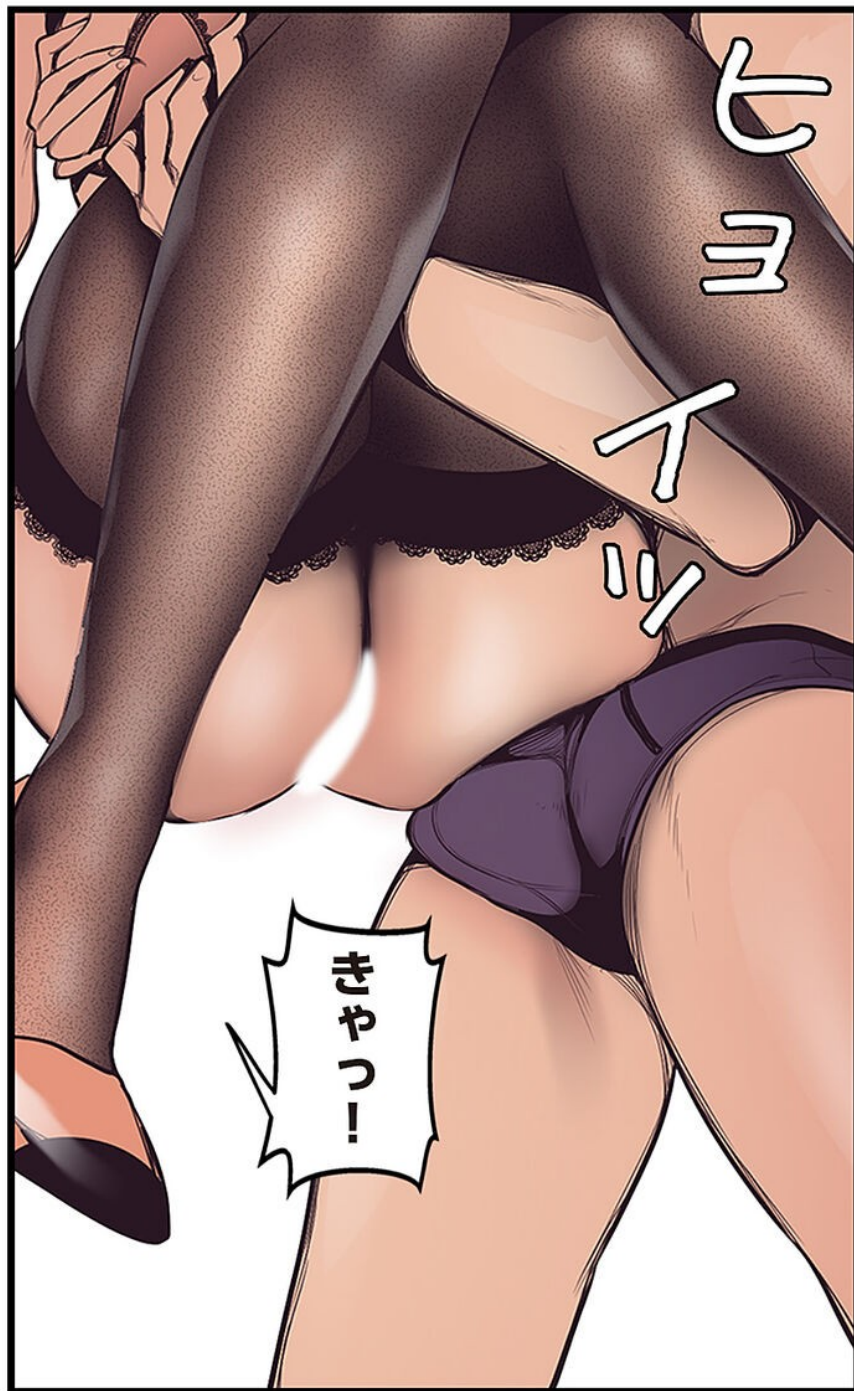
なかなか
やるじゃ
ねえか

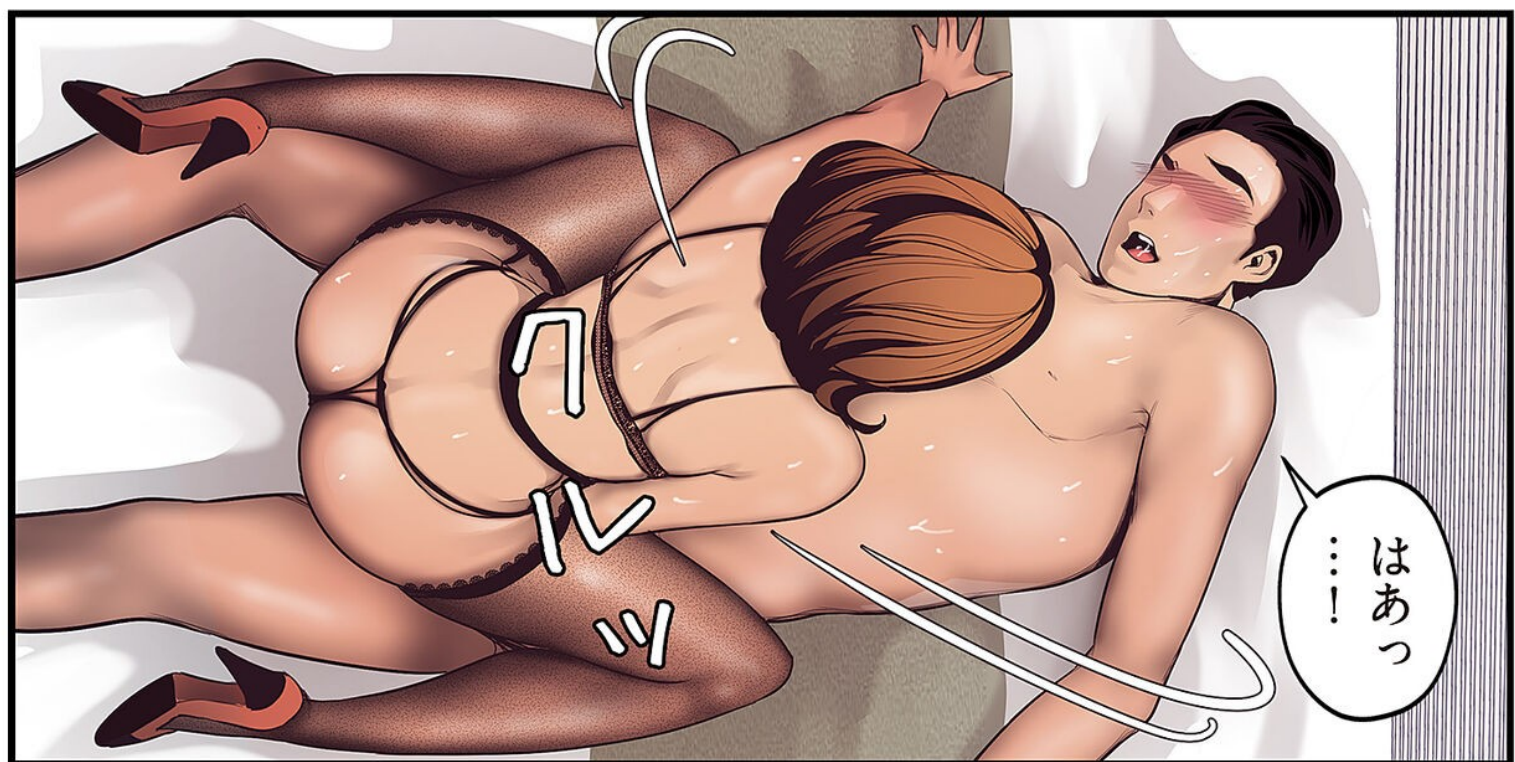
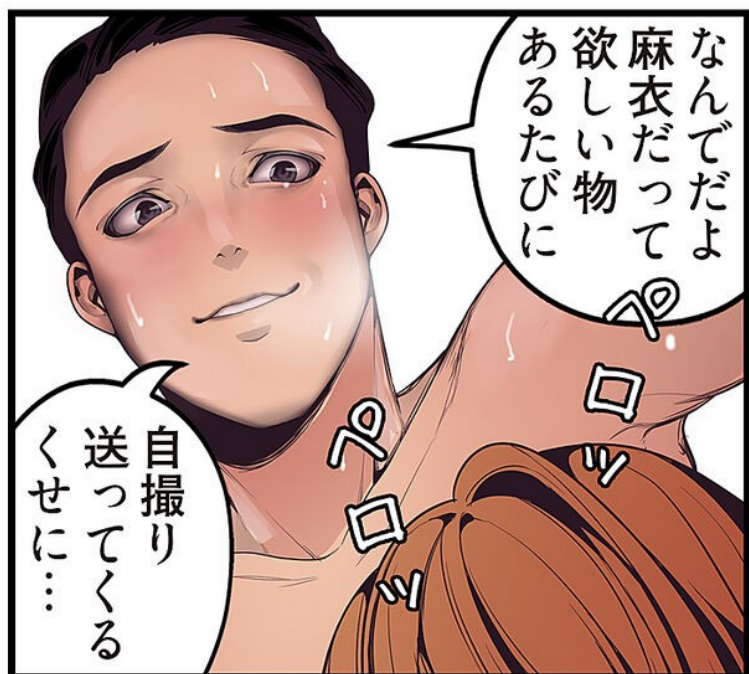
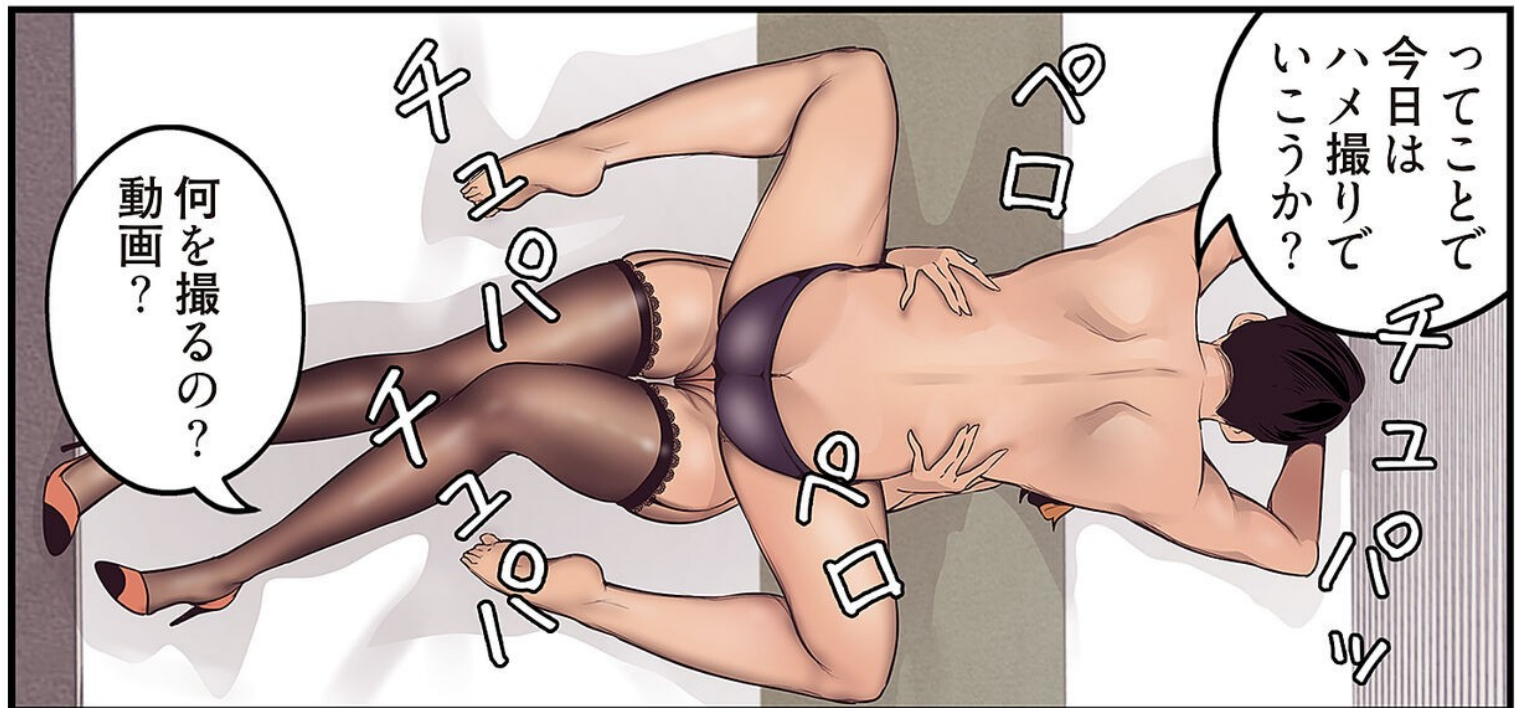
田中の
ヤツ…

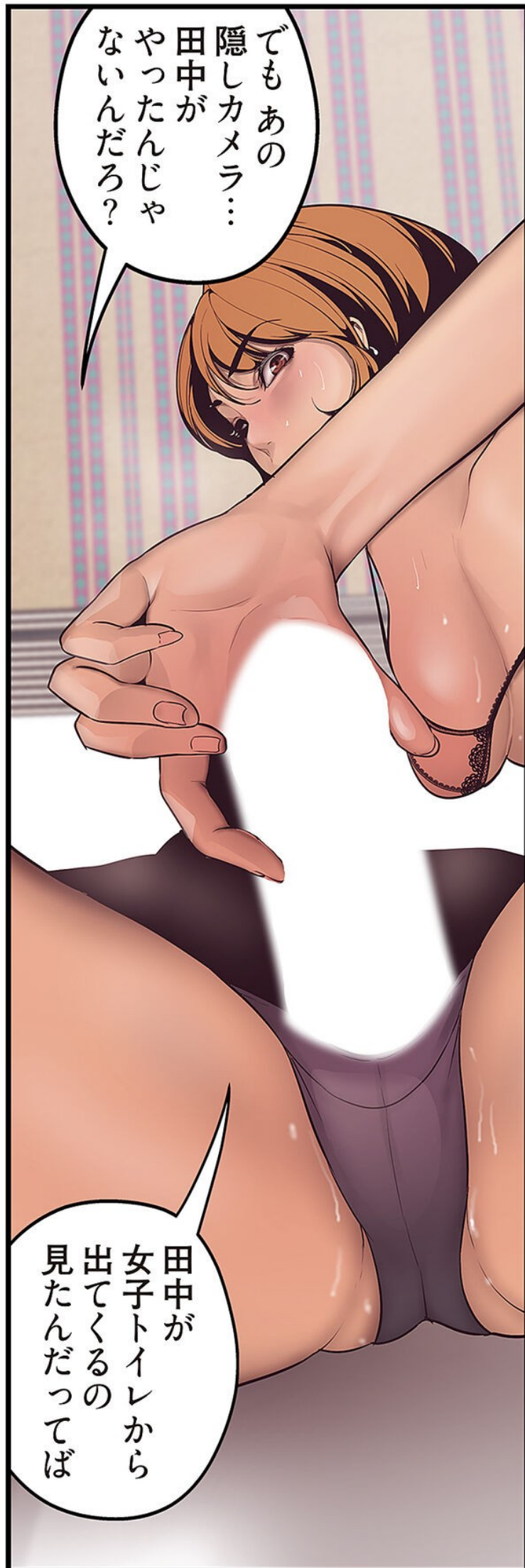


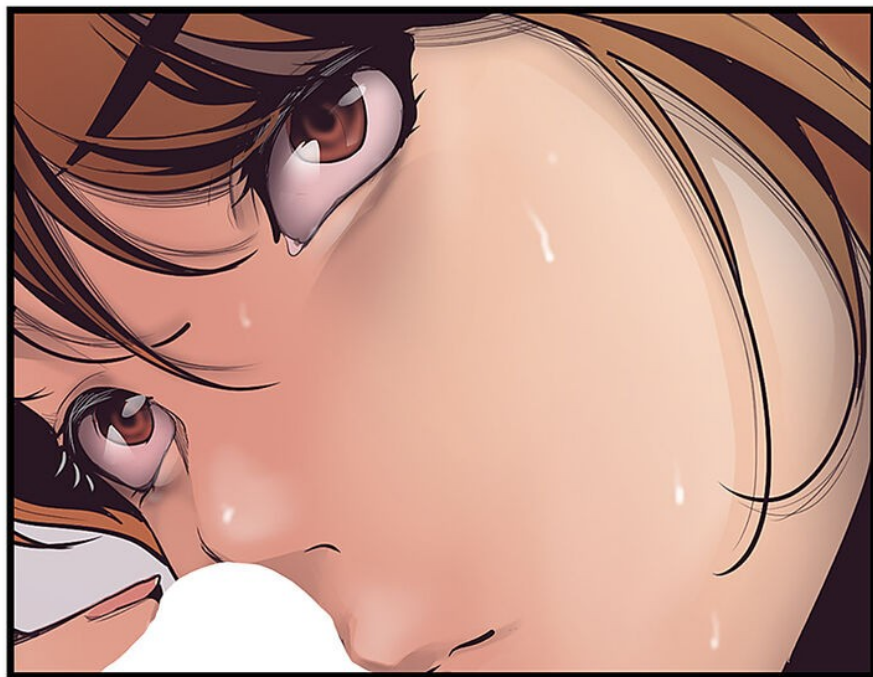


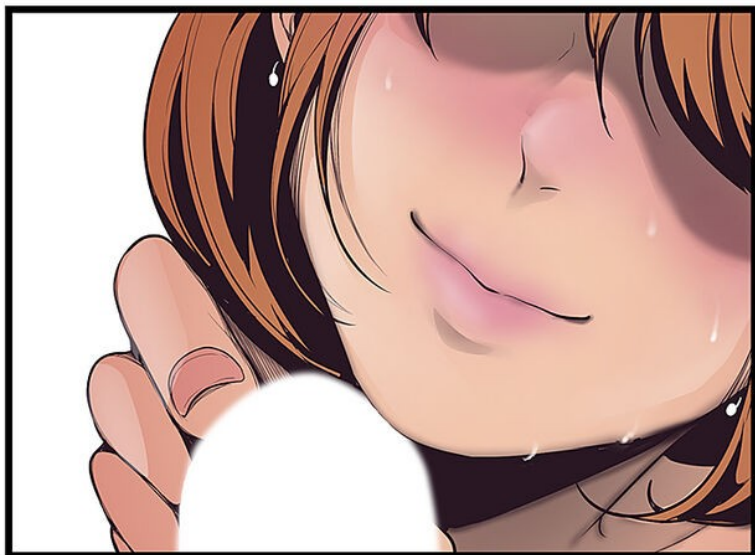










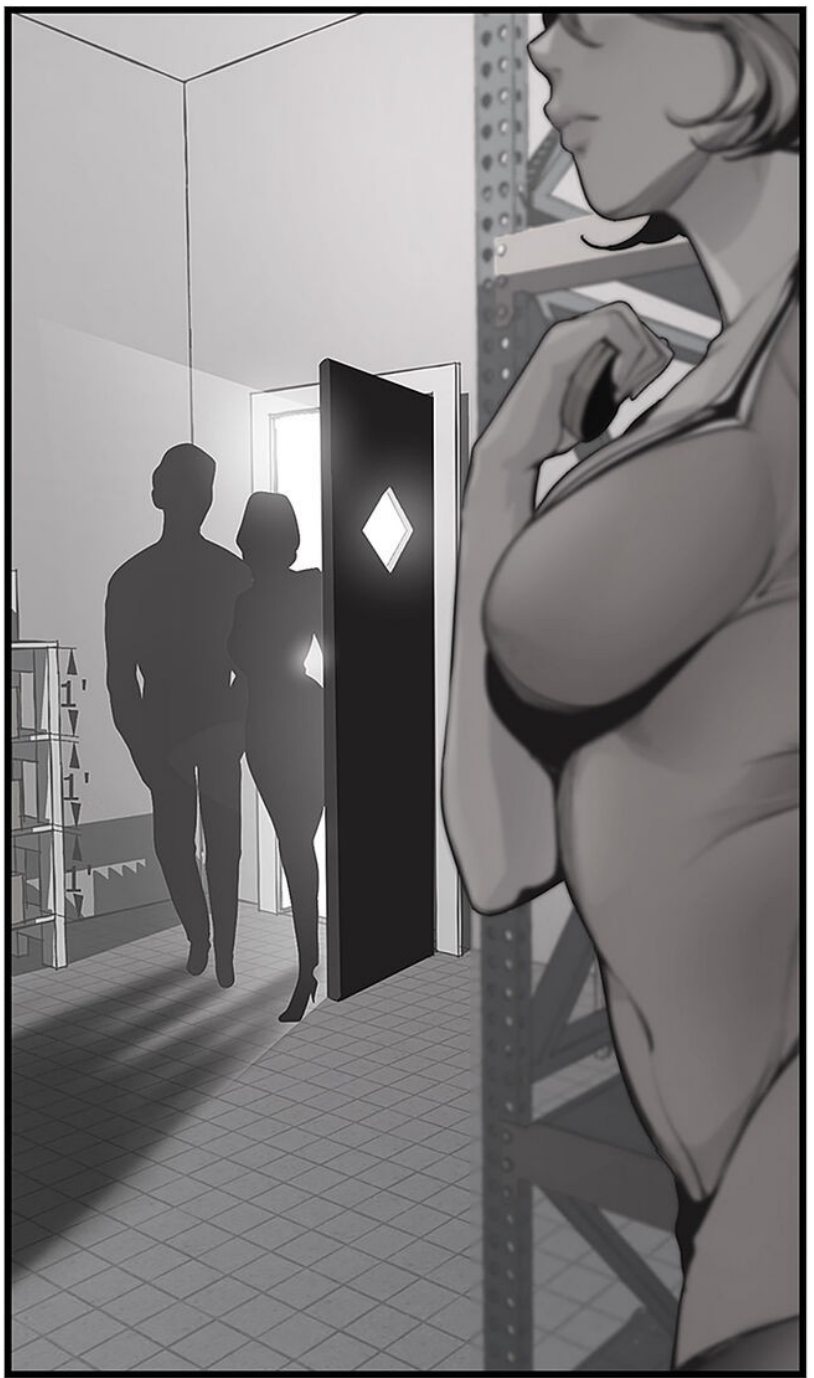
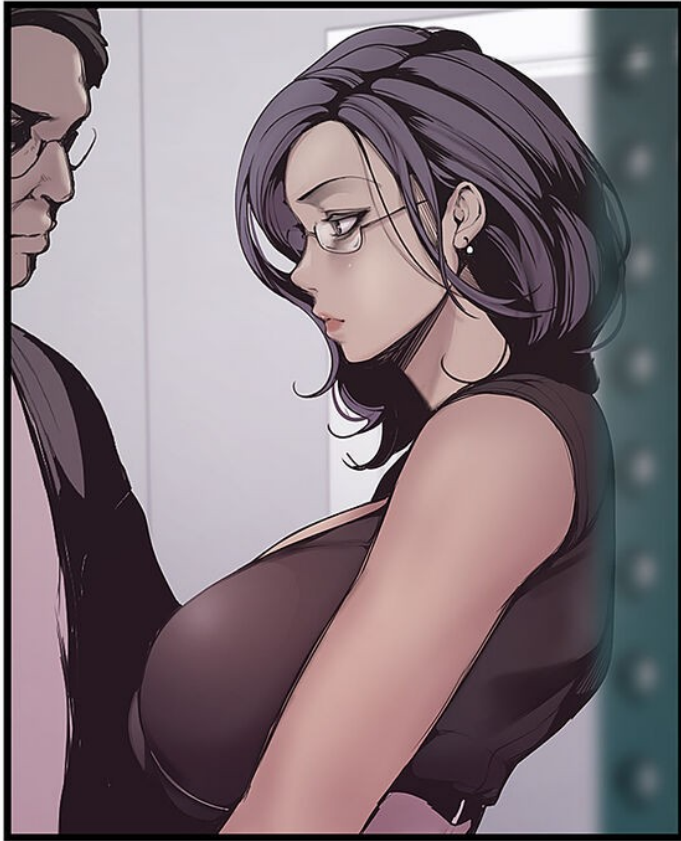
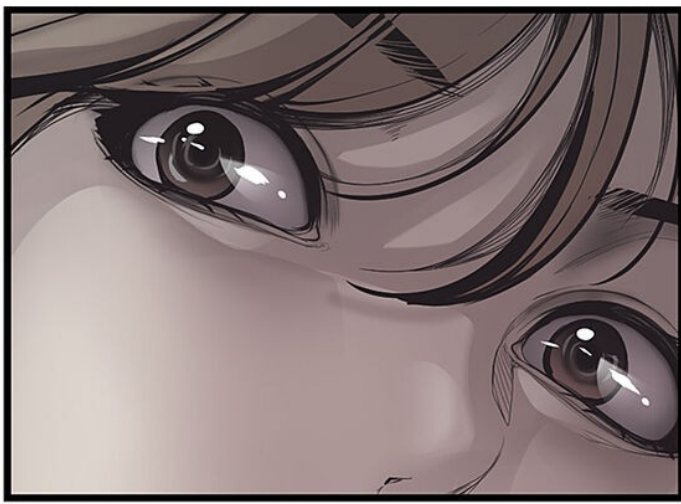


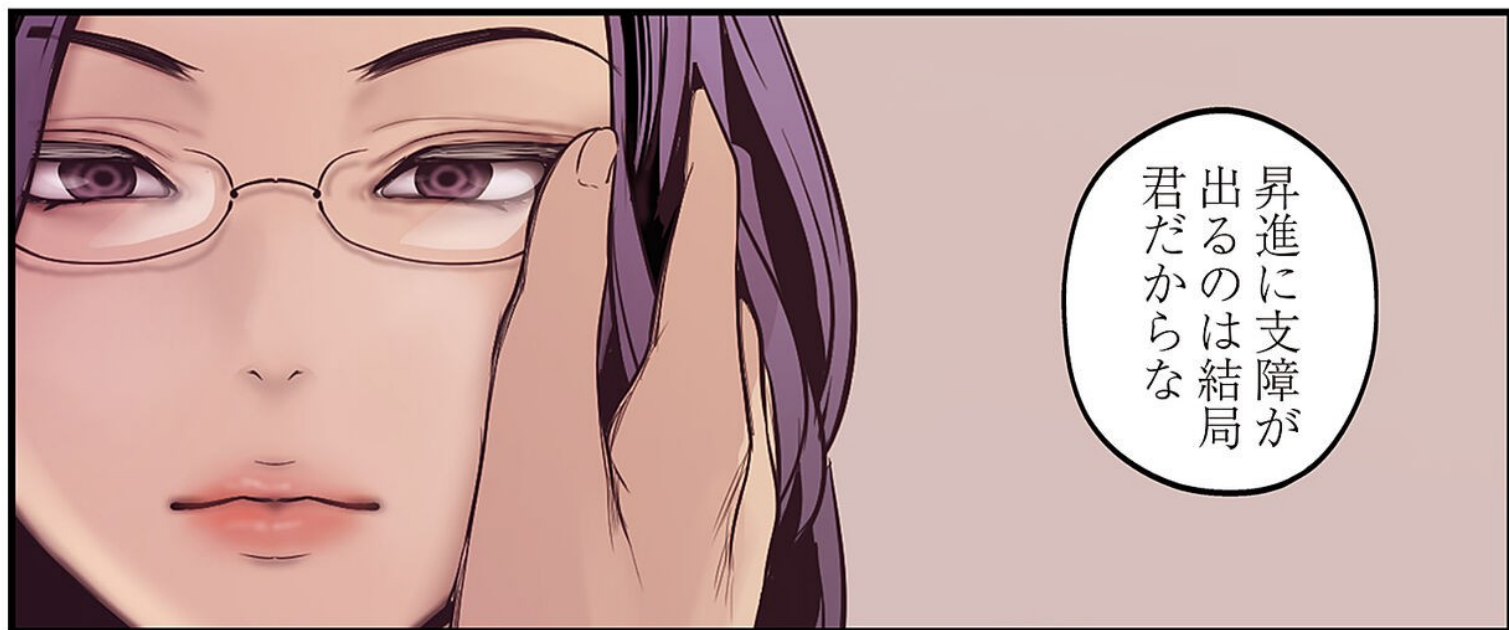
新

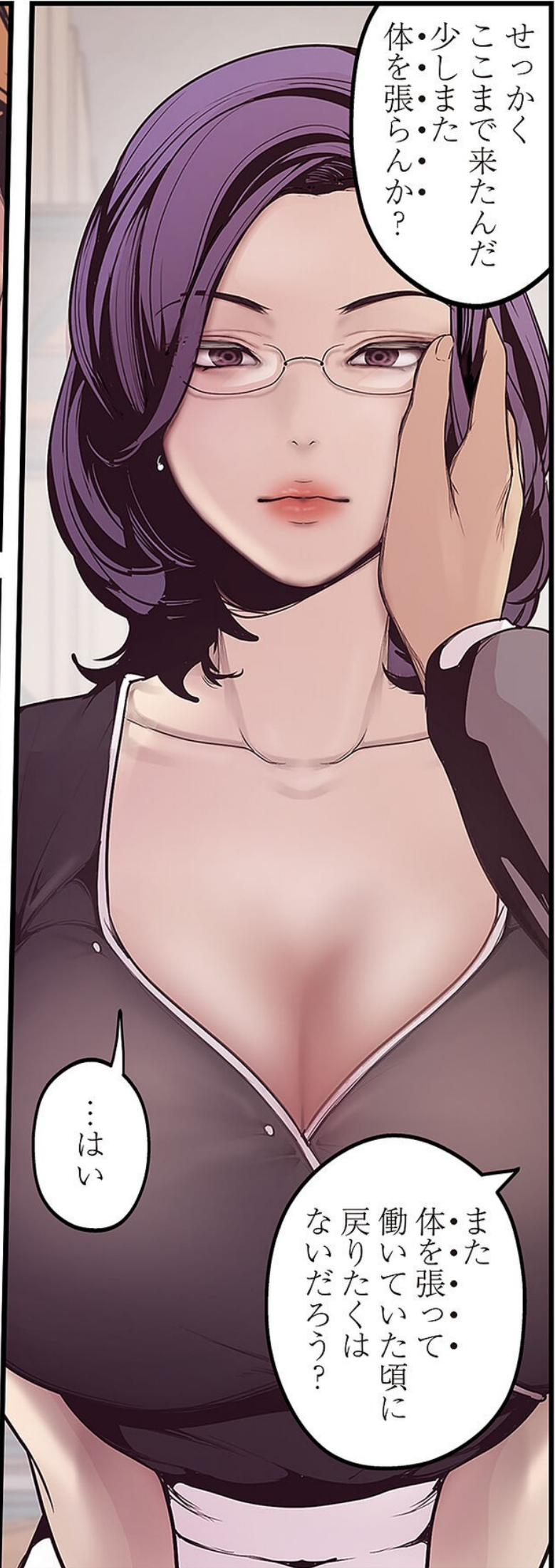
世

す
ば
ら
し
き
新
世
界

A WONDERFUL
NEW WORLD



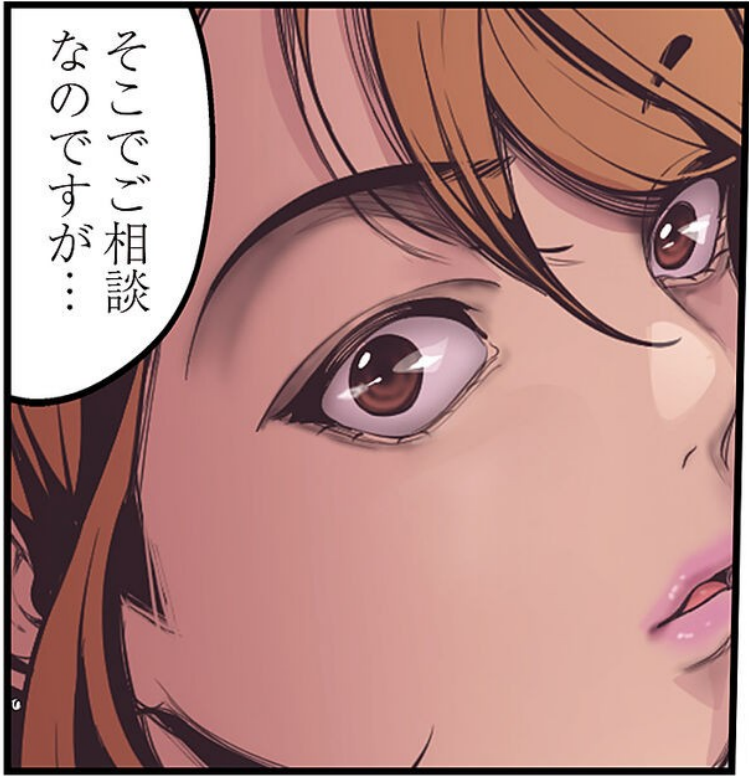




せっかく
ここまで来たんだ
少・し・ま・た
・体・を・張・ら・ん・か・？

…はい

また
・体・を・張・つ・て
働いていた頃に
戻りたくは
ないだろう？



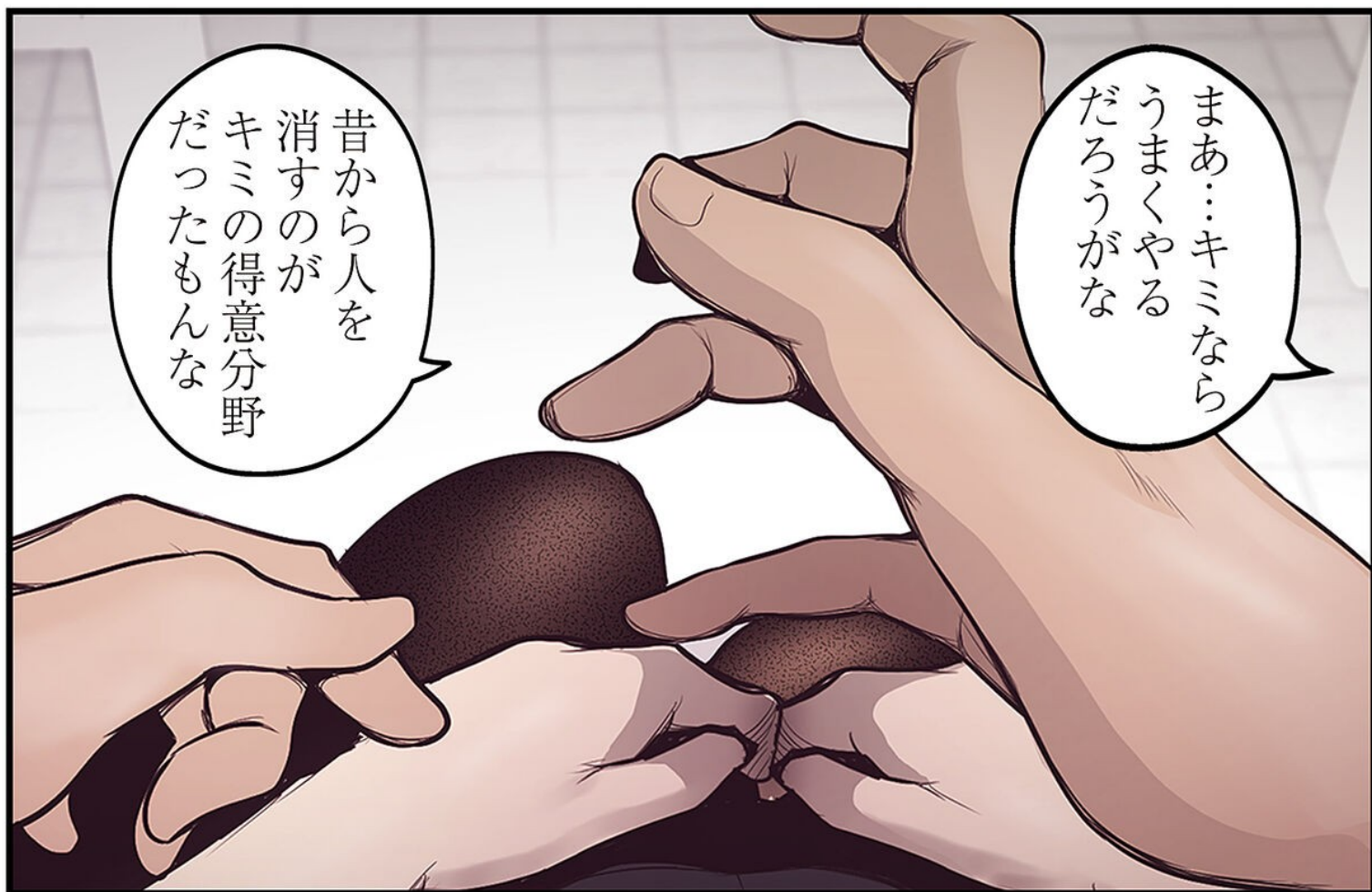
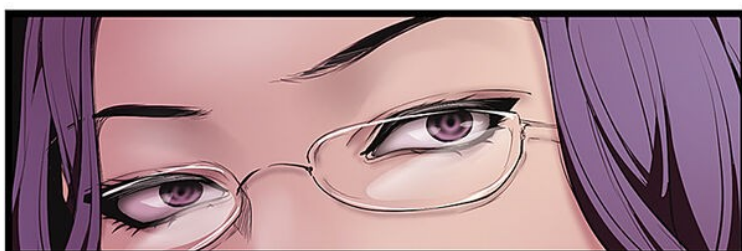
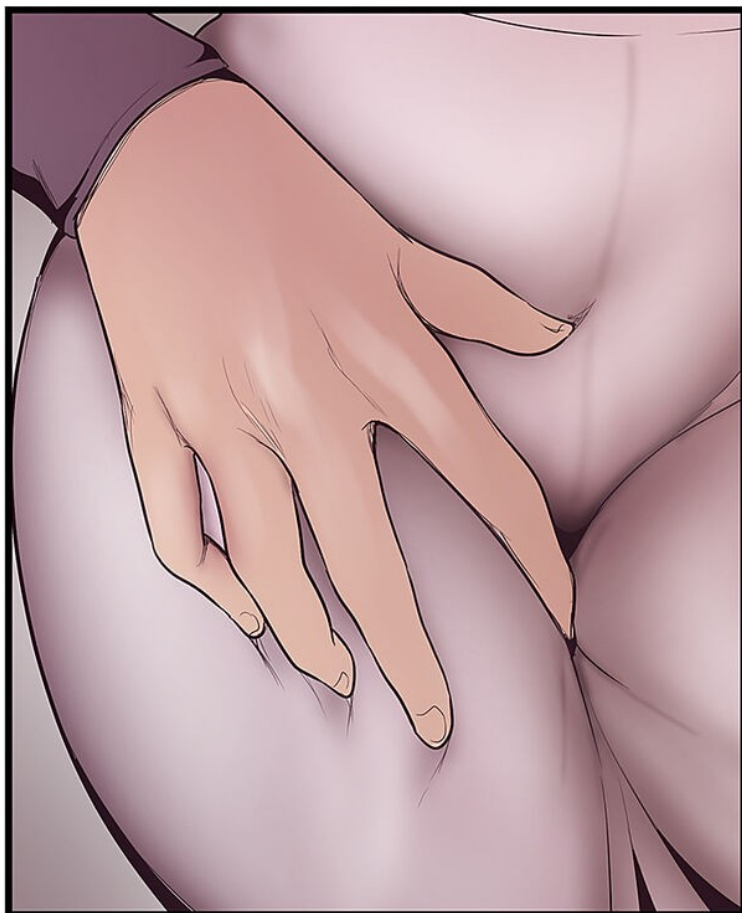
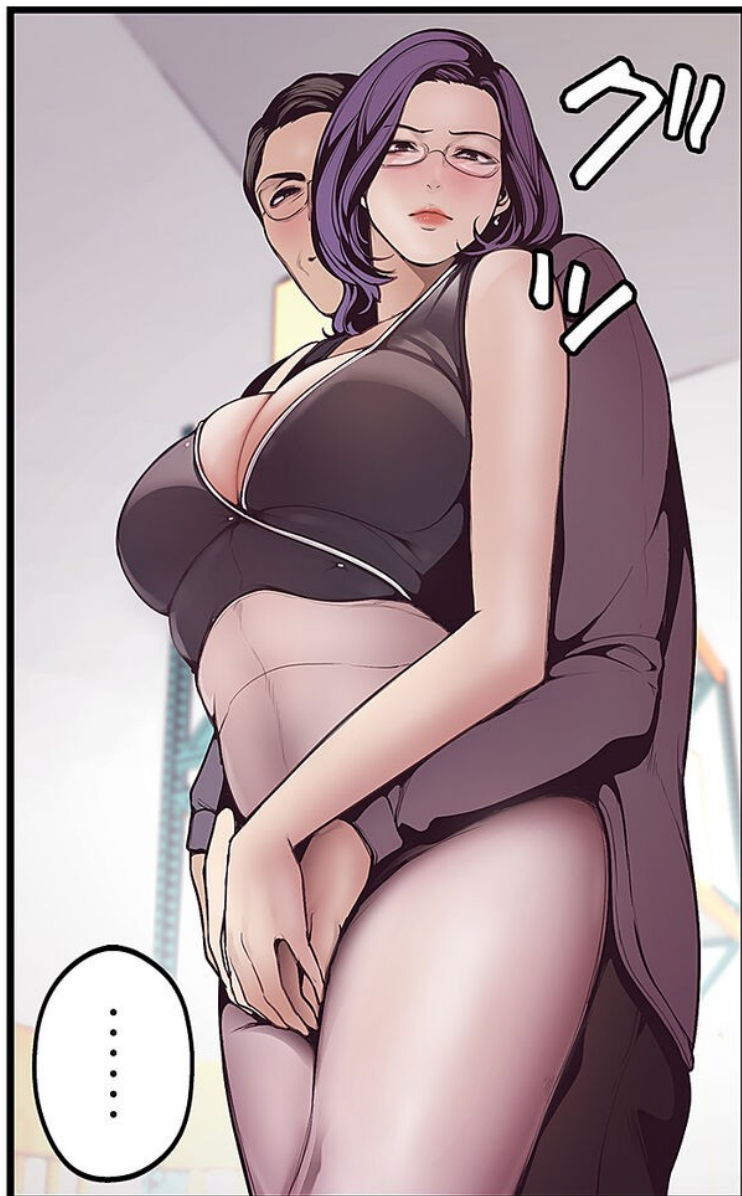
そこでご相談
なのですが…

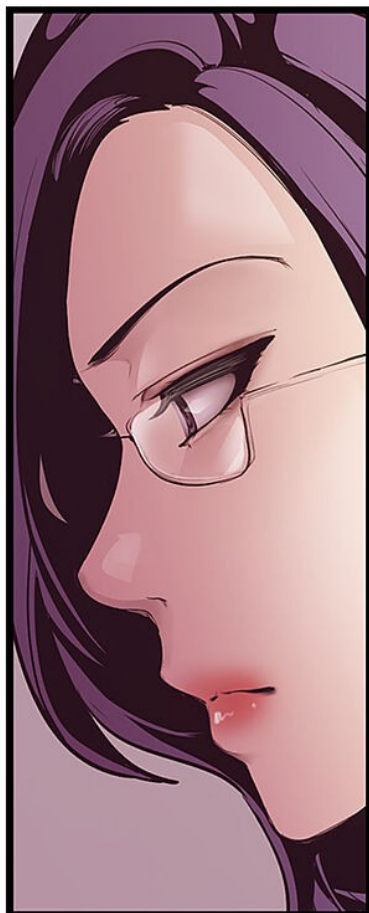


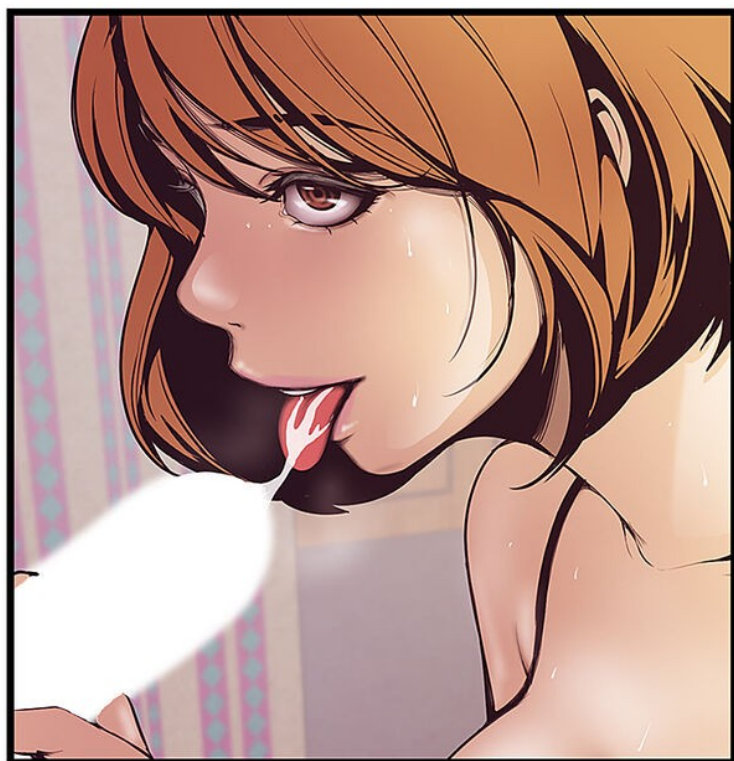
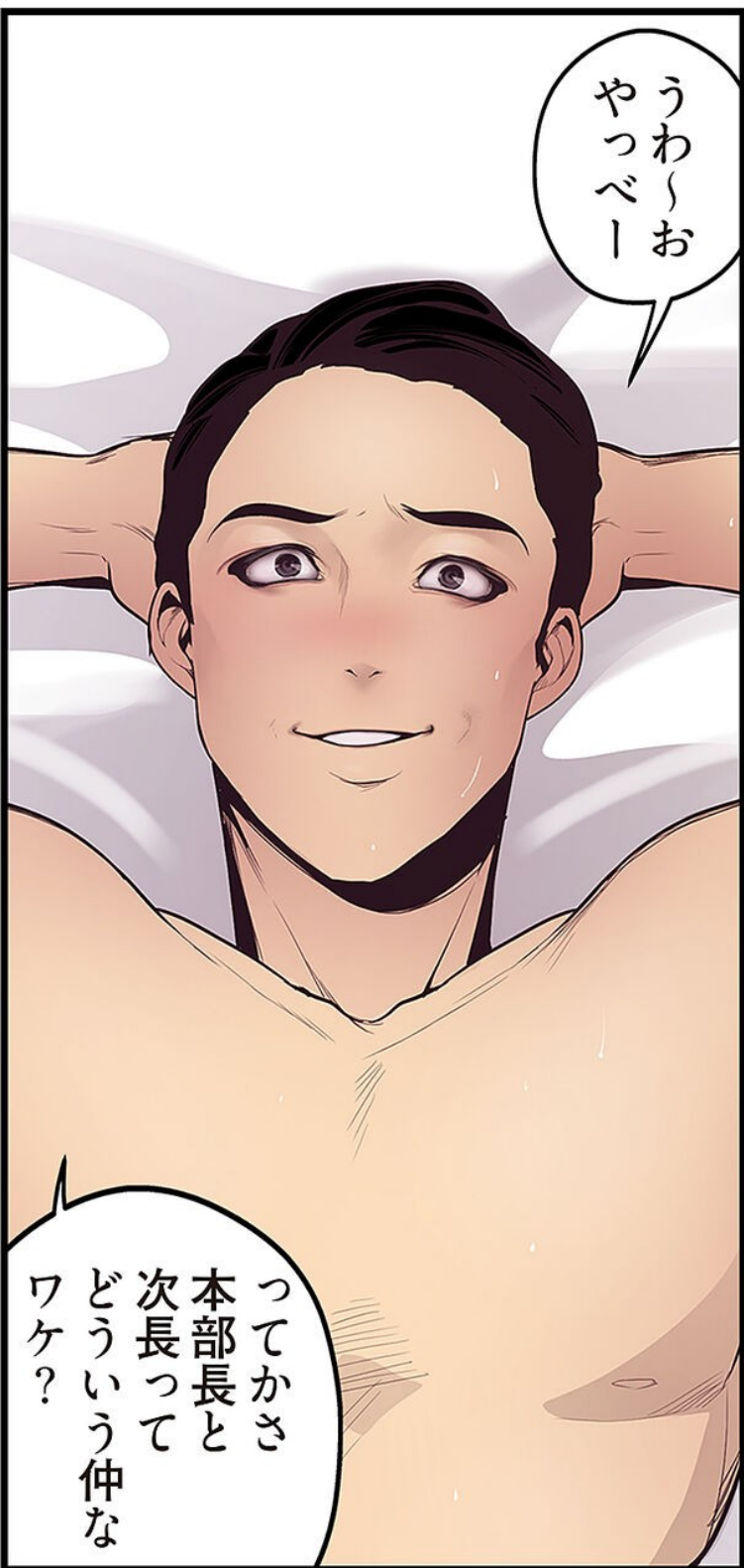
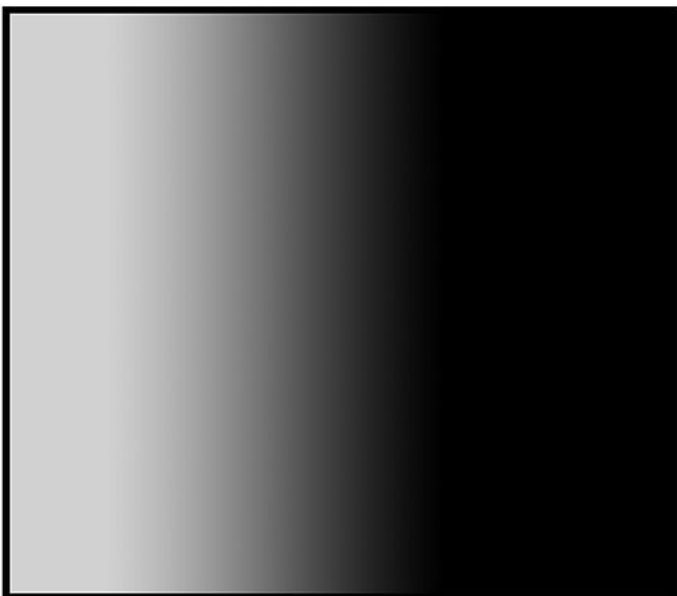
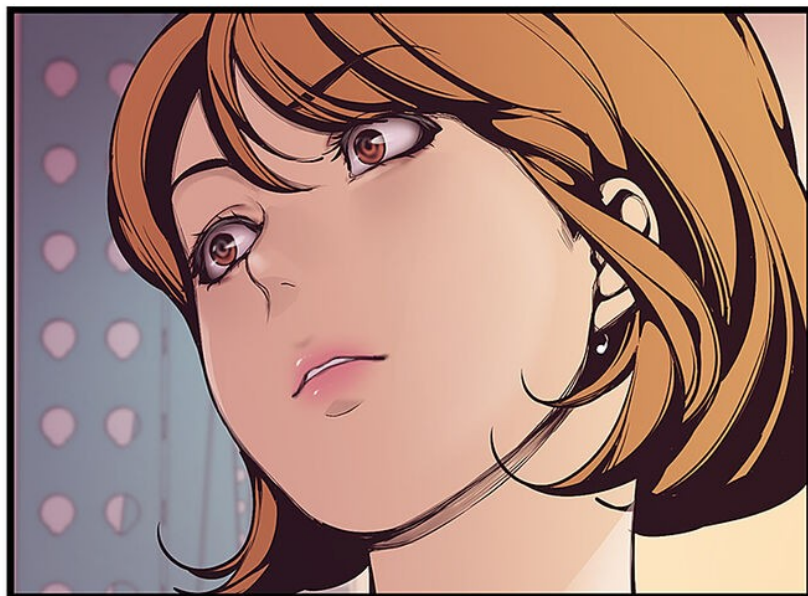
異動辞令を
一つ出して
頂ければと
思いました…

なんの辞令だ？











ギブ
アンド...

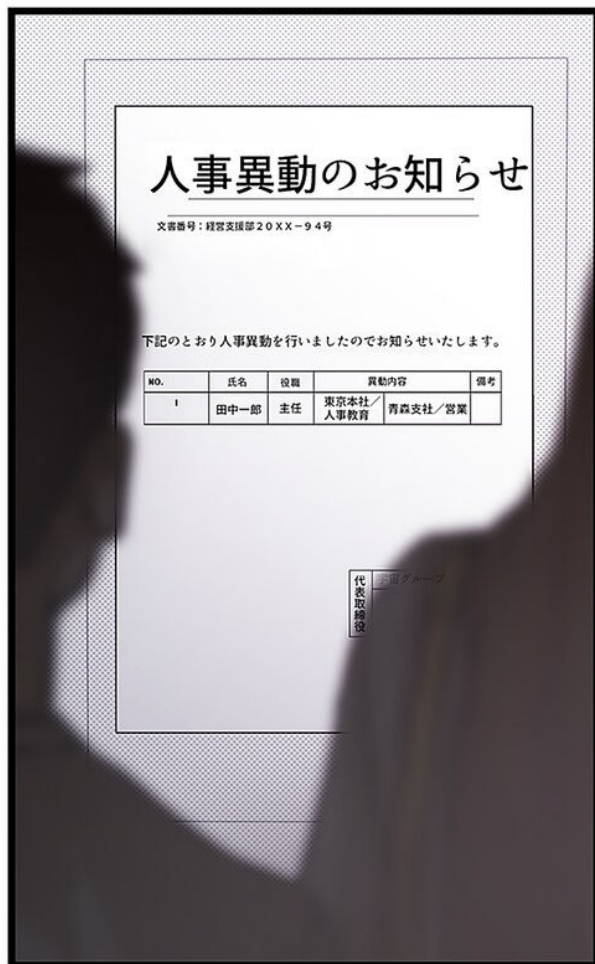
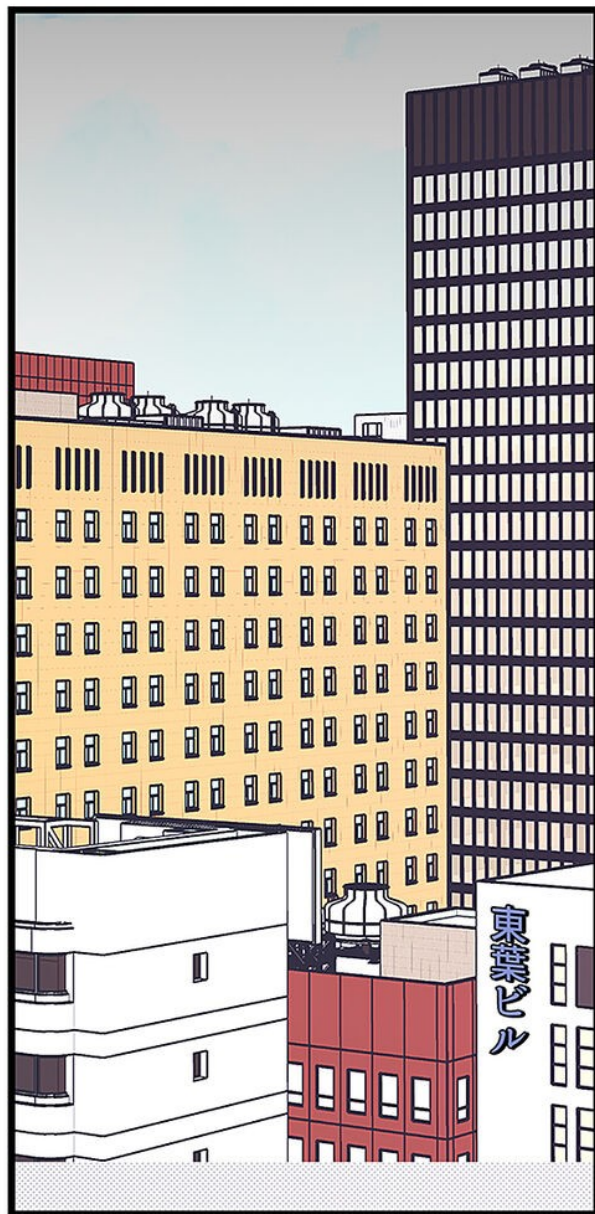
テイク
じゃない?

...!

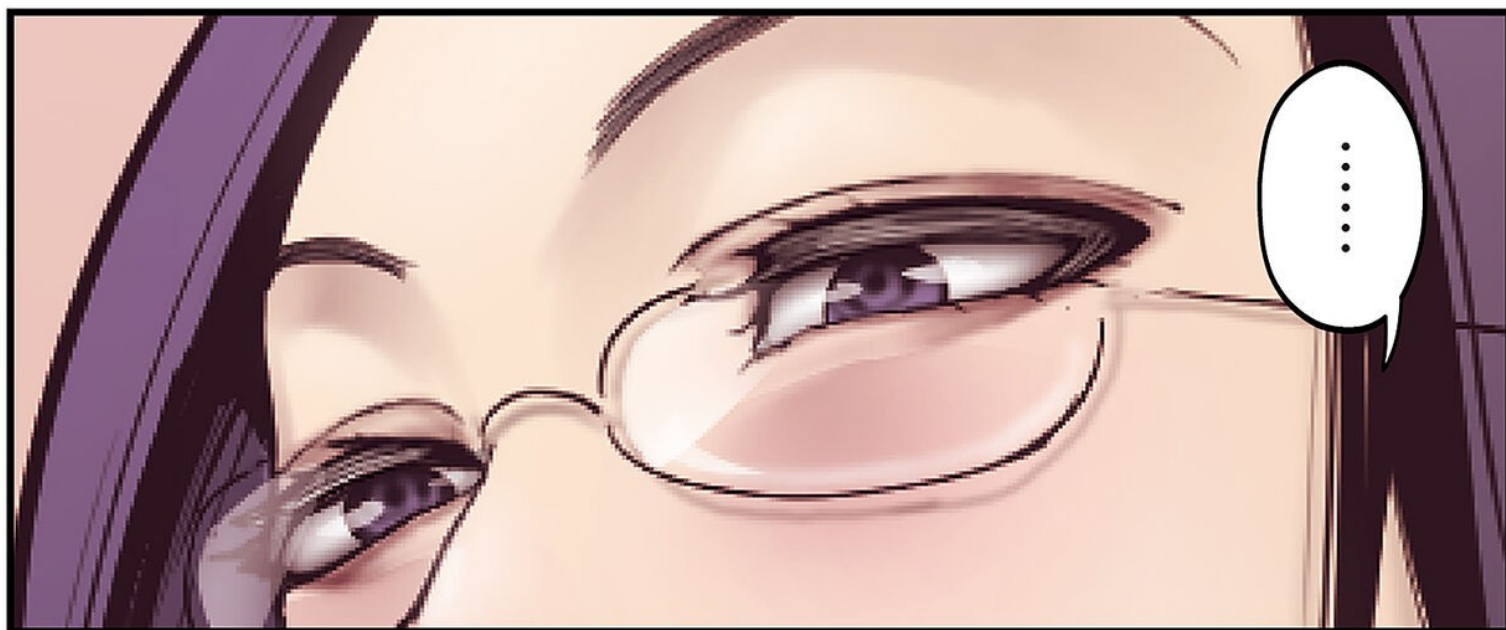
人事異動

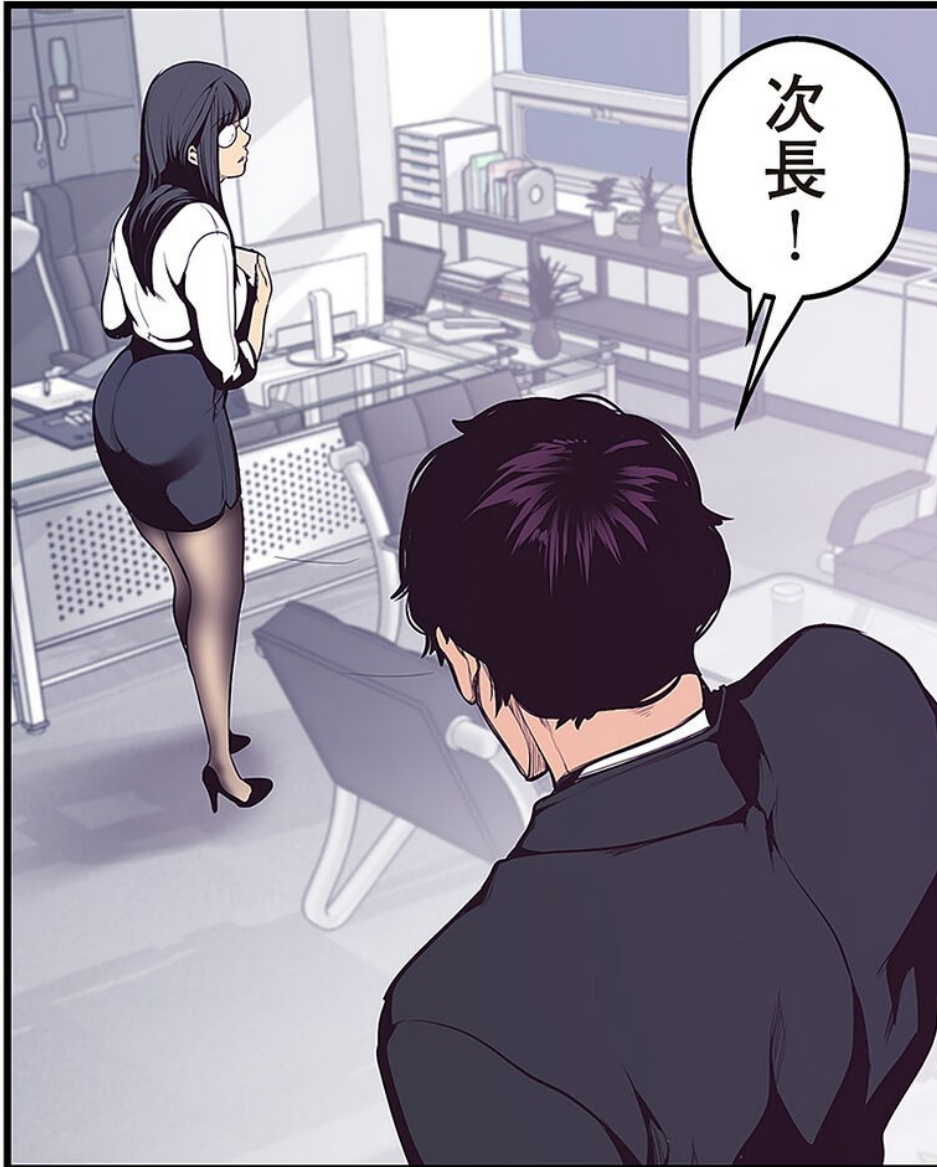
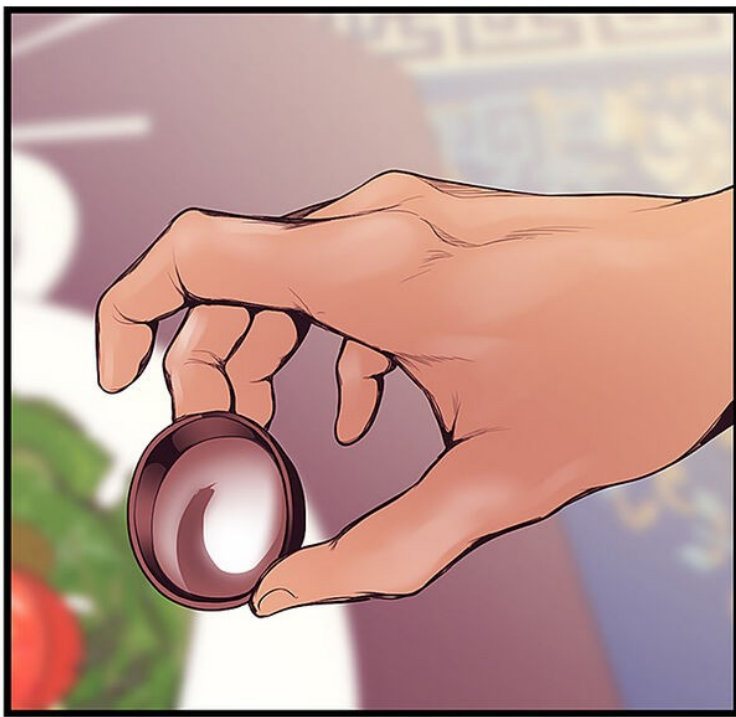


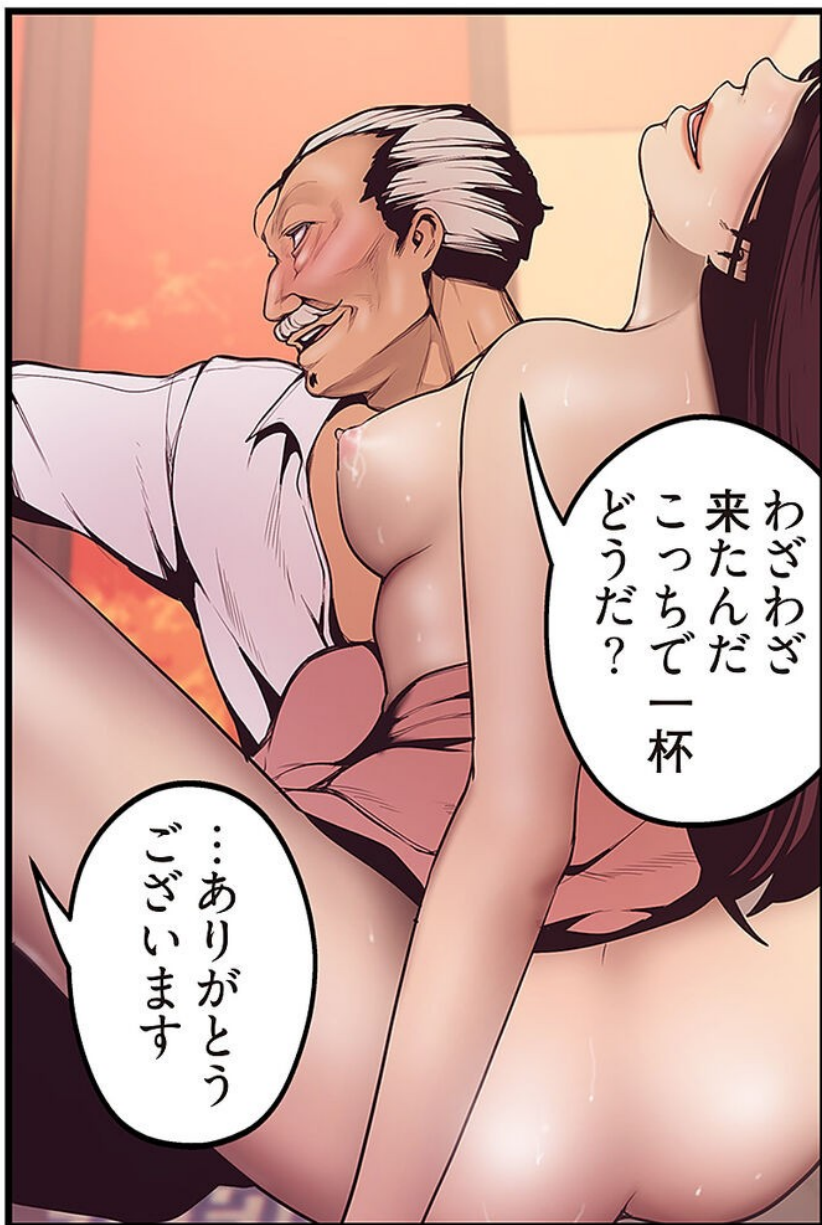
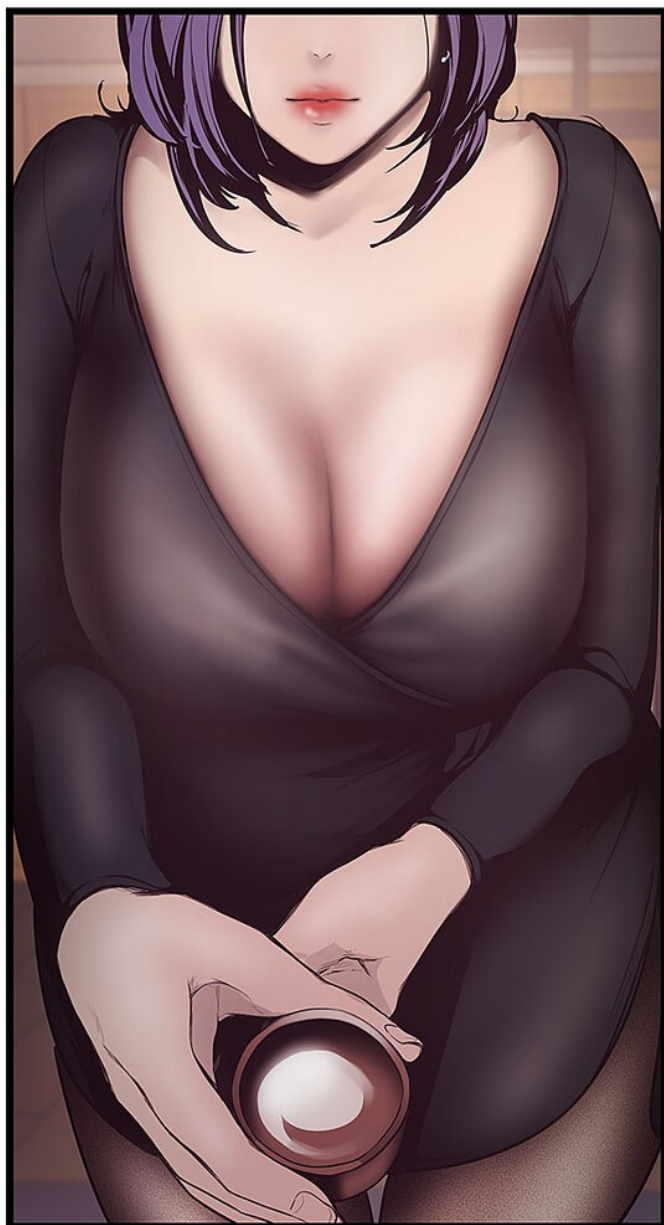
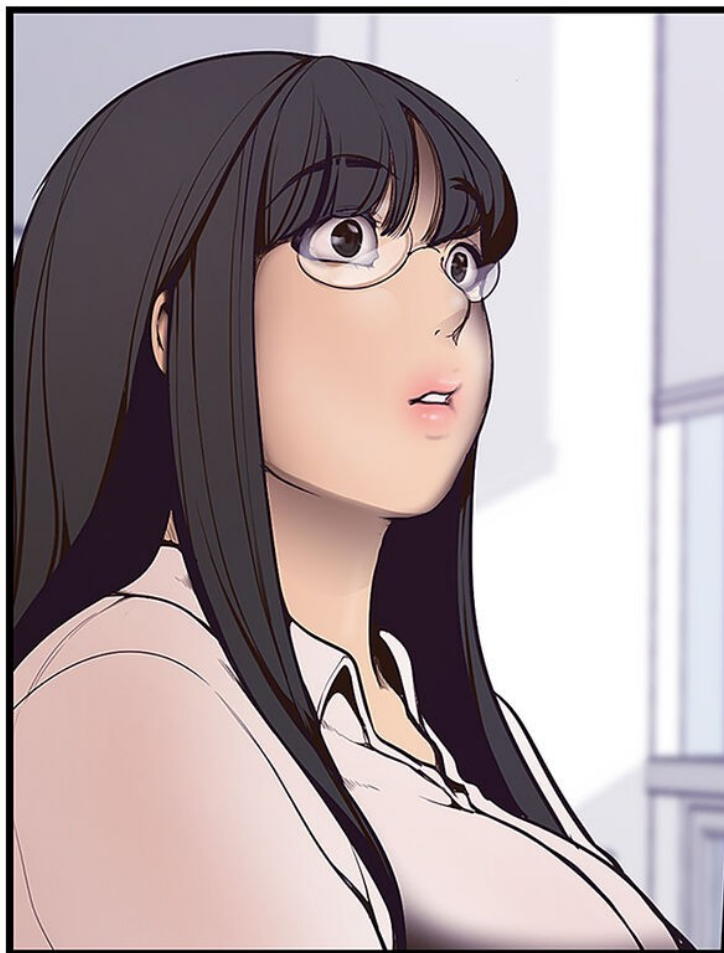
田中一郎

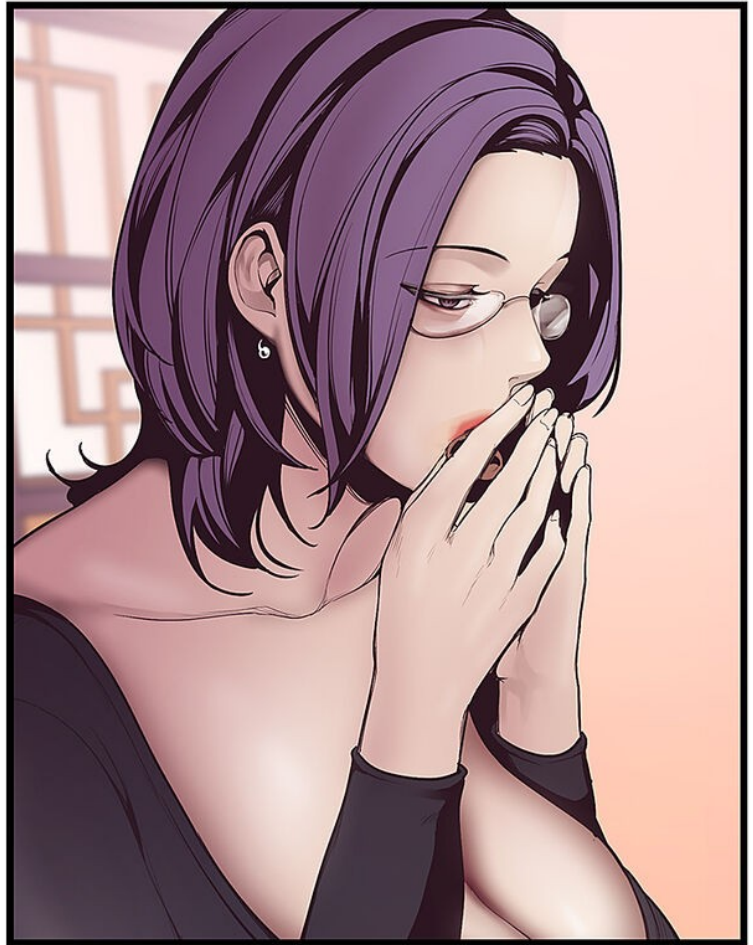
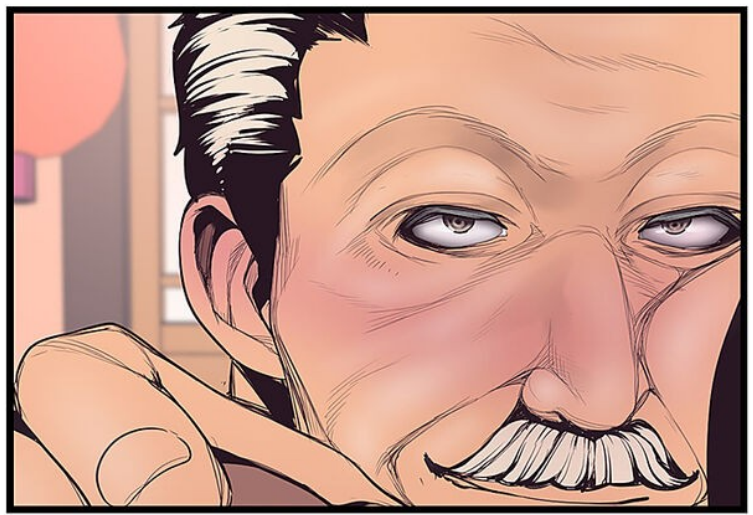


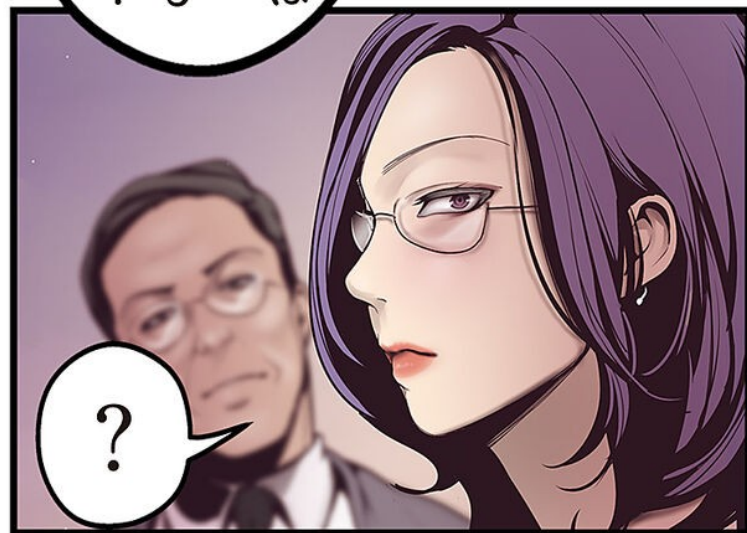


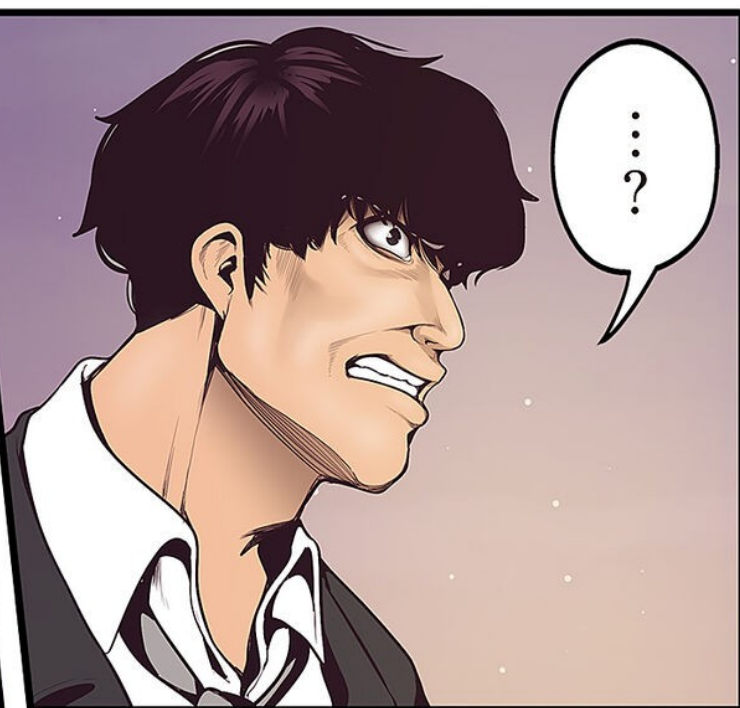
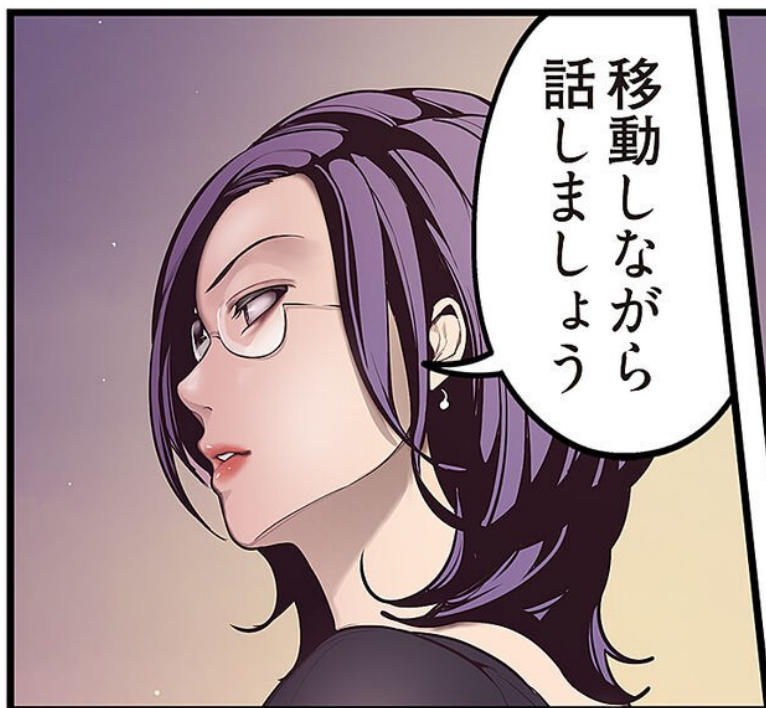
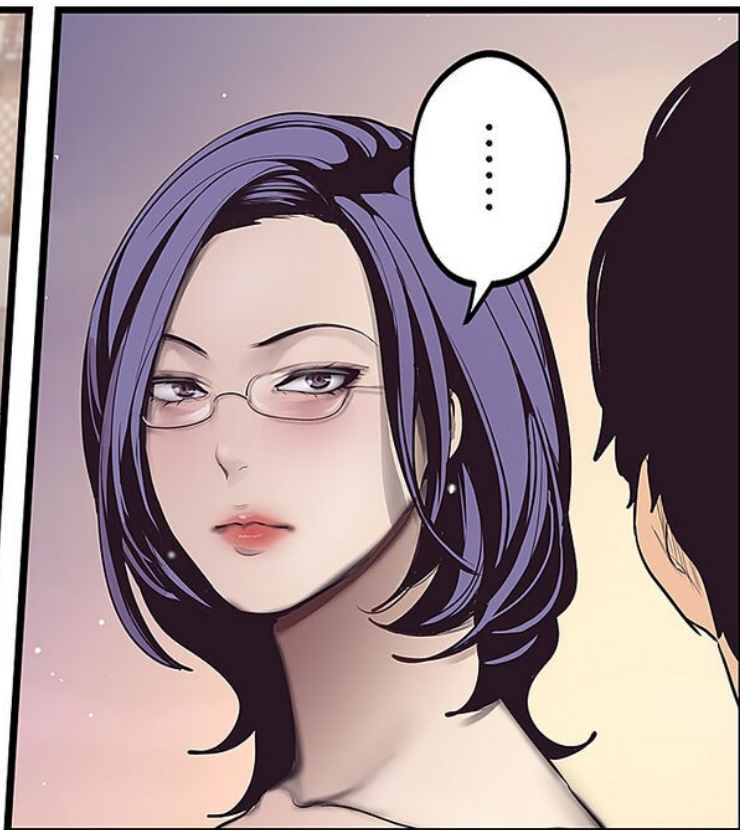


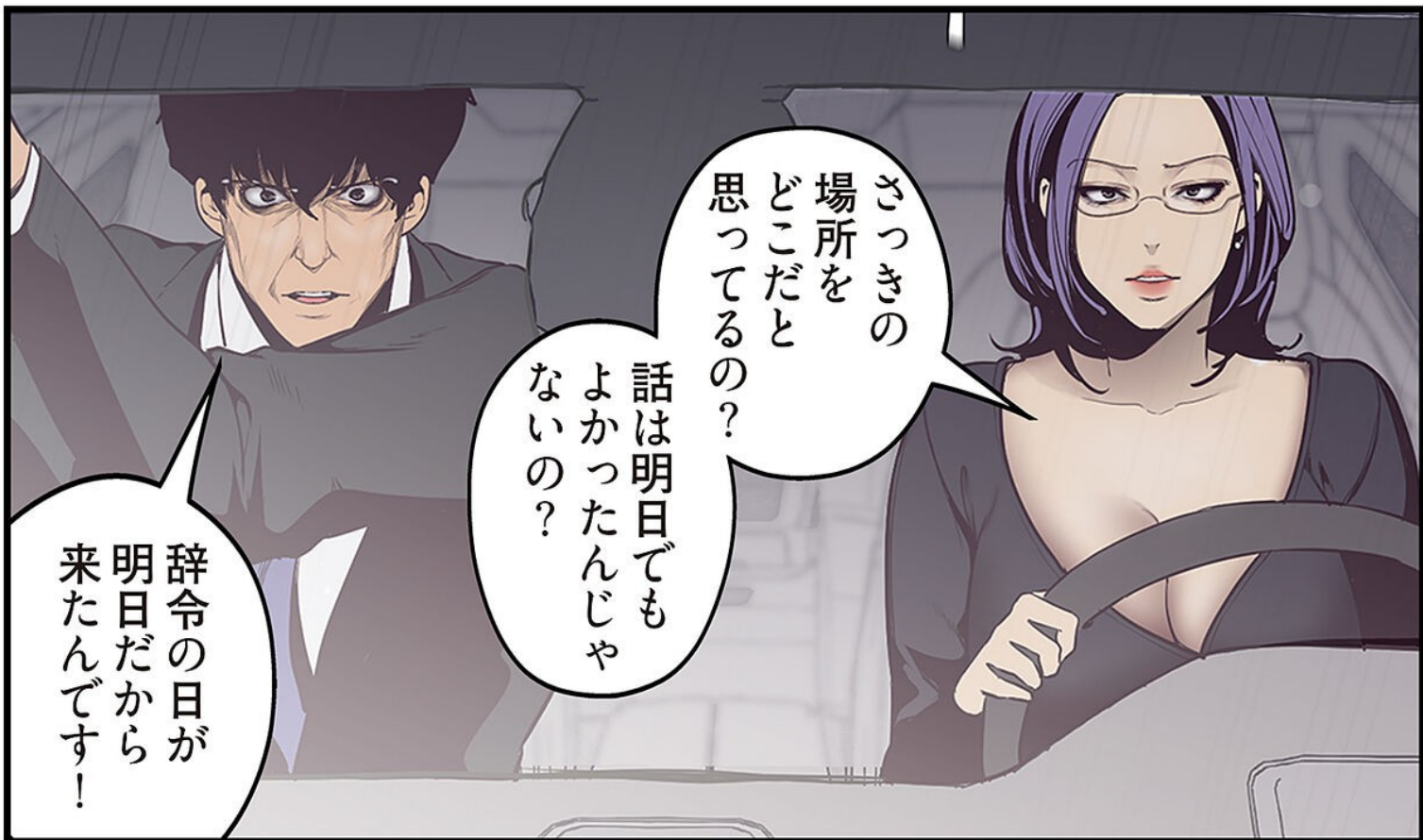
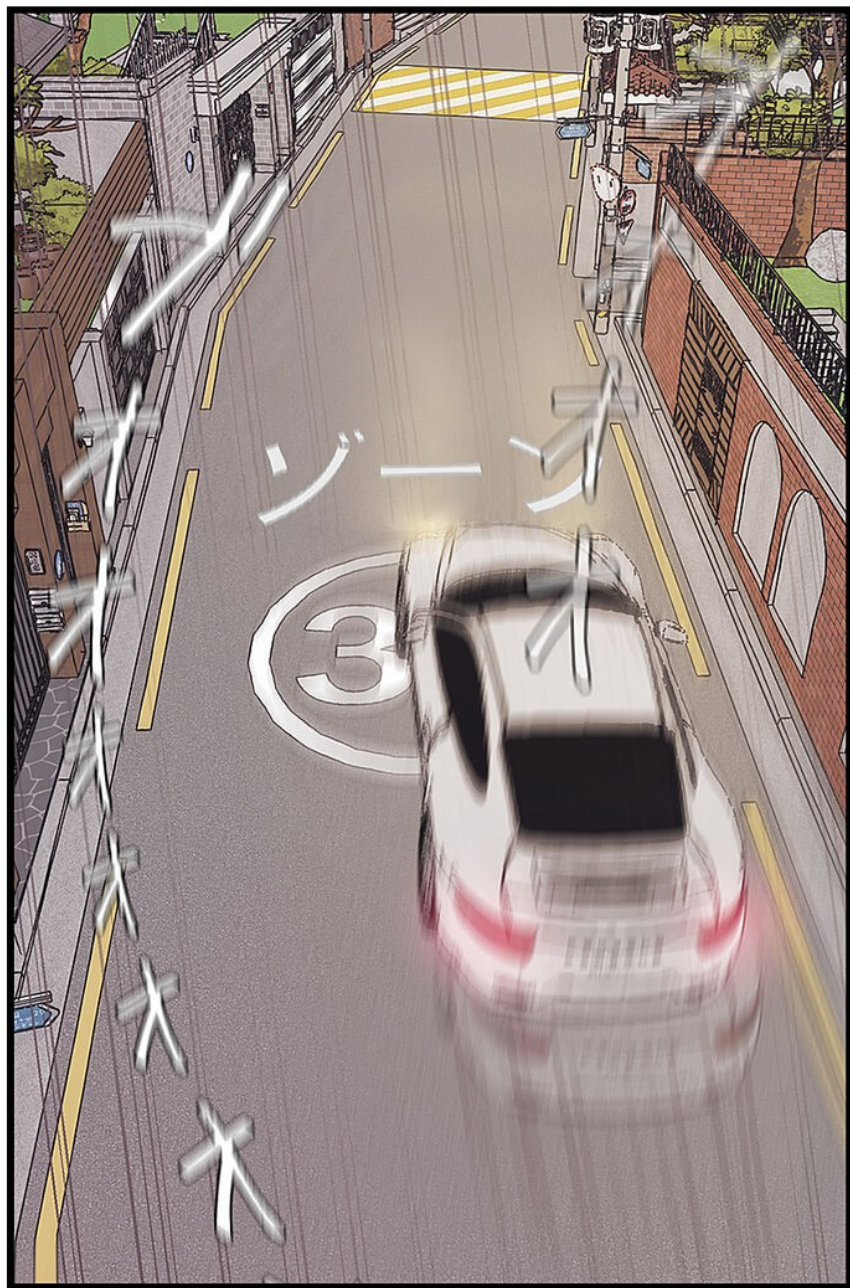
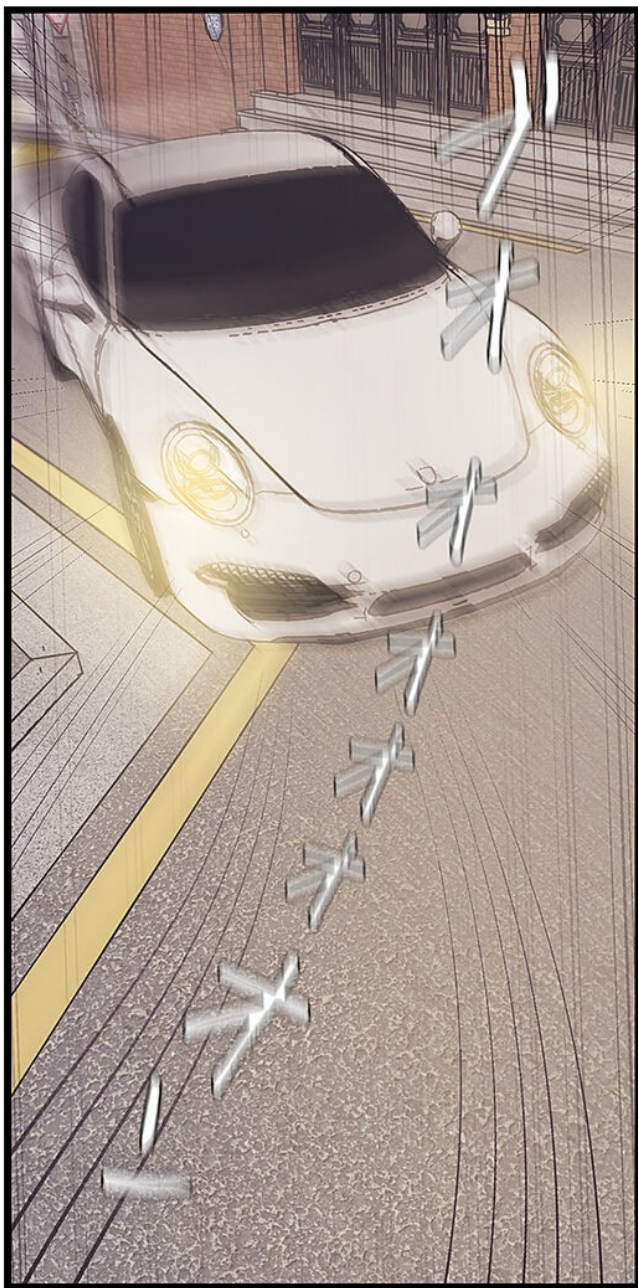














解決策を
探してくれるって
言いましたよね？



要するに…

今田中さんが
イジメに
あってるから
私に解決して
ほしい
そういうこと？



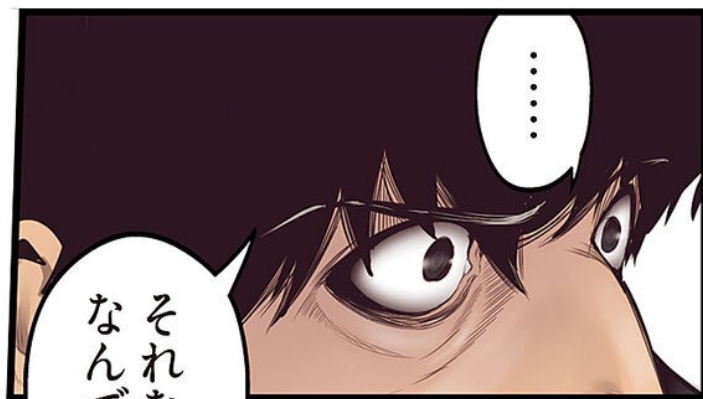
一体なぜあんな
人事処理に
なったんですか？

僕が犯人じゃない
ことは証明された
はずなのに
懲戒処分も同然の
出向なんて！

僕が精神的に
まいってて
次長を訪ねた時も…



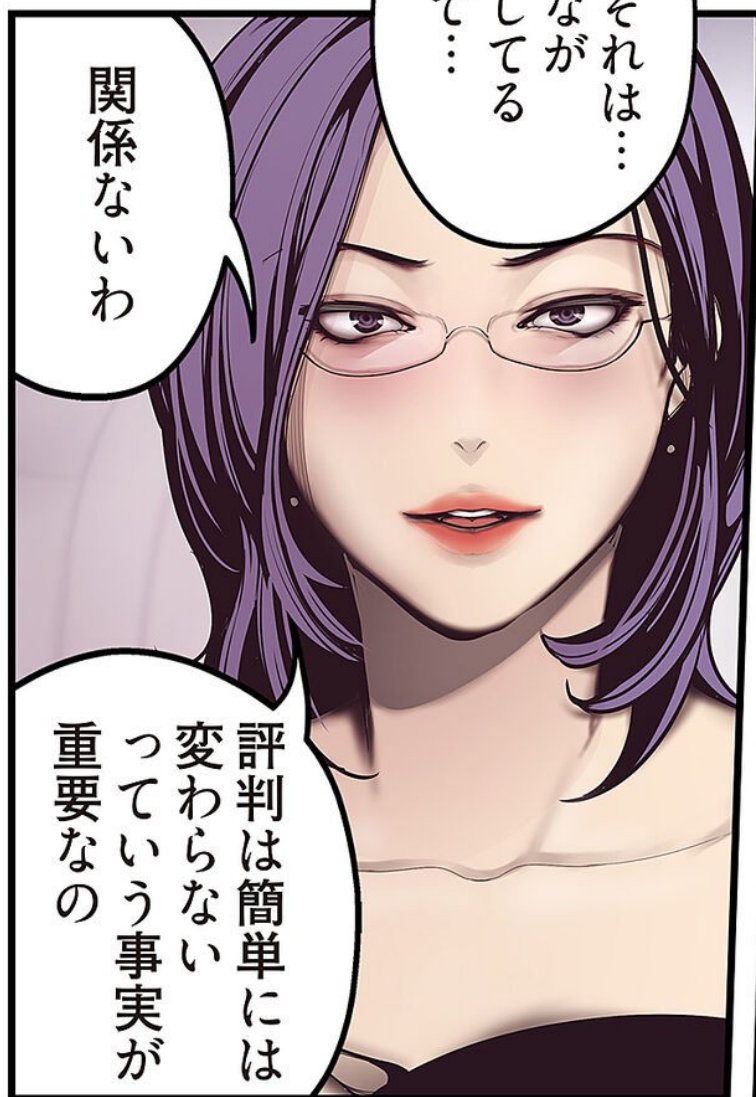




それなら
なんで…



そ…それは…
みんなが
誤解してる
からで…



関係ないわ

評判は簡単には
変わらない
っていう事実が
重要なの



知ってる？

女子社員たち
田中さんのこと
変態だと思
ってるのよ



他の人たちの
思い込みで
どうして…



僕が被害を
受けなきゃ
ならないん
ですか？



無理に居続けても
悪い評判だけが
独り歩きするよう
なったら本当に
会社を辞めること
になりかねないわ



だから
ひとまず
地方に行つて

ほとぼりが
冷めてからまた
本社に戻るの
がベストだと思
うの

このまま
引き下がるなんて
絶対にイヤだった

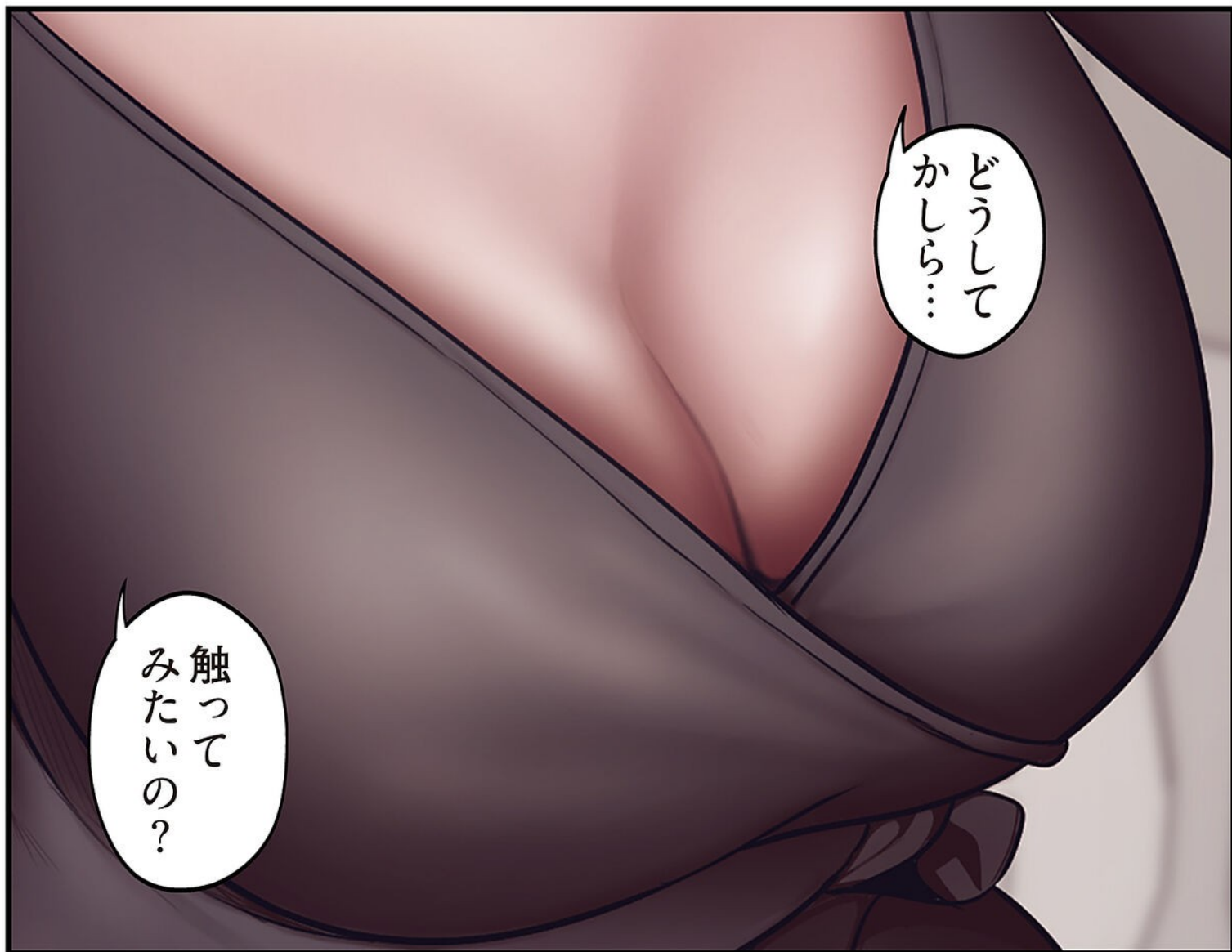
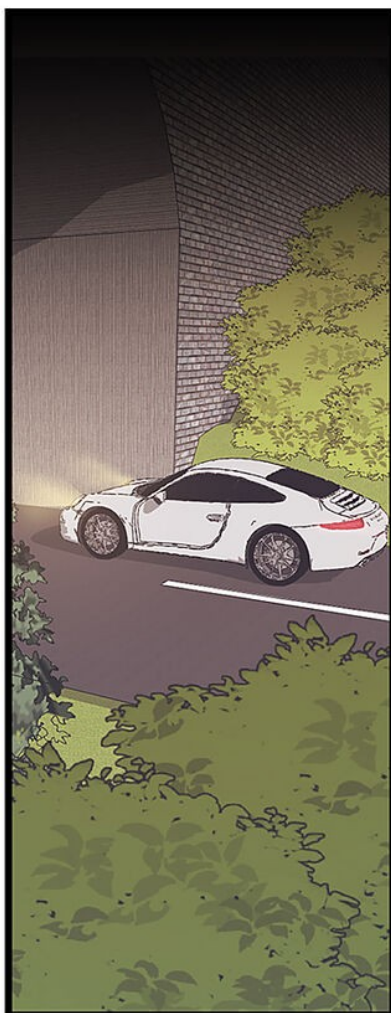
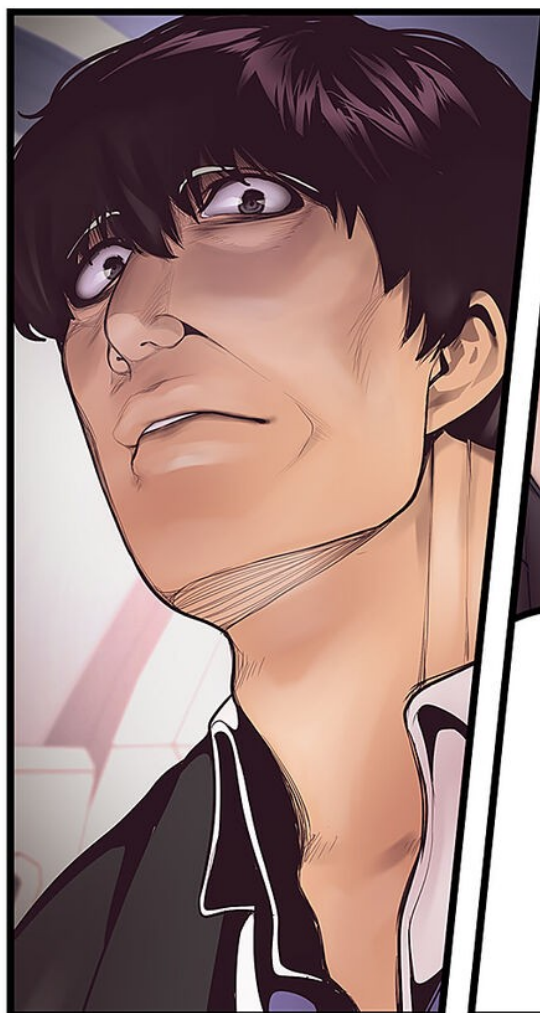
やっと張り合いが
出てきたところ
なのに……

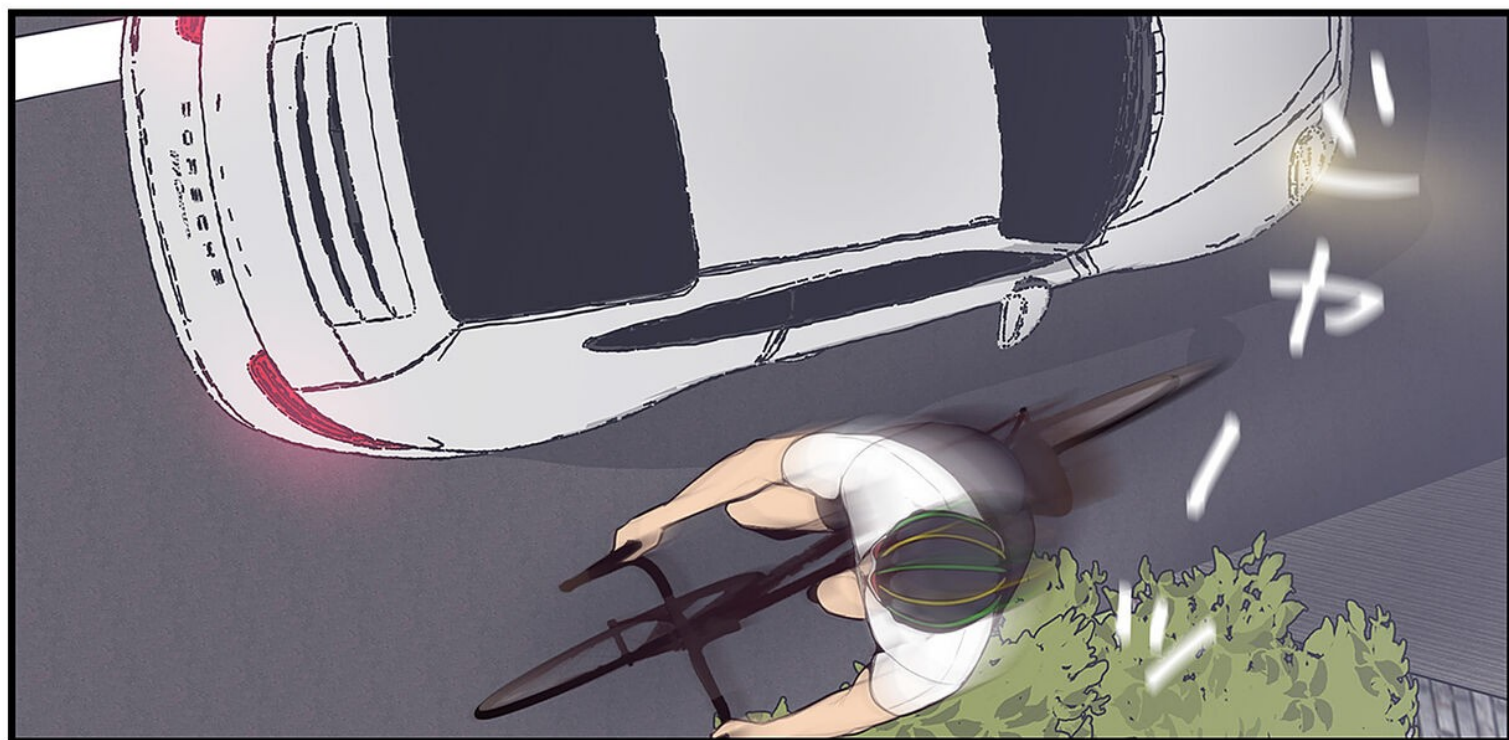
やっと……
頑張ろうと
思えるように
なってきたのに

このまま
追い出されて
しまったら……

でもよく見たら
田中さんが変態
だっていう噂

あながち
デマでも
ないみたいね





その言葉を
聞いた瞬間

ダメだと
わかって
いながらも

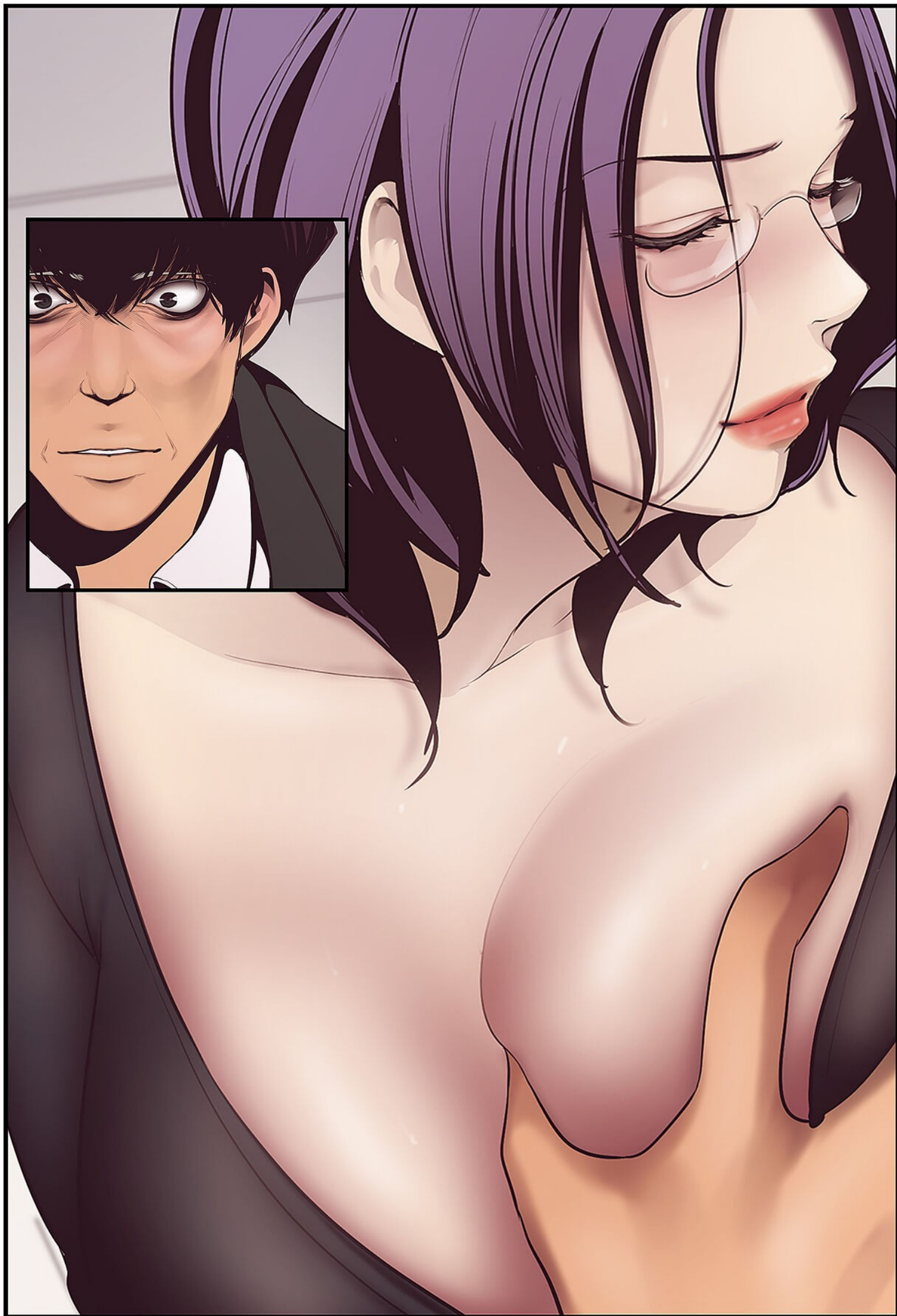
彼女の胸を
握りしめた
野獣のような
欲望が

僕の目の前にいる
この女をしきりに
求めていることを

感じながら

意思とは逆に
手は彼女の方へ
伸びていた

美紅さんの部屋に
入ったあの夜

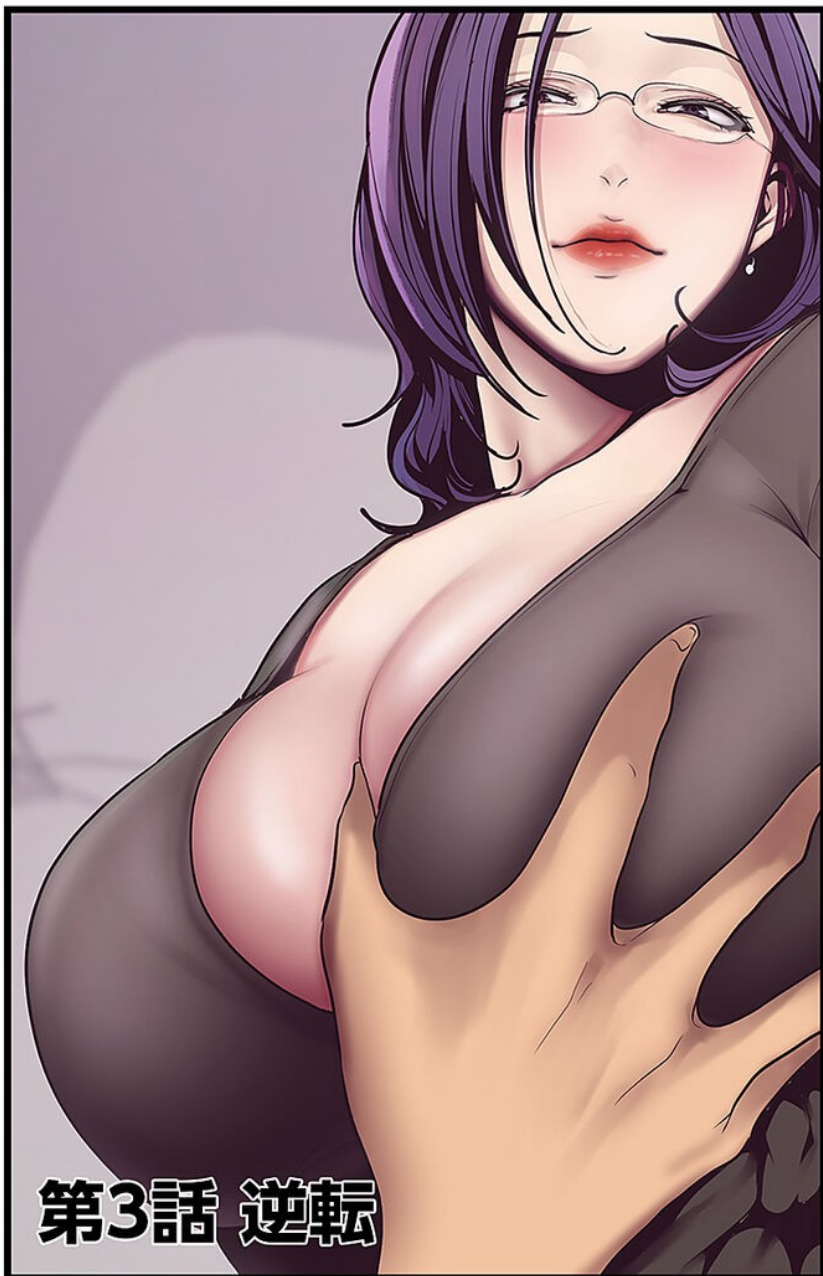
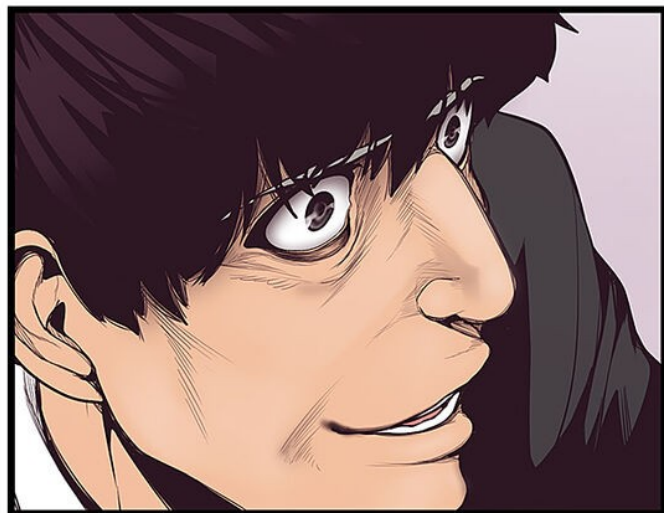


AMAZON
NEW WORLD

すばらしき
新世界

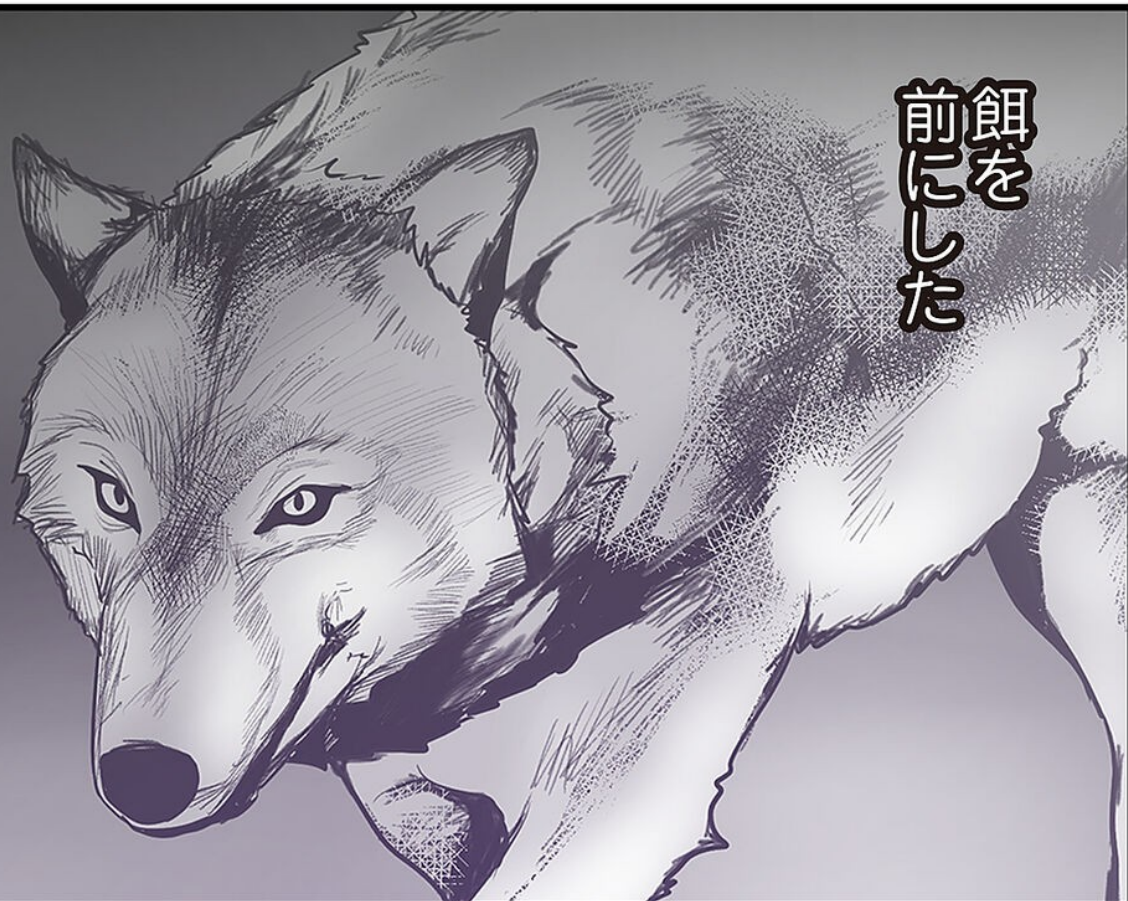
す
ば
ら
し
き
新
世
界

A WONDERFUL
NEW WORLD



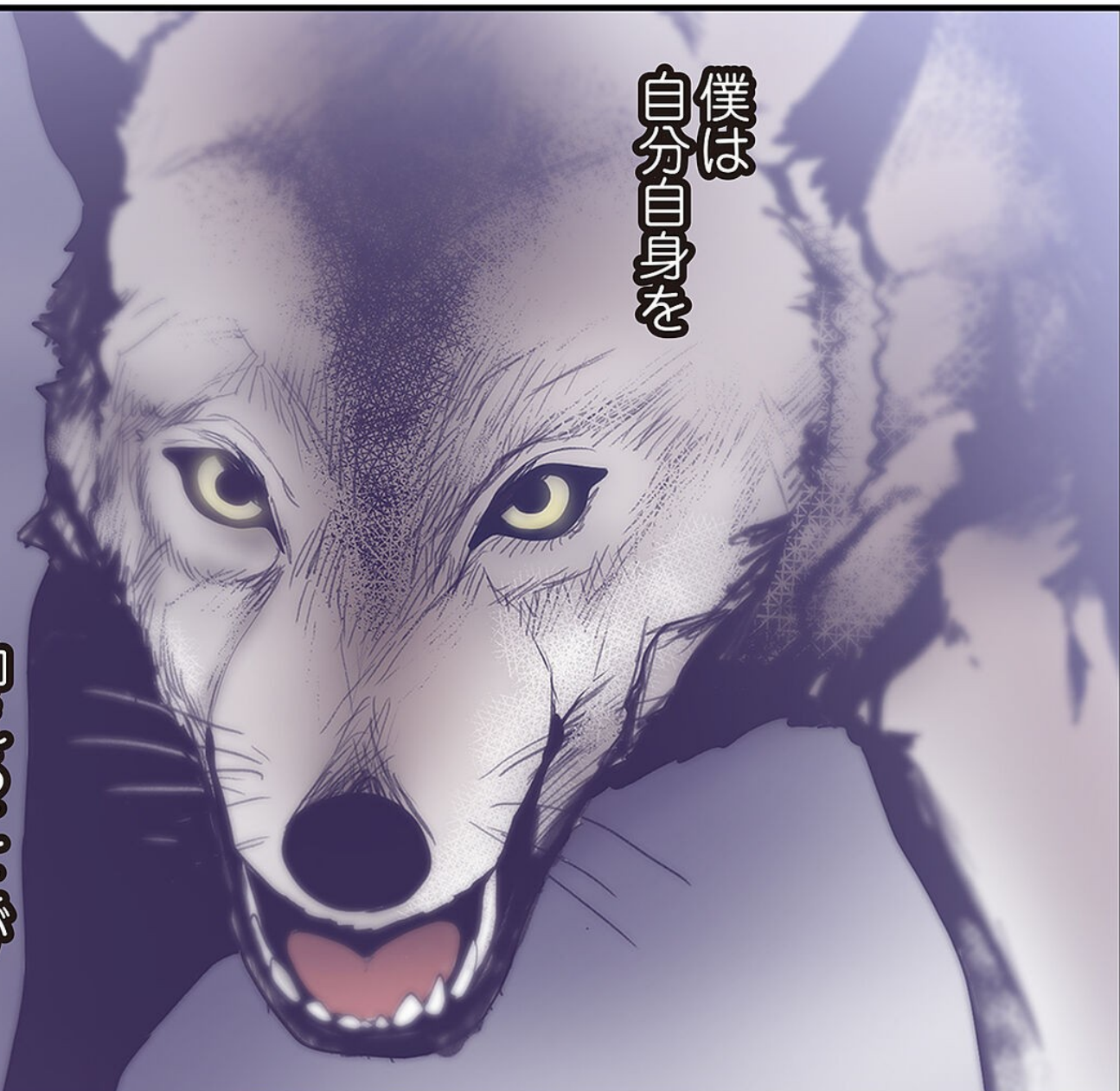
餌を
前にした

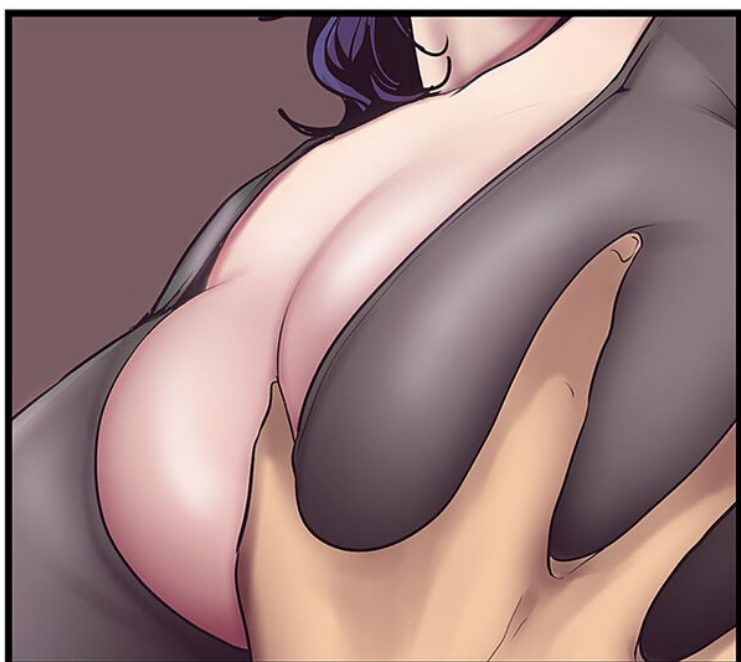
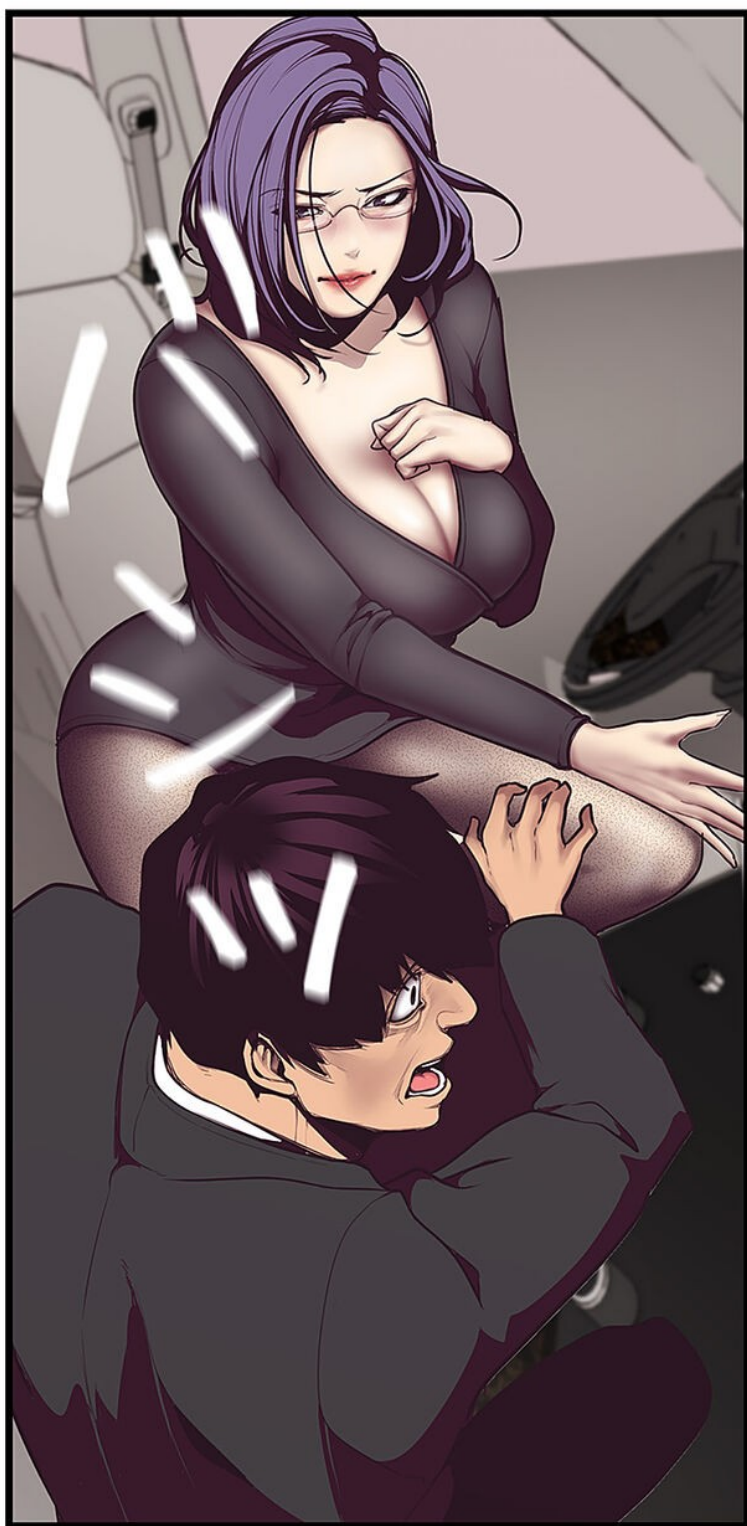
飢えた
狼のよう

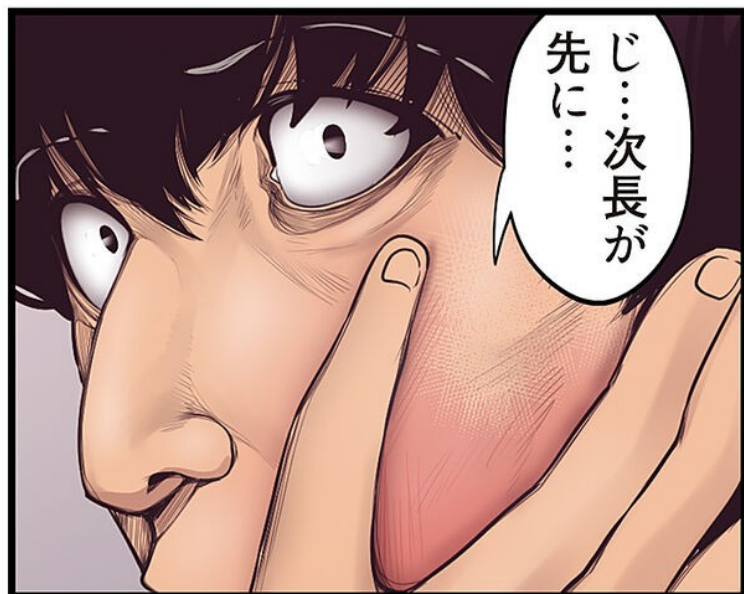


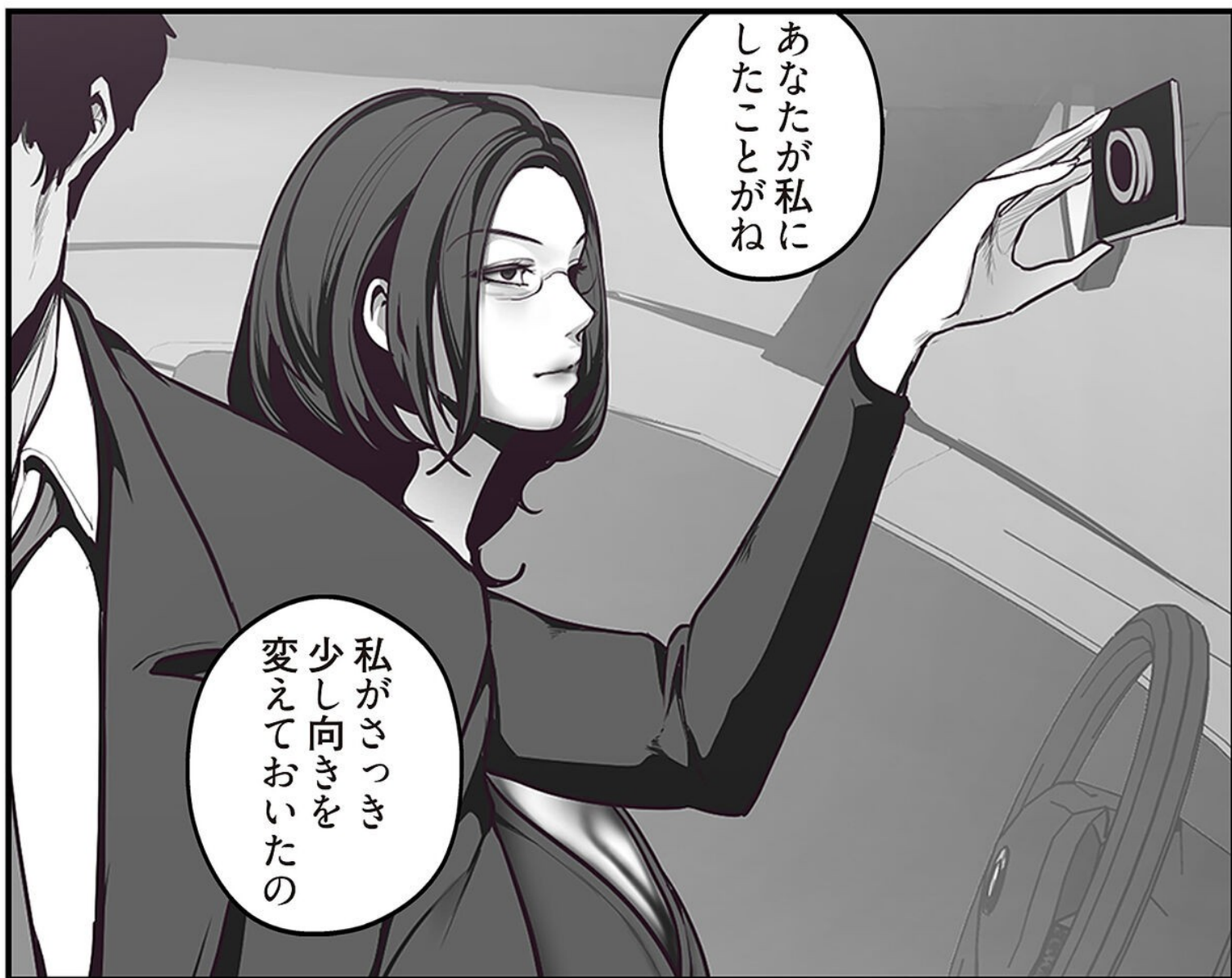
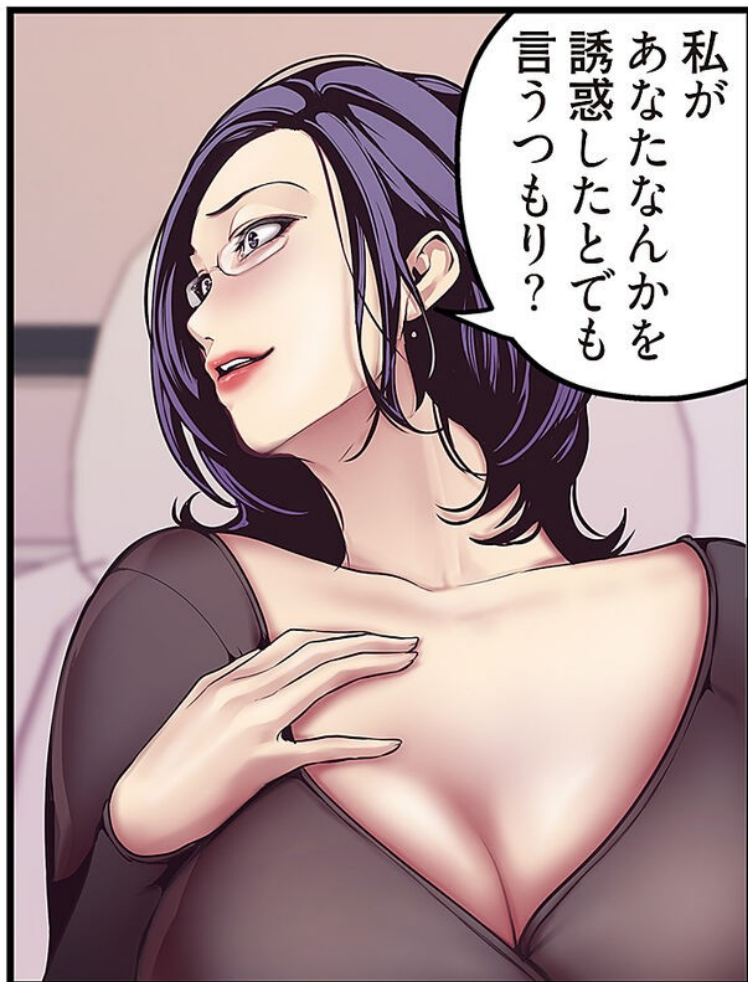
僕は
自分自身を

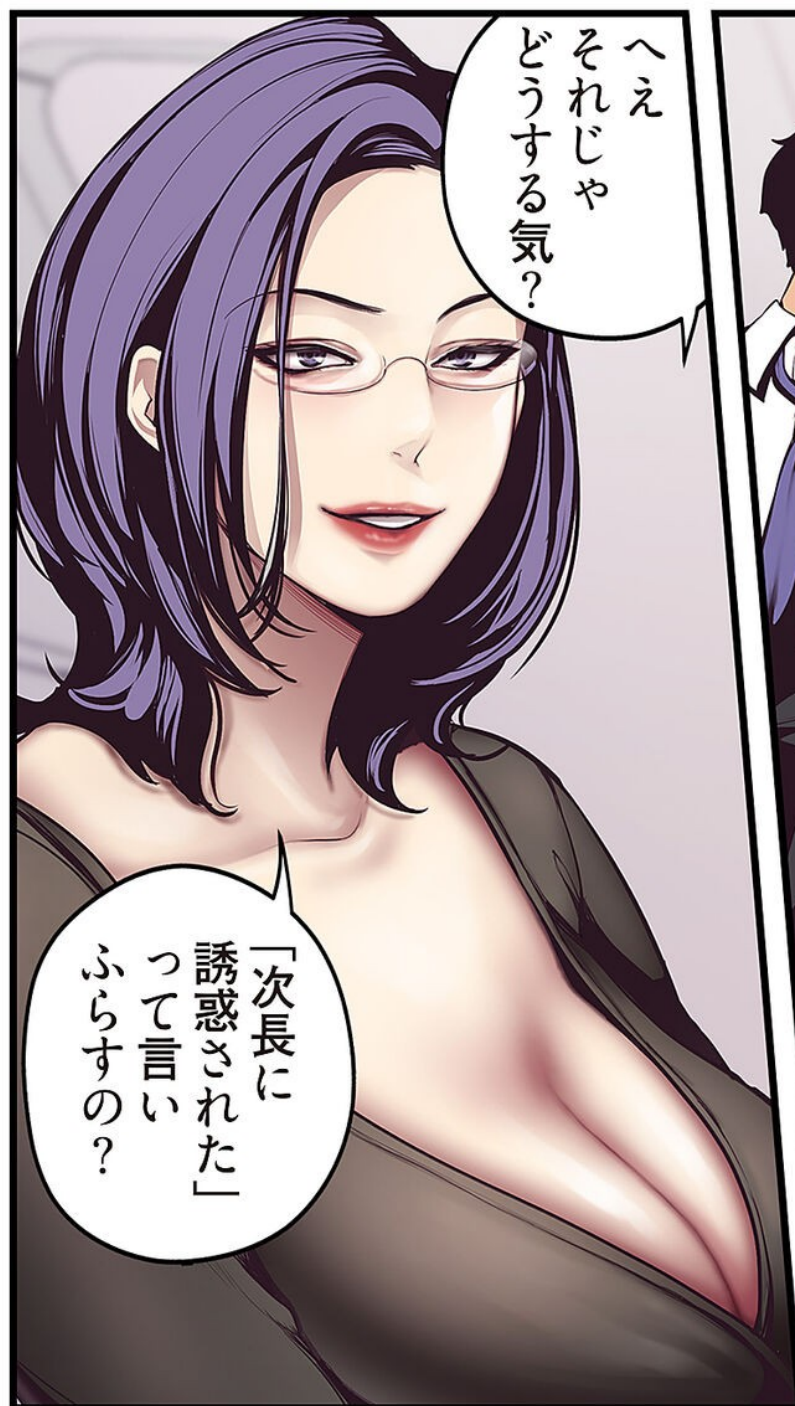
抑えることが
できなかった







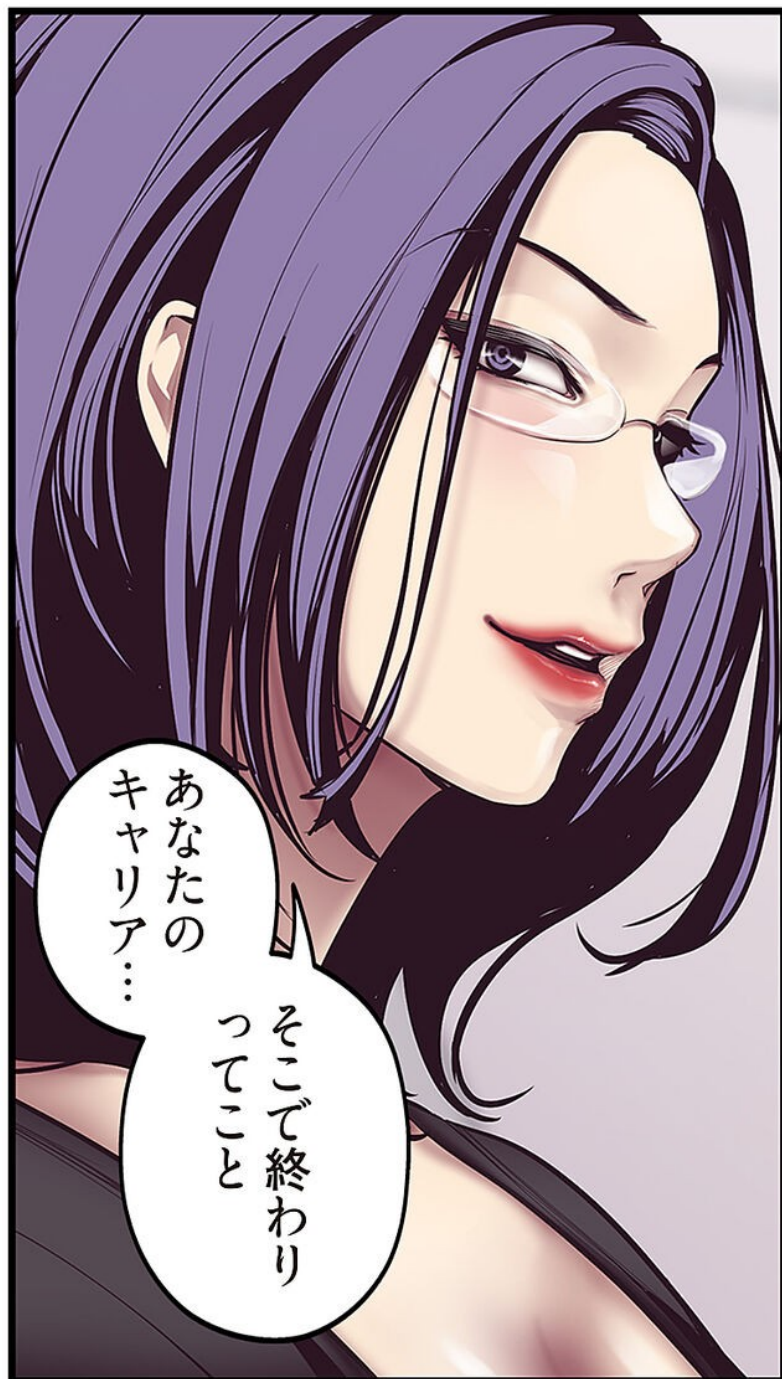






そんなの
誰が信じるの
かしら？

ただでさえ
田中さんの
評判は…
ご自身でも
よくわかってる
はずよ



あなたの
キャリア…

♪
そこで終わり
ってこと

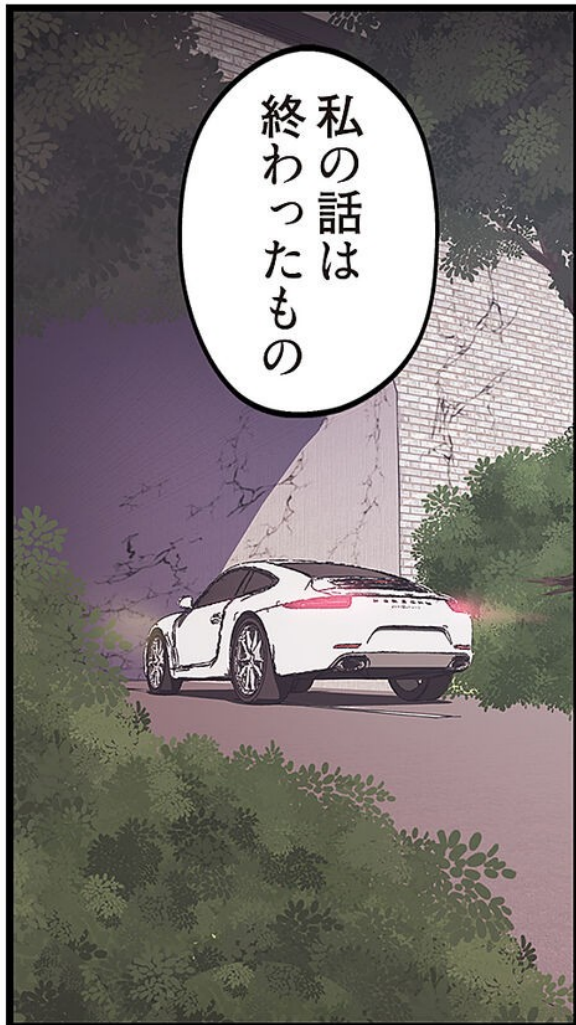


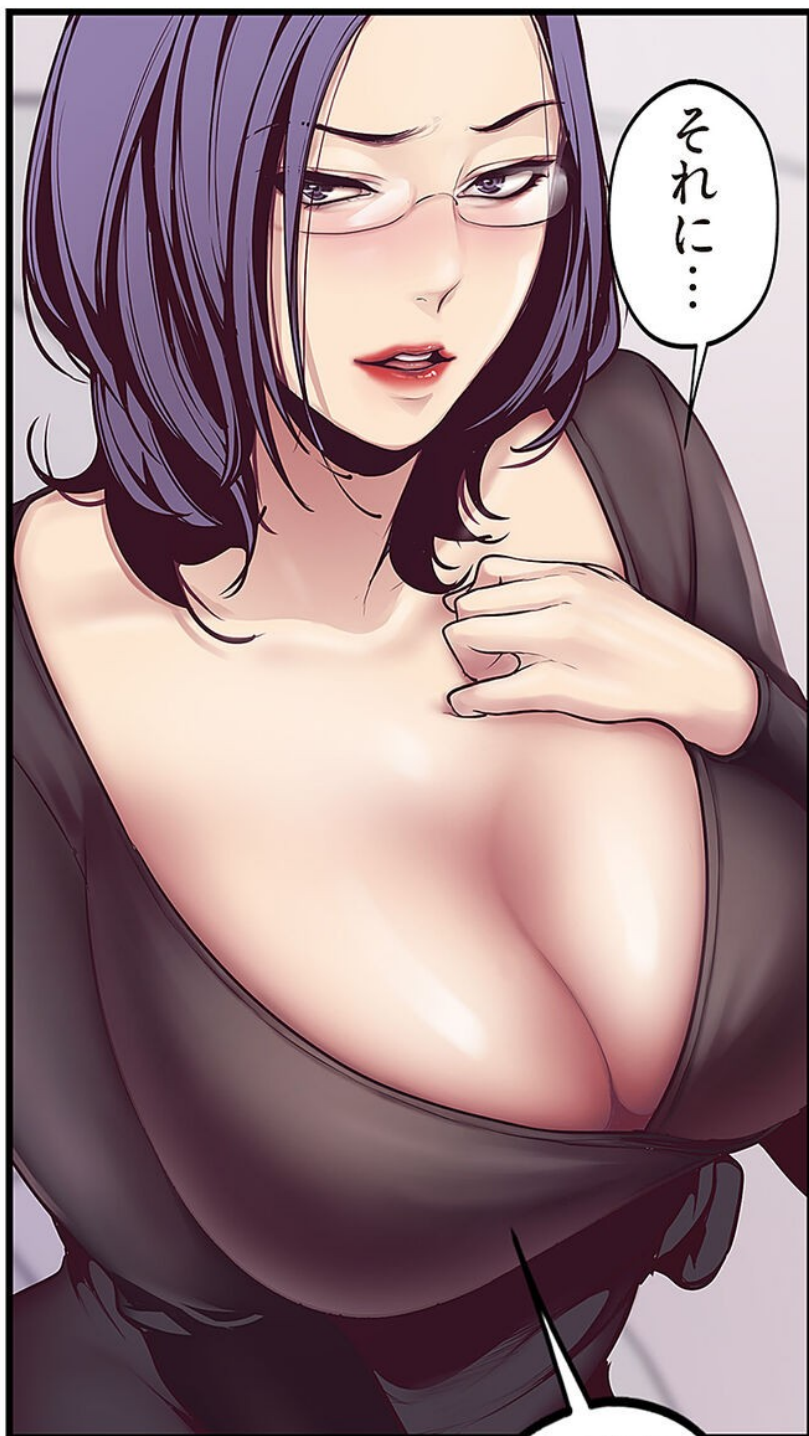
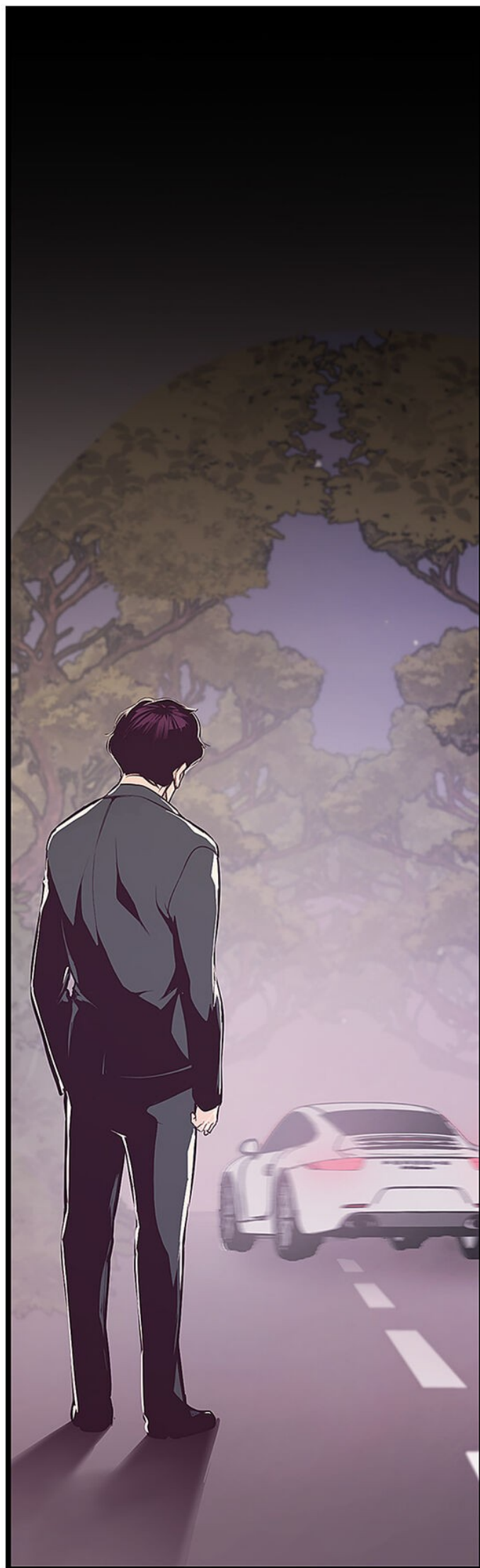
このことが
外に漏れたら
：解雇だけじゃ
済まないで
しょうね

再就職も
きつと…
厳しく
なるわよ

どう？

大人しく
受け入れた
ほうがマシだと
思わない？





最初から
ここは

僕の居場所では
なかったのか？

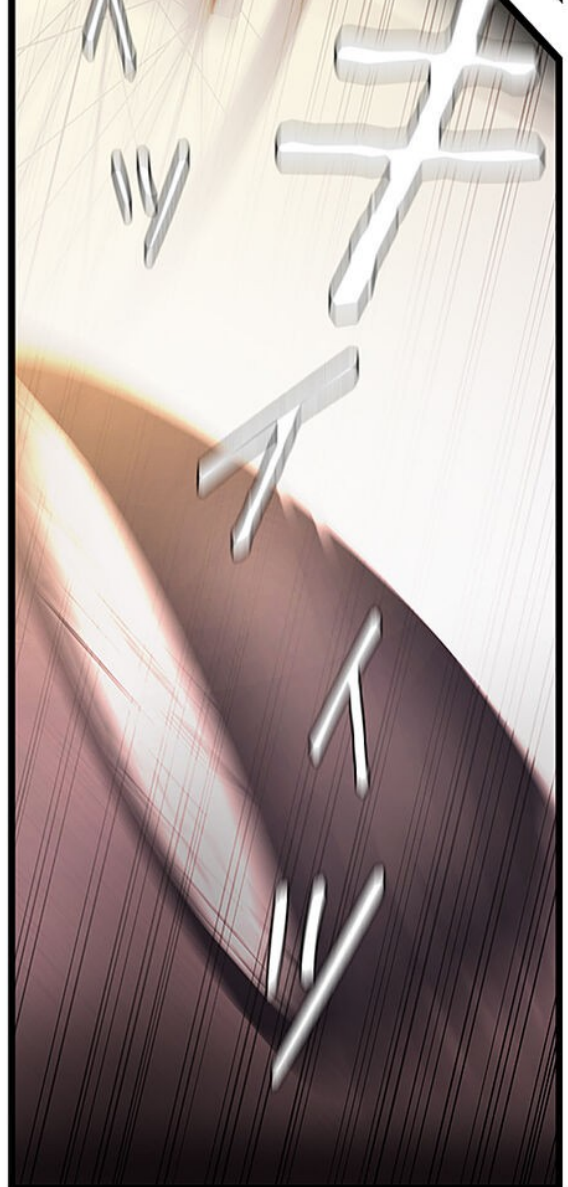
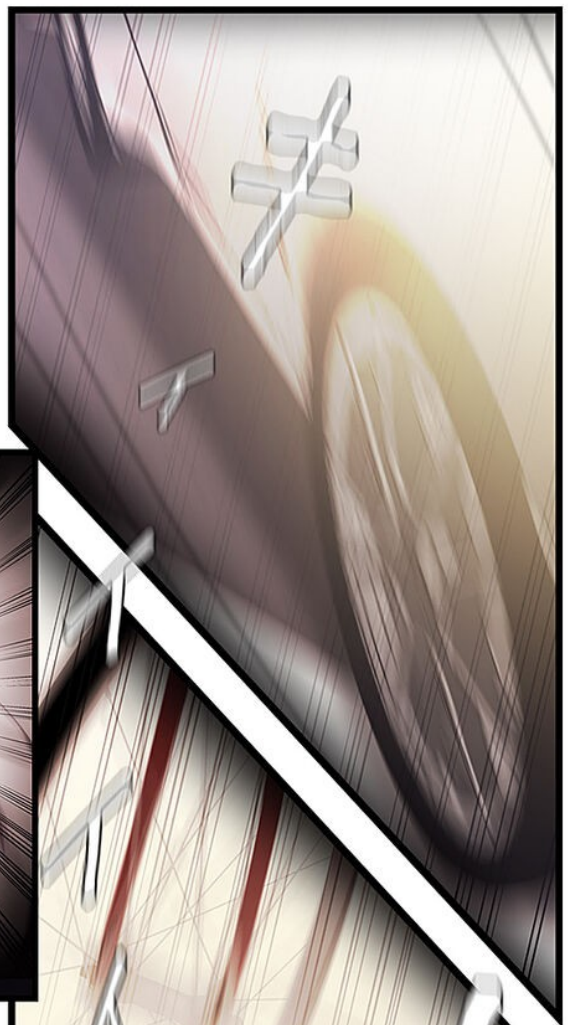
なんで
みんな…

そんなに僕を
嫌うんだ？

僕が一体
何をしたって
いうんだ…

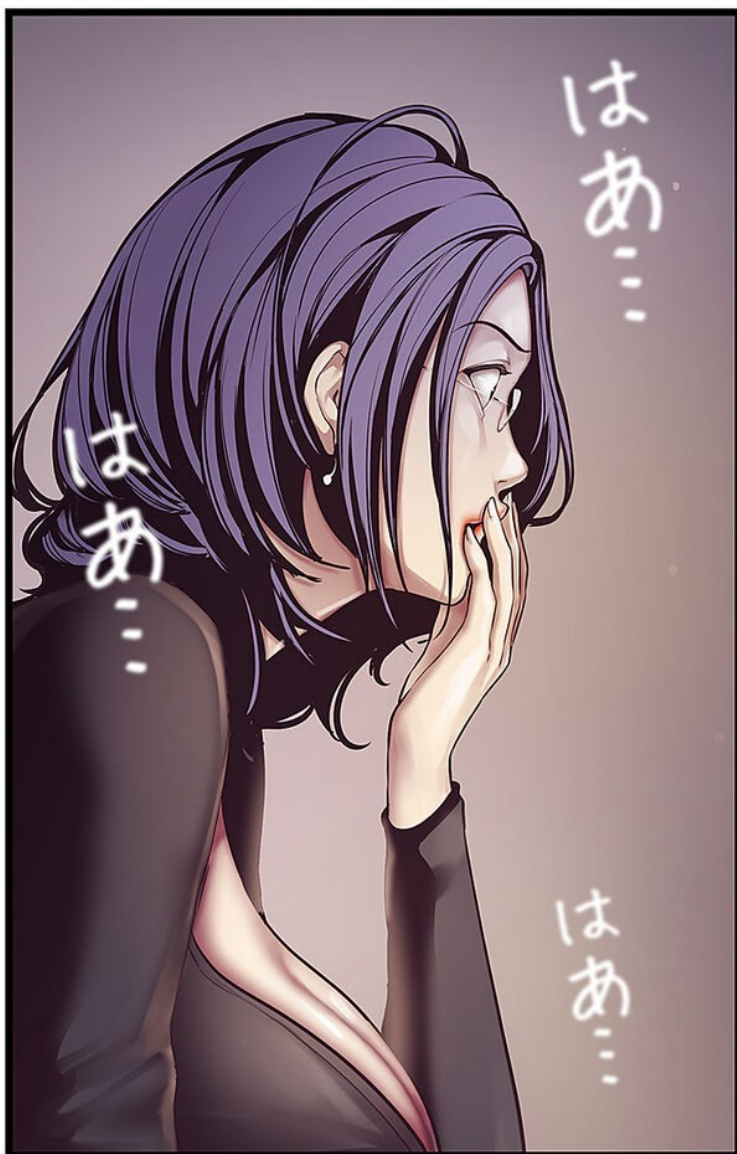
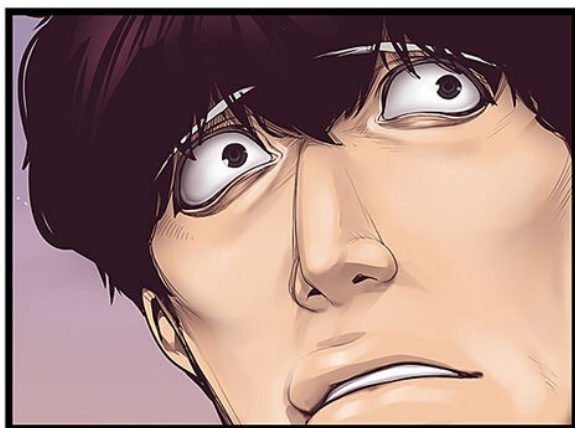
僕はただ…

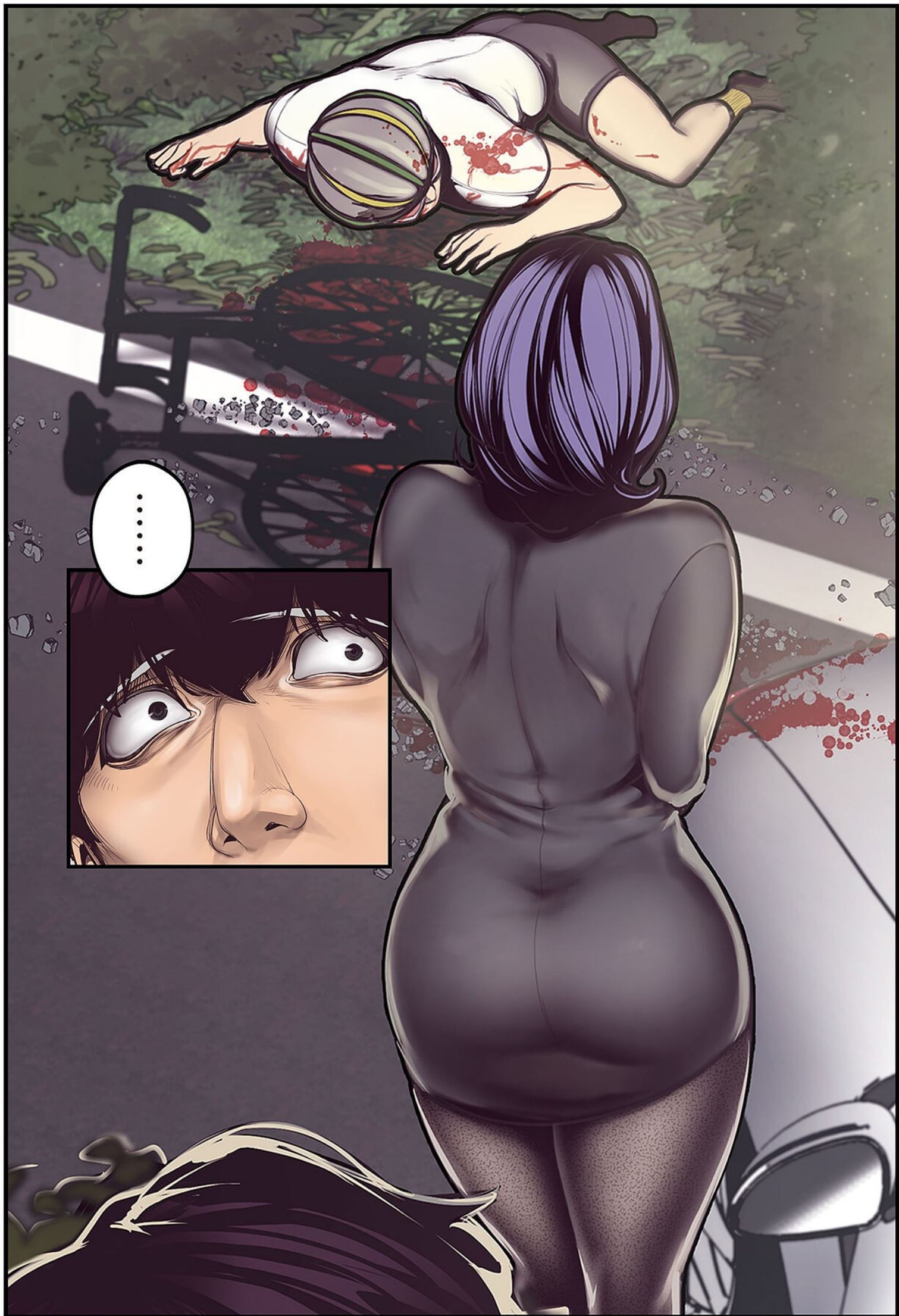
一生懸命やった
だけなのに

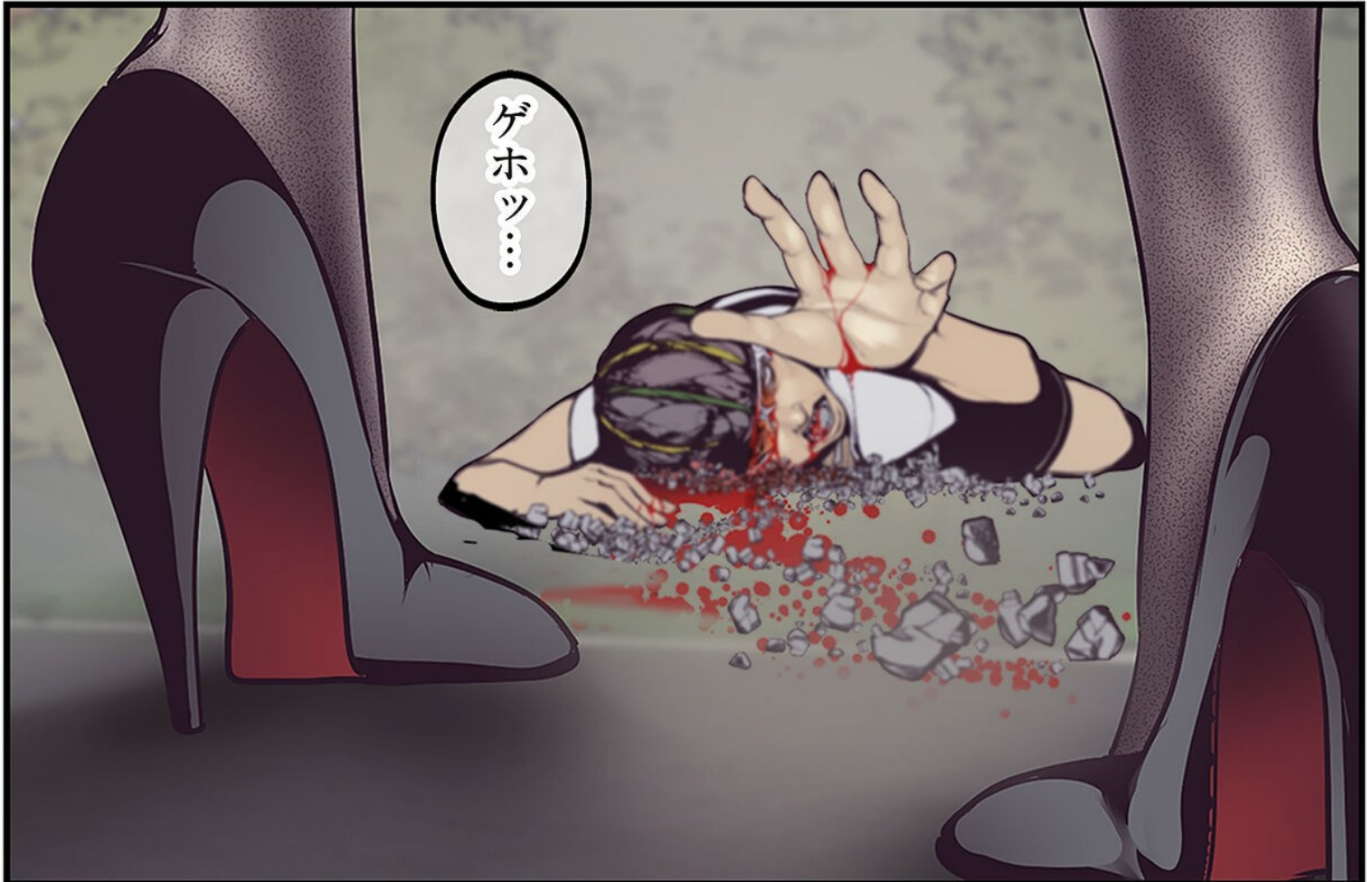
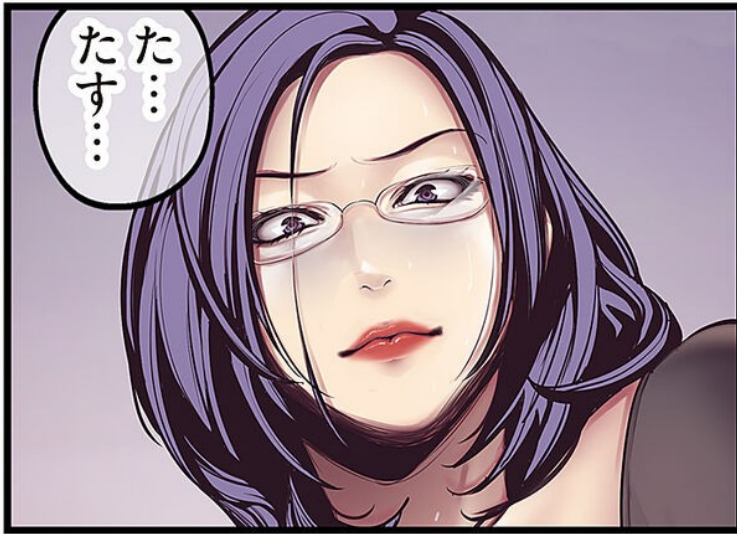
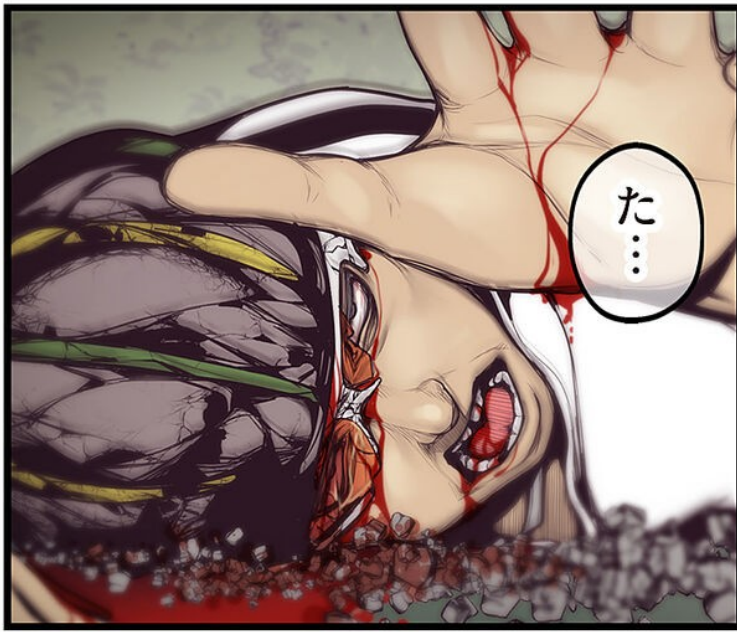


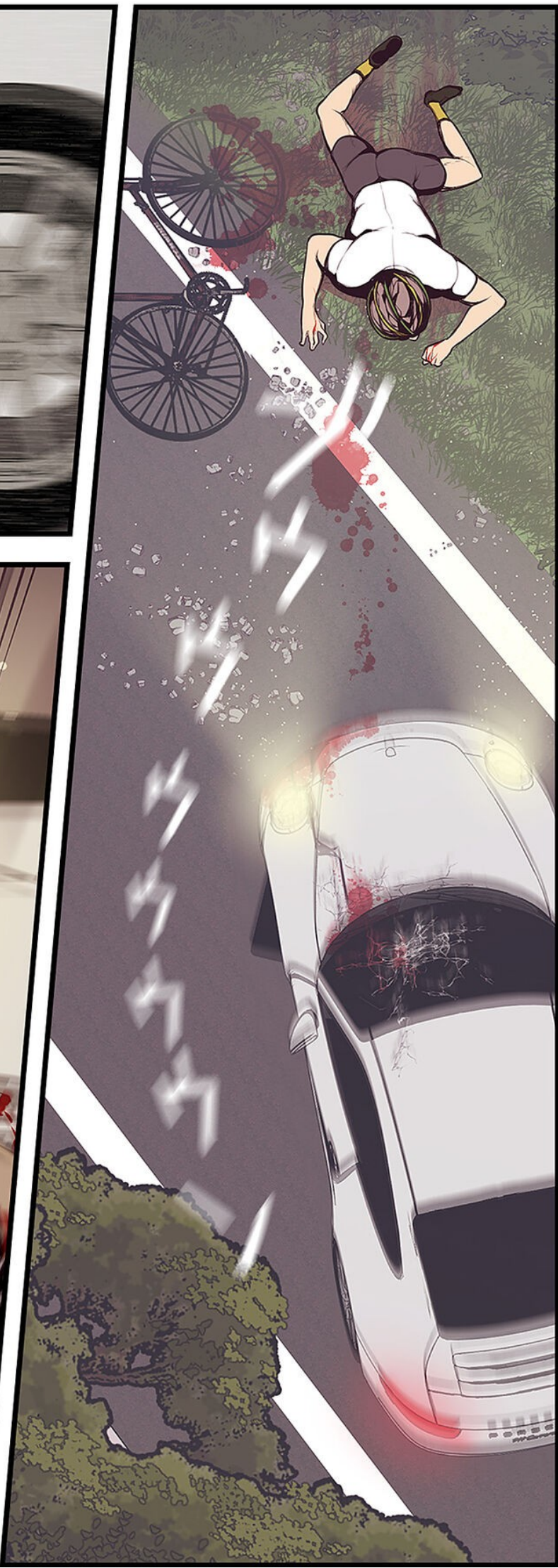
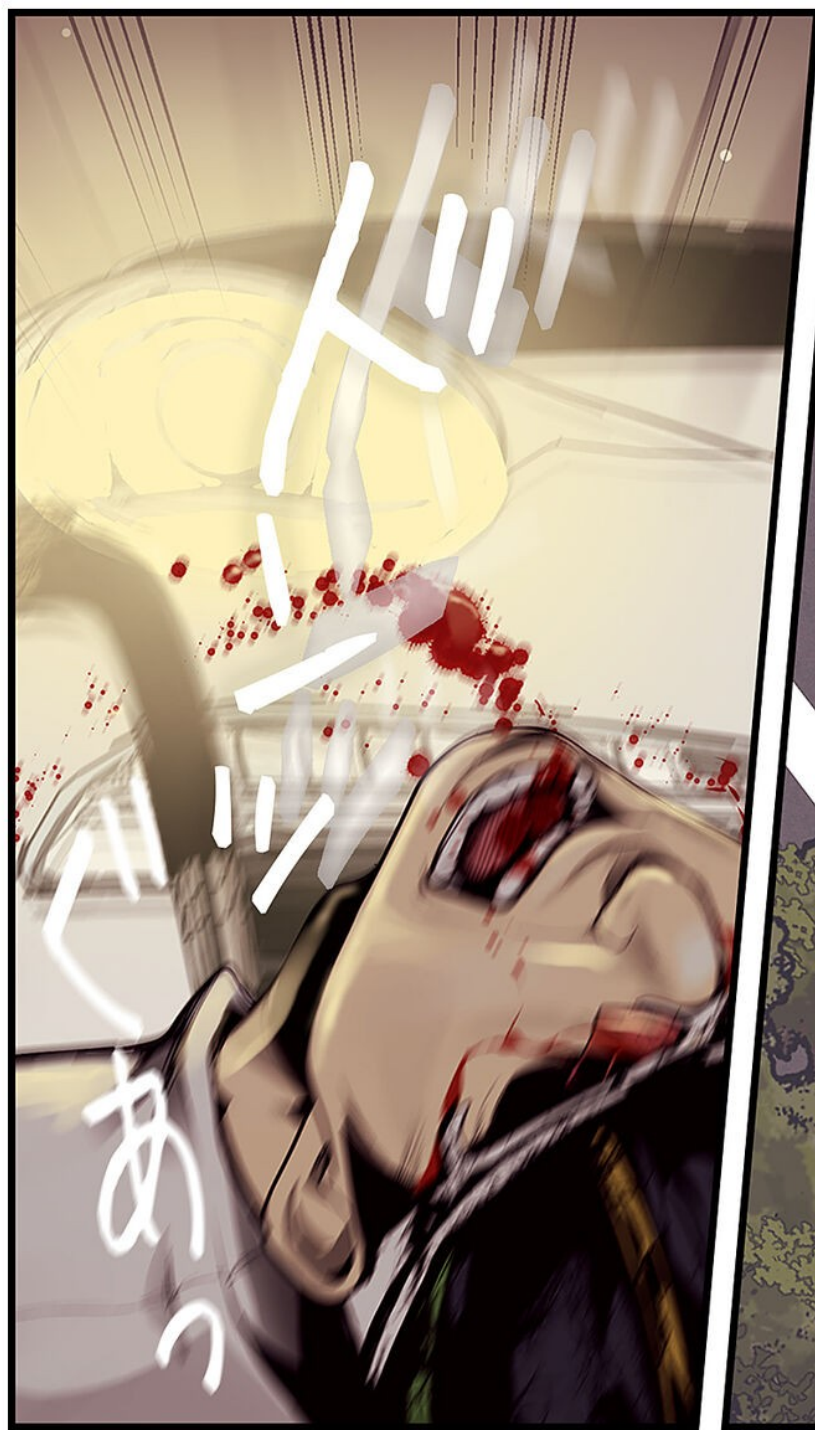
?

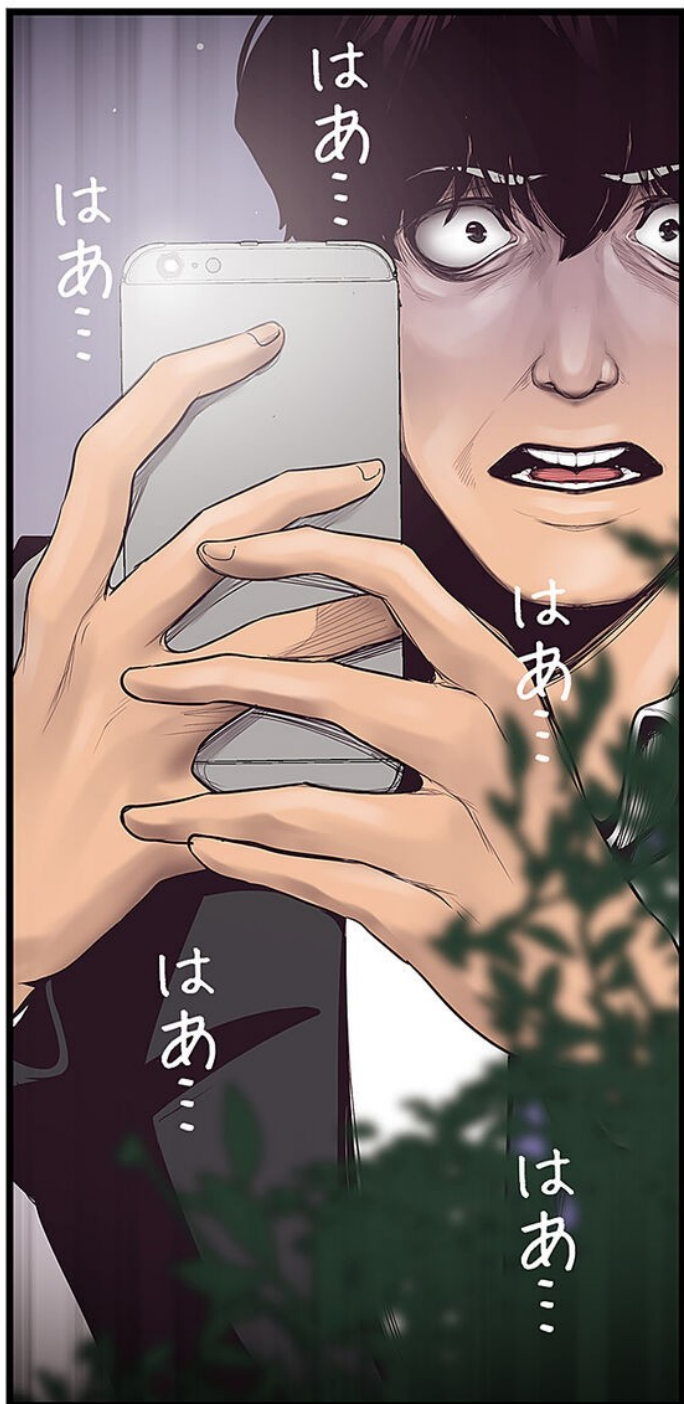
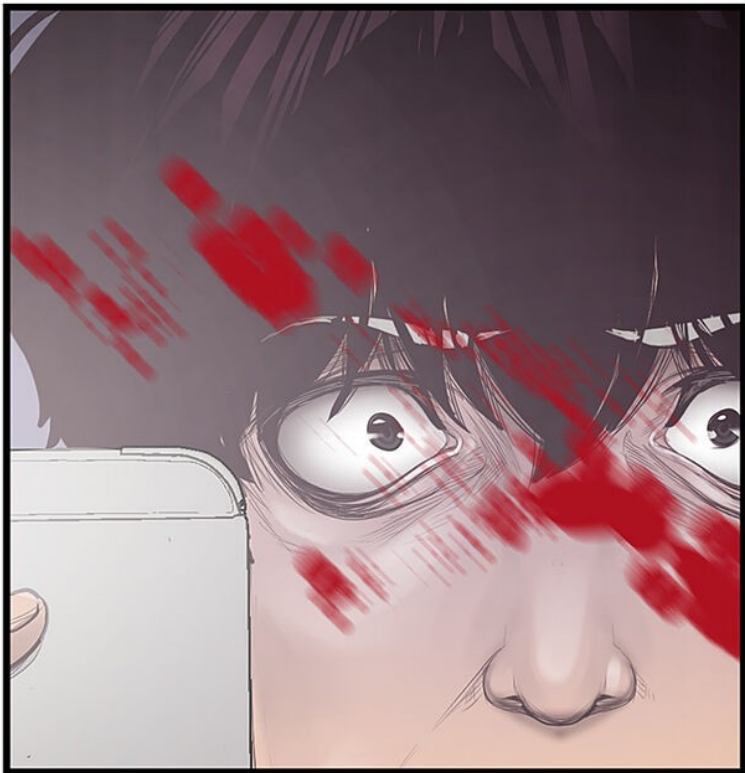












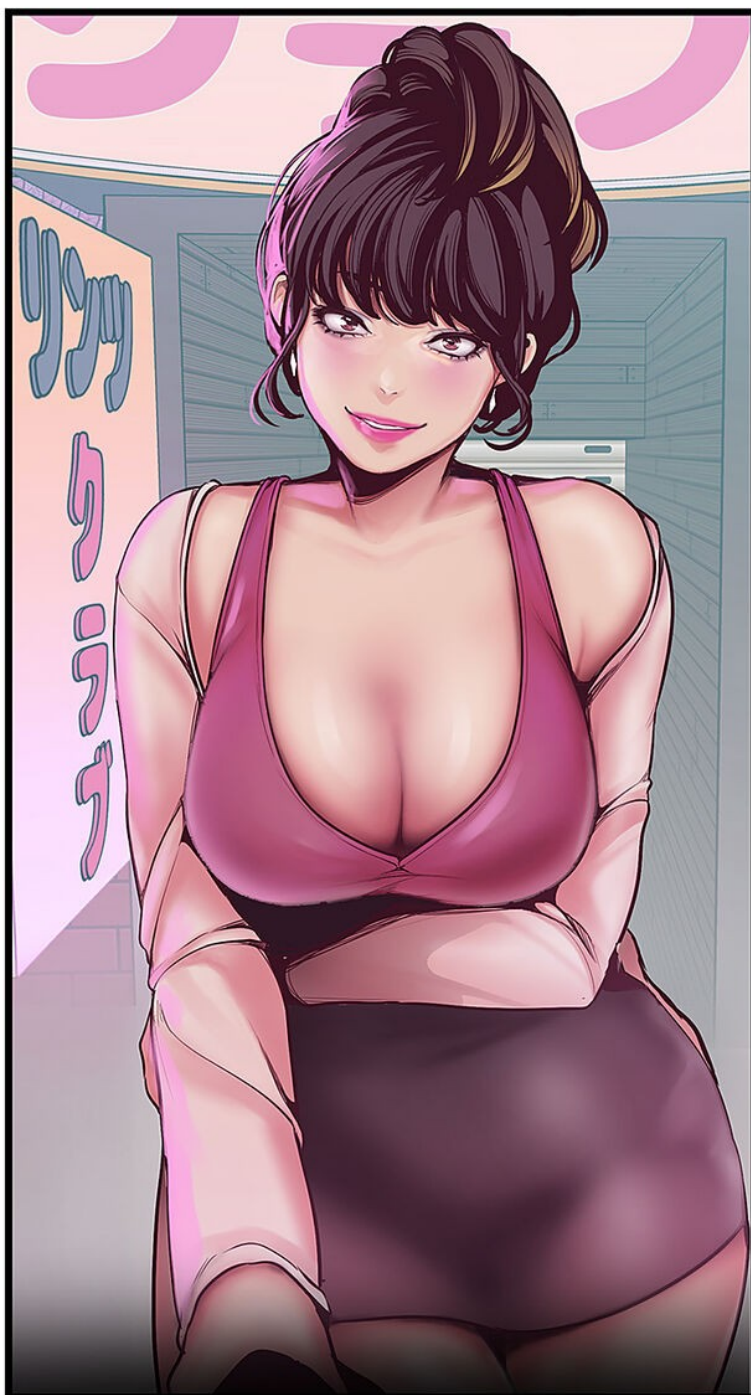
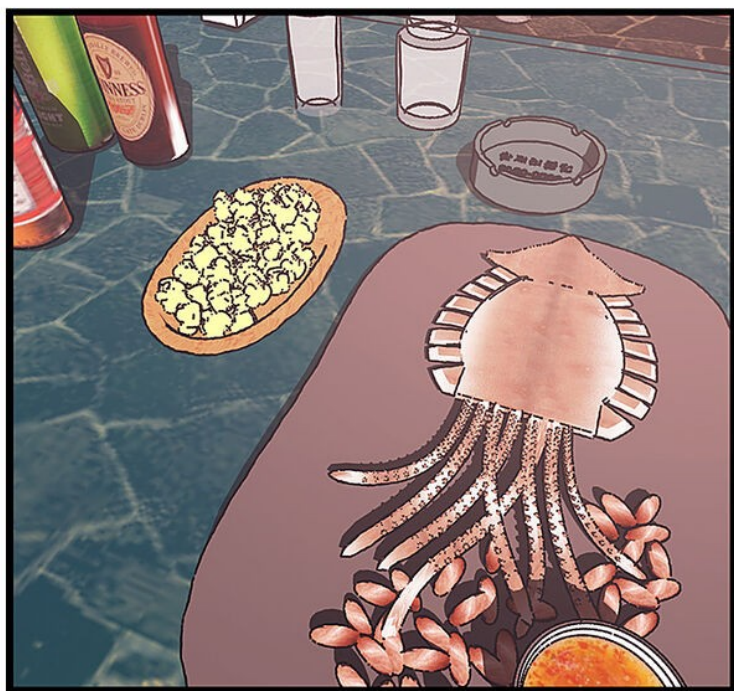


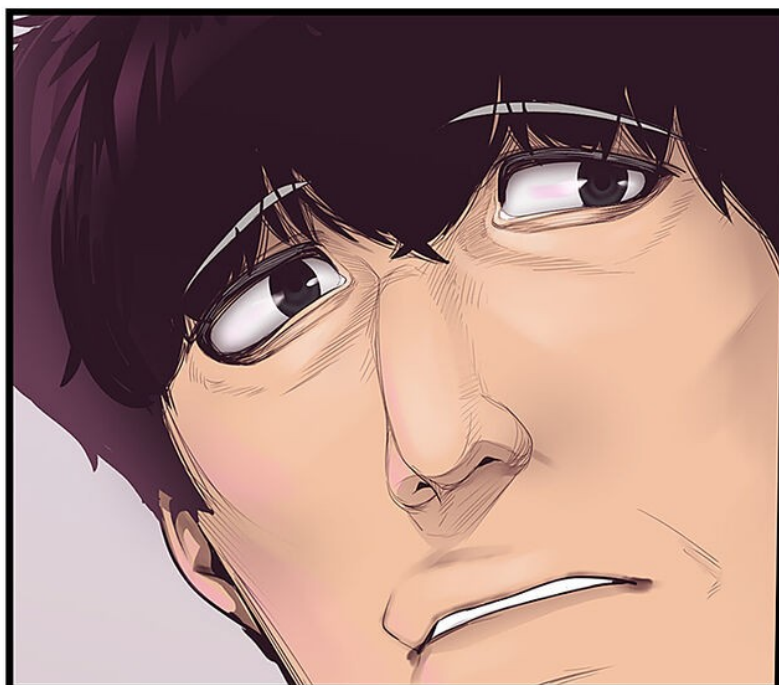
一体なぜ

僕を
こんな状況に
追い込んだ
張本人を

かばって
しまったの
だろう

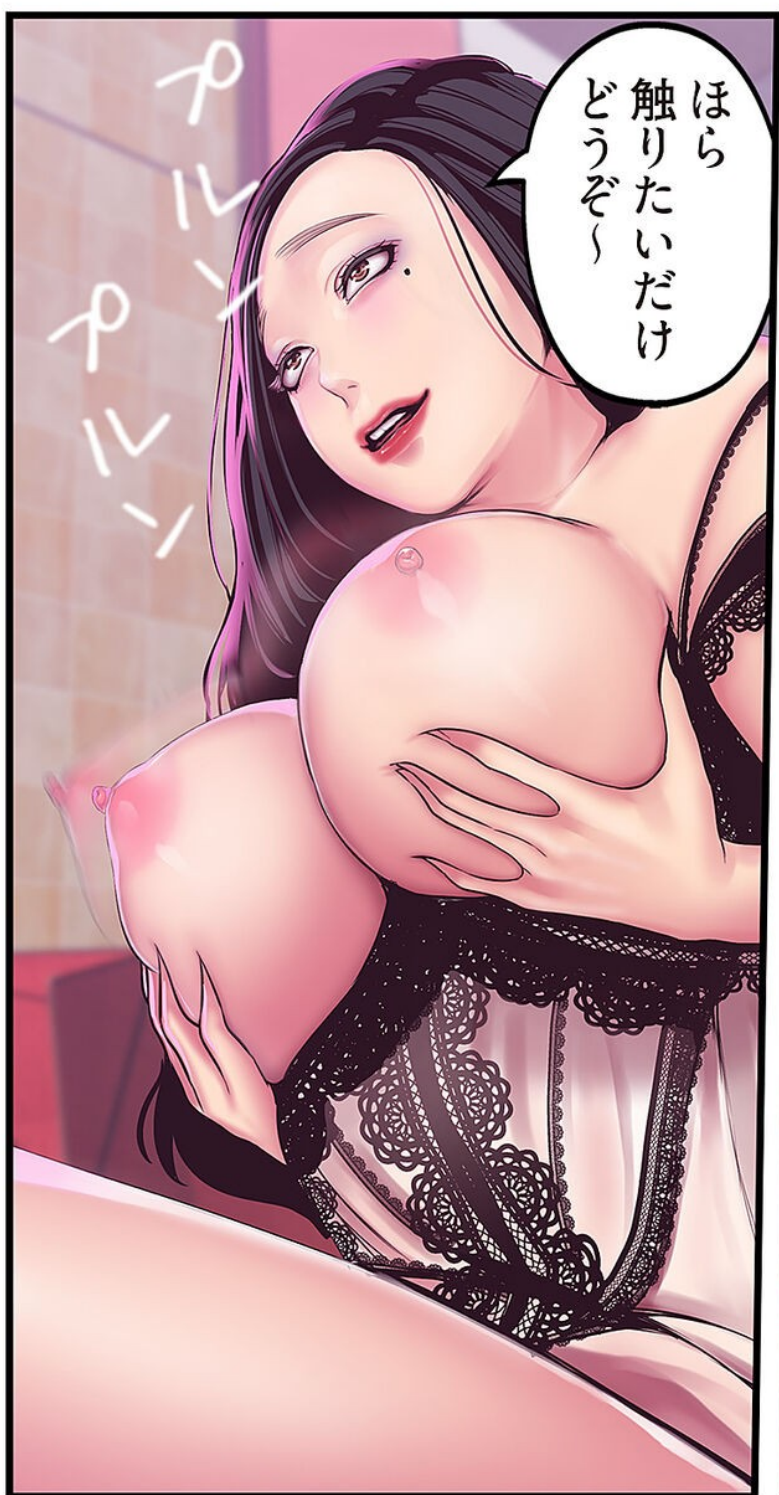
なぜ



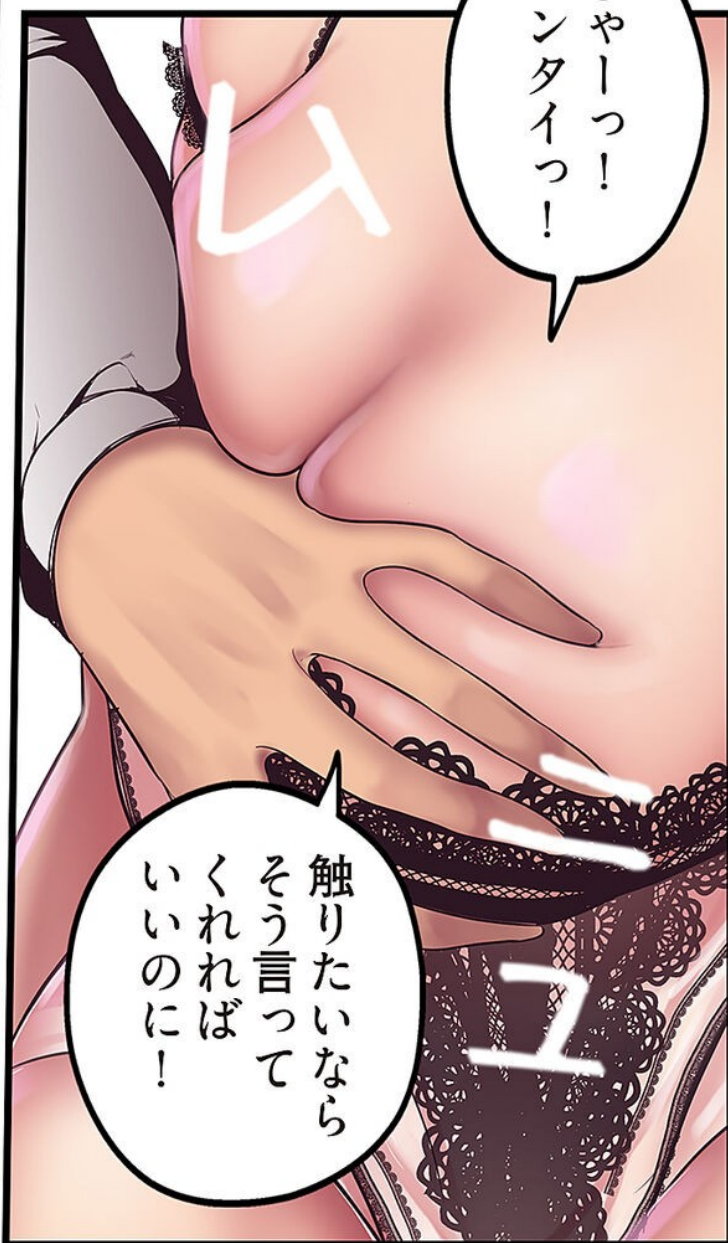


私のこと
気に入ら
ない？

ぶすつと
してないで
楽しく遊びま
しょうよ

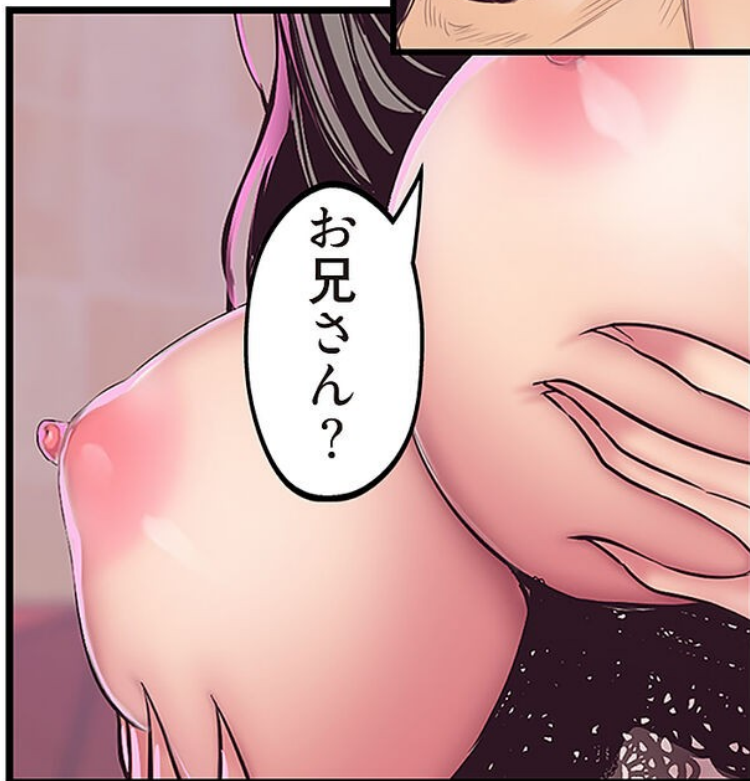
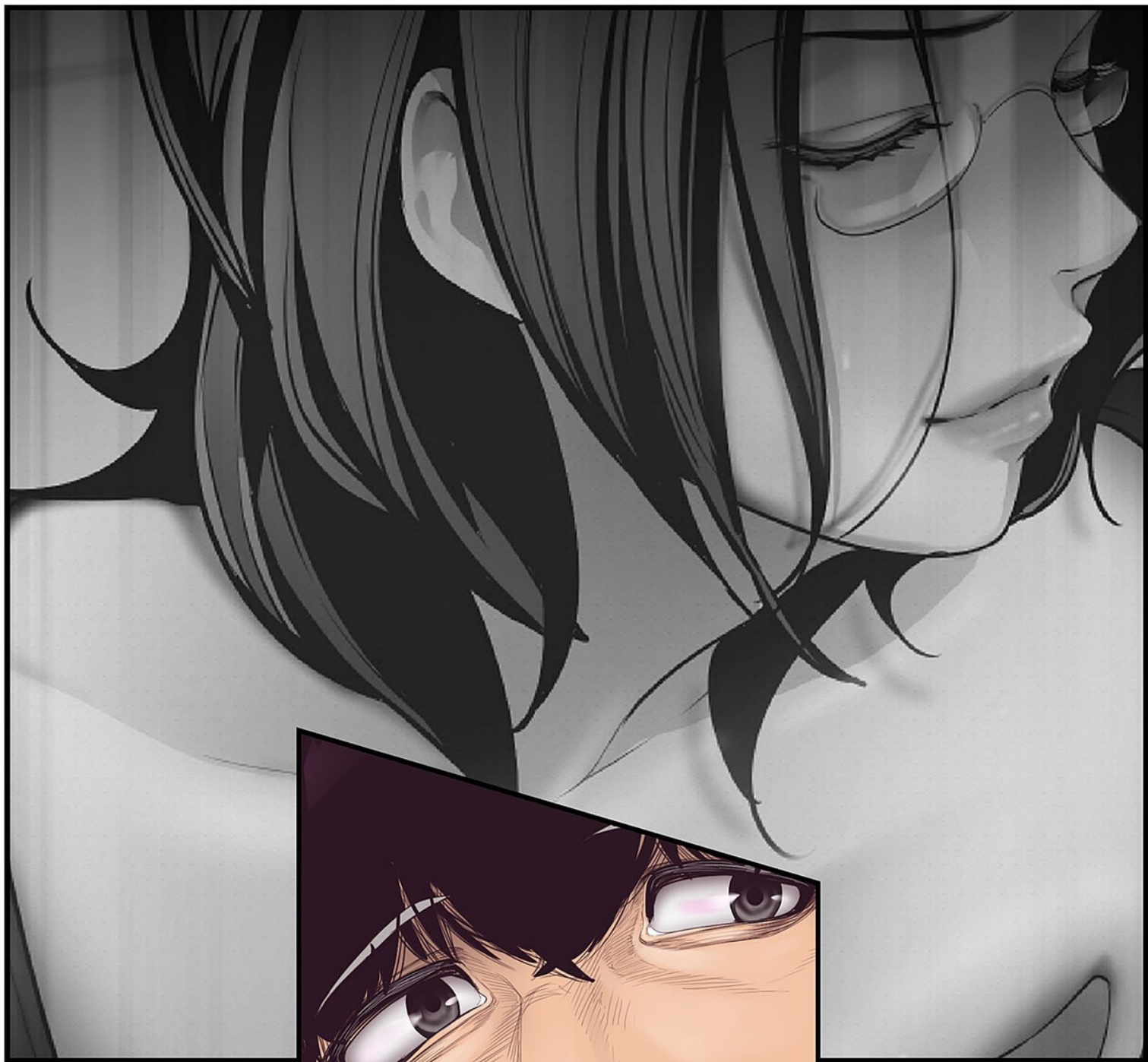


ほら
触りたいだけ
どうぞ

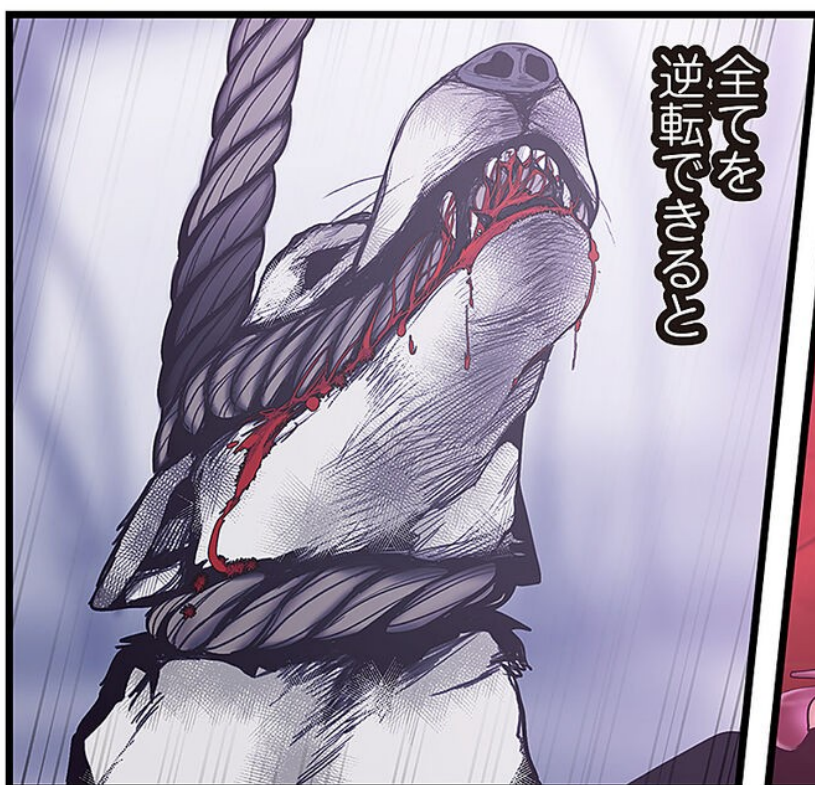


きやーっ！
ヘンタイっ！

触りたいなら
そう言っ
てくれれば
いいのに！



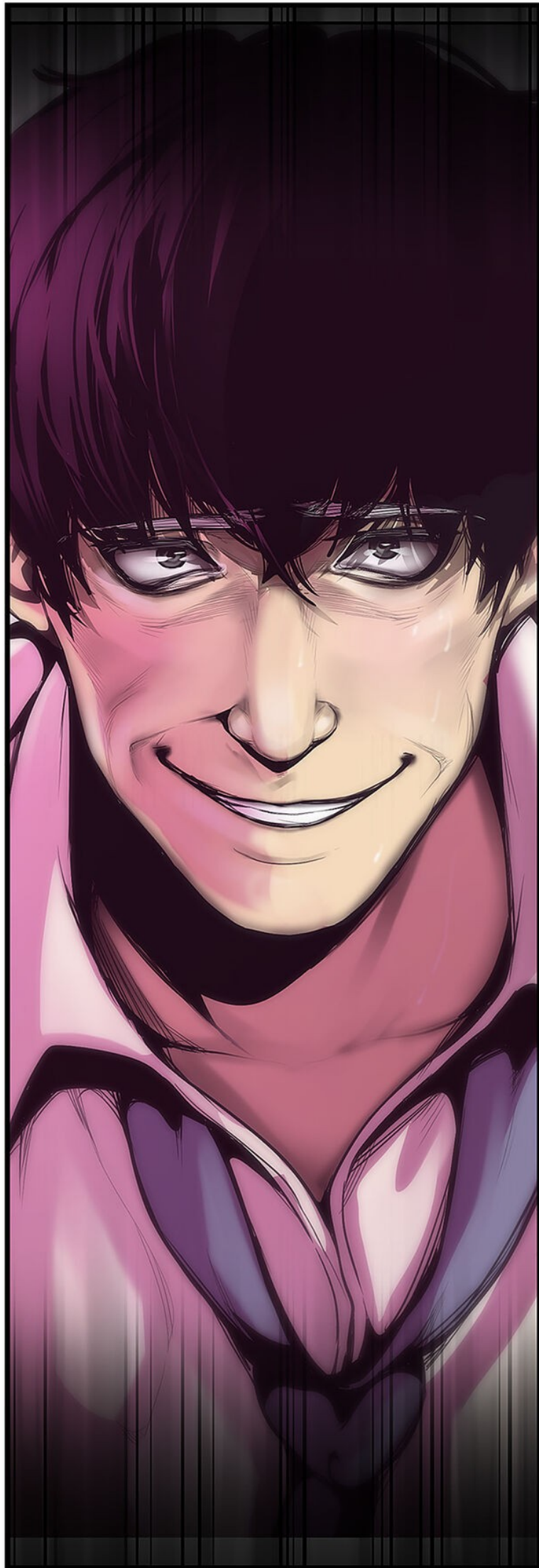


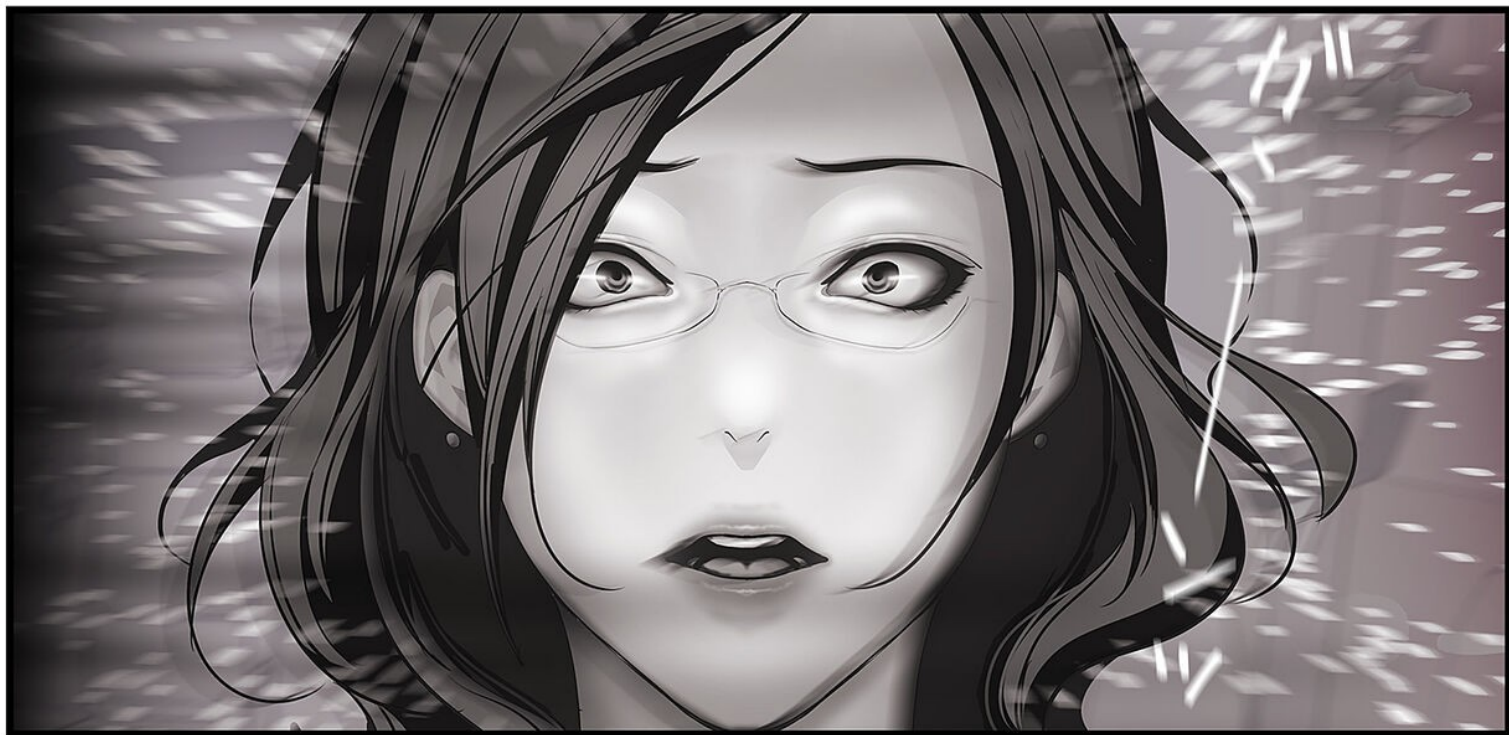
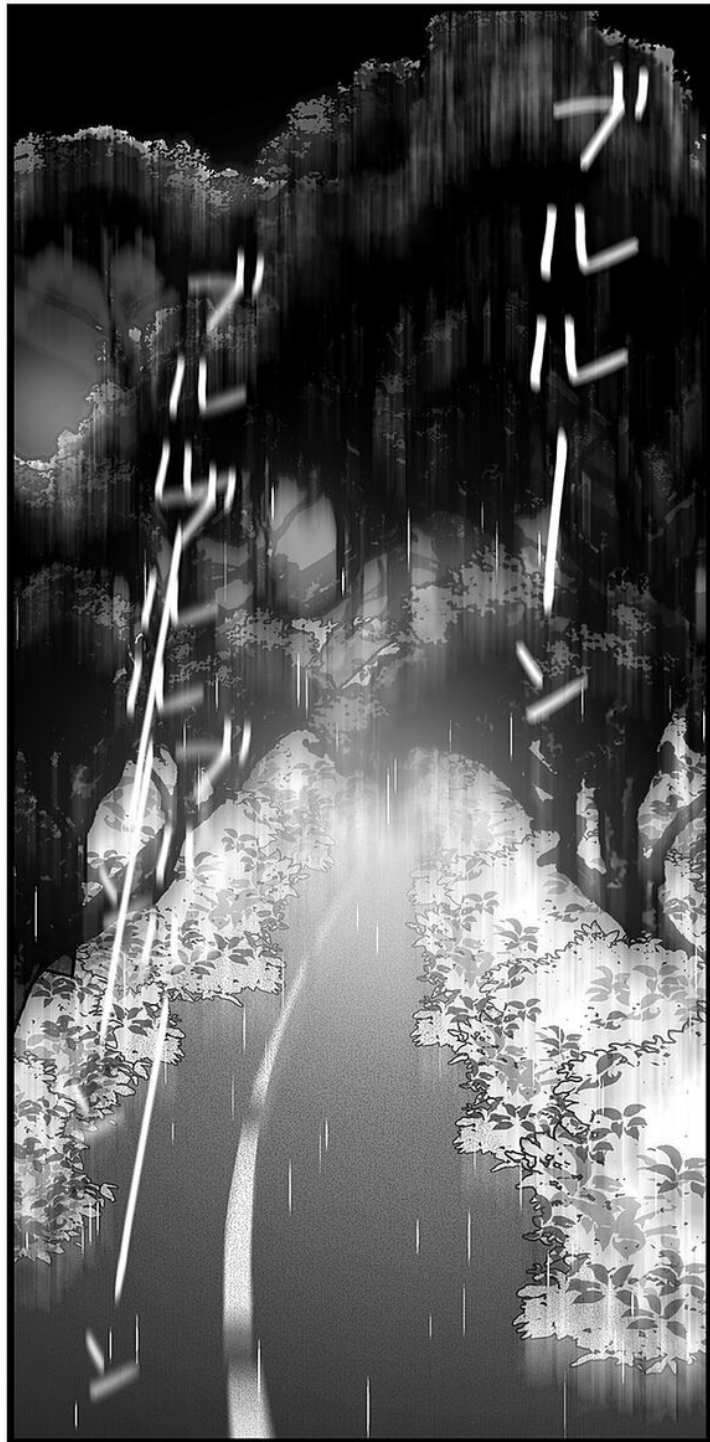
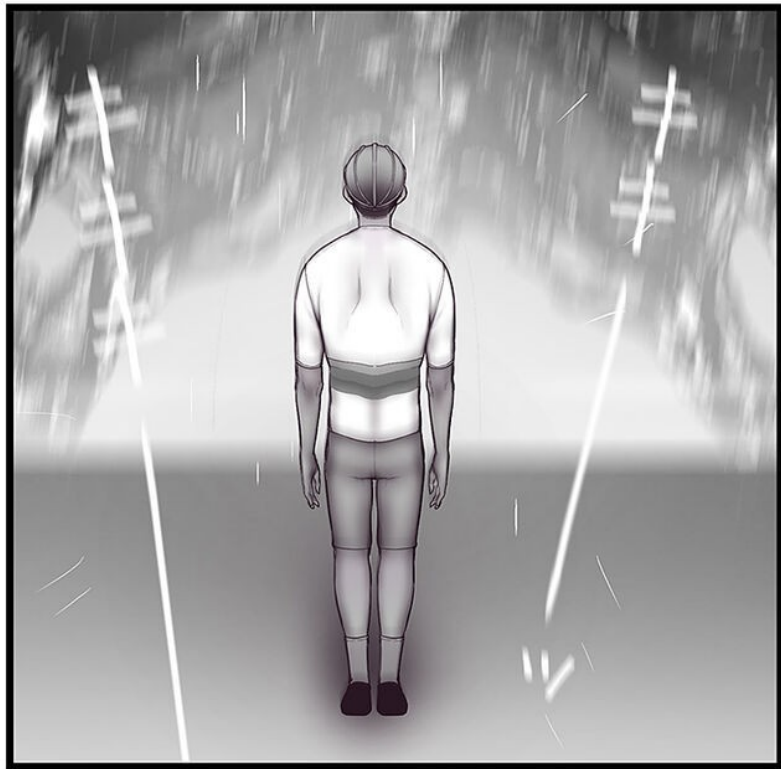


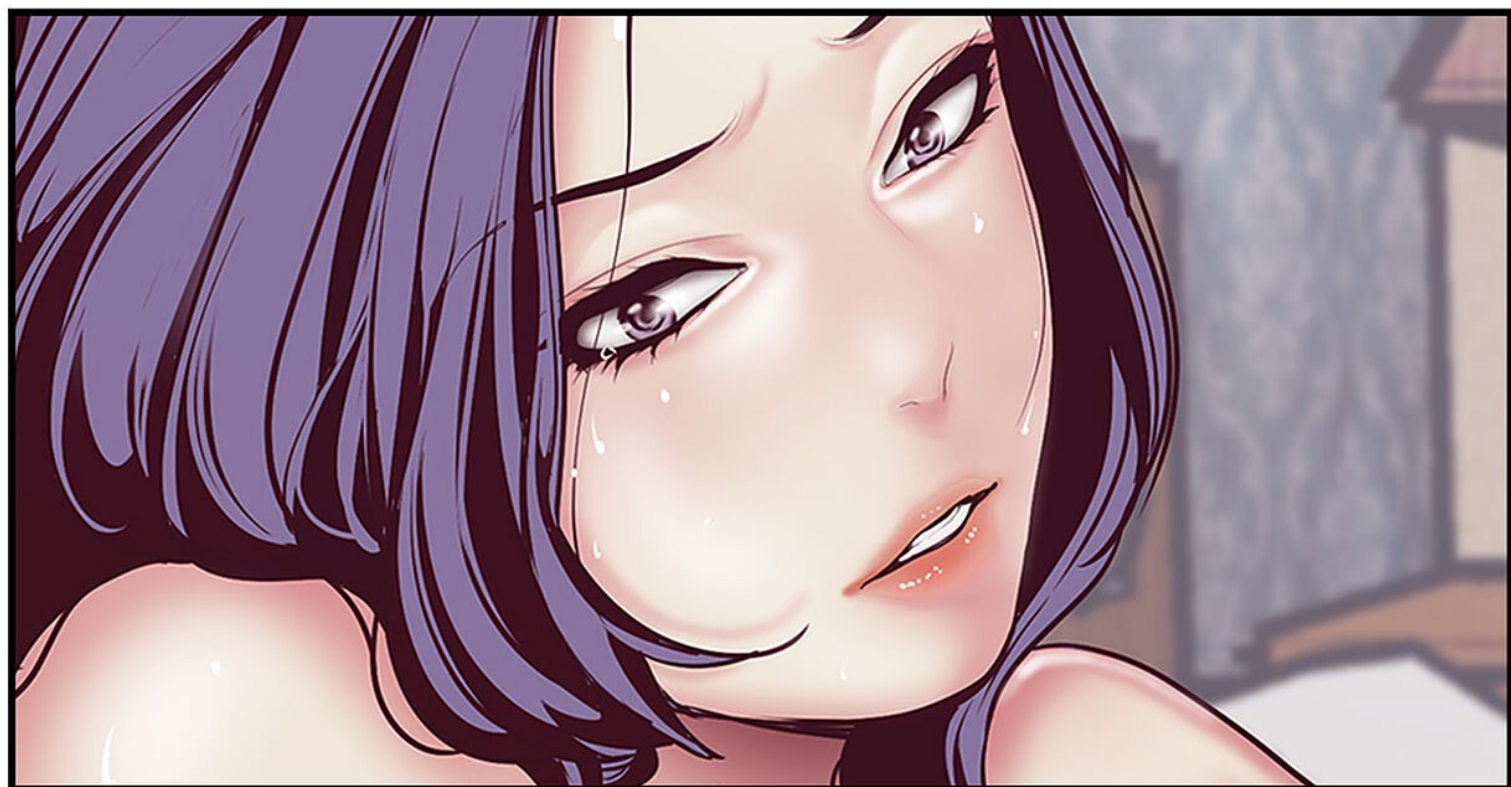
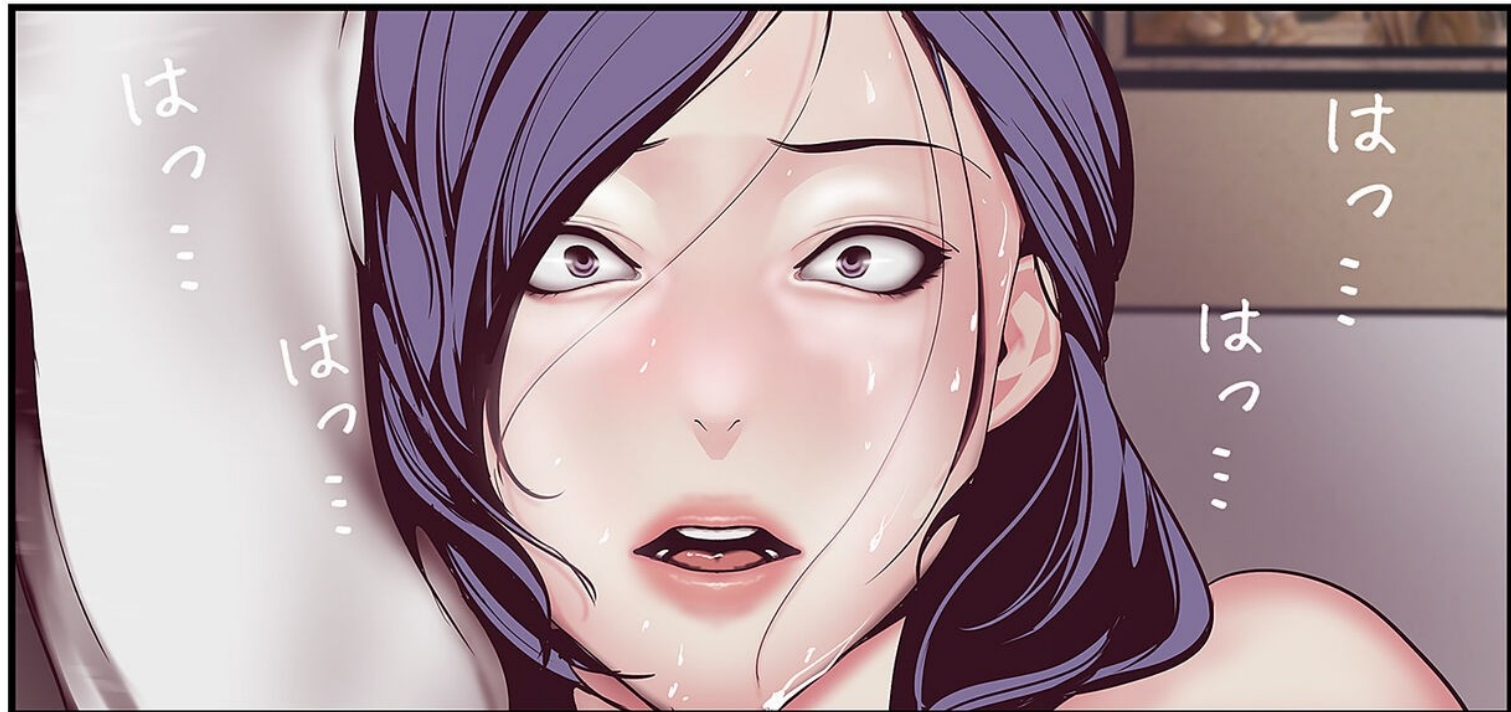


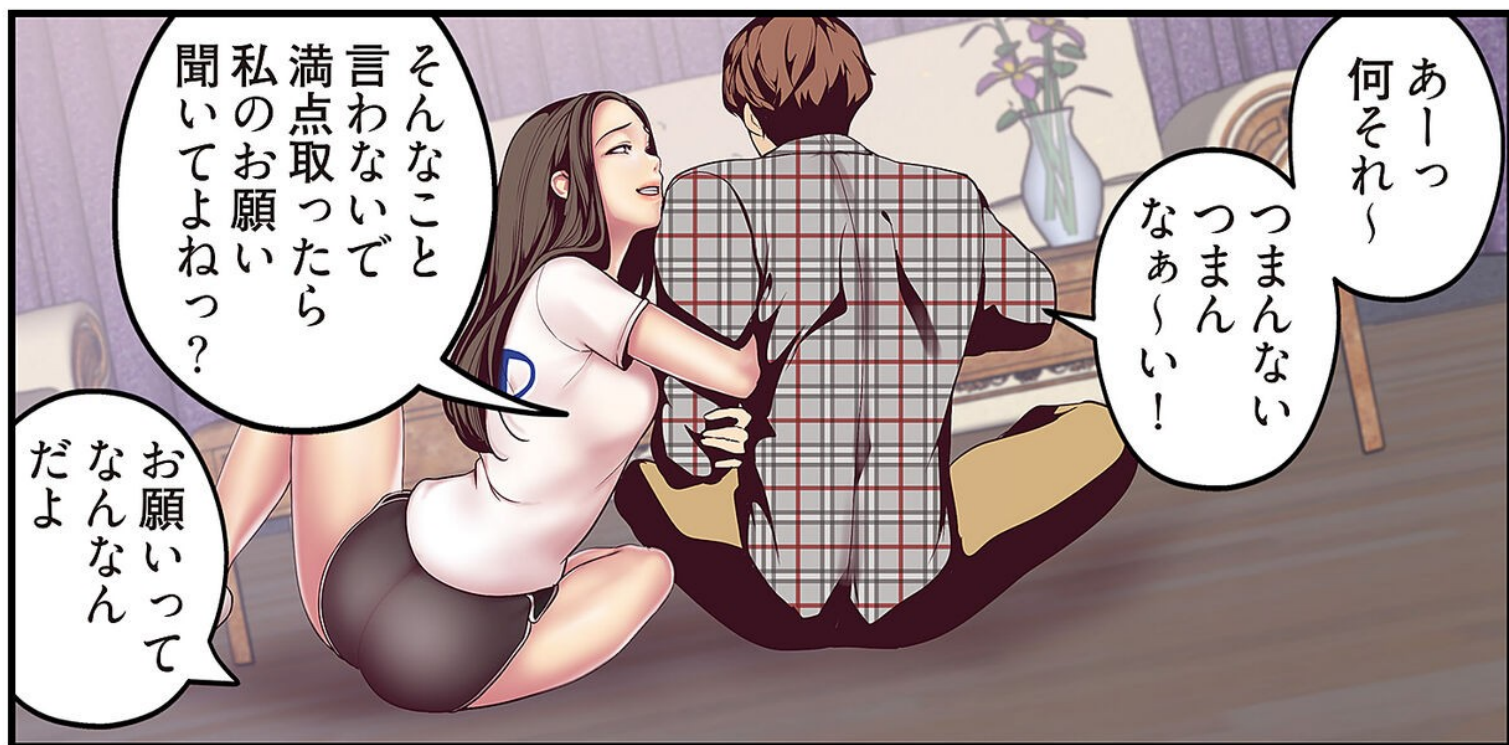
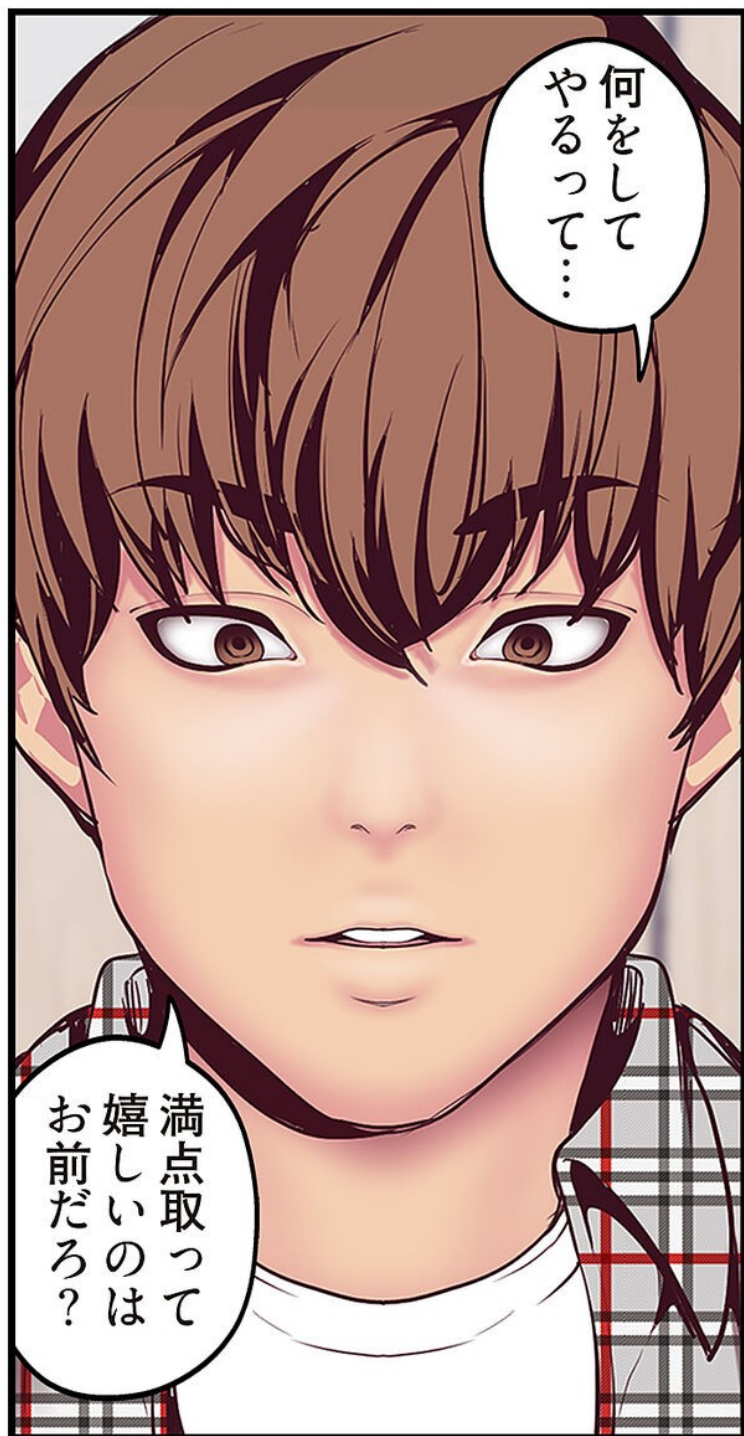
す
ば
ら
し
き
新
世
界

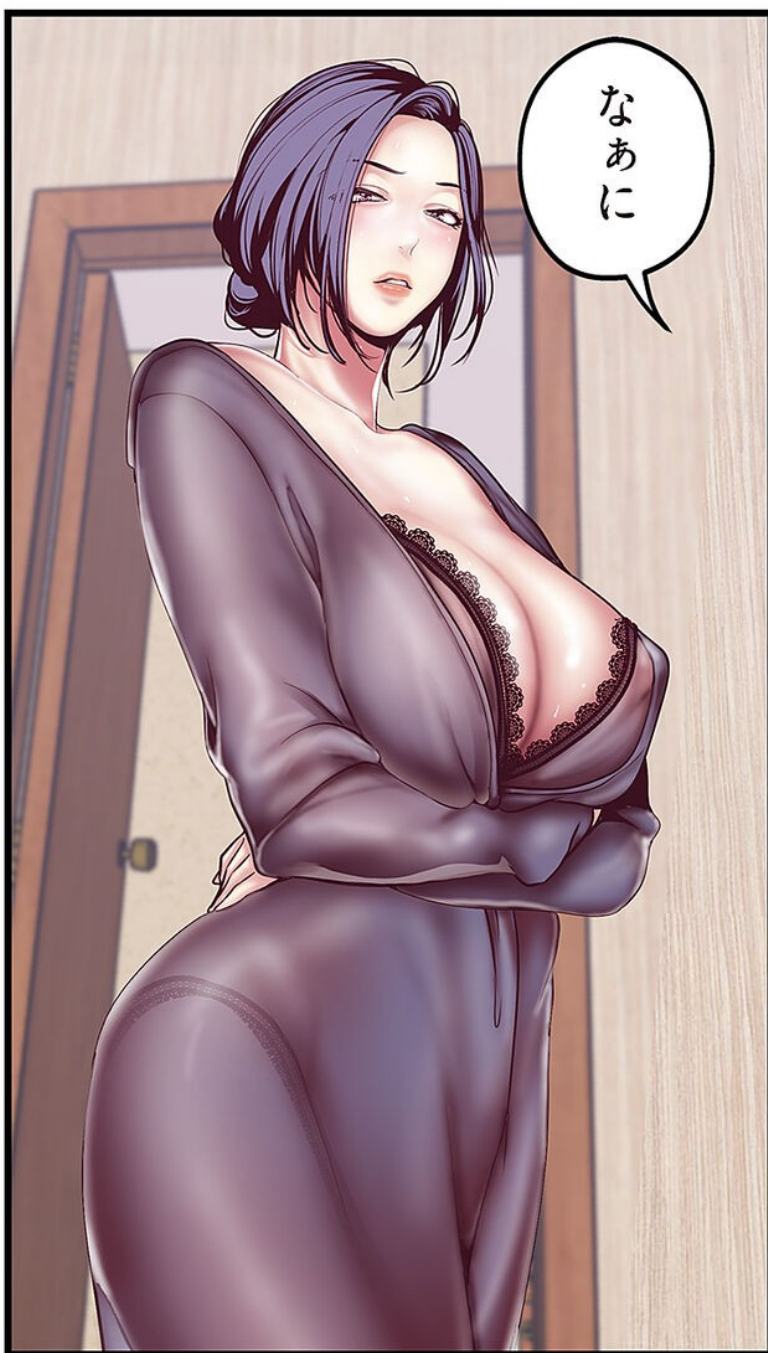
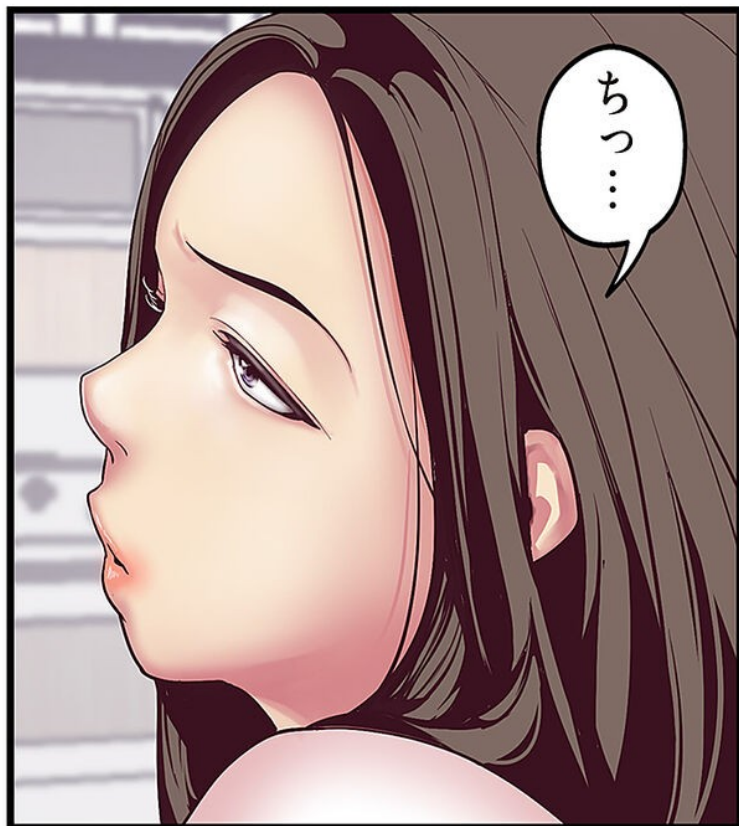
A WONDERFUL
NEW WORLD

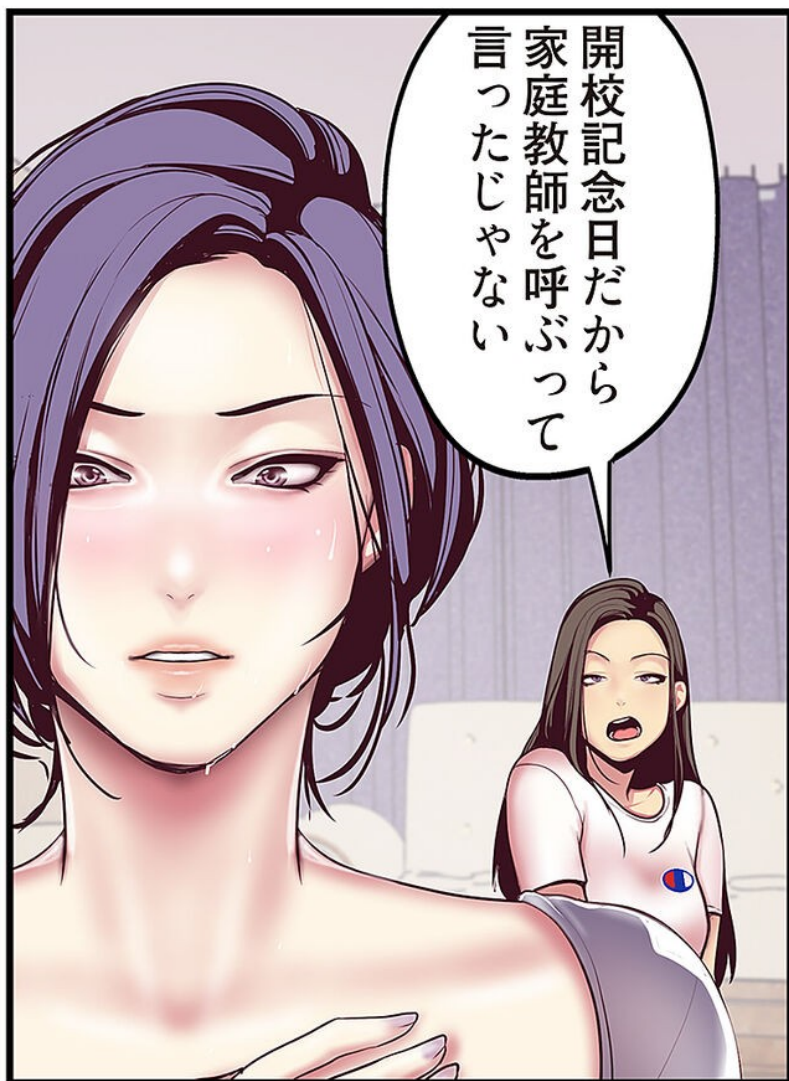
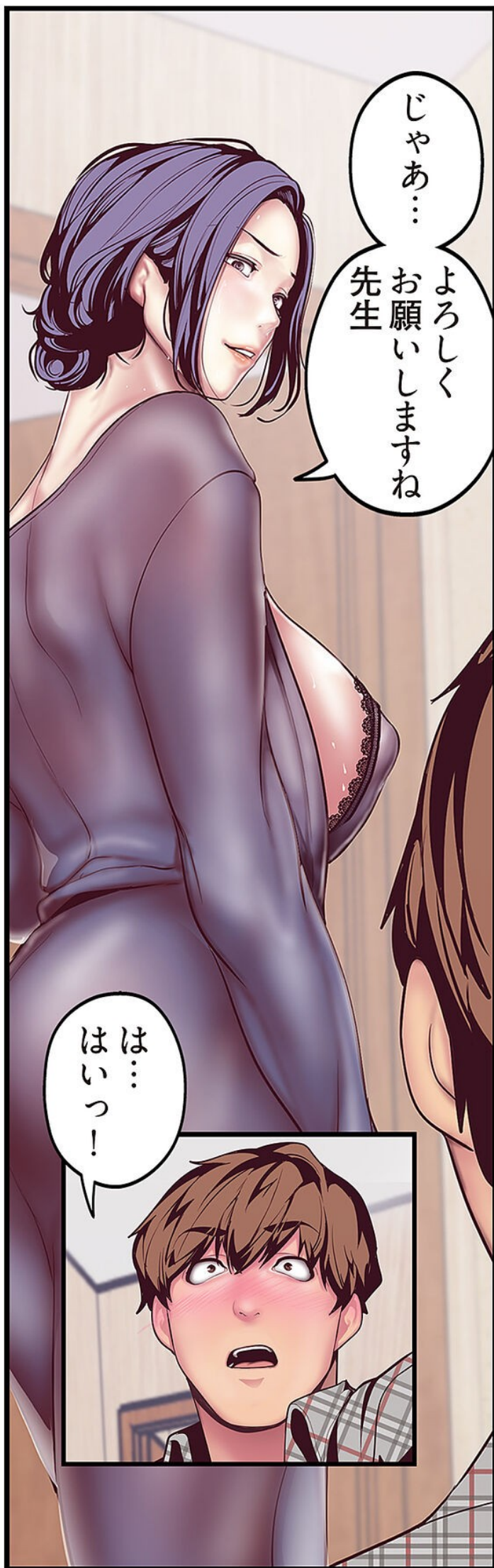




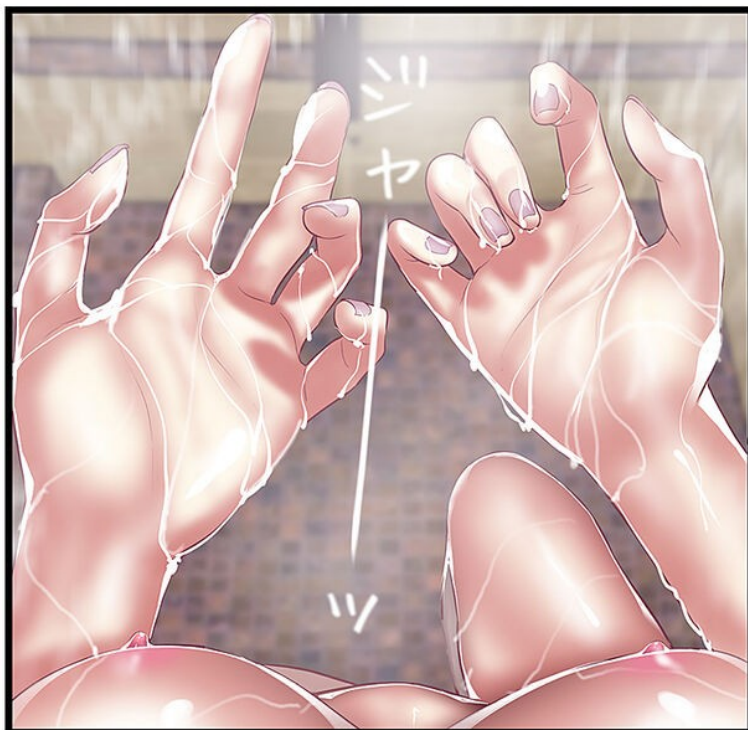


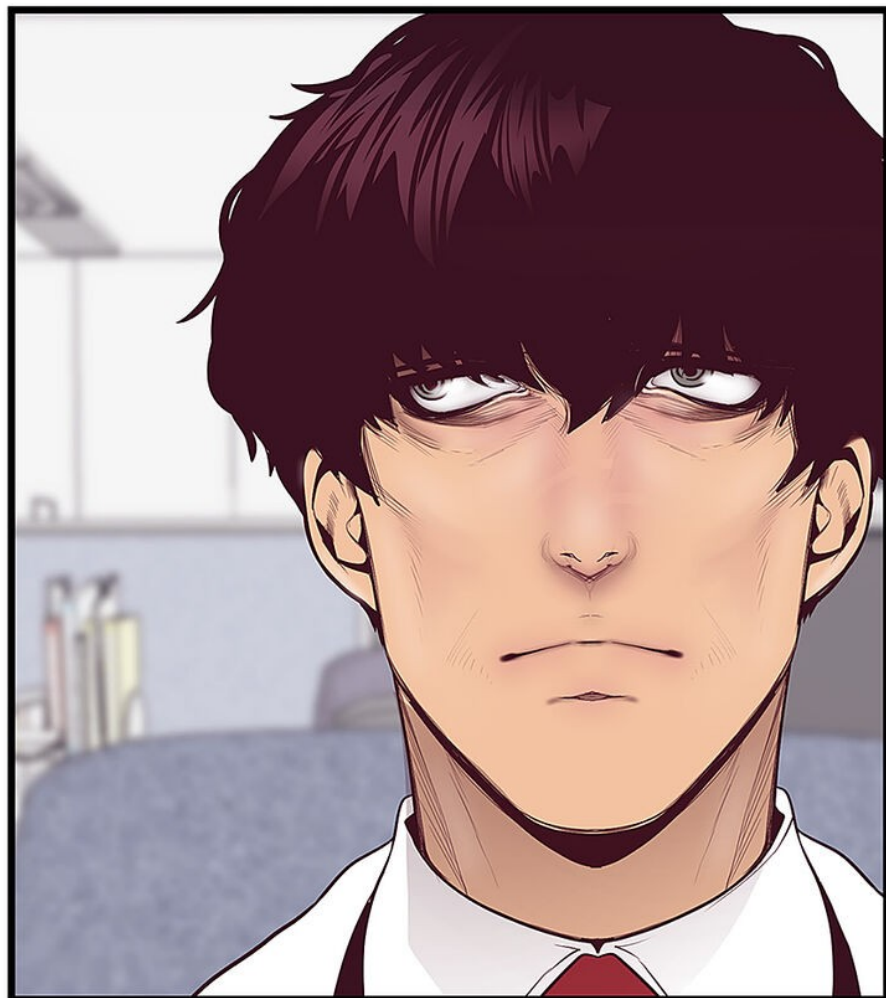
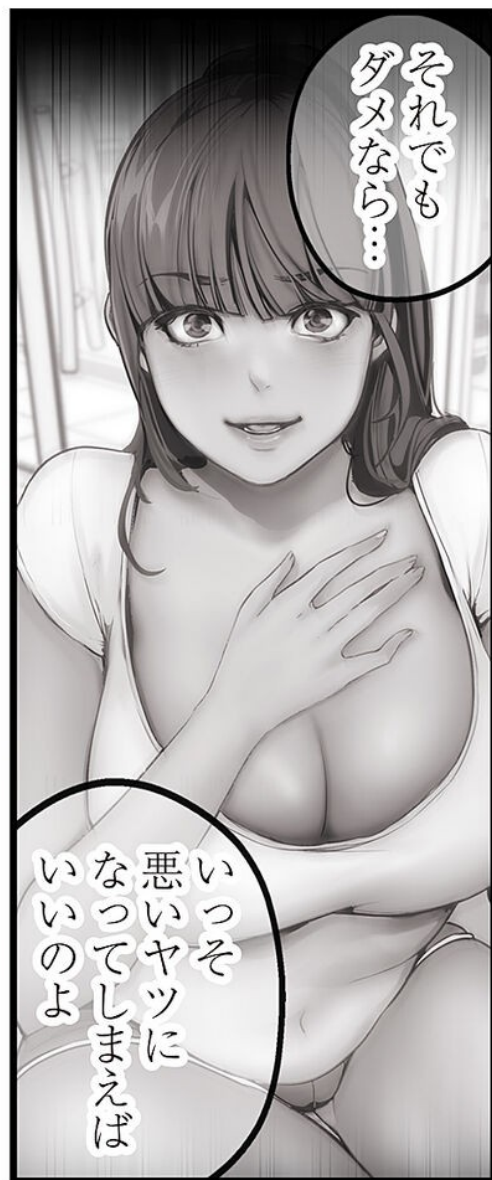


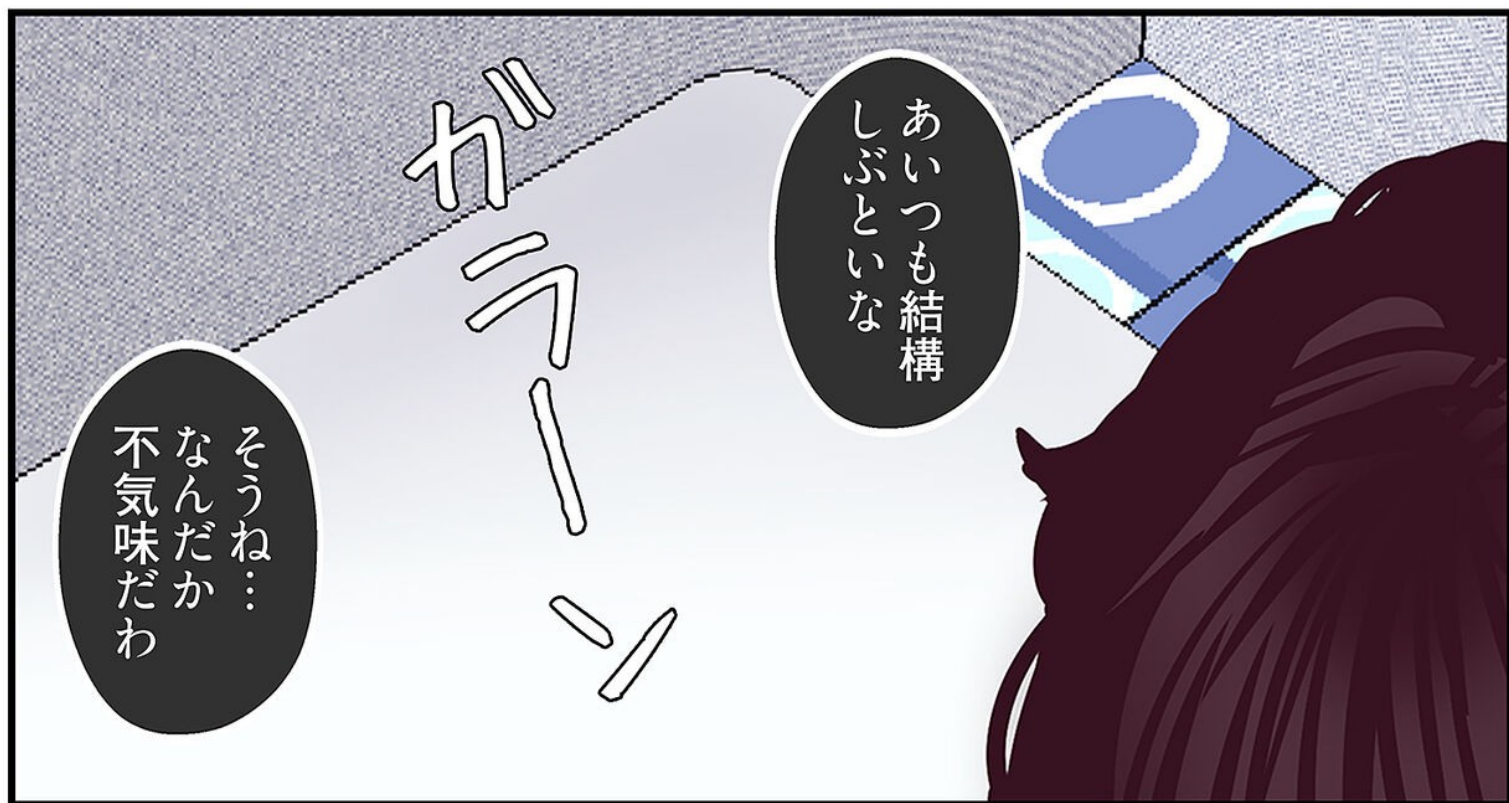
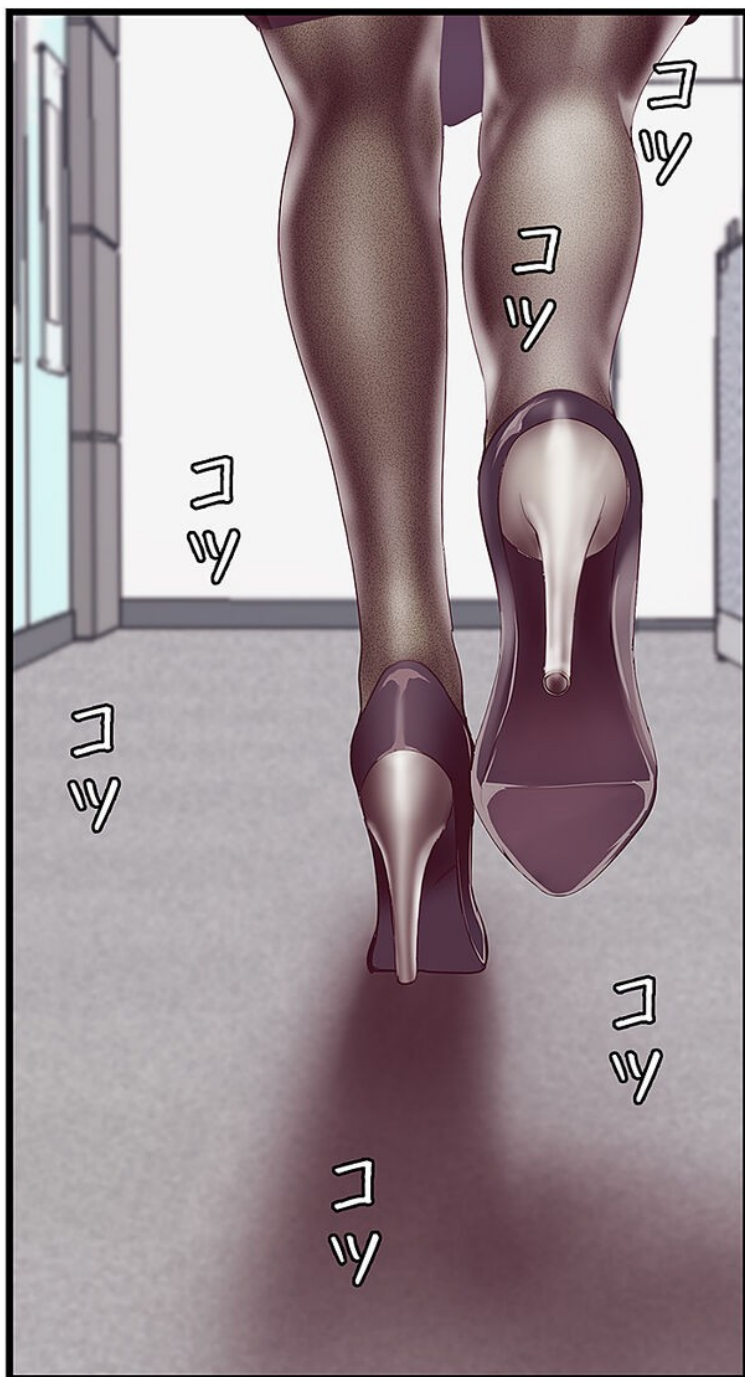












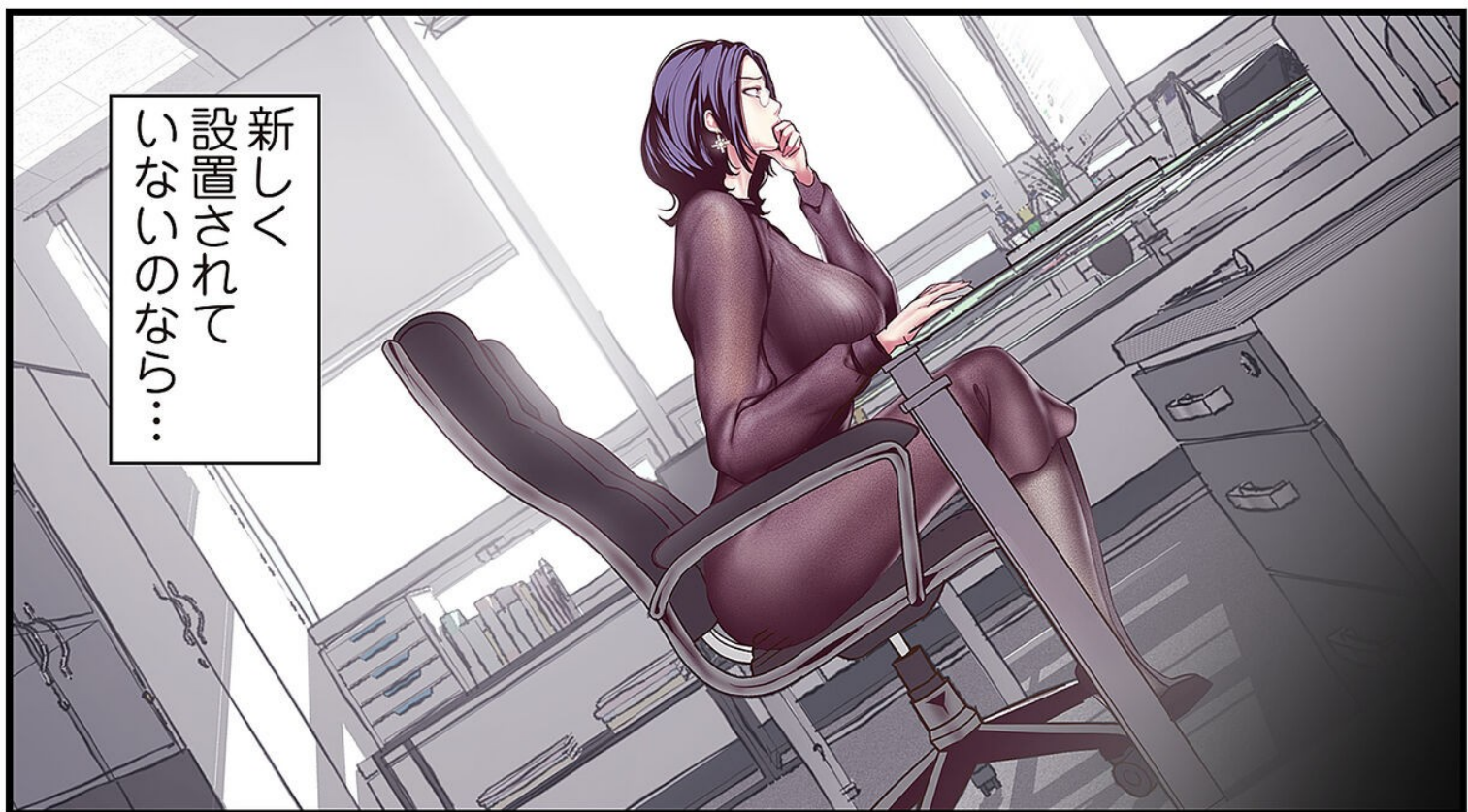


監視カメラは
なかった

よく通る
道だから
間違いない…



記事にも
なっていないし…



新しく
設置されて
いないのなら…

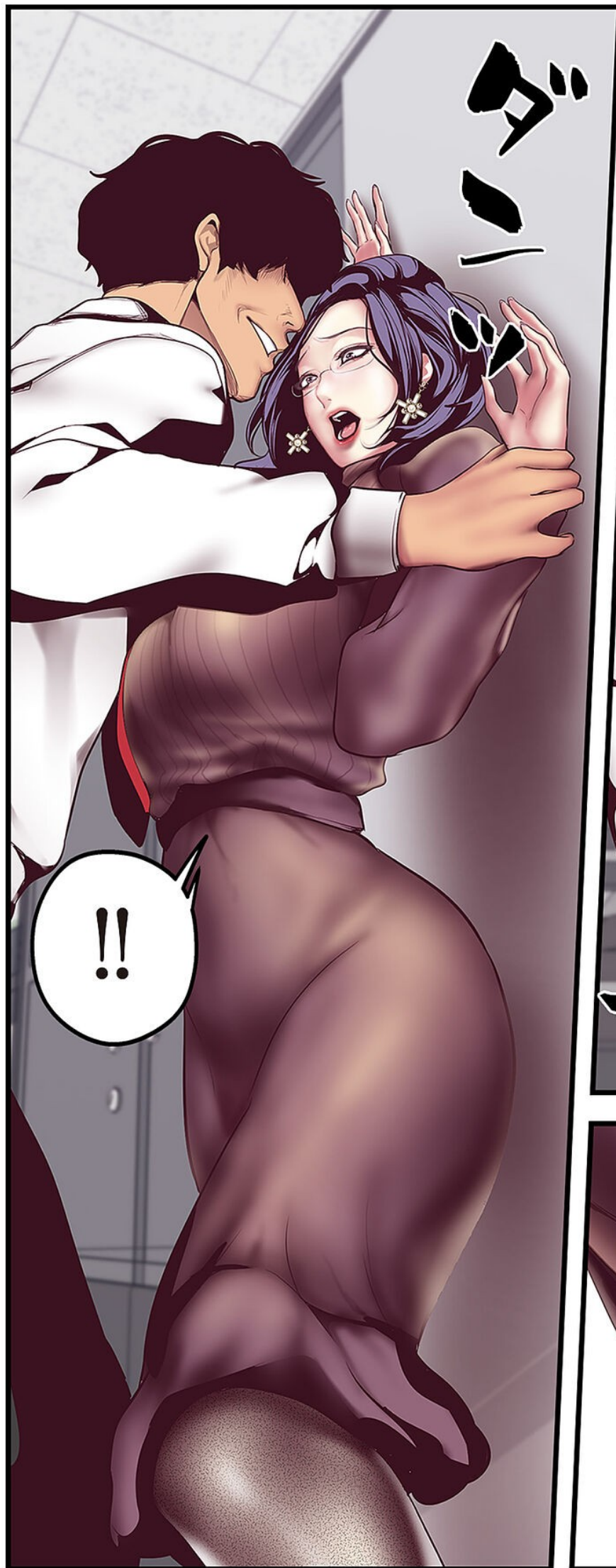
!?

ガ
キ
ヤ
ッ

た…

田中さん？

ノックくらい
できないの!?

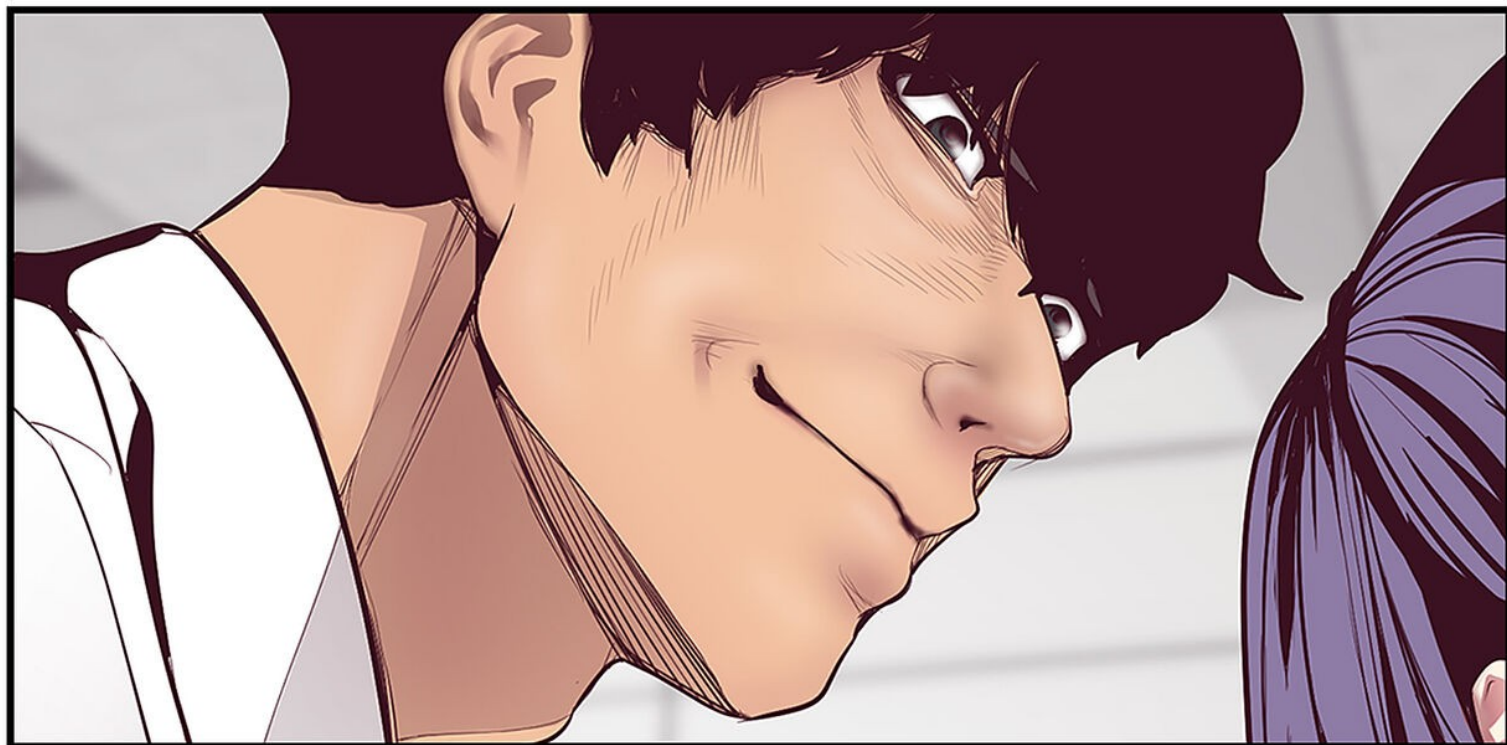
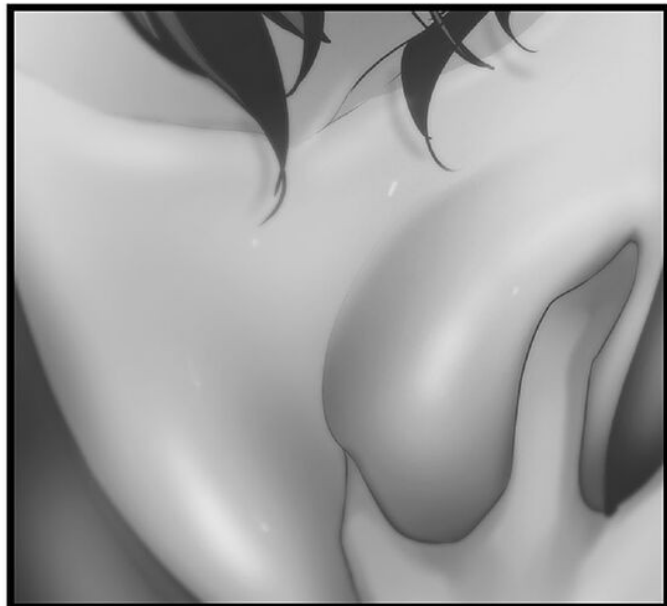


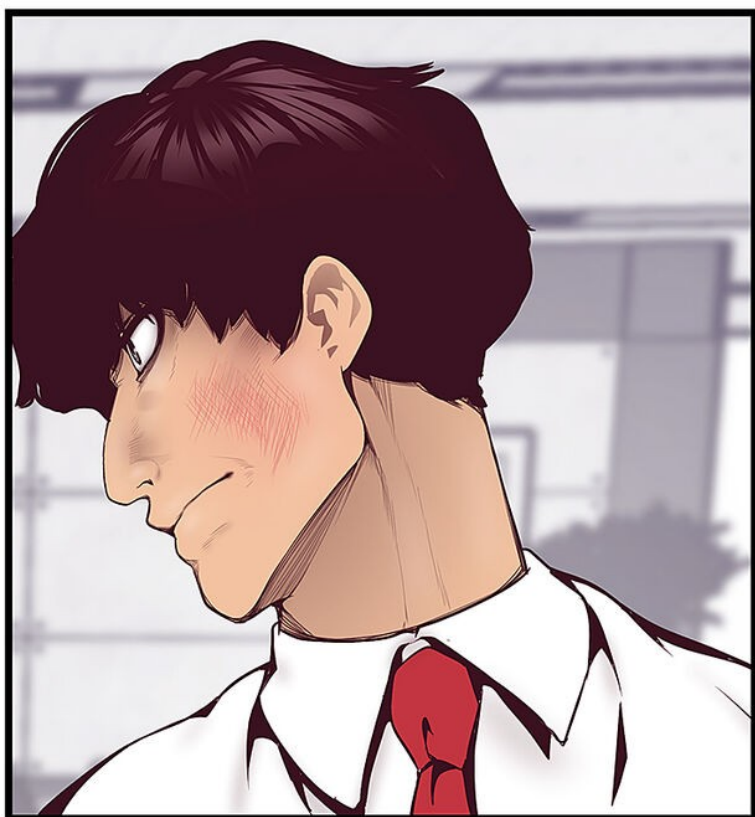
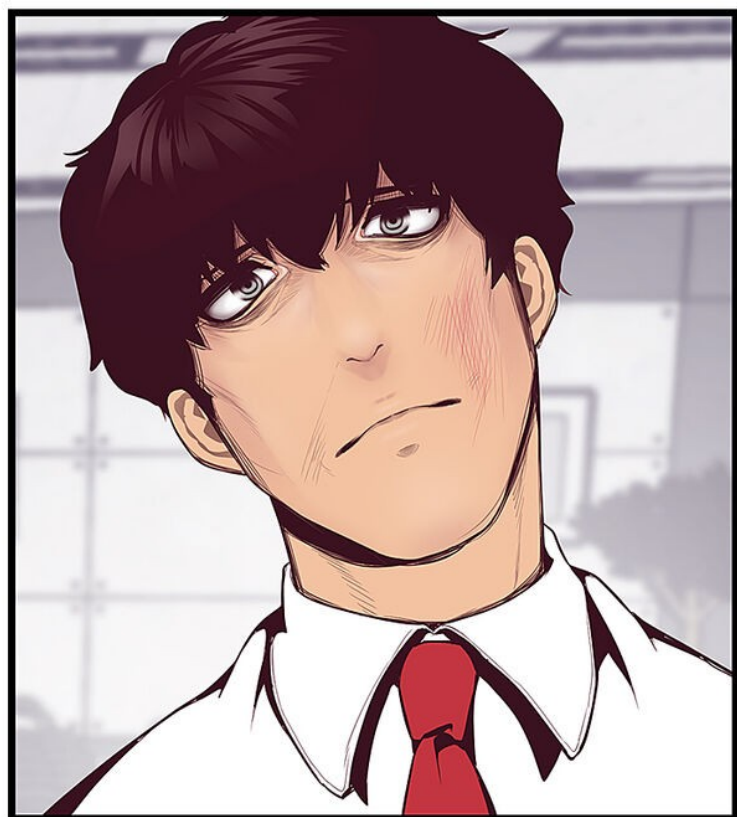
なぜあなたが
ここにいますの？

辞令は
本日付け
だったはず…

セキュリティ
カードも
あなたの荷物も
全部…





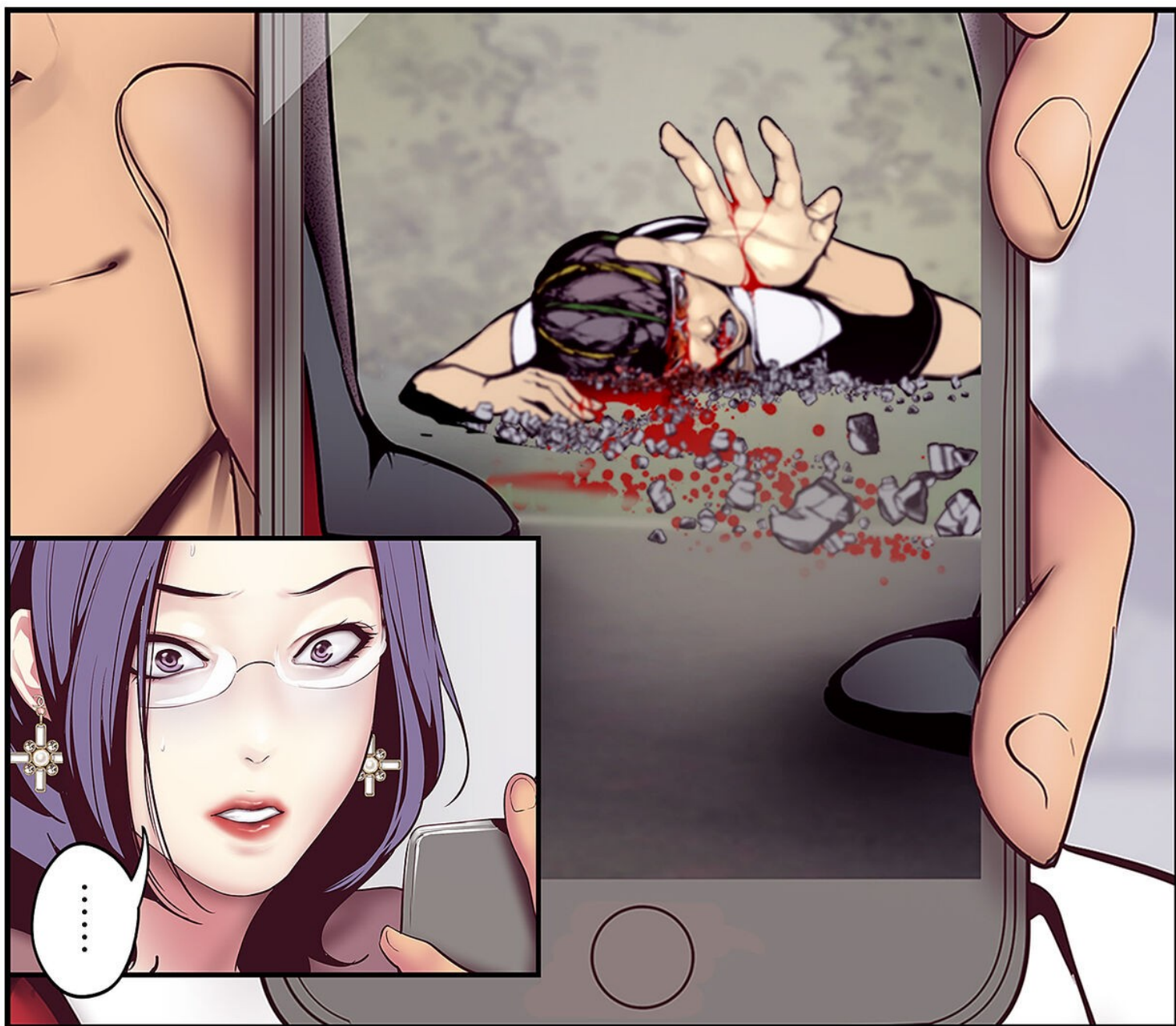
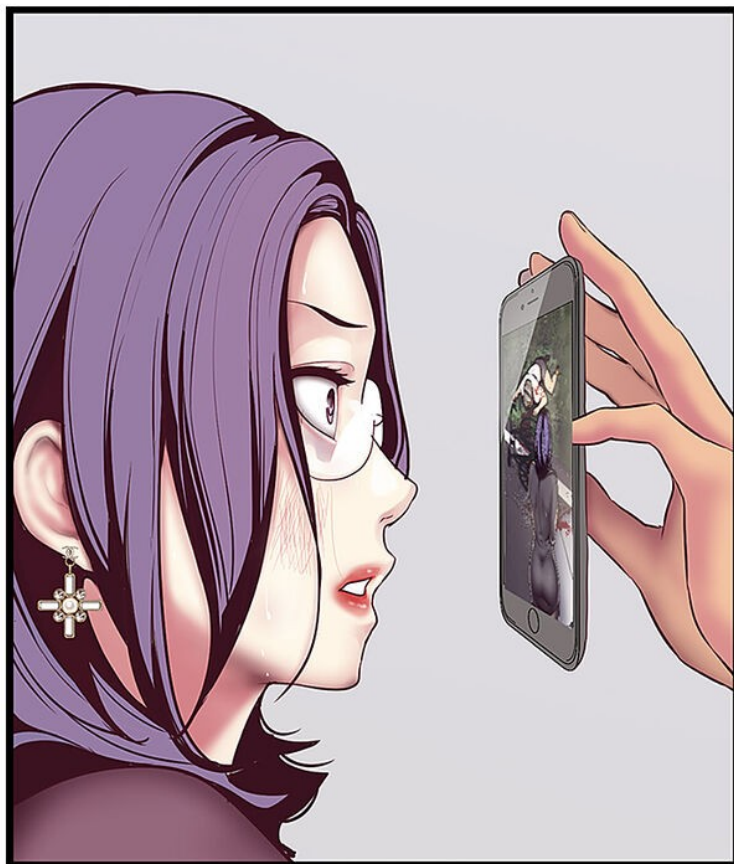




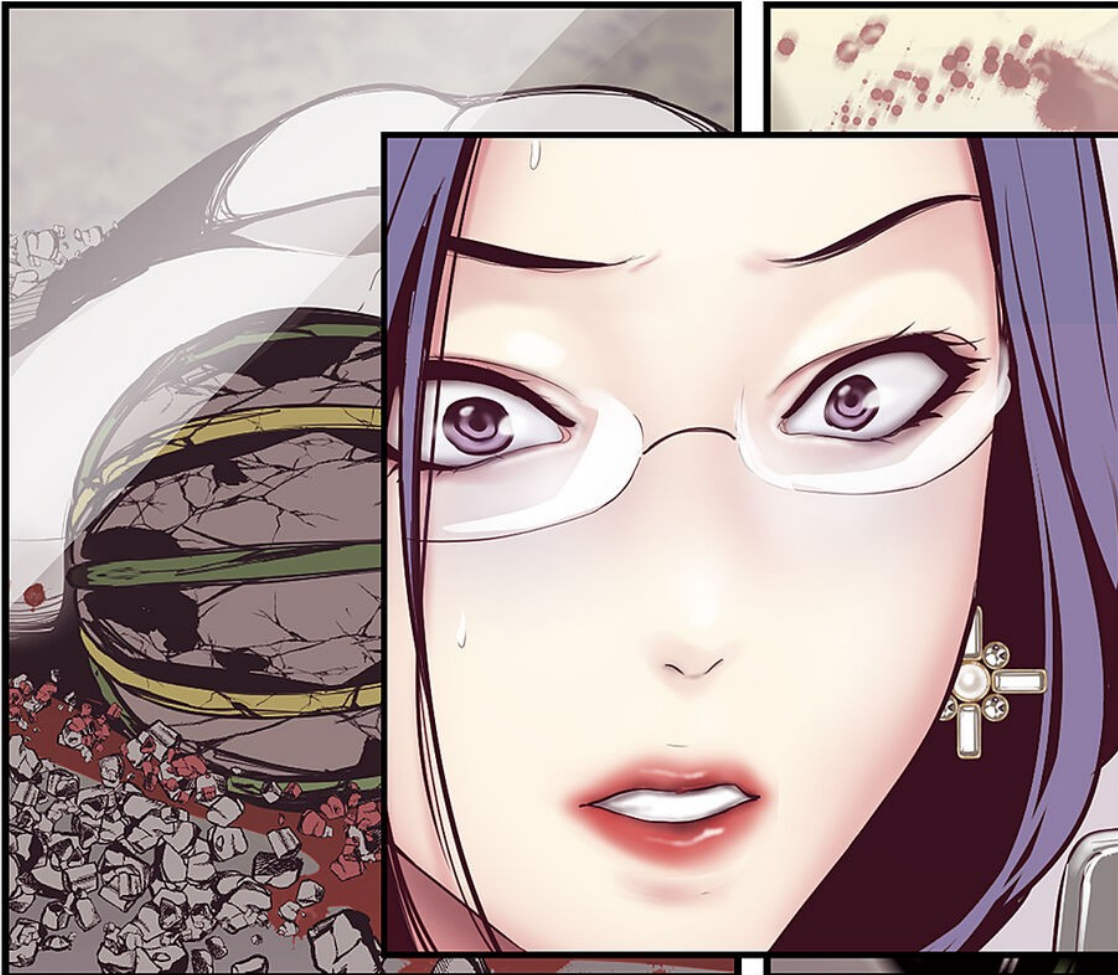
田中さん...

あなた...

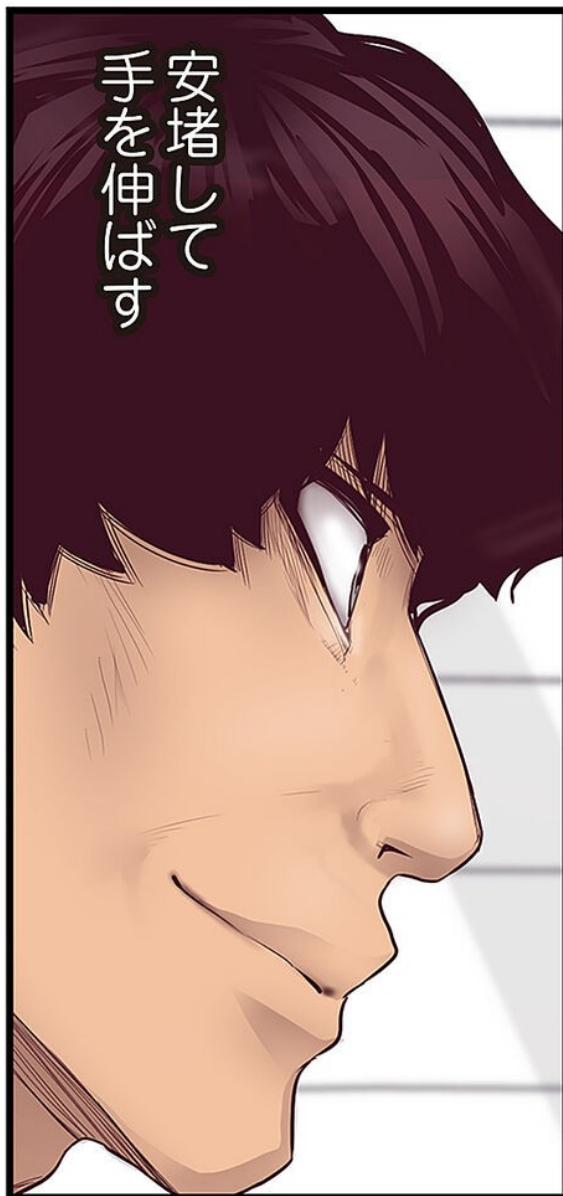
...



彼女の震える瞳から
恐怖を感じ取り



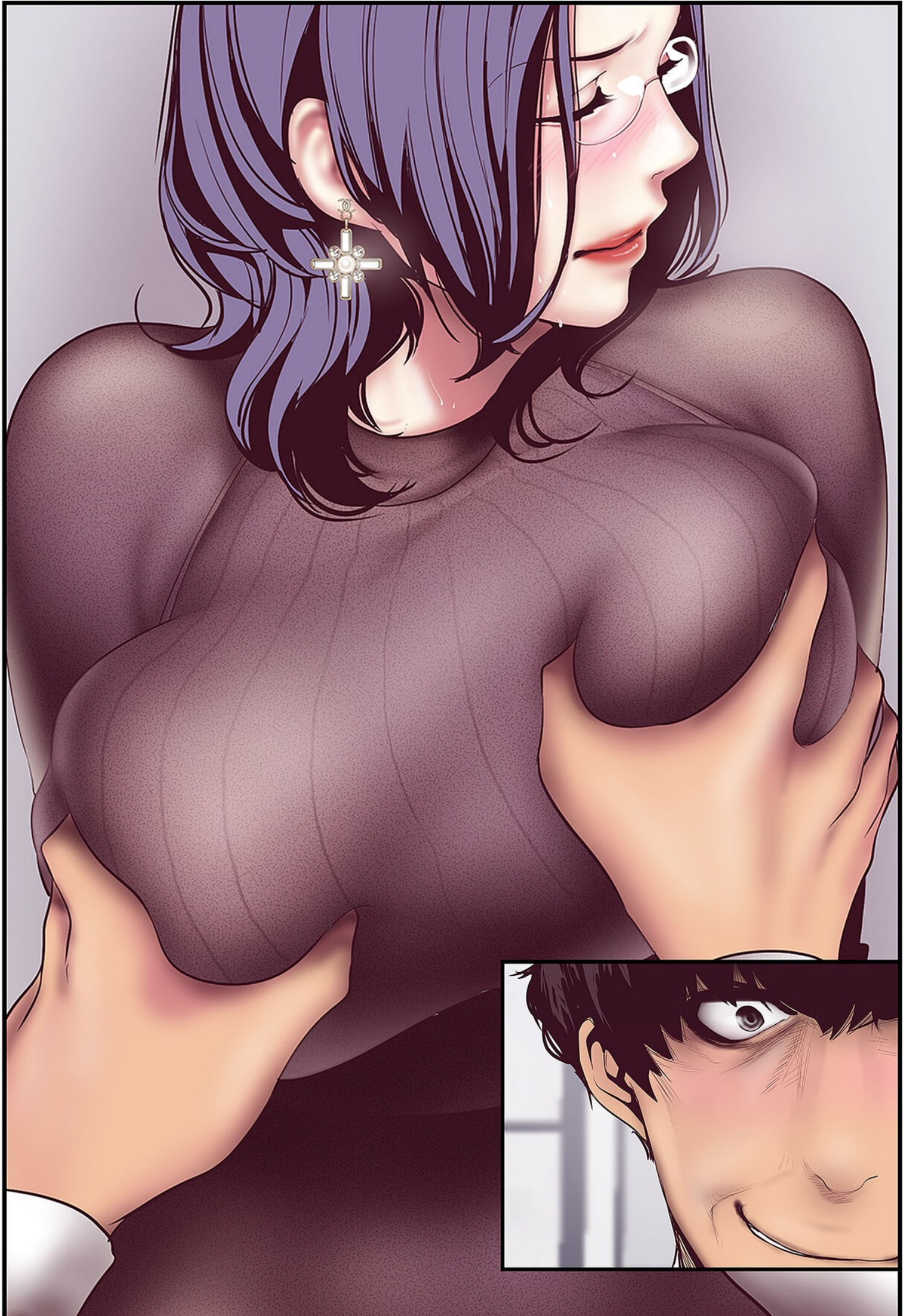
安堵して
手を伸ばす



たかね
高嶺の花だった
豊満な胸を



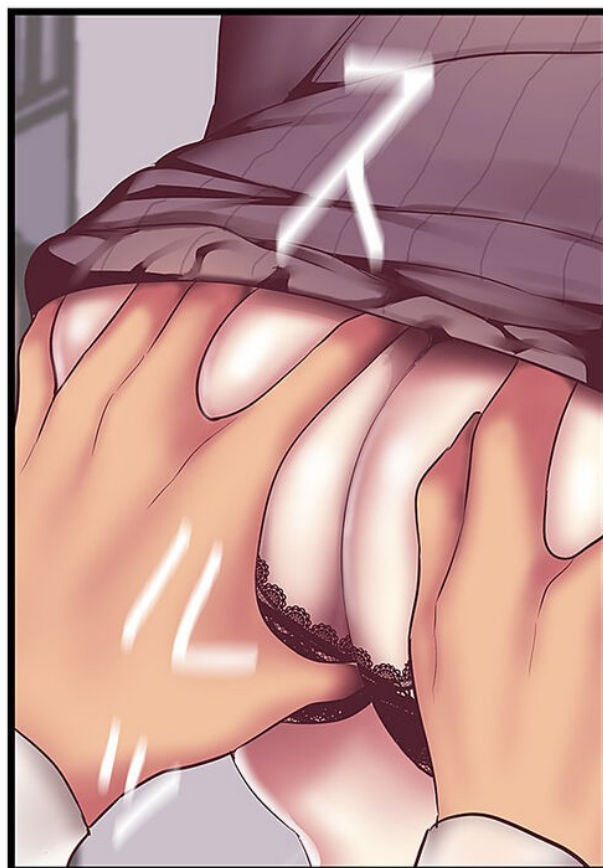


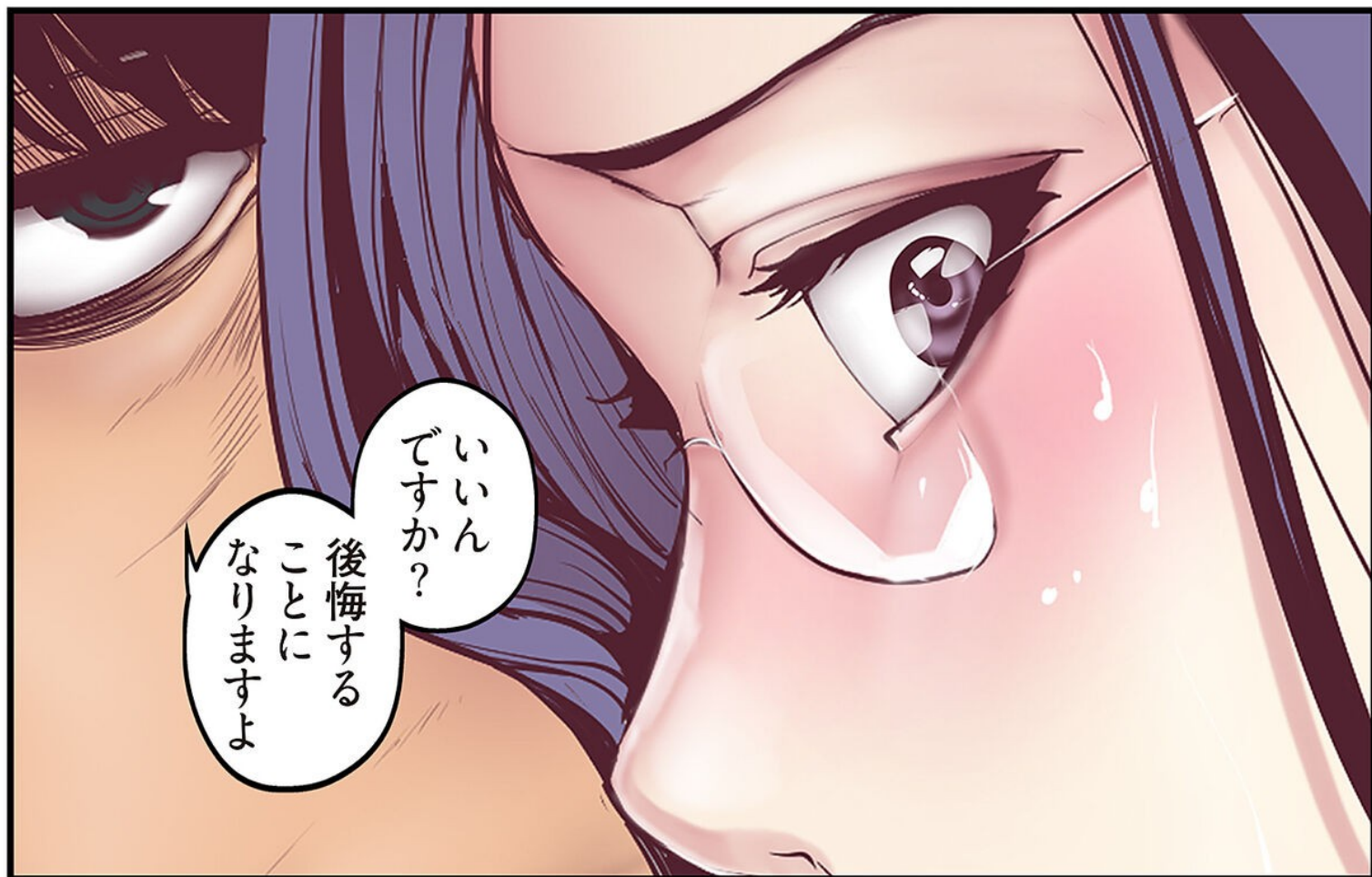


す
ば
ら
し
き
新
世
界

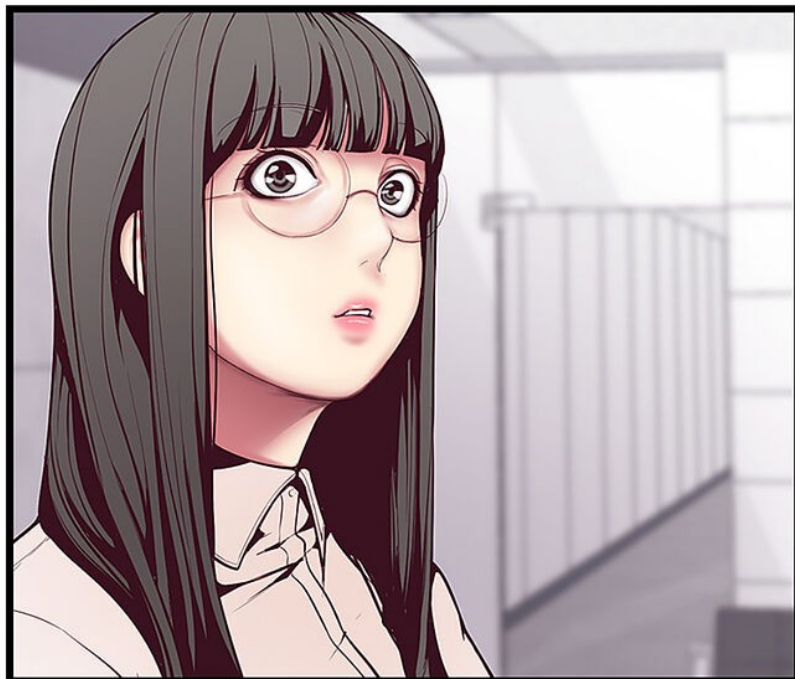
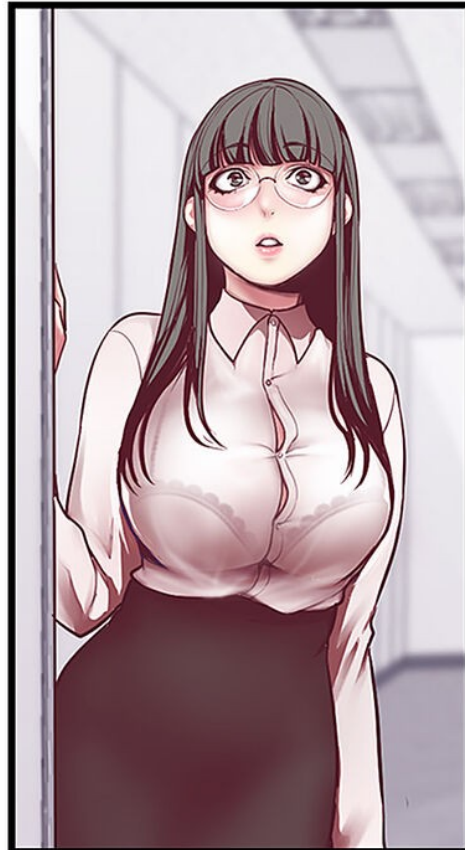
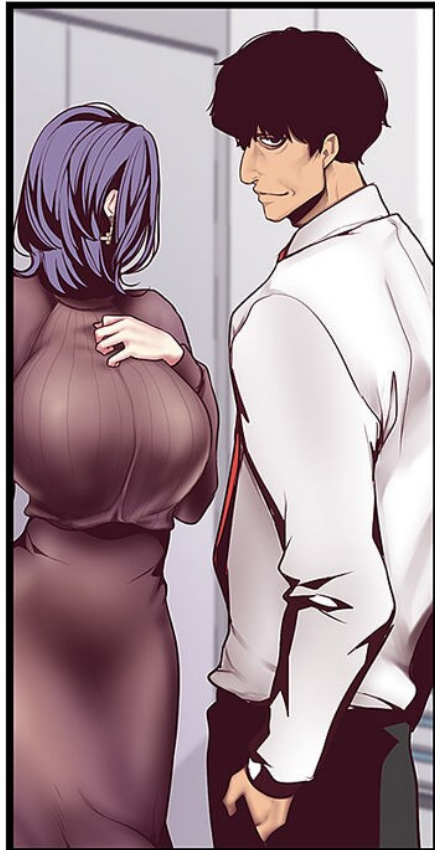
A WONDERFUL
NEW WORLD

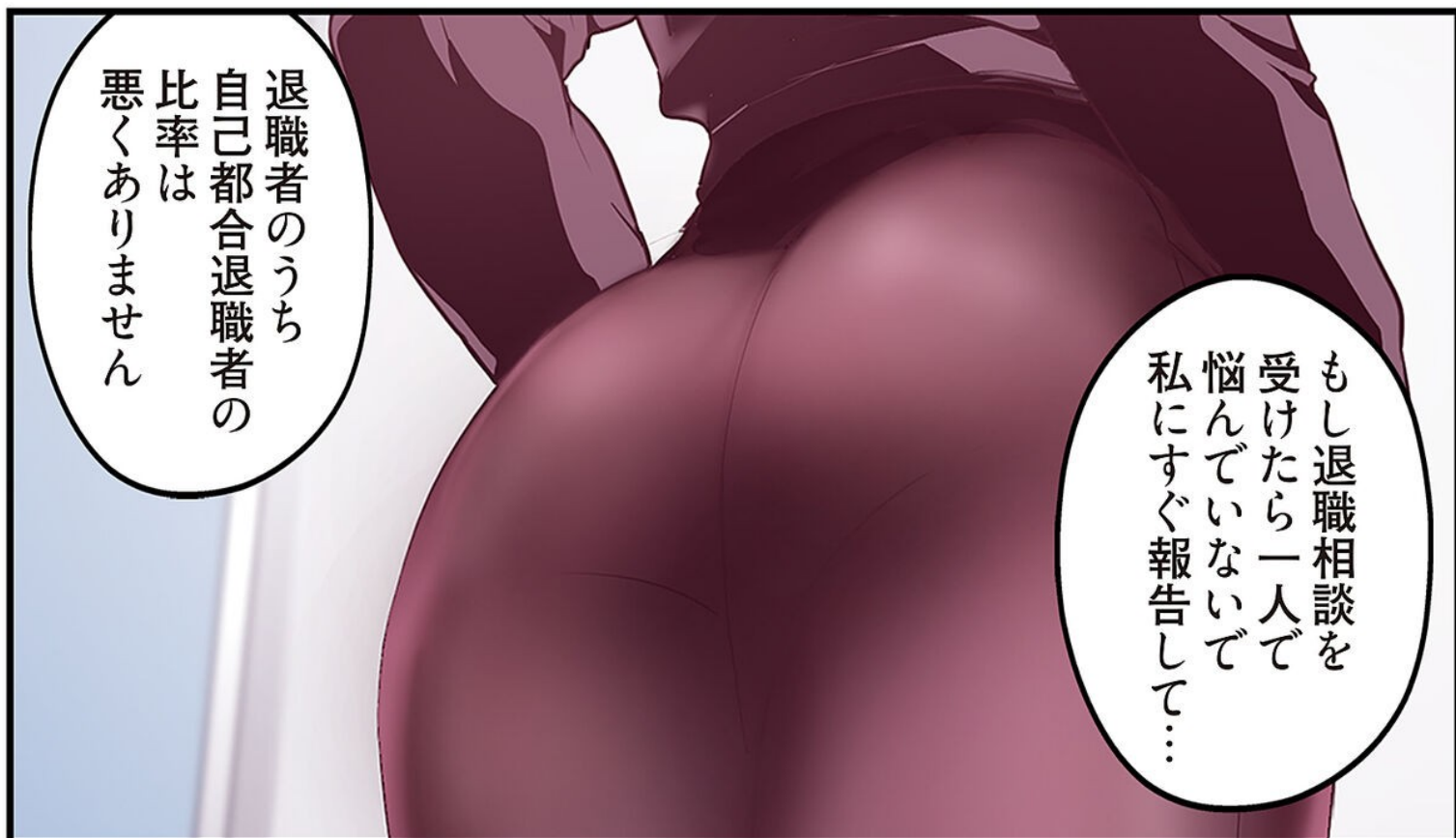
第4話 亀裂

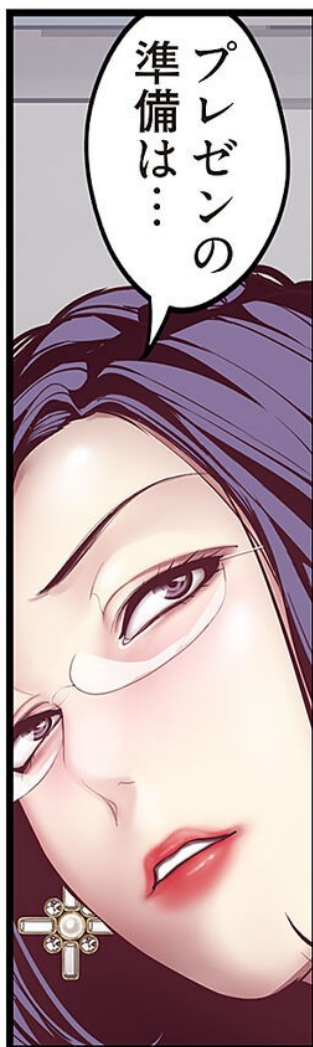
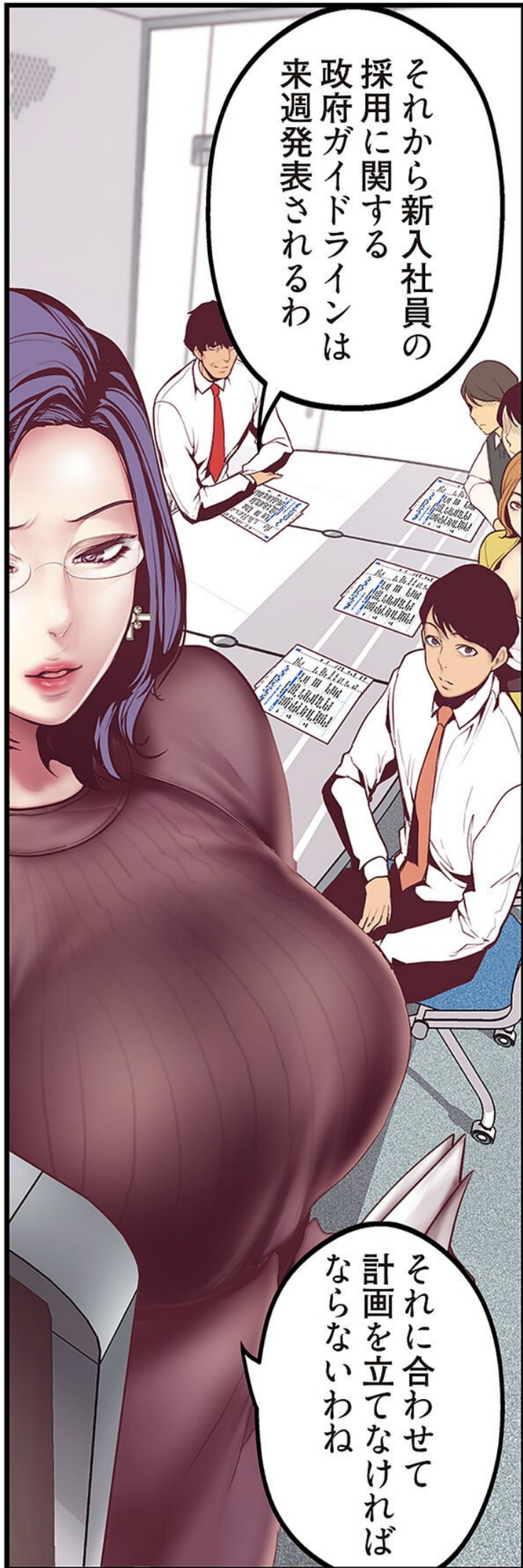


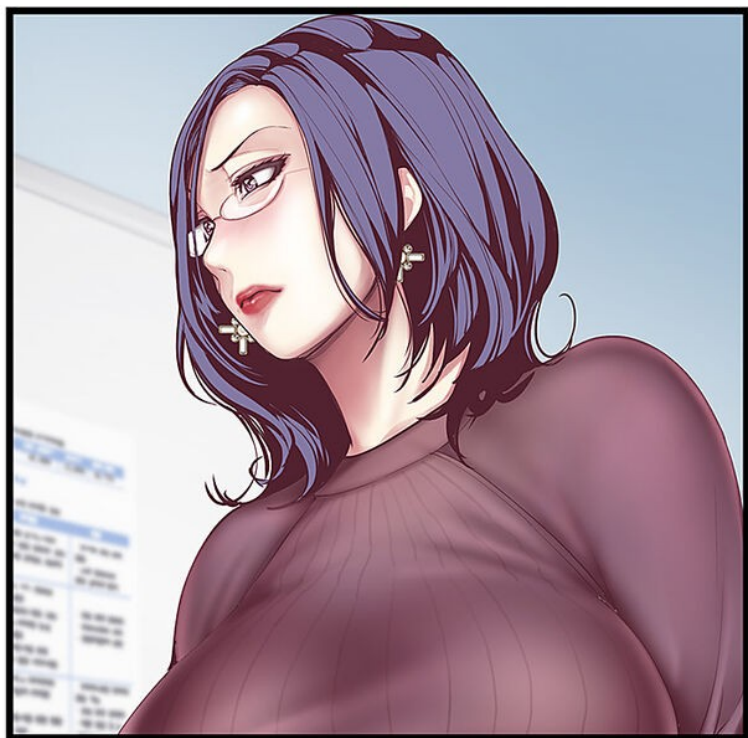
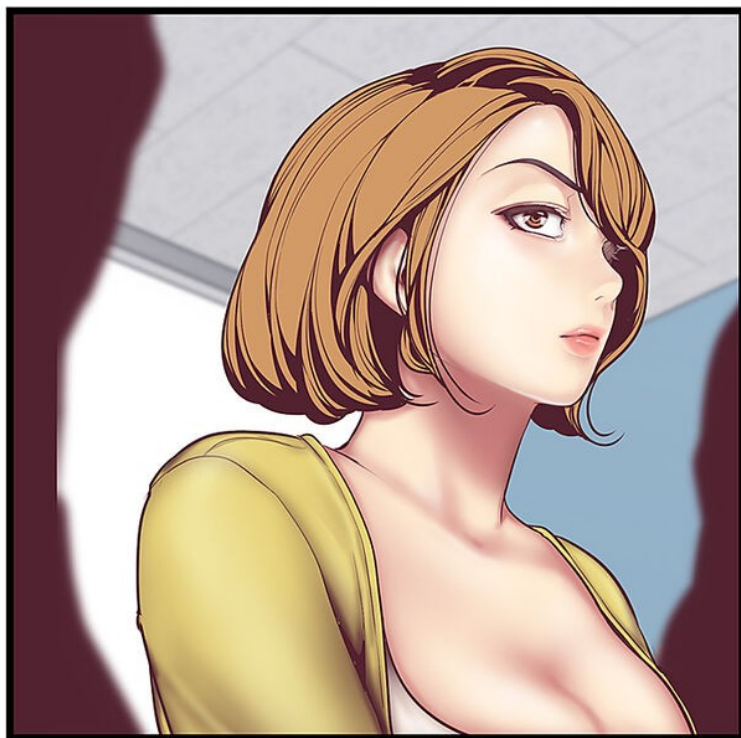
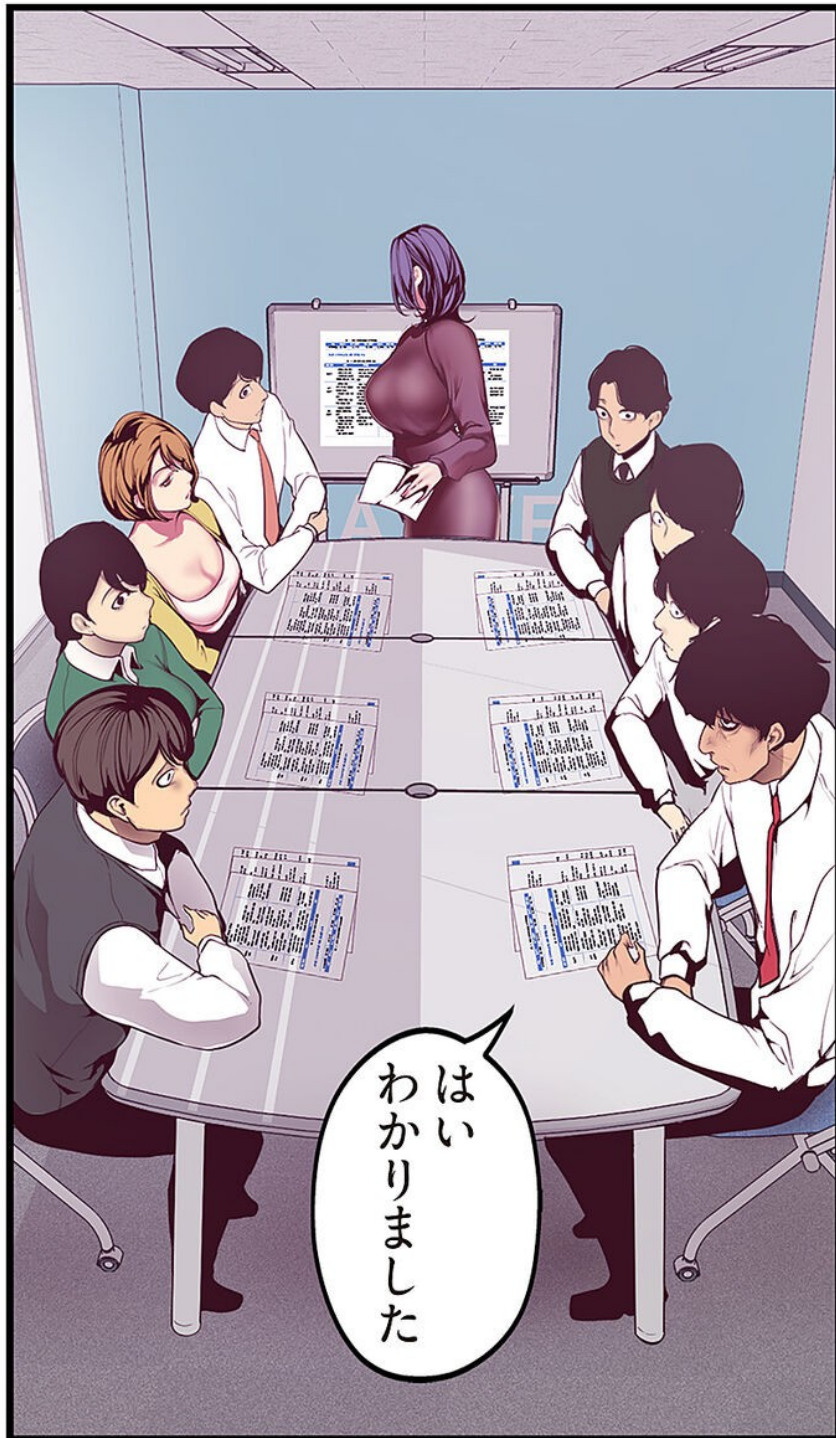


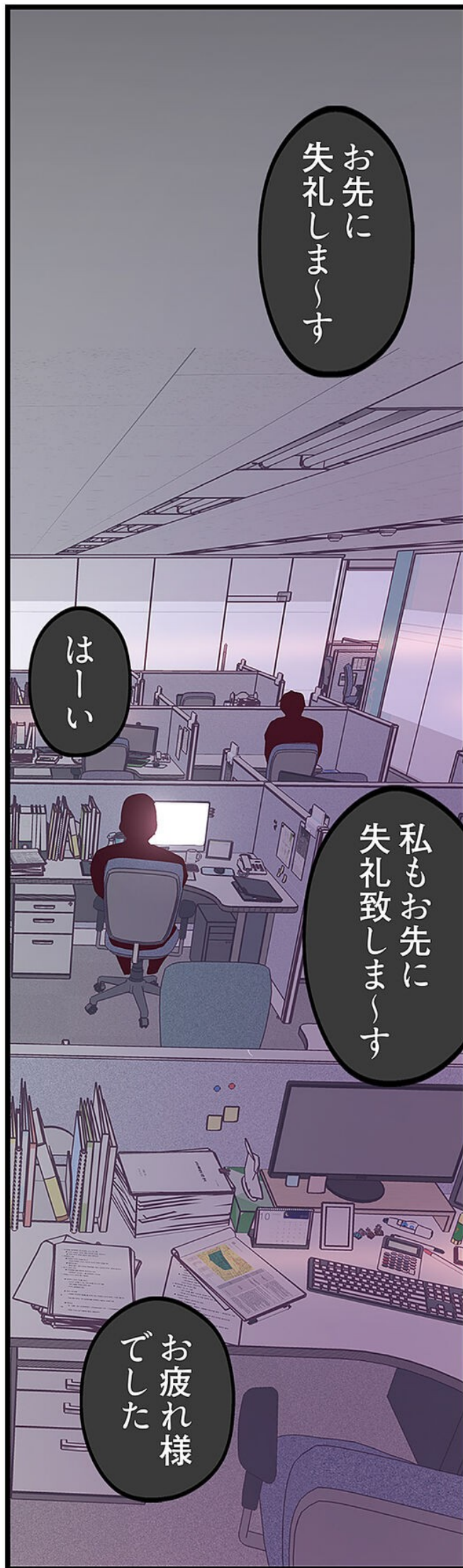
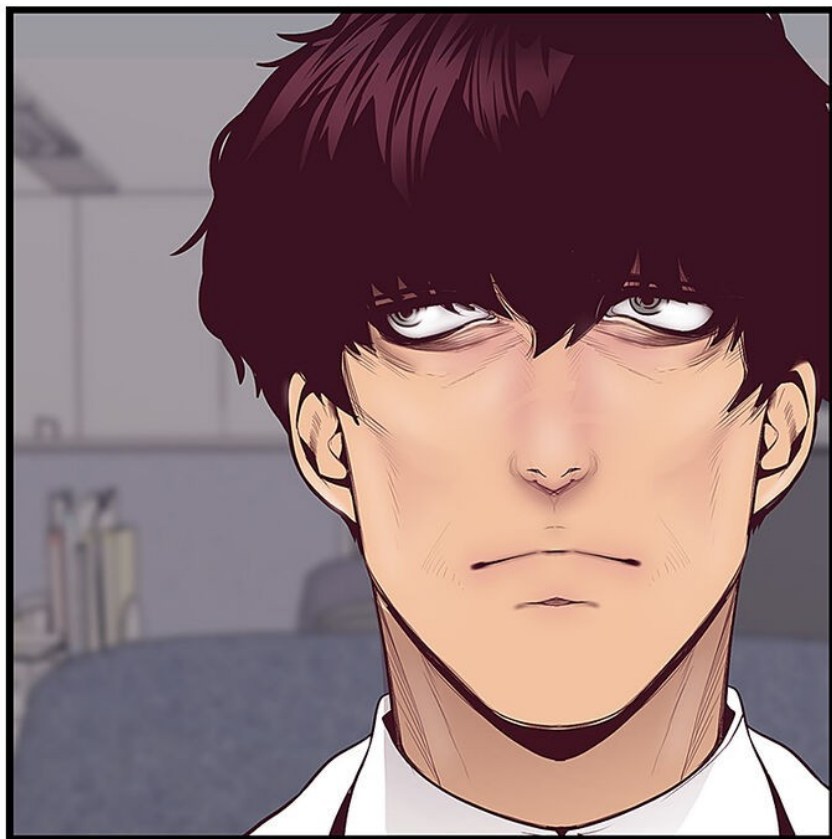










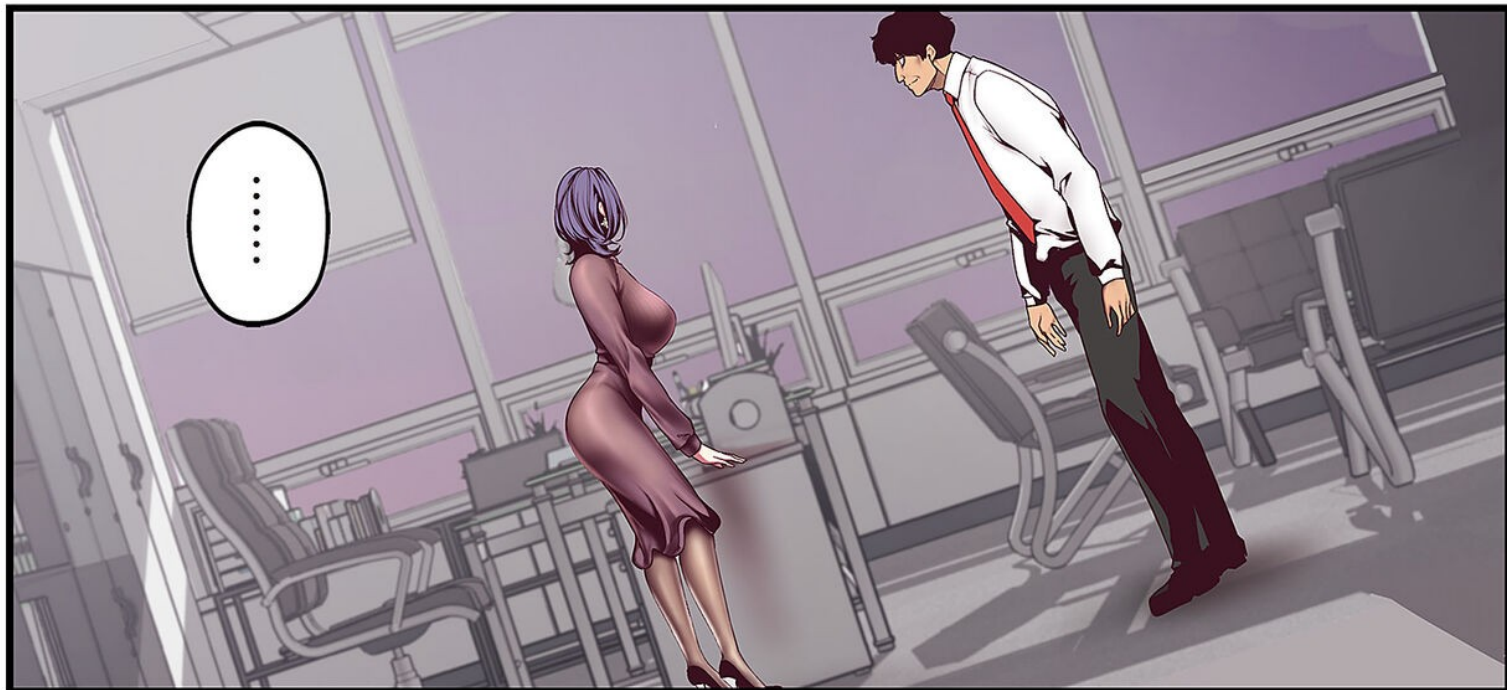
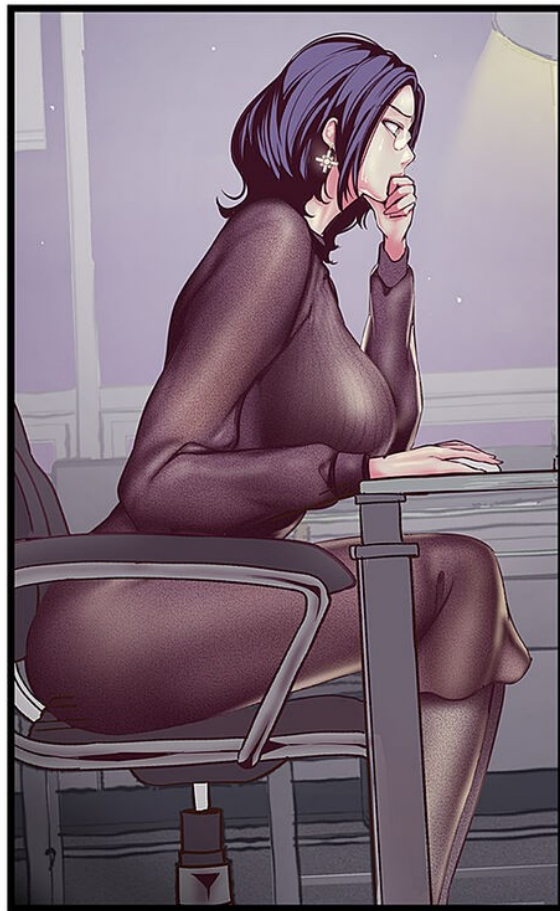
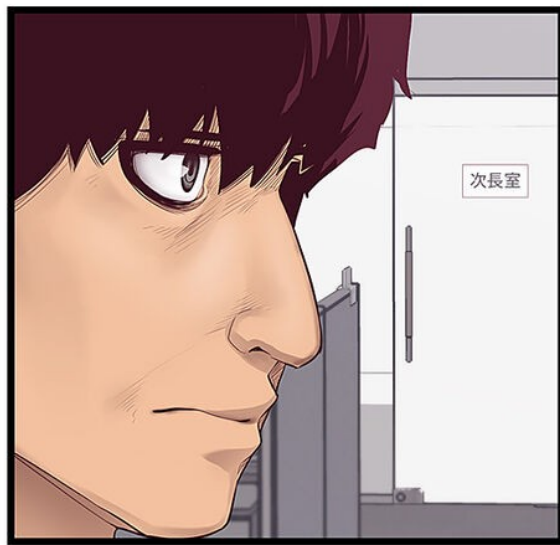
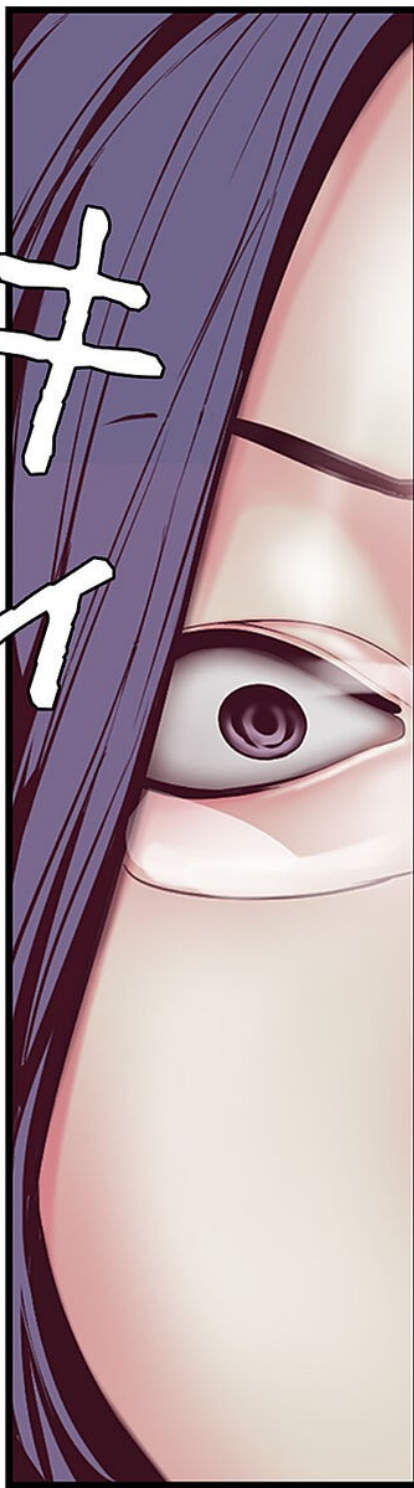
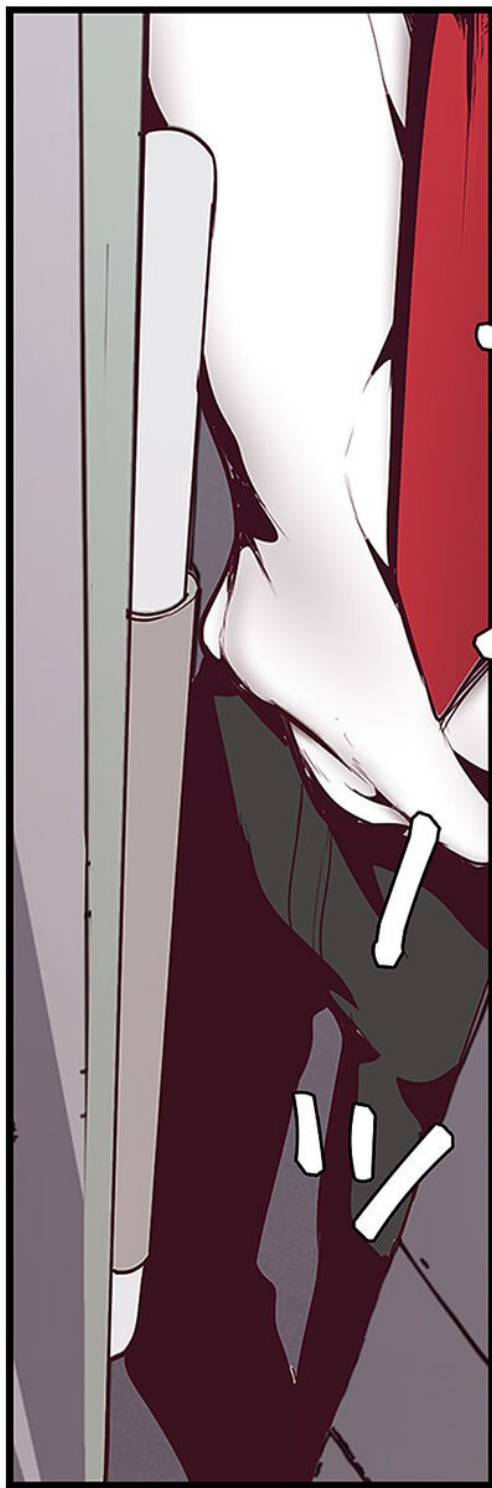


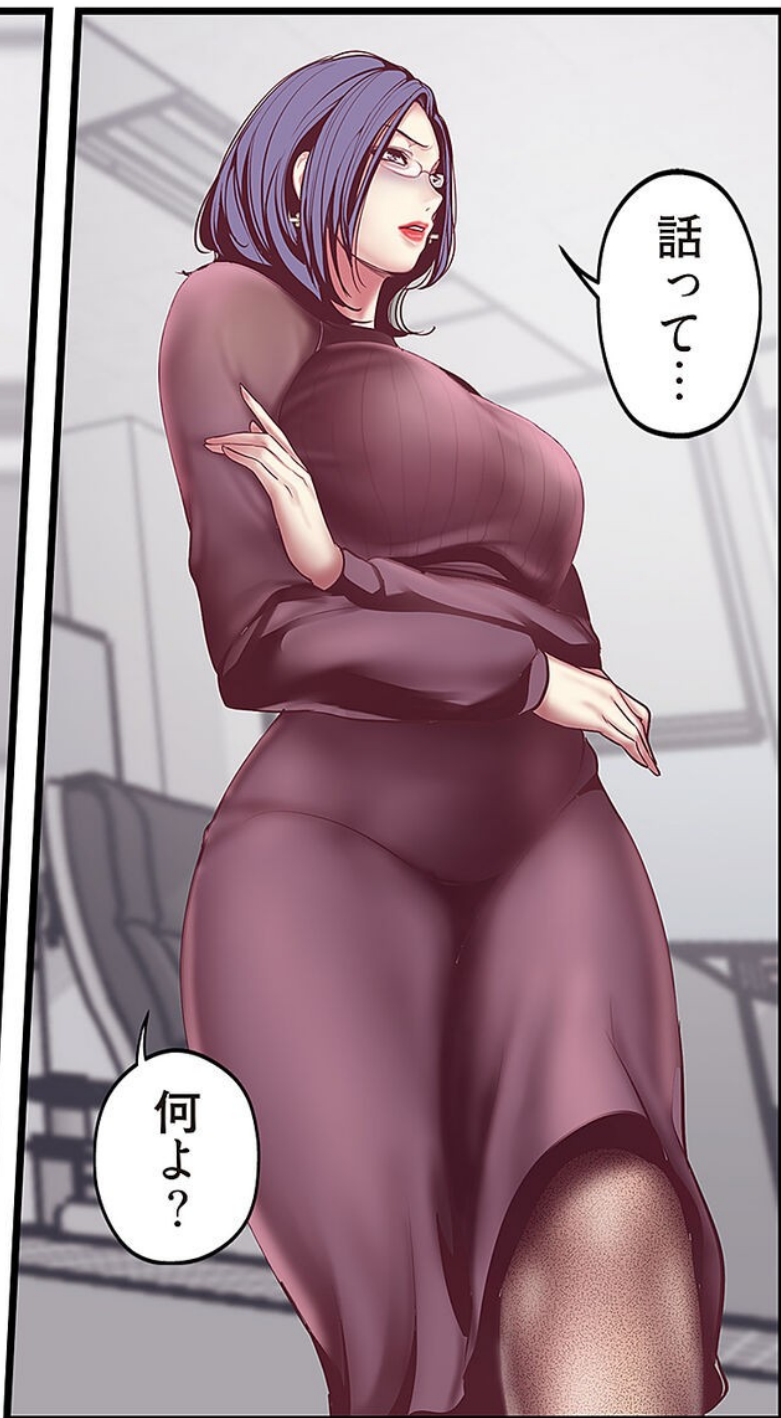
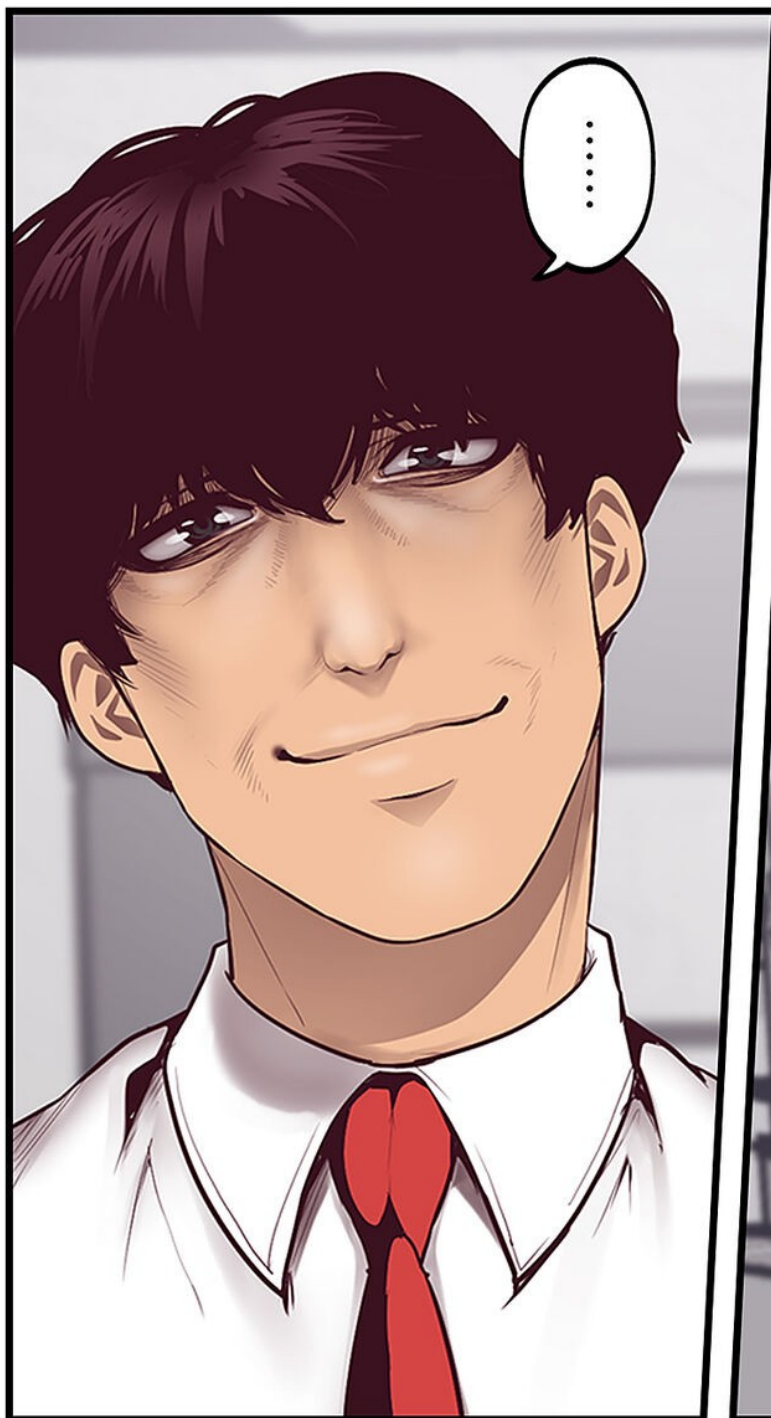
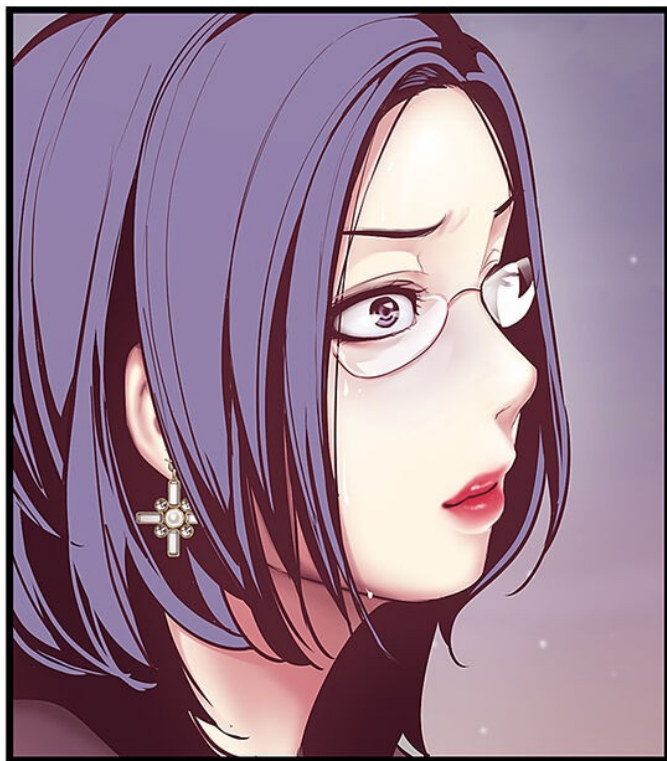
お先に
失礼します

はい

私もお先に
失礼致します

お疲れ様
でした



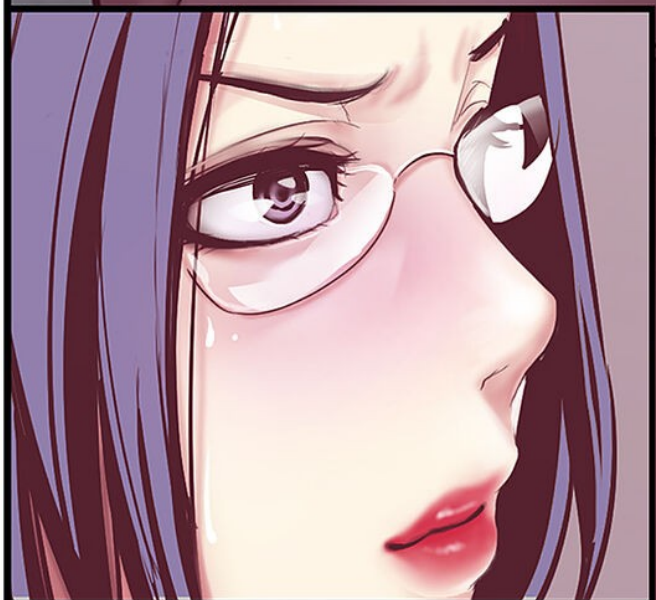


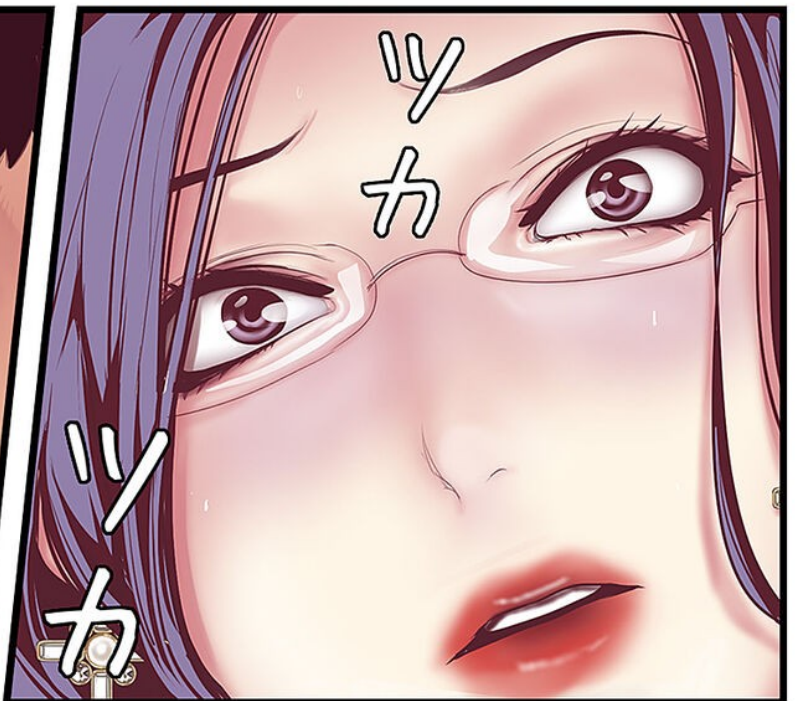
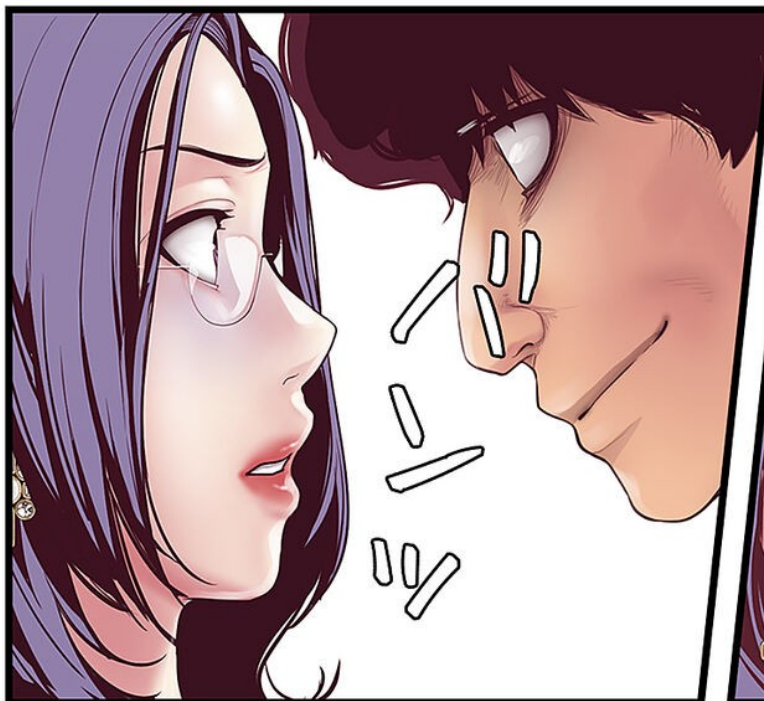
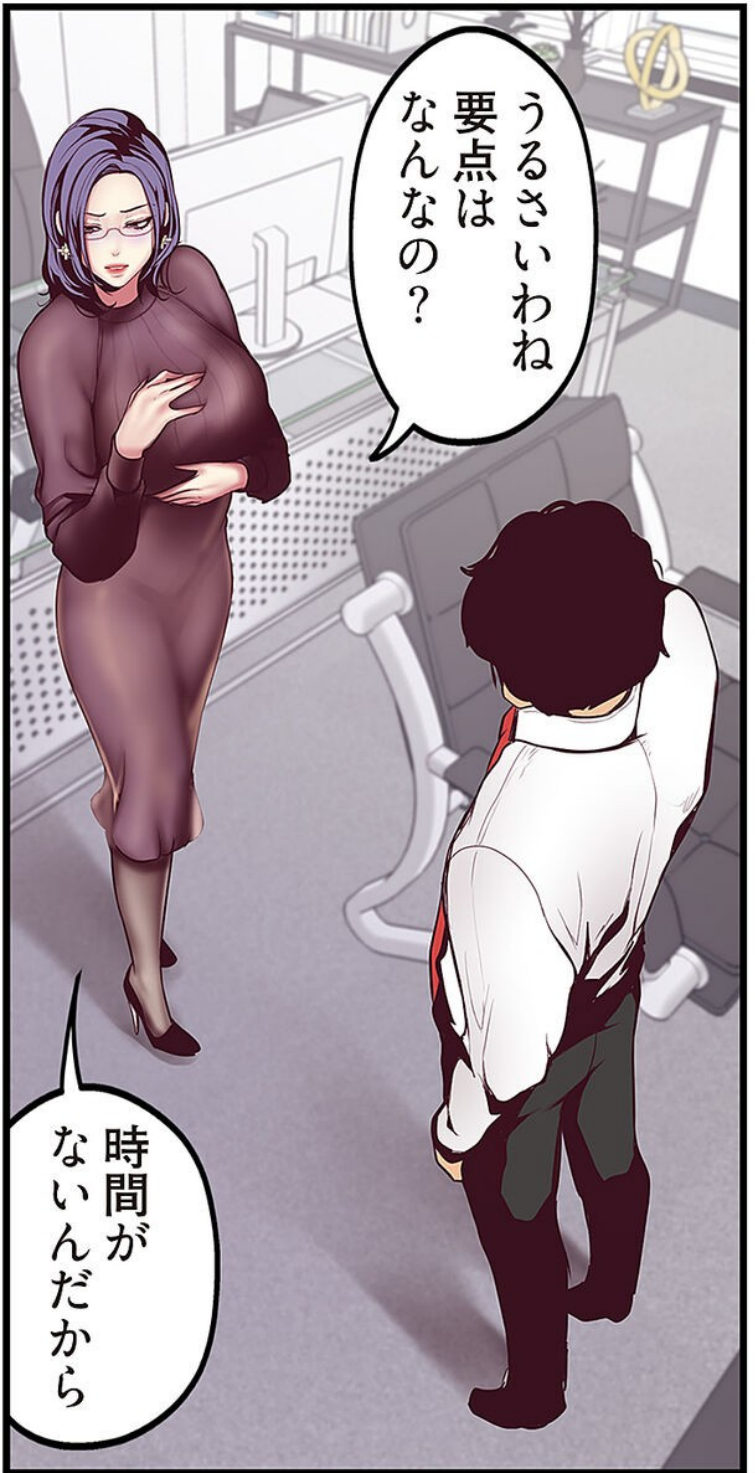
A woman with short, wavy purple hair and a large, prominent chest is shown from the chest up. She is wearing a dark red, ribbed, long-sleeved top. Her expression is somewhat neutral, but her eyes are looking down. The background is a blurred cityscape.

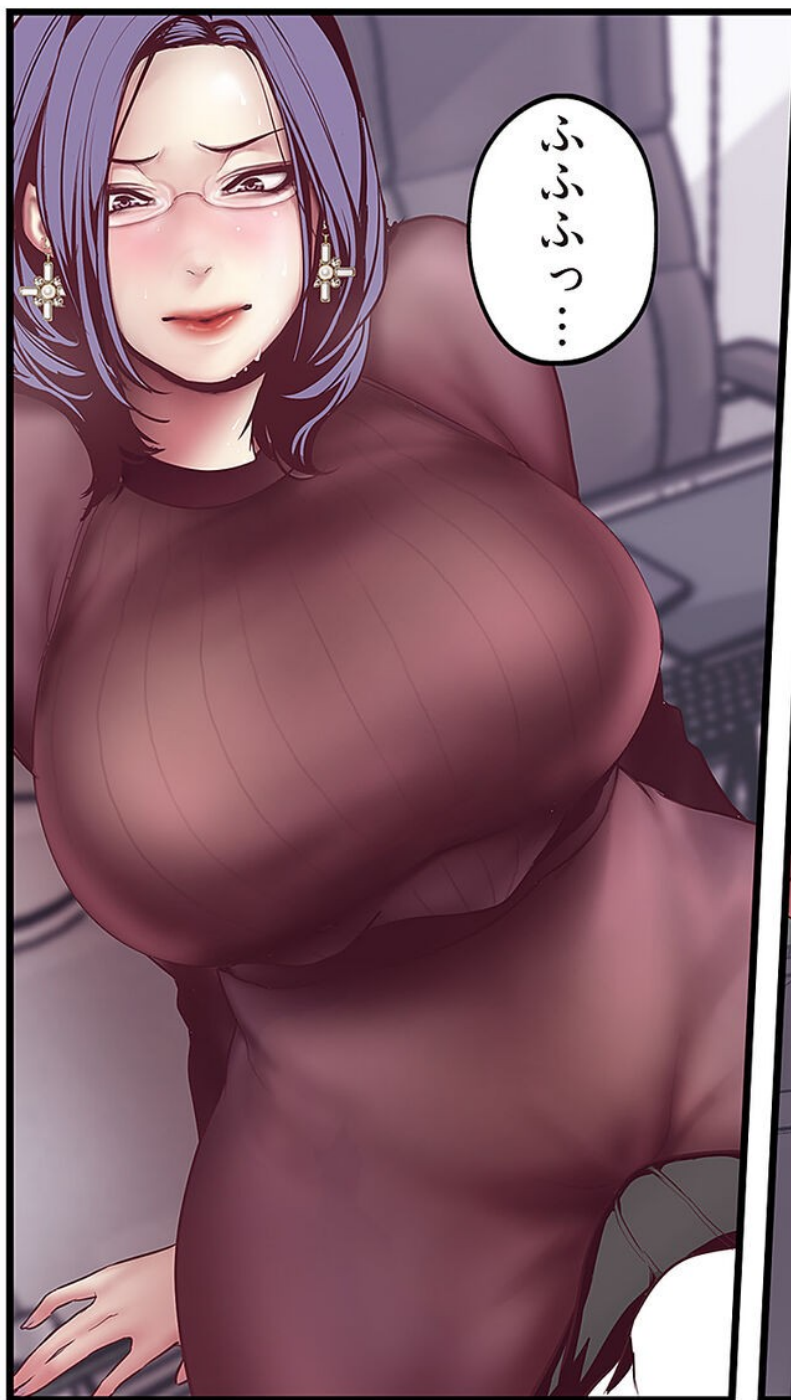
前から
気になって
いたんです

その
胸で…

どれだけ多くの
男たちの人生を
台無しにして
きたのか







ふふふっ...



話だけで
済ませるわけ
ないだろ？



また
それか

悪口が
ワンパター
ン
だな



へ...
変態野郎...

一体何が
望みなのか
...？



なぜ
こんな目に
遭わなきゃ
いけないん
でしようね？

こんな扱いを
受けるほどの過ちを
犯したんですかねえ

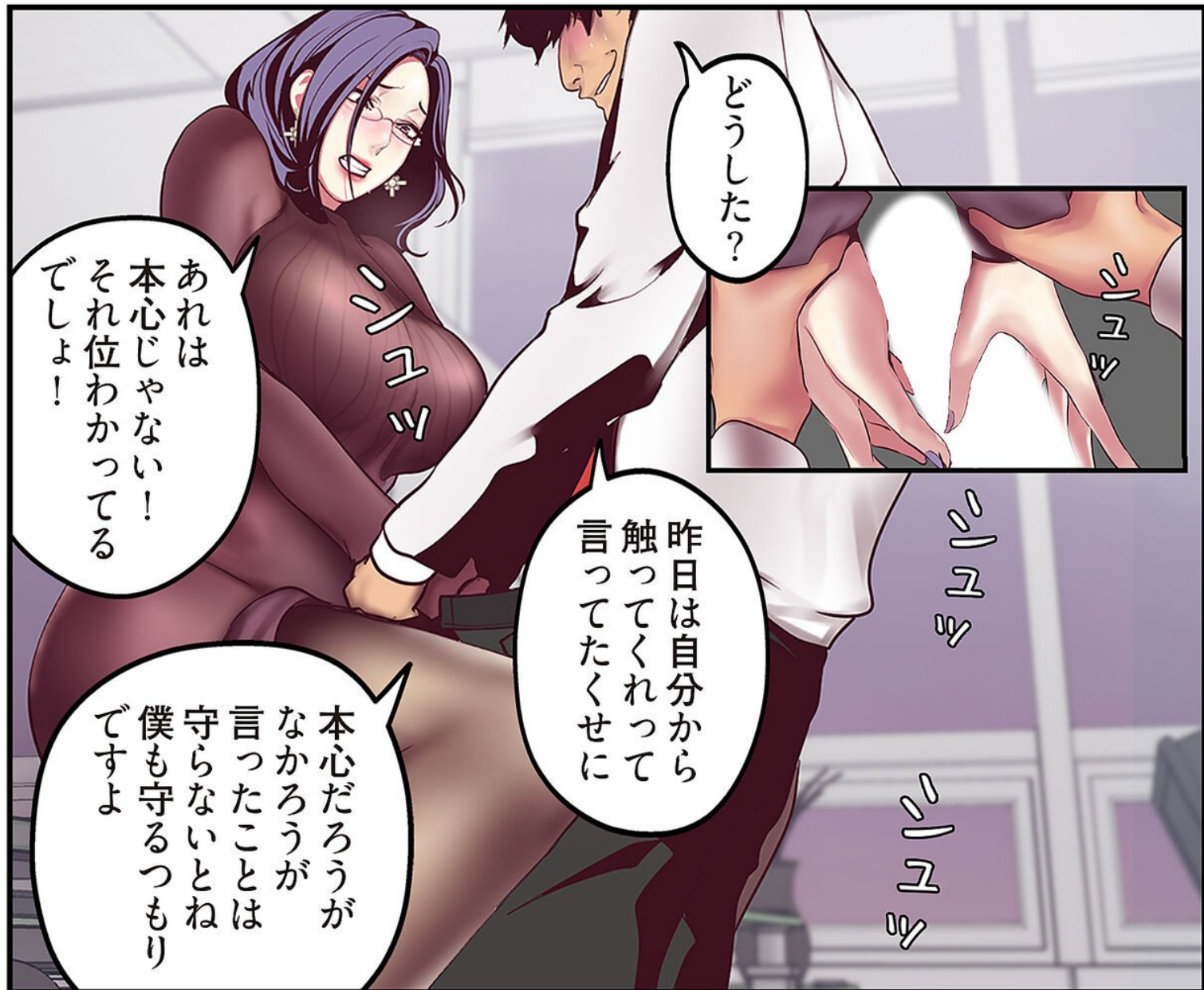
多少
嫌われるのは
仕方ない

だからと言って
盗撮犯は
ないだろ!!

……

無試験で
特別入社したのは
事実ですからね





でももし
イヤだと
おっしゃる
場合は…

ご存知
ですよ？

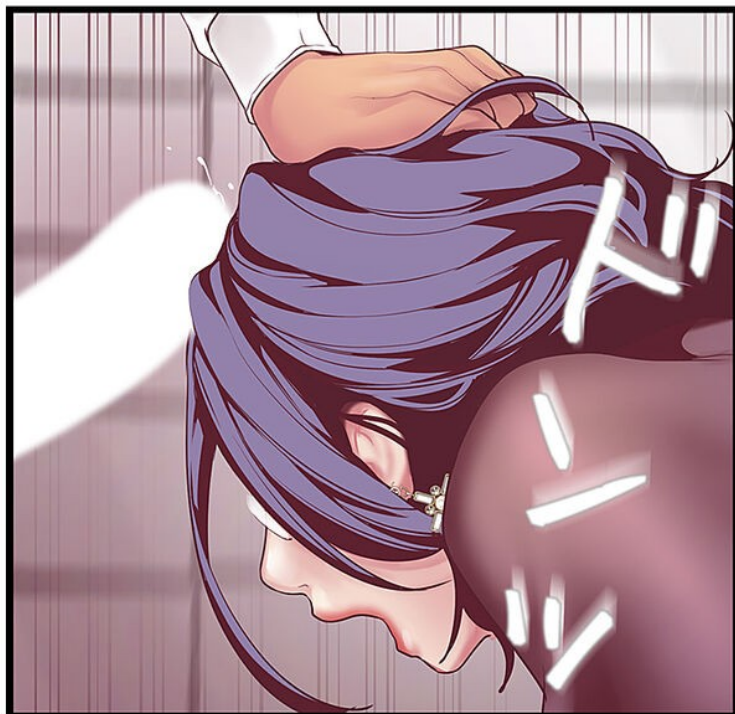
どうなる
のか…

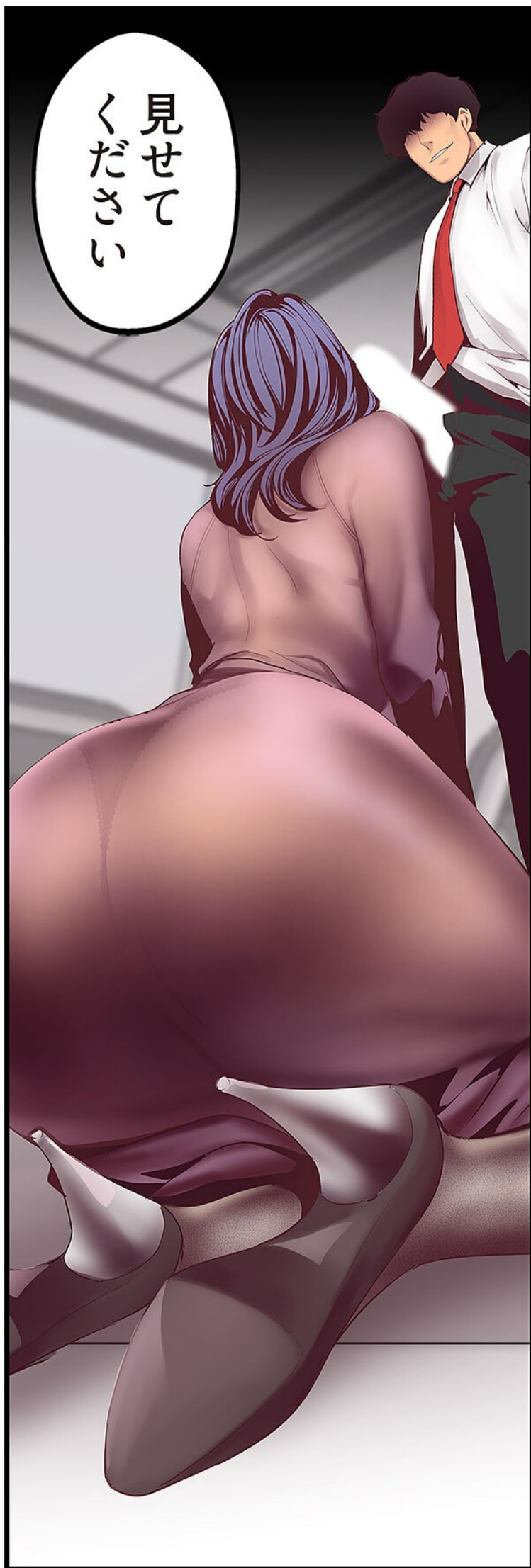
……

今日一日中
このことばかり
考えていて
もう気が狂うかと
思いましたよ

これまで受けた
屈辱をどうやって
返そうかって…

じっくり考えて
みたんですけど
やはりこれなん
だろうなって



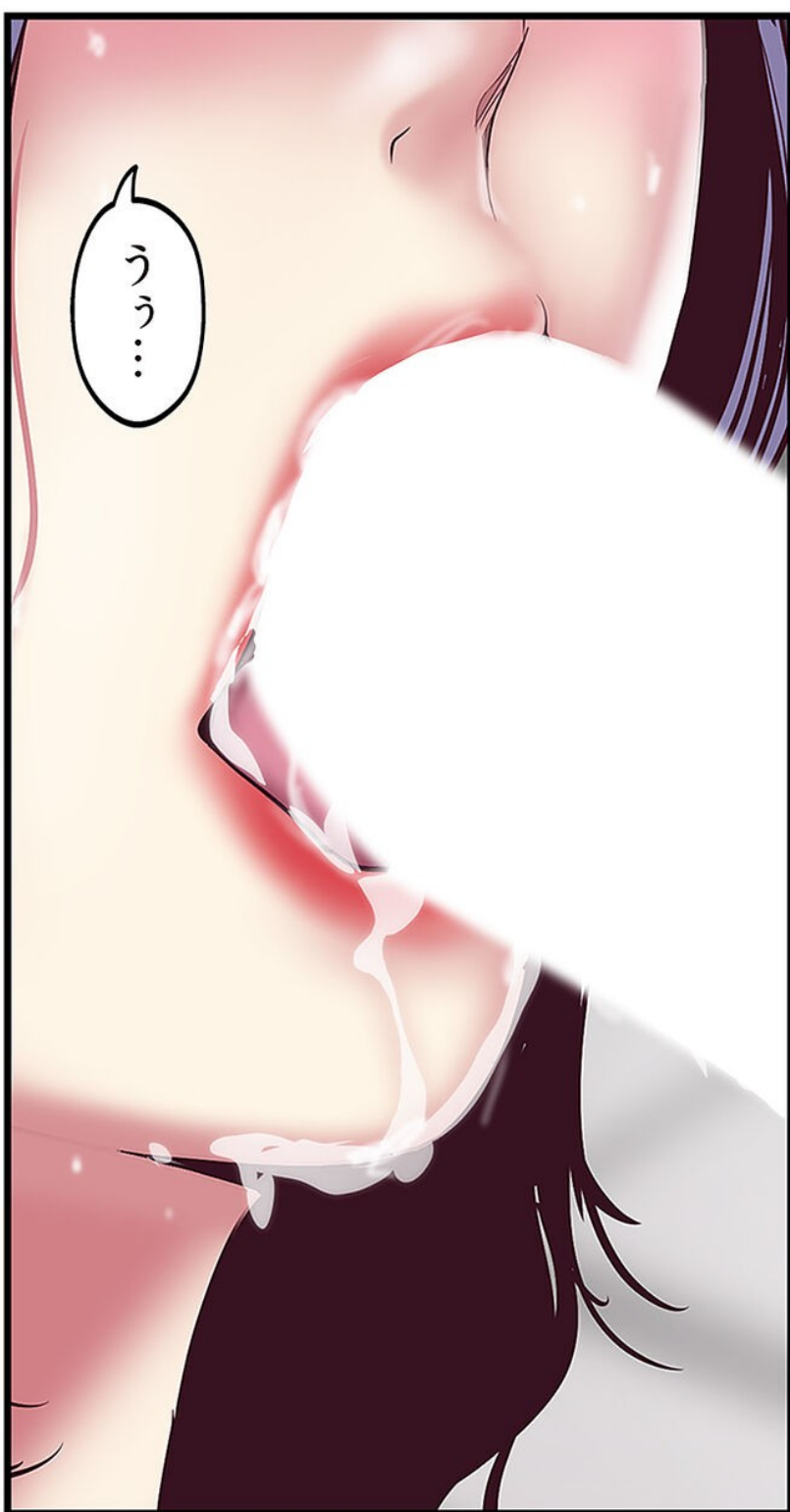
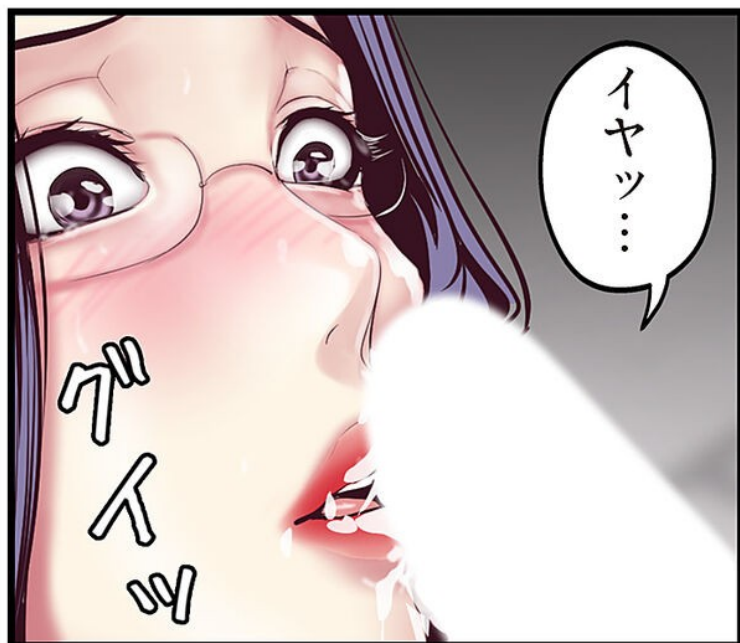


AMAZON
NEW WORLD

すばらしき
新
世界

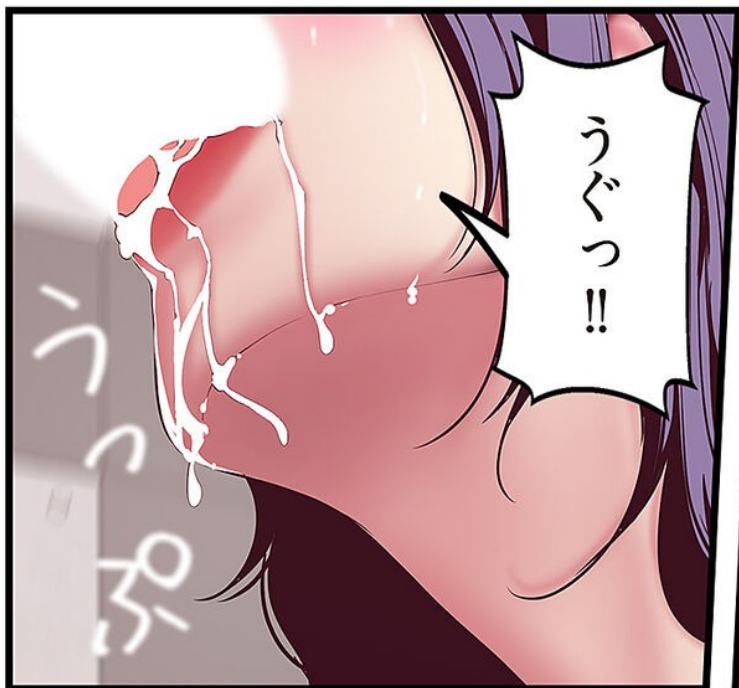
す
ば
ら
し
き
新
世
界

A WONDERFUL
NEW WORLD





う
ぶ
う
ぶ
う
ぶ



うぐっ!!



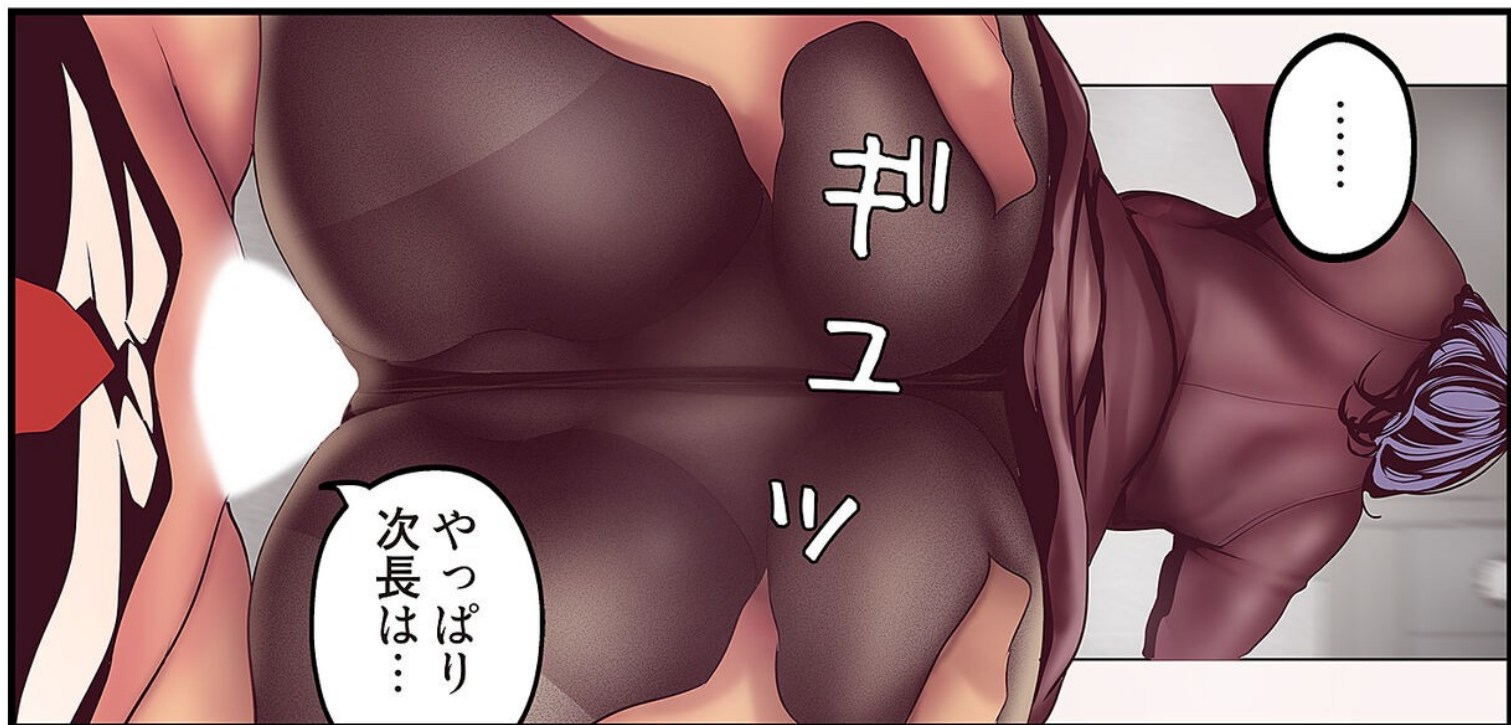
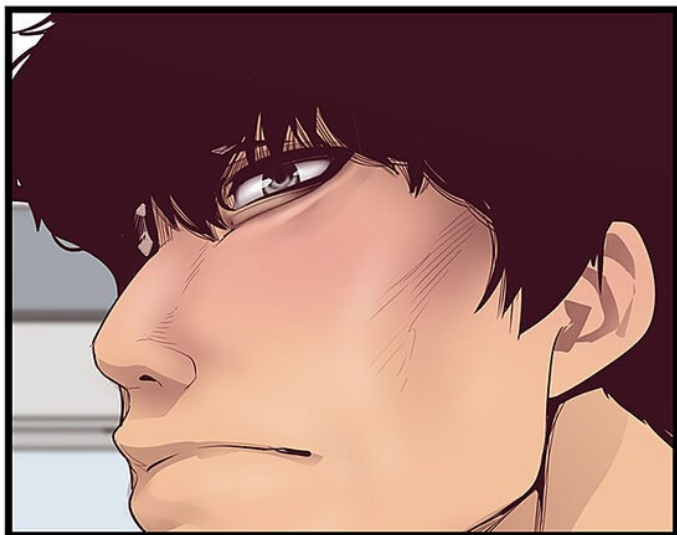
イヤ
だってば!

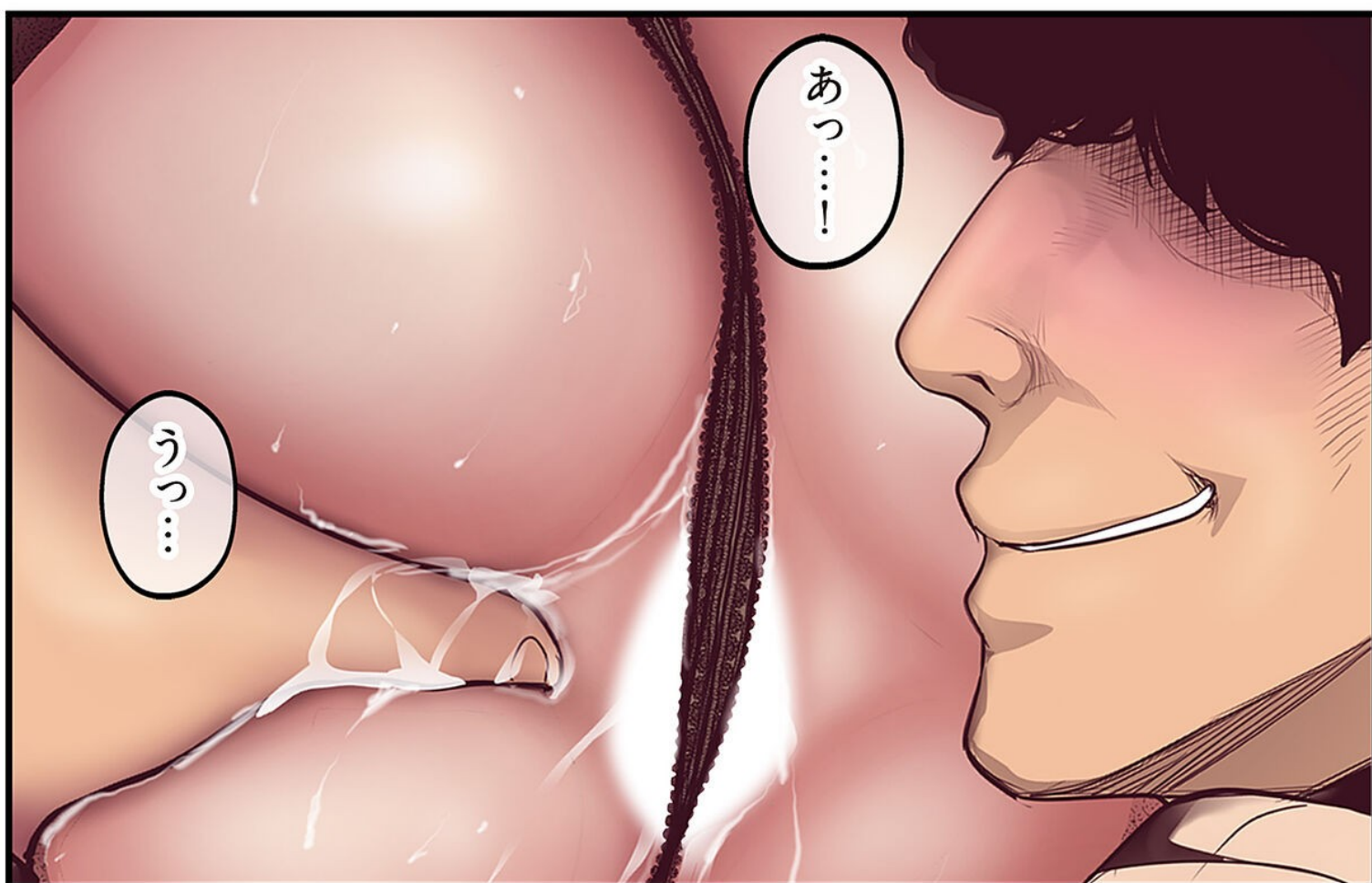
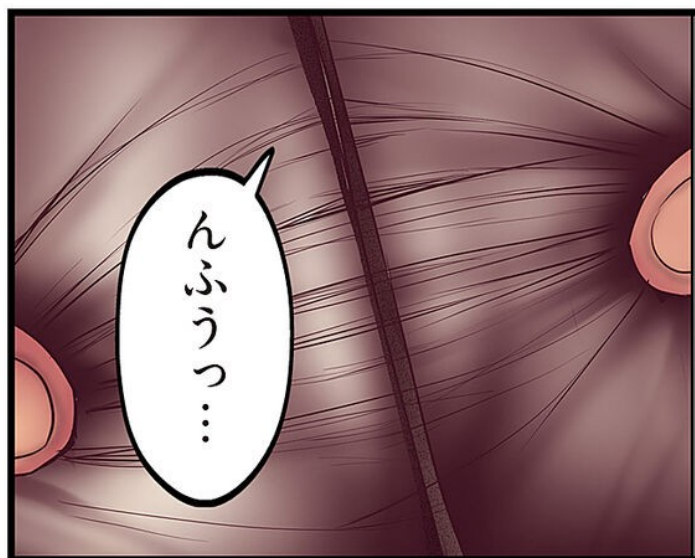
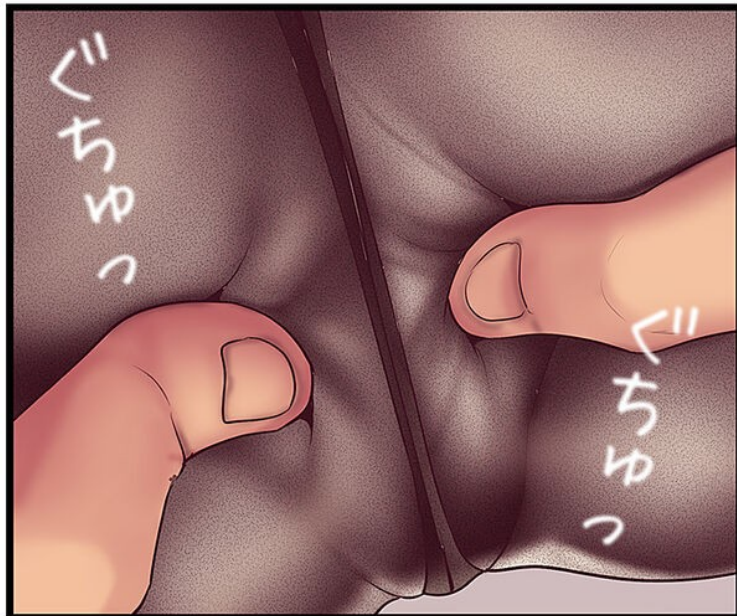


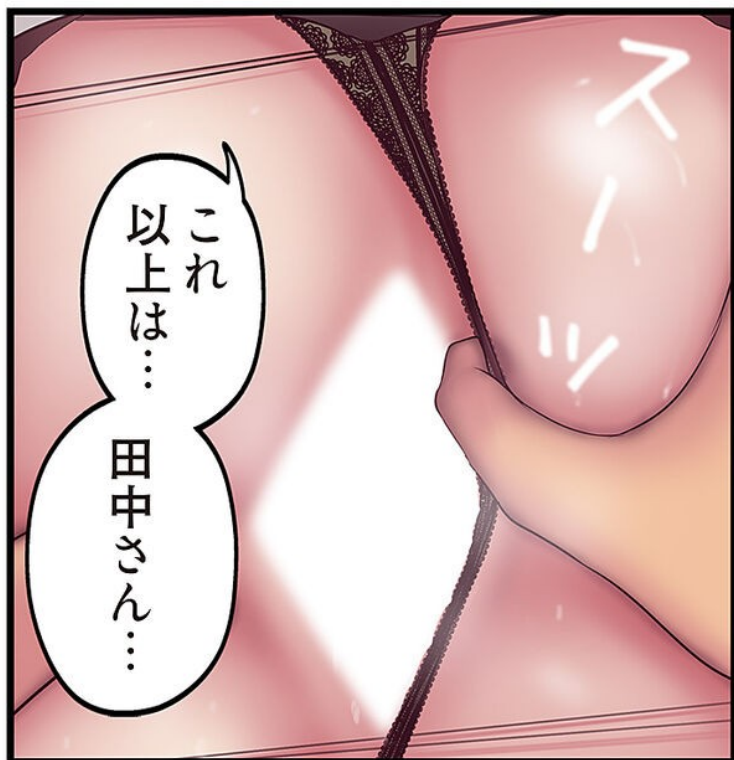
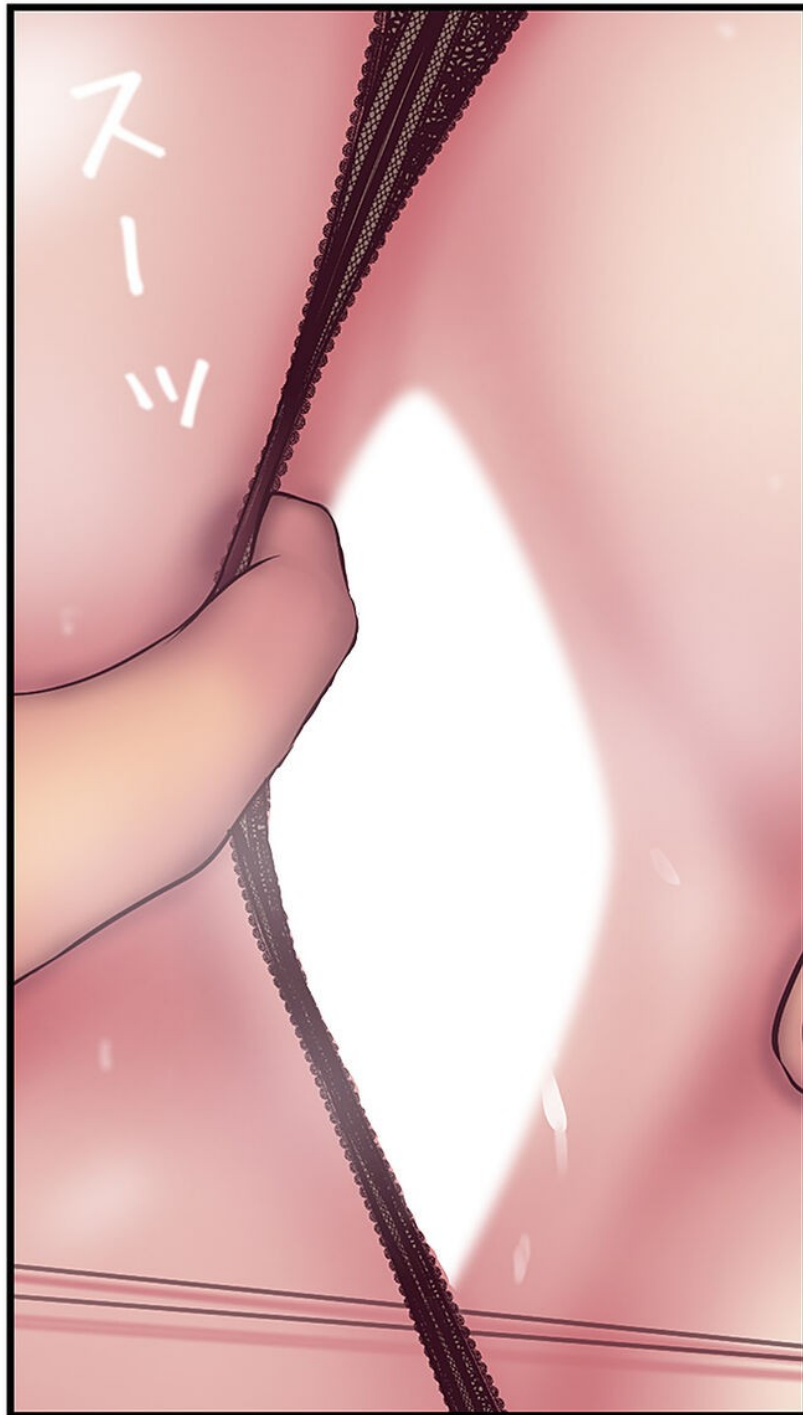
う
ぶ
う
ぶ
う
ぶ

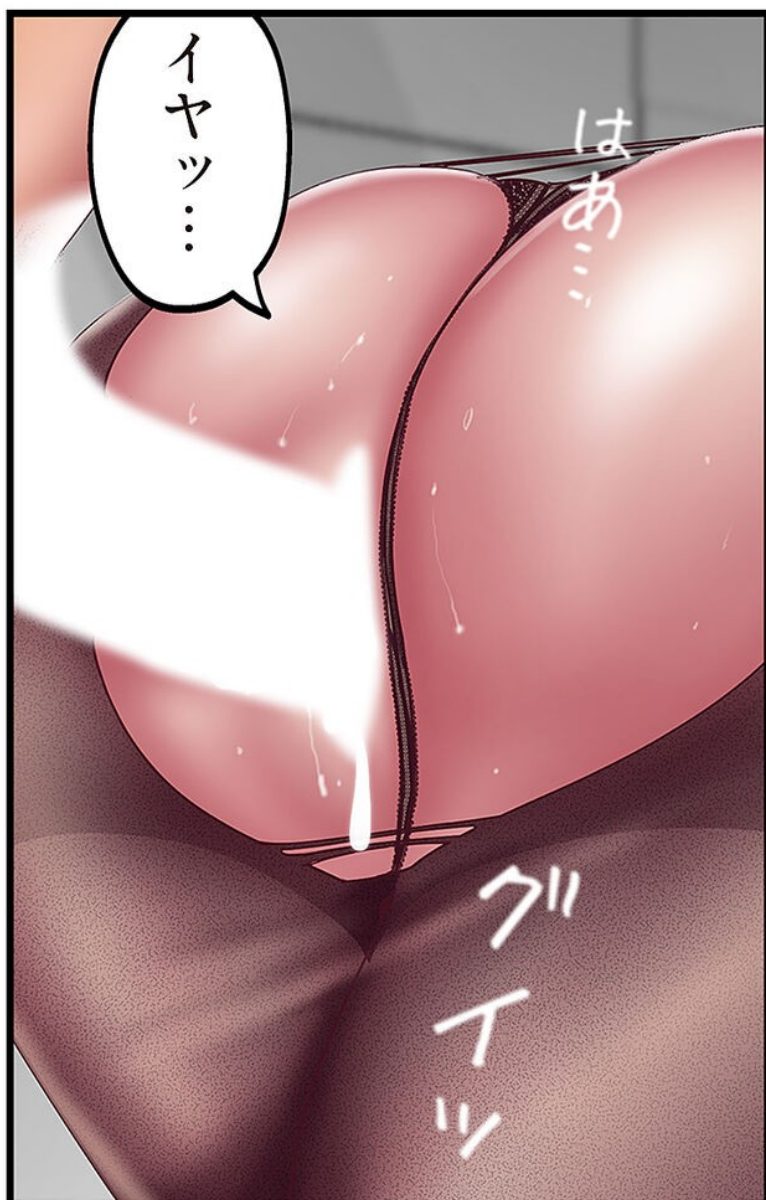
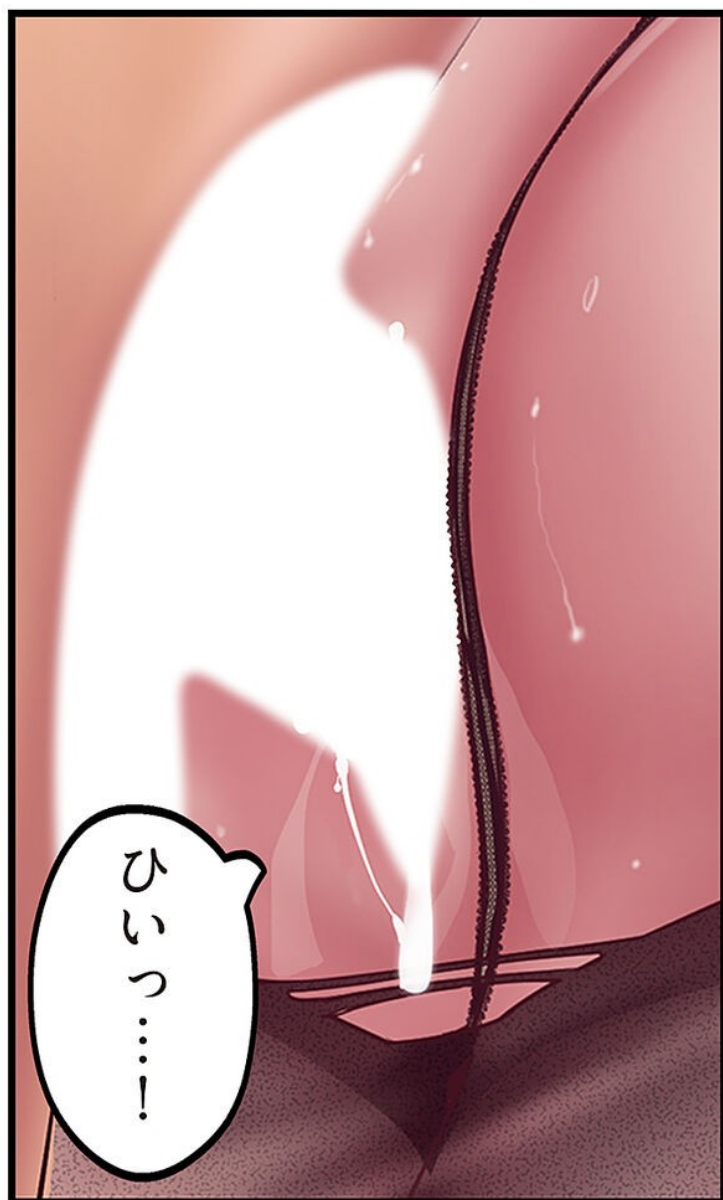
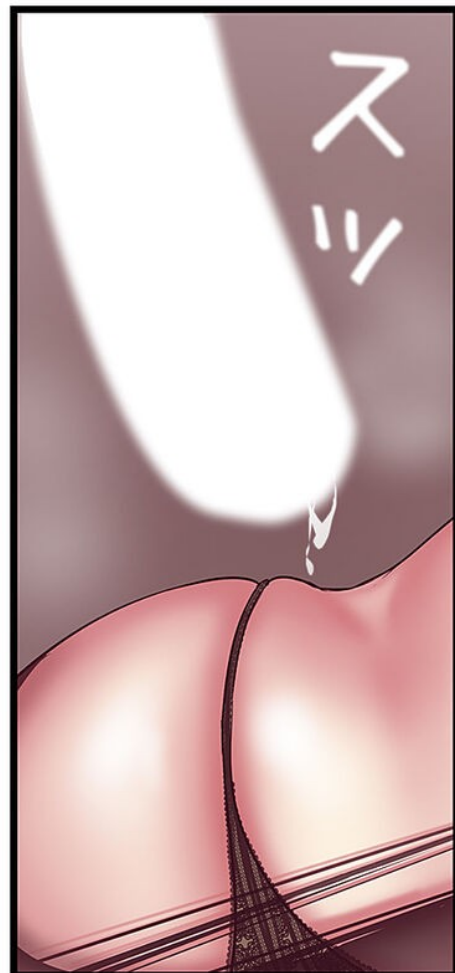
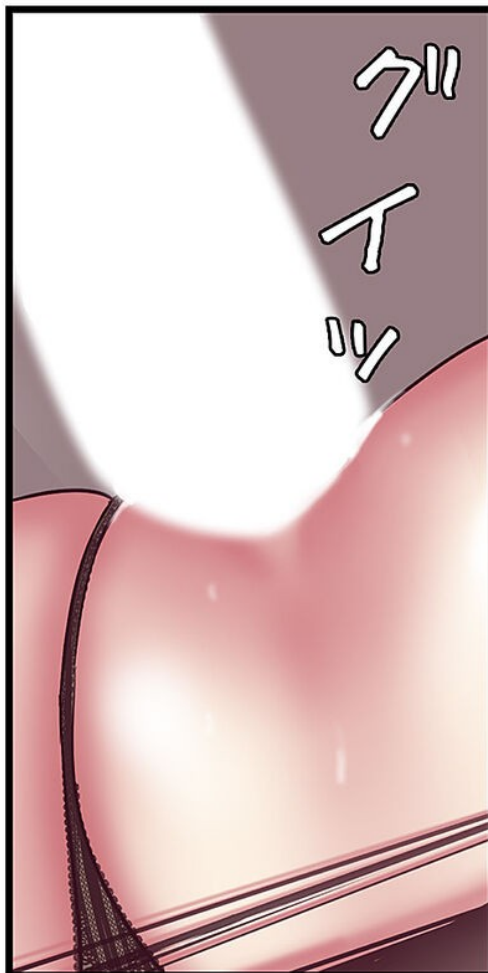
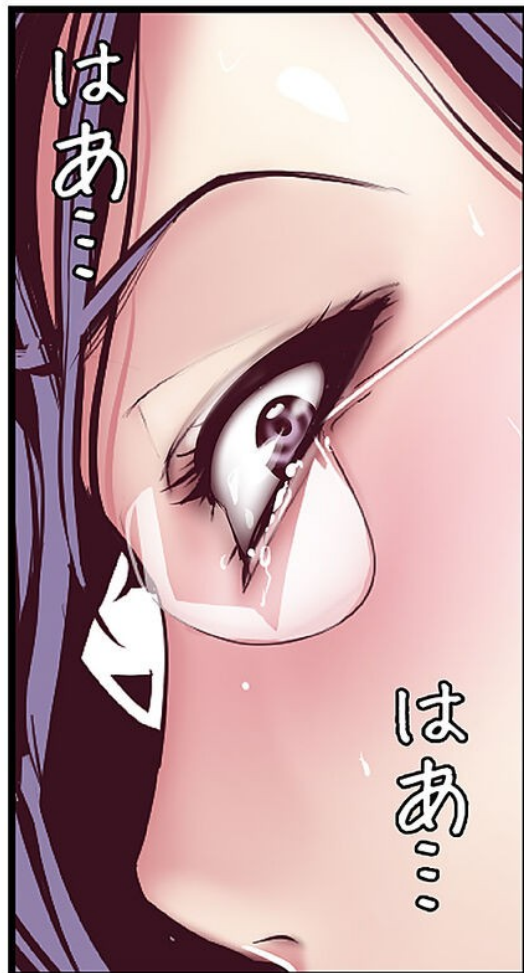
う
ぶ
う
ぶ
う
ぶ

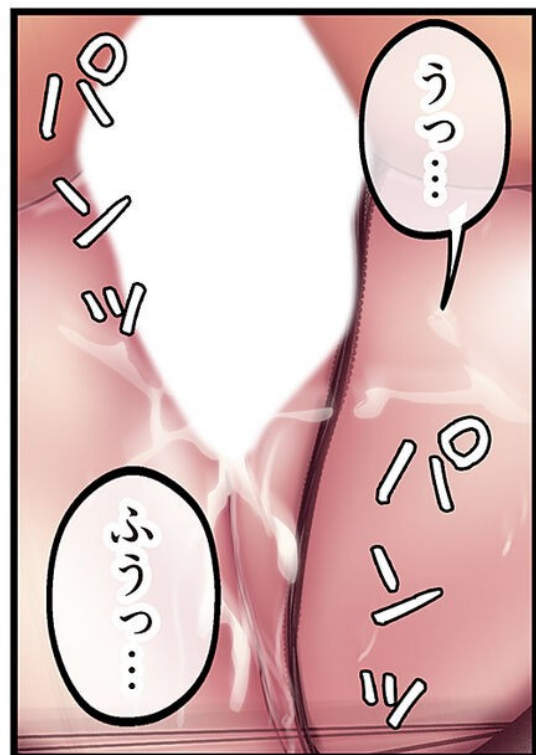
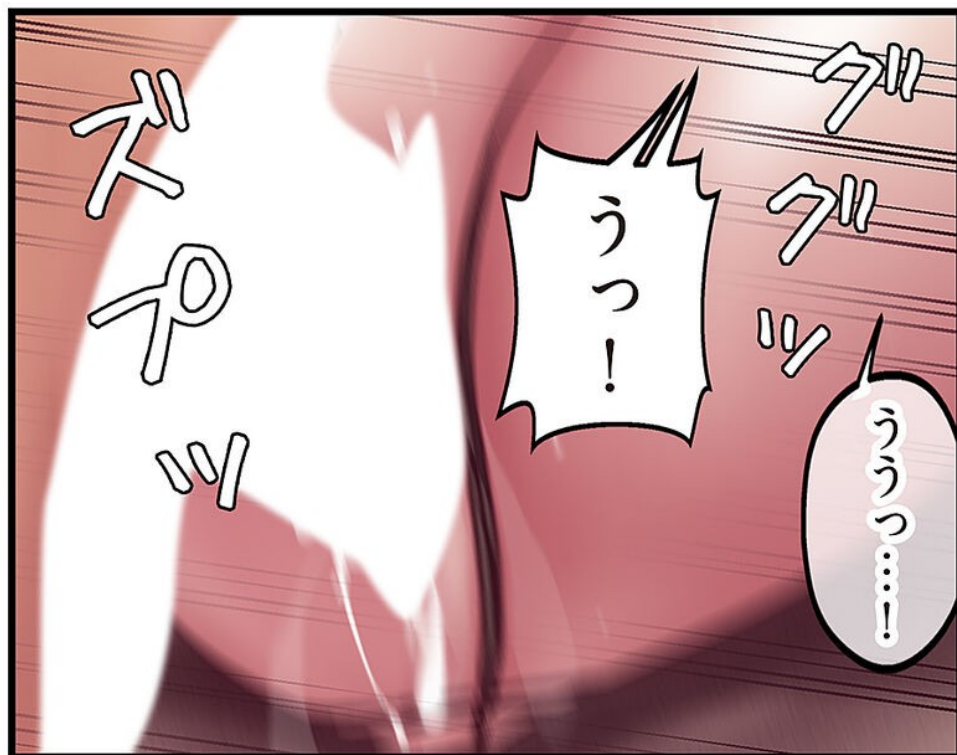
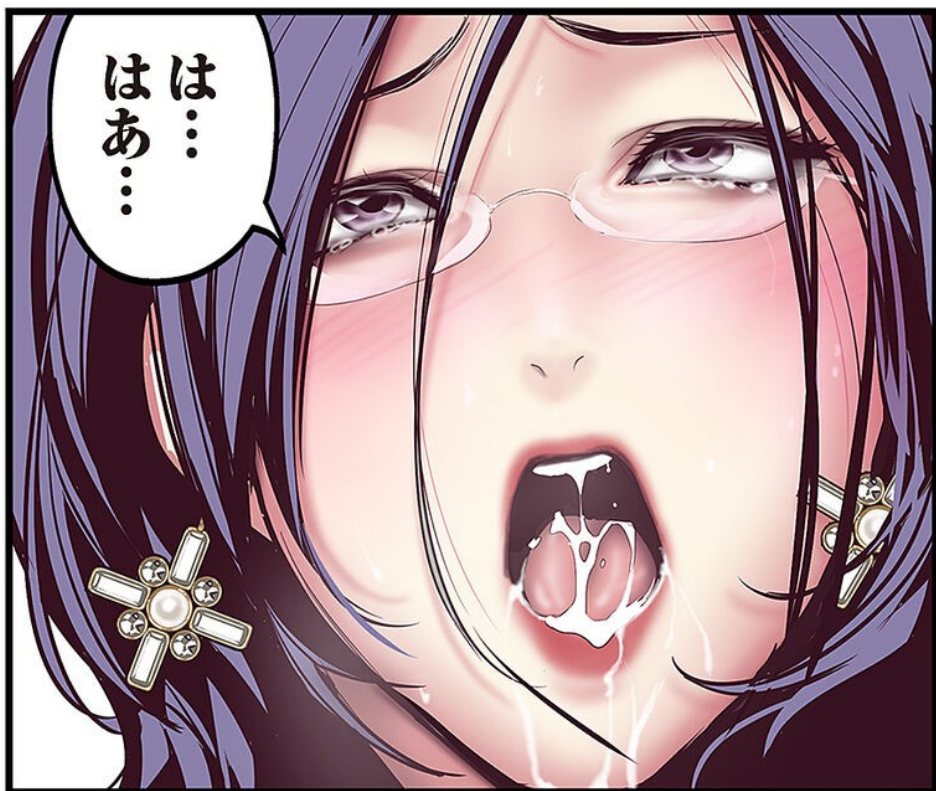
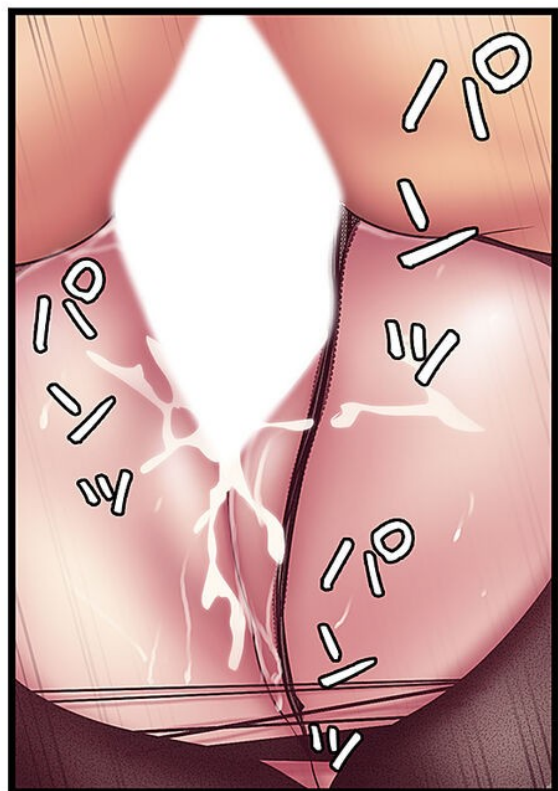
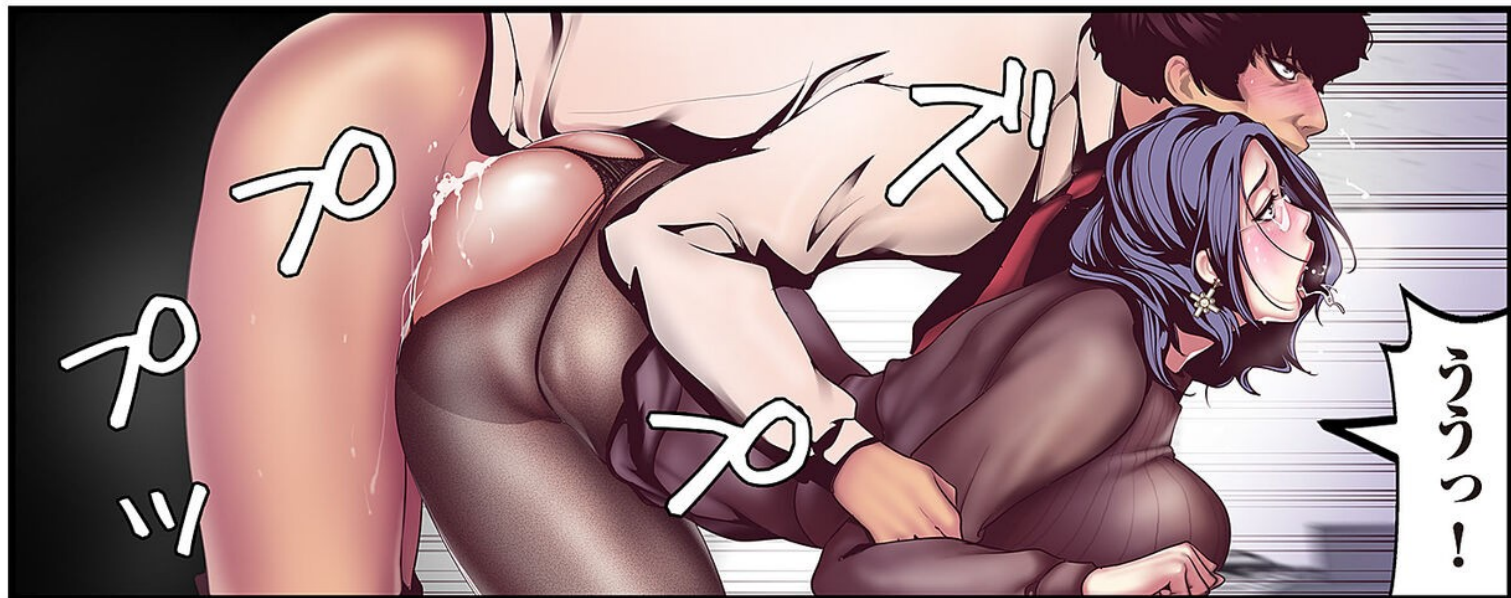
う
ぶ
う
ぶ
う
ぶ

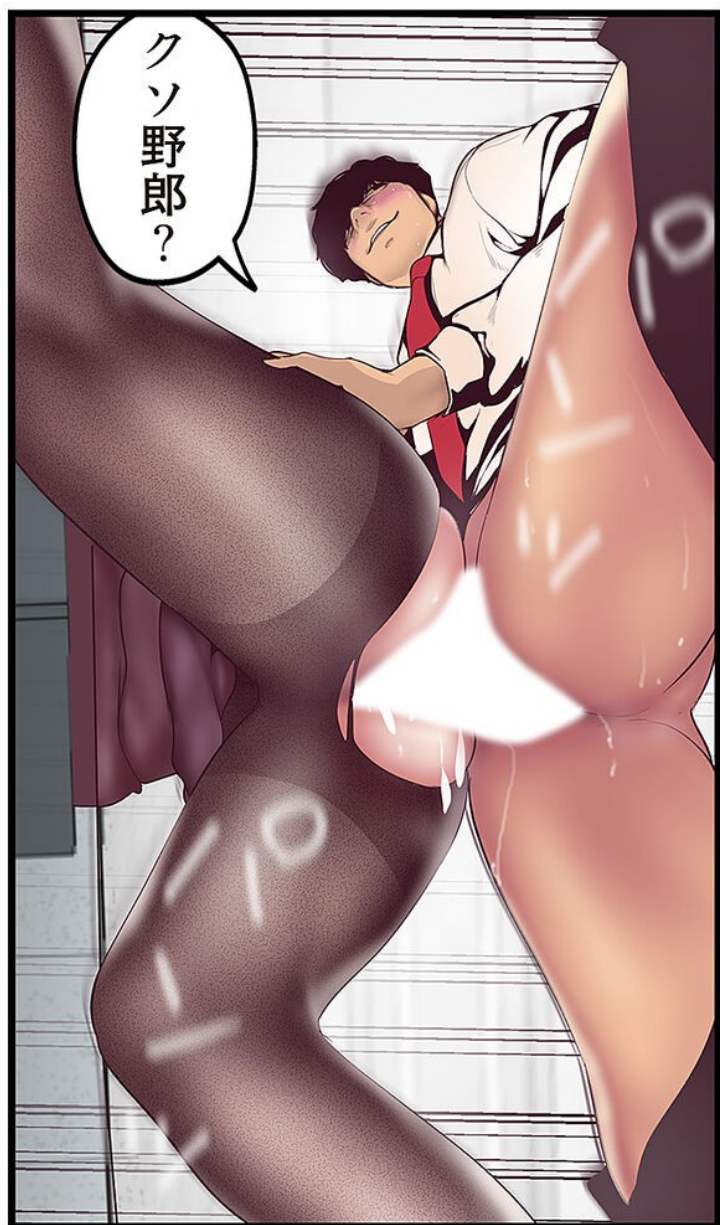


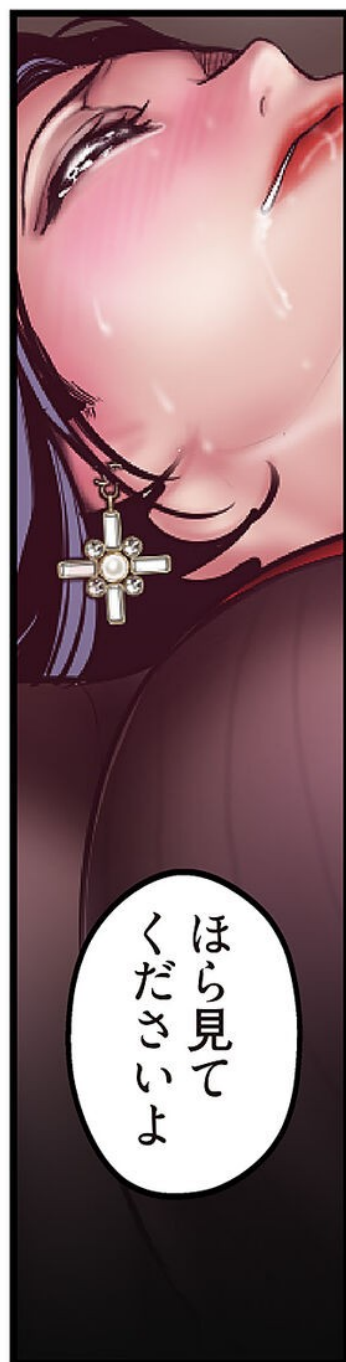
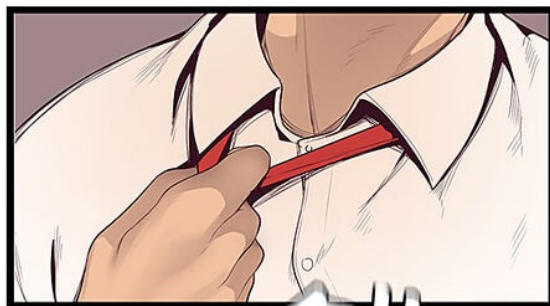
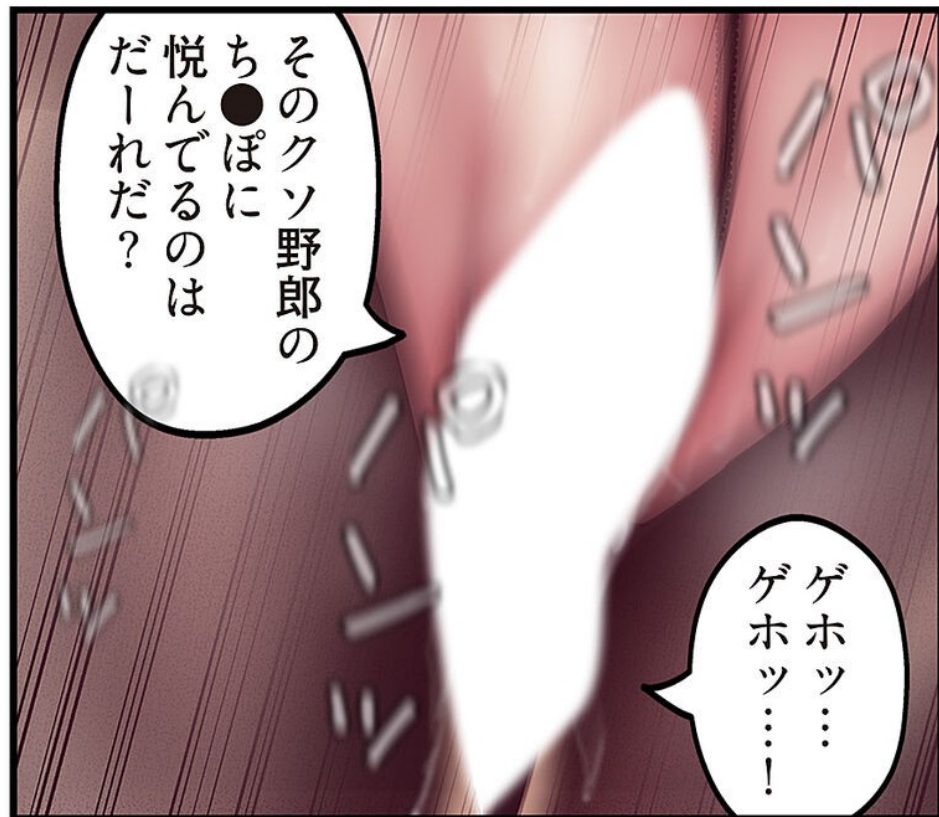








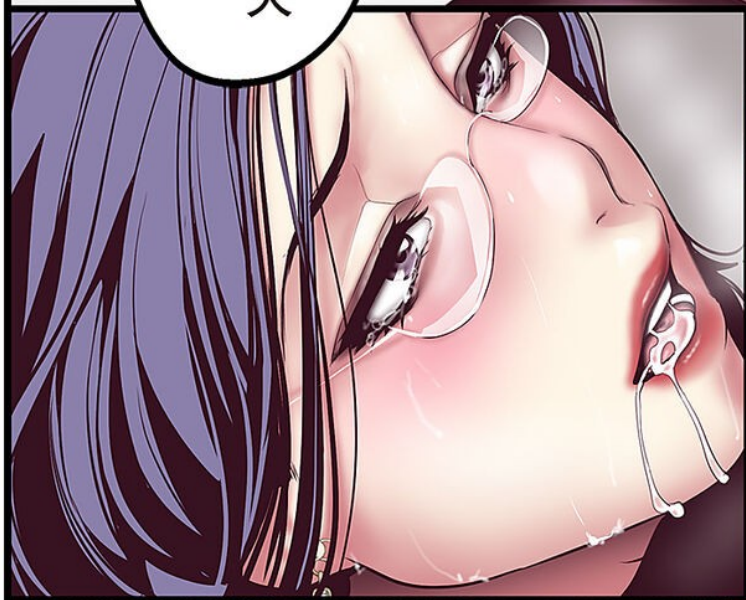


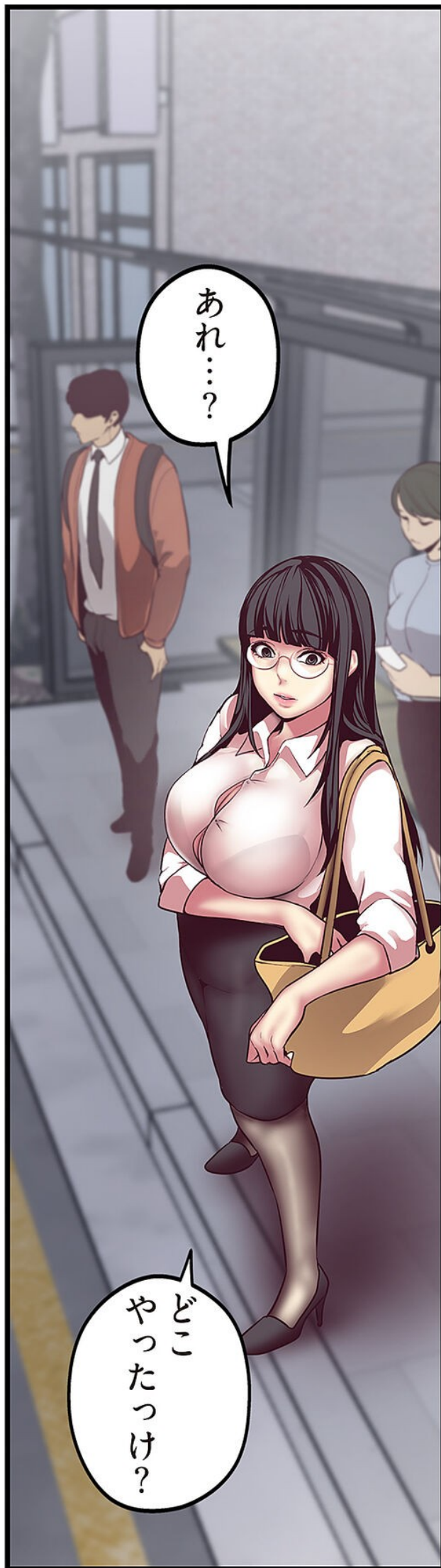
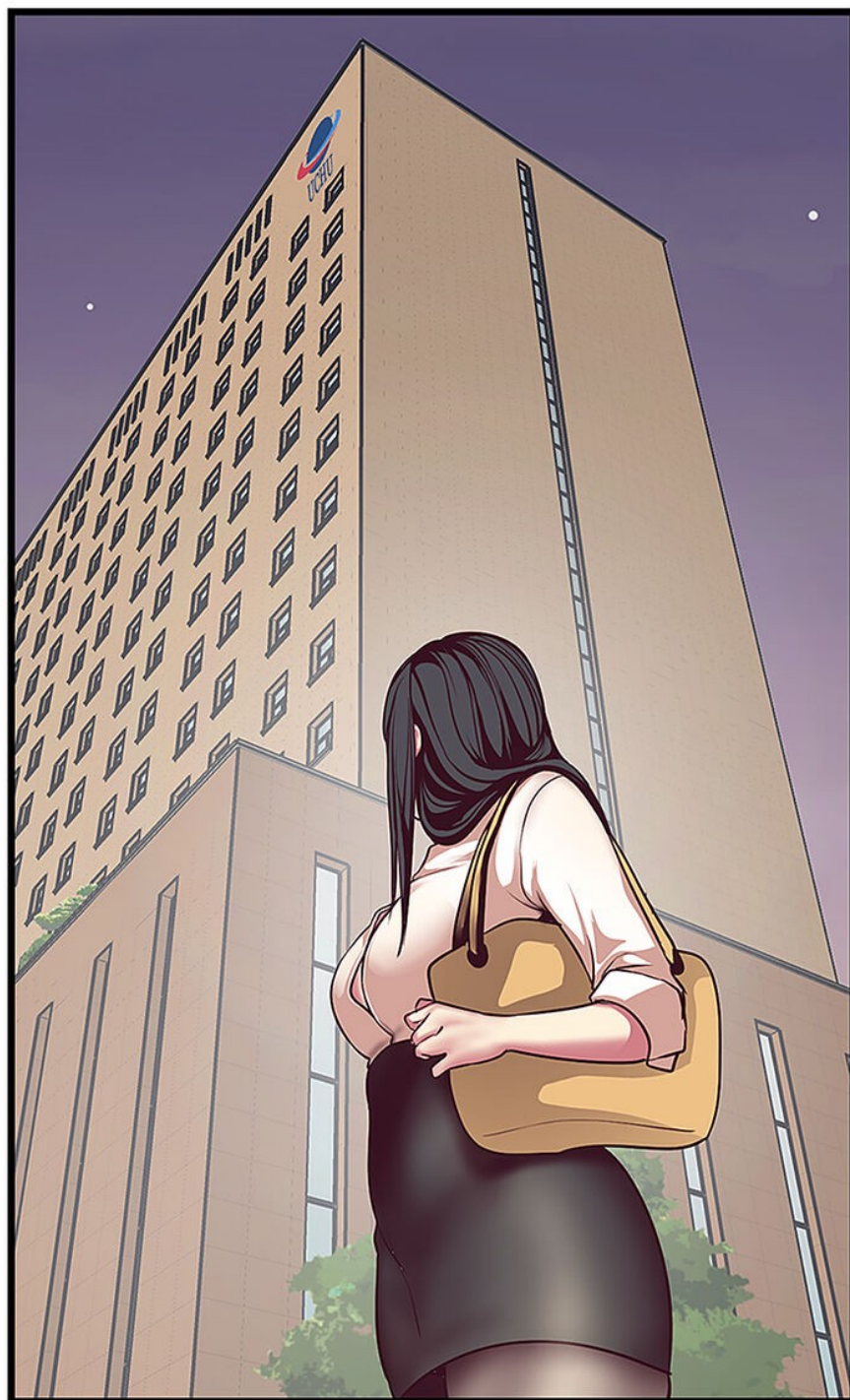


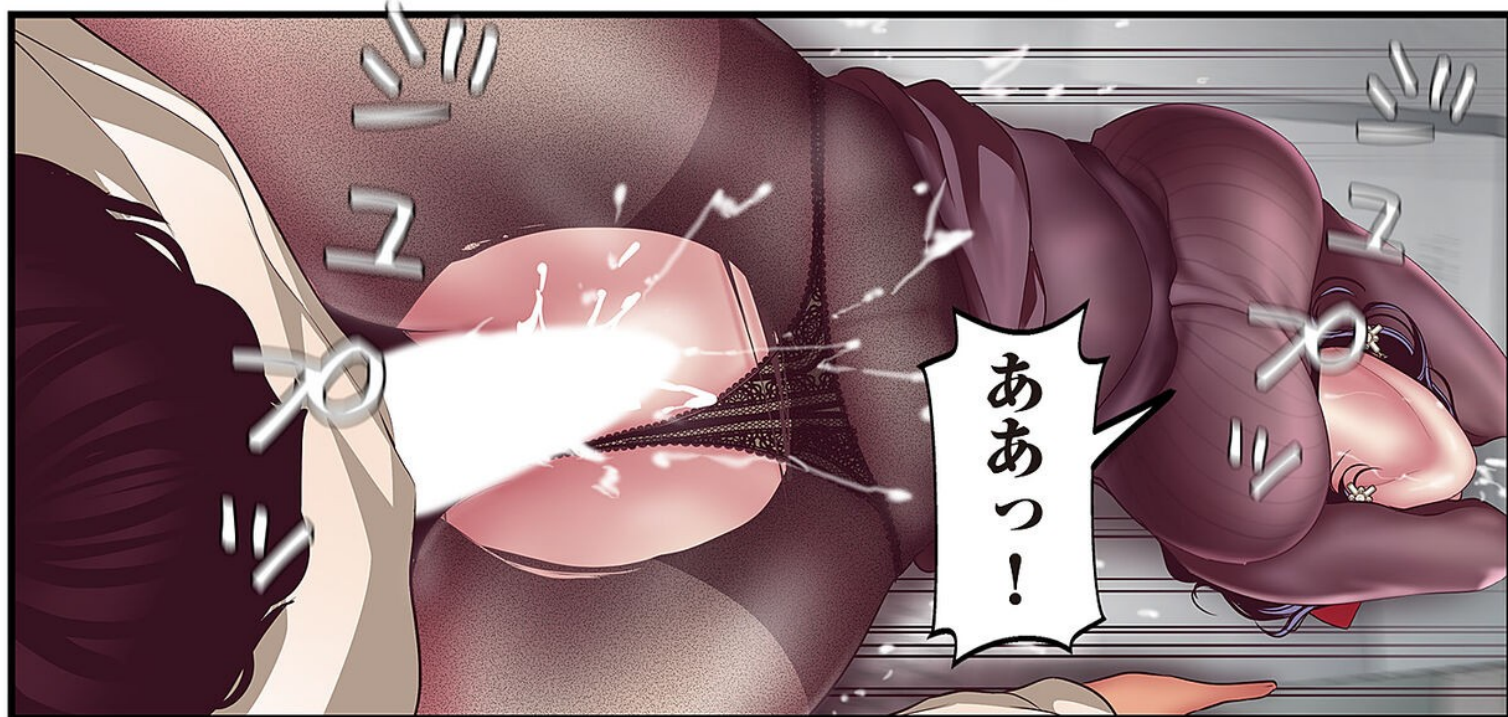
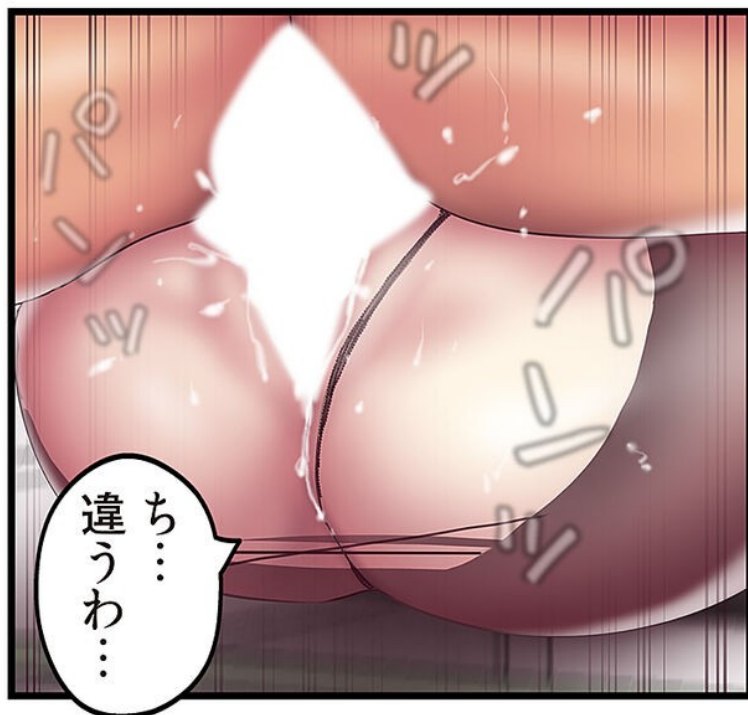


この
蕩けきった
顔

まるでメス犬
みたいだ

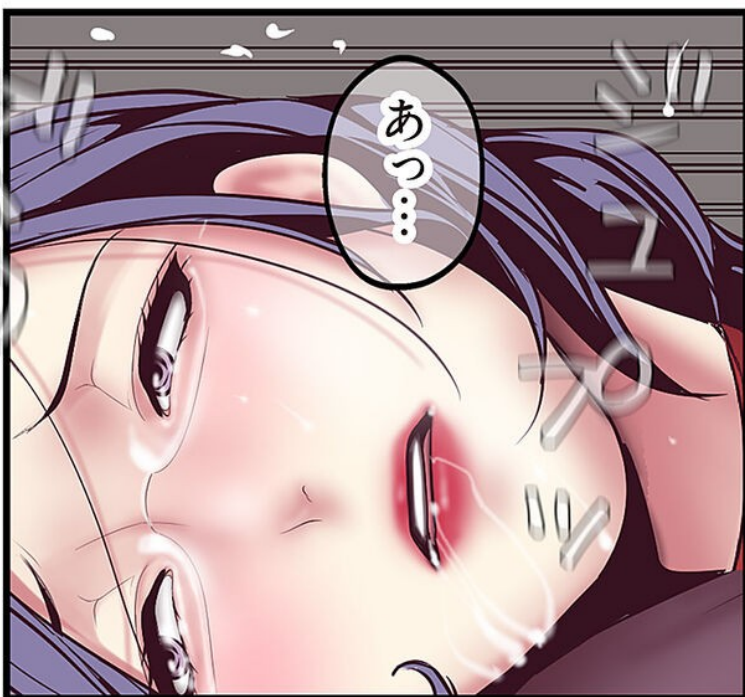
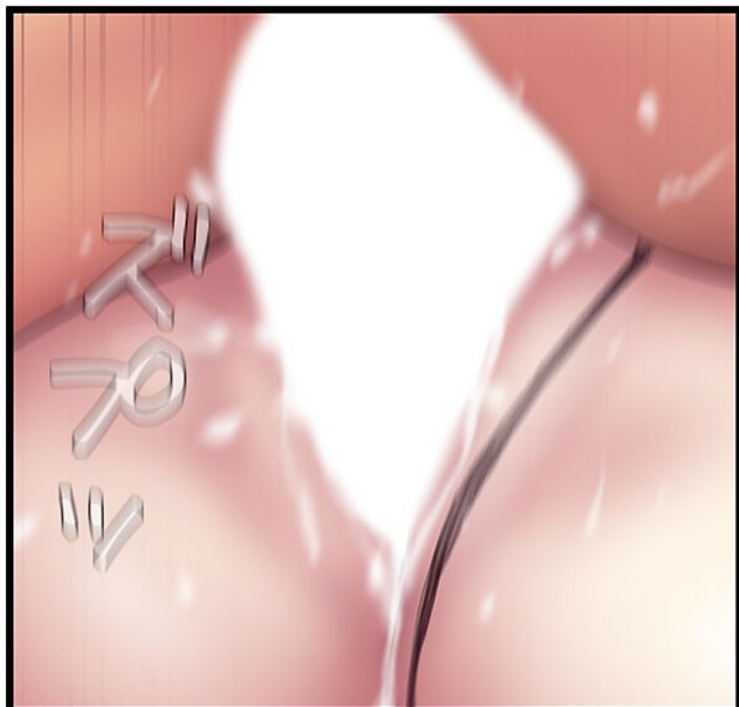
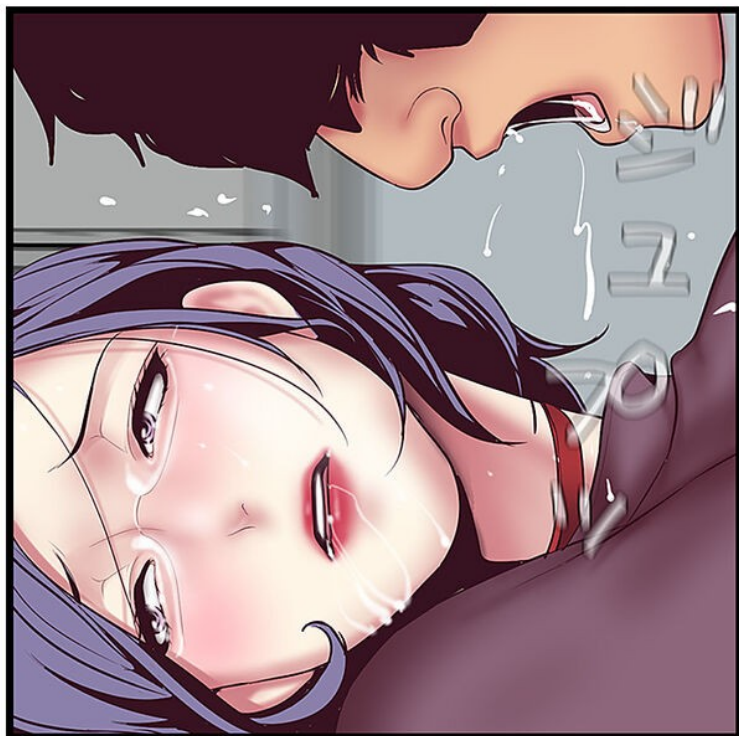


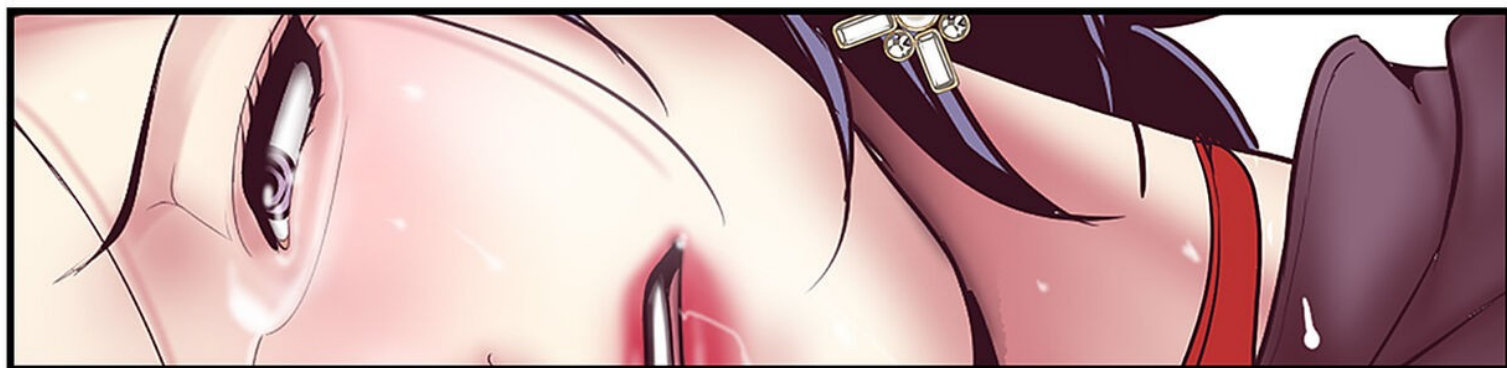
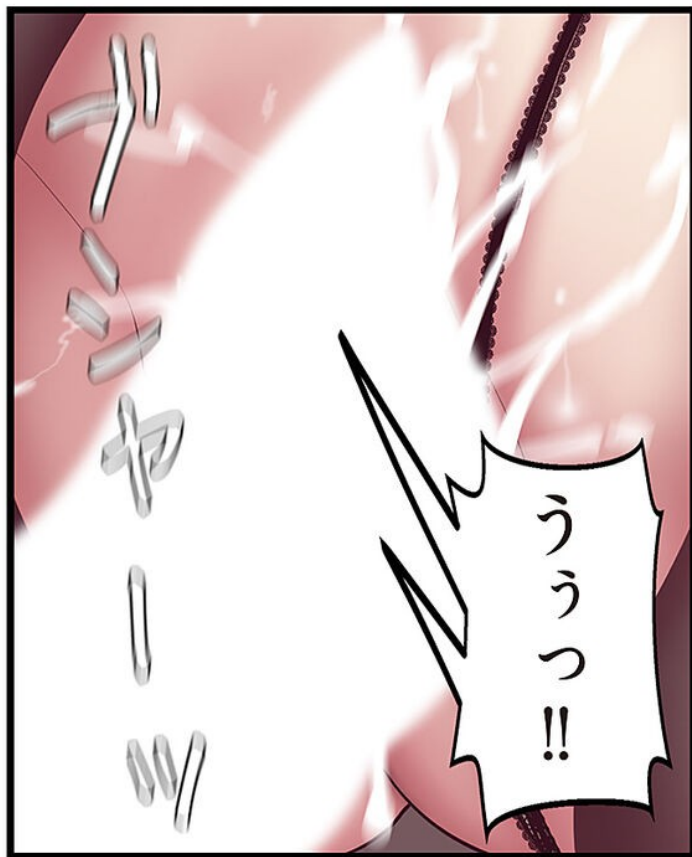


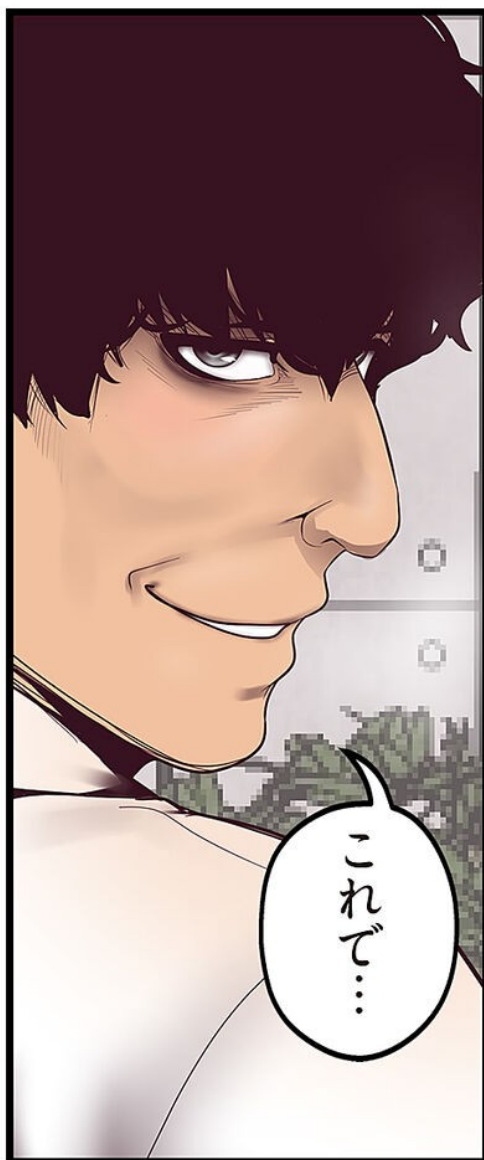


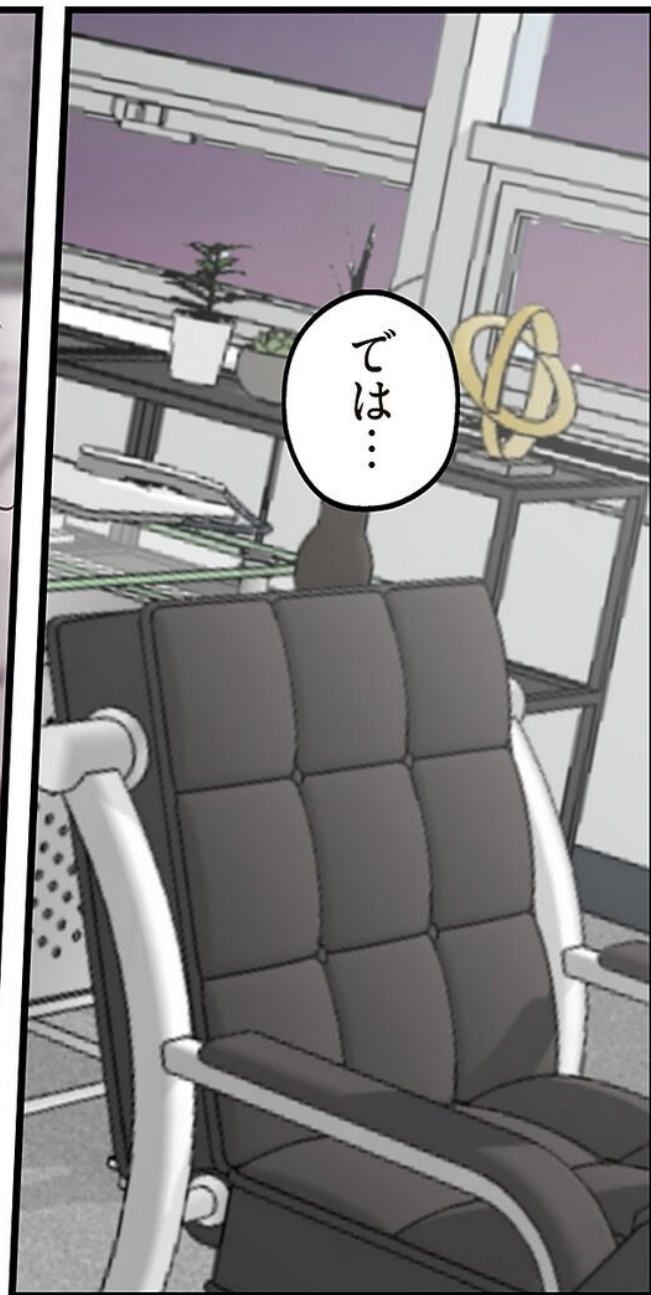
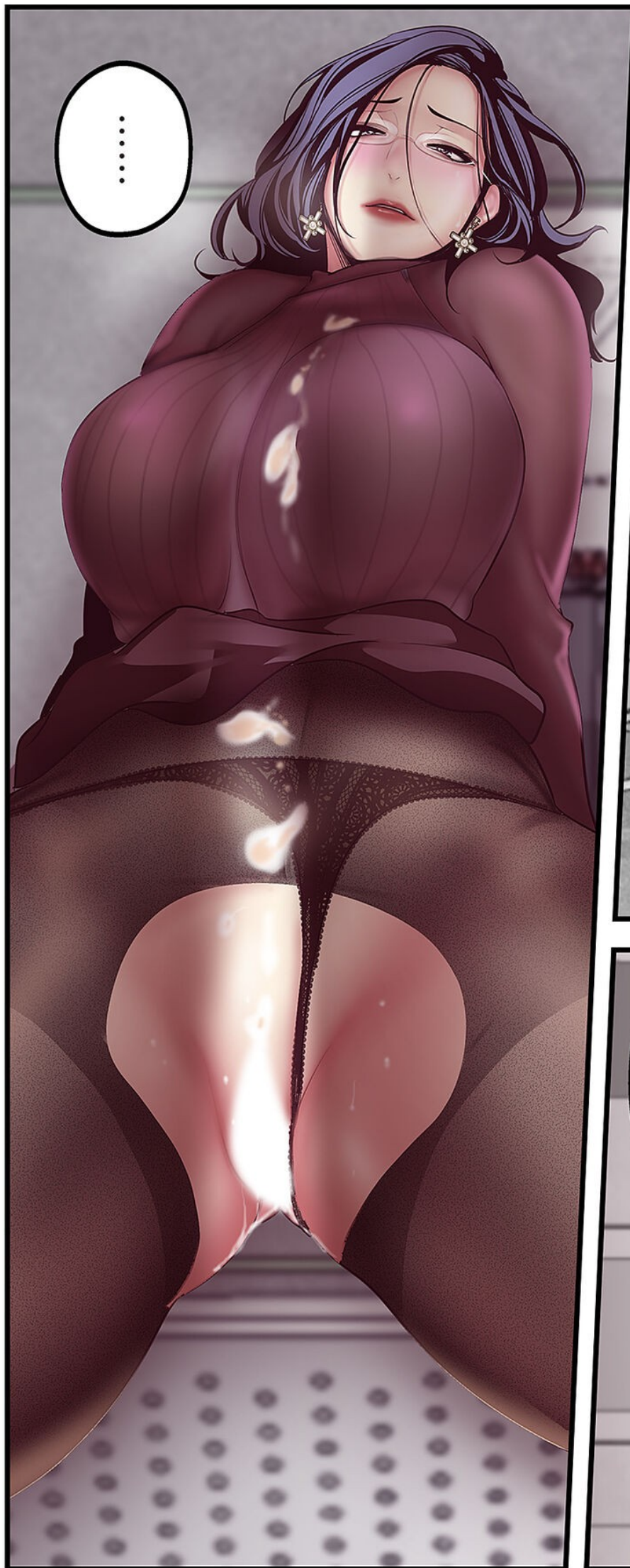


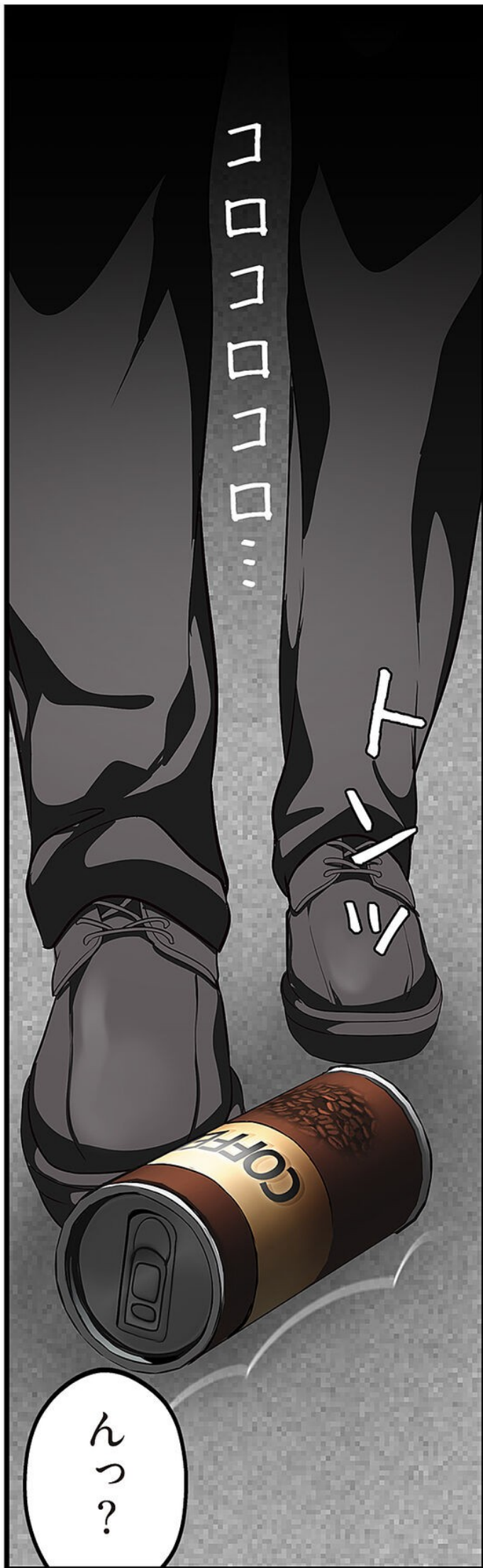
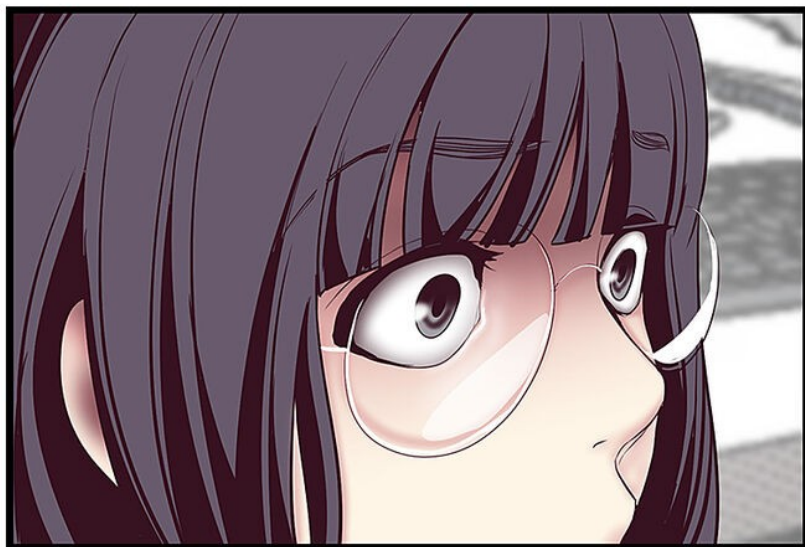










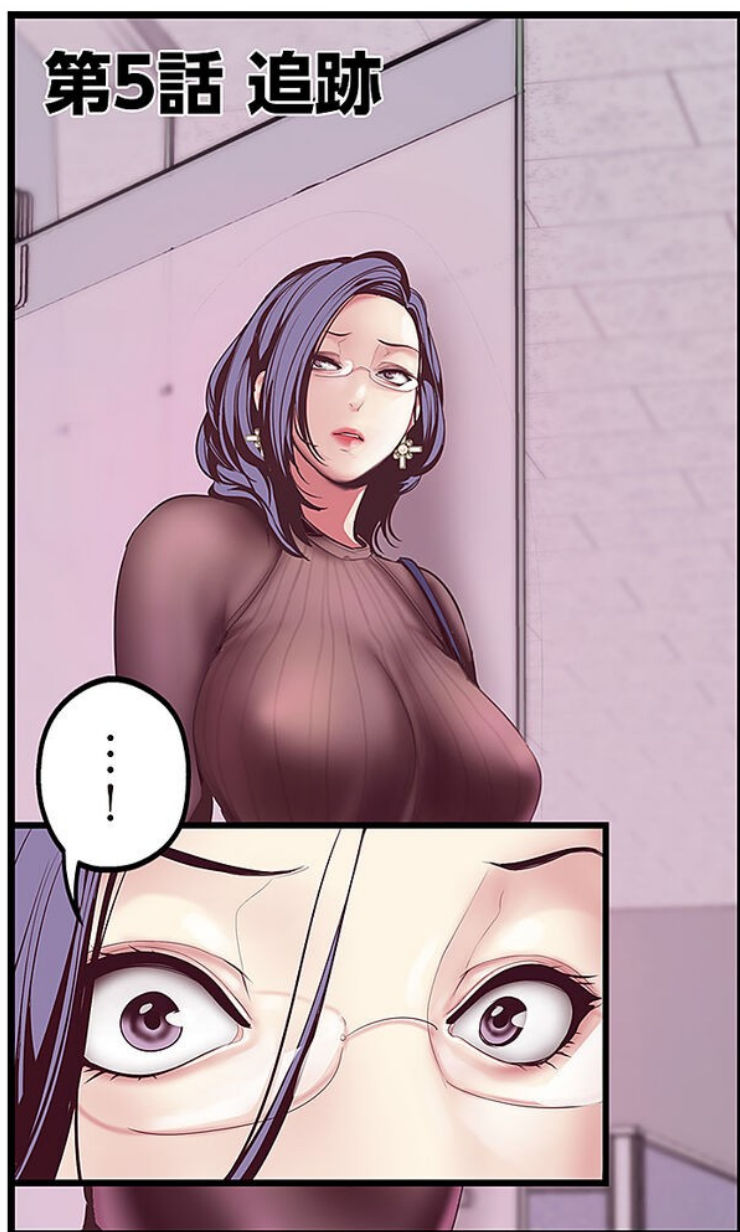
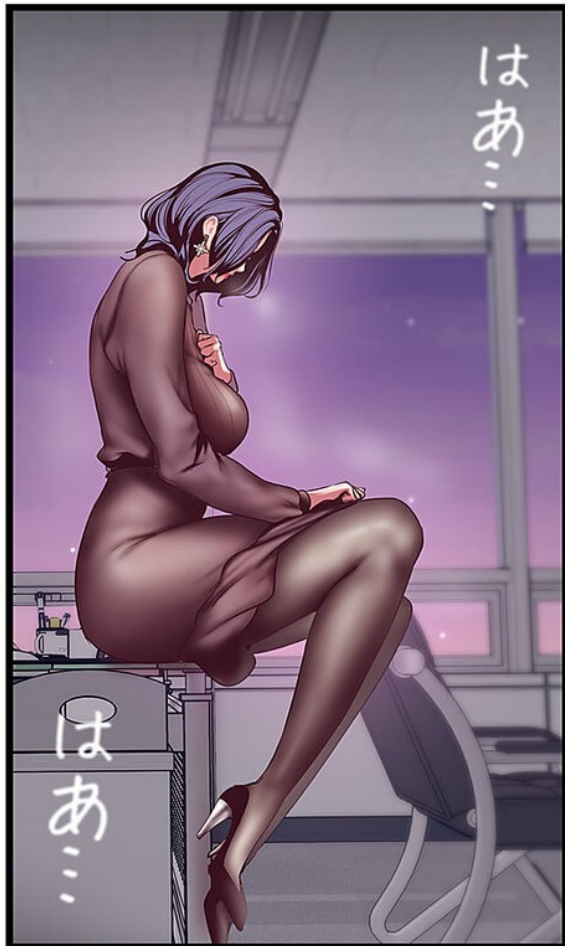
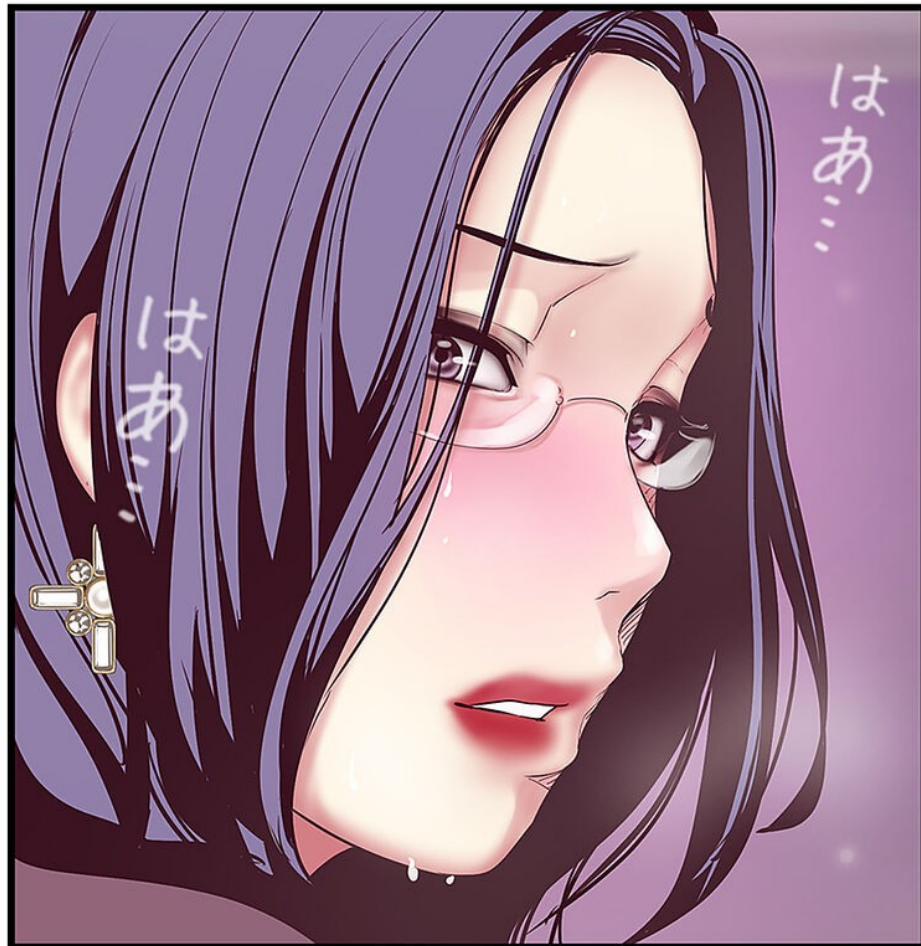


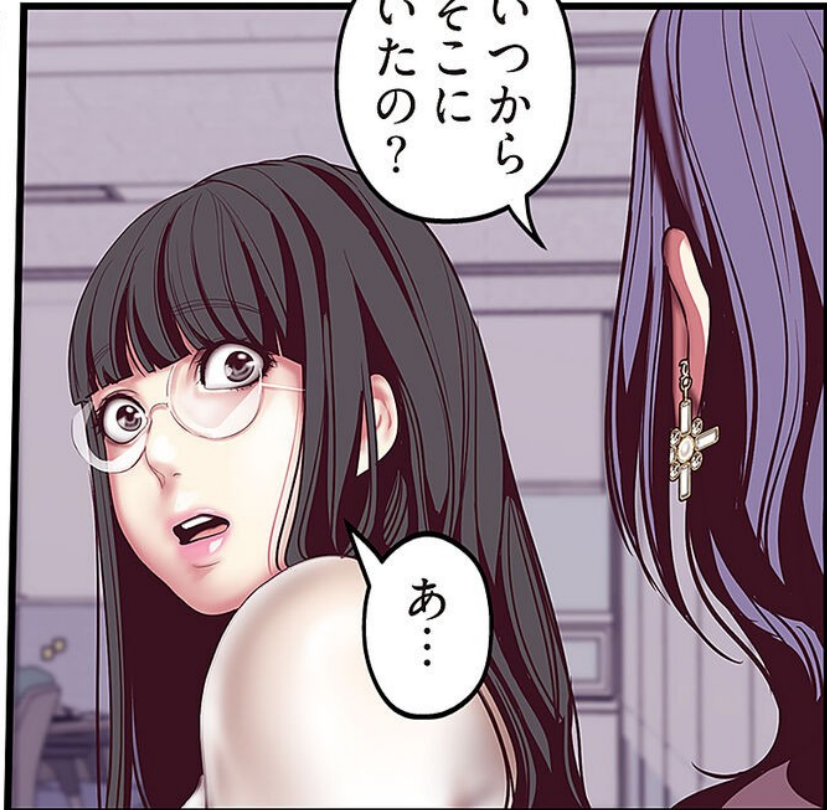
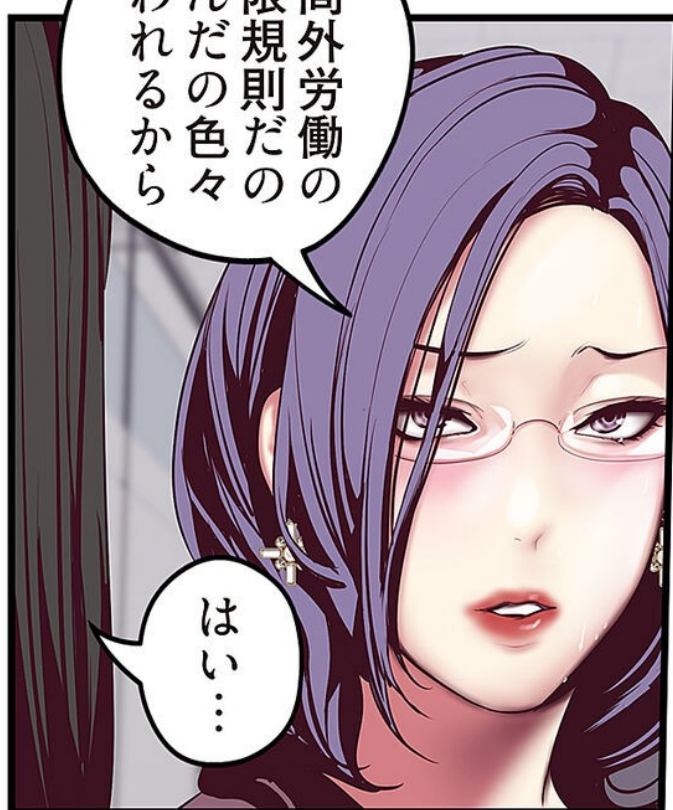
新

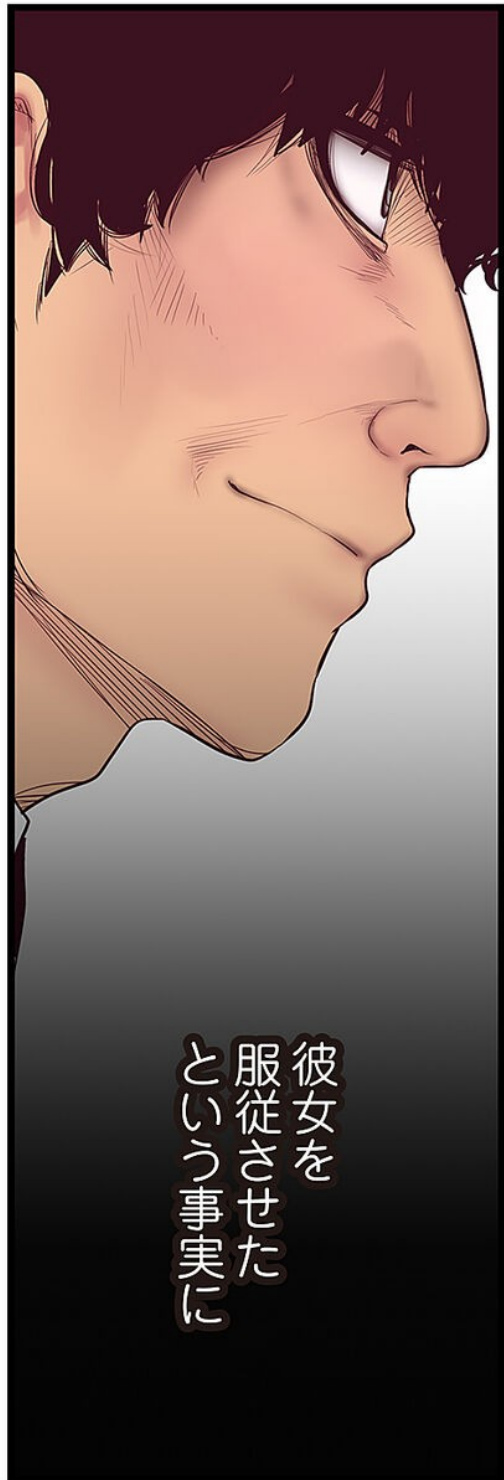
世

す
ば
ら
し
き
新
世
界

A WONDERFUL
NEW WORLD







彼女を
服従させた
という事実



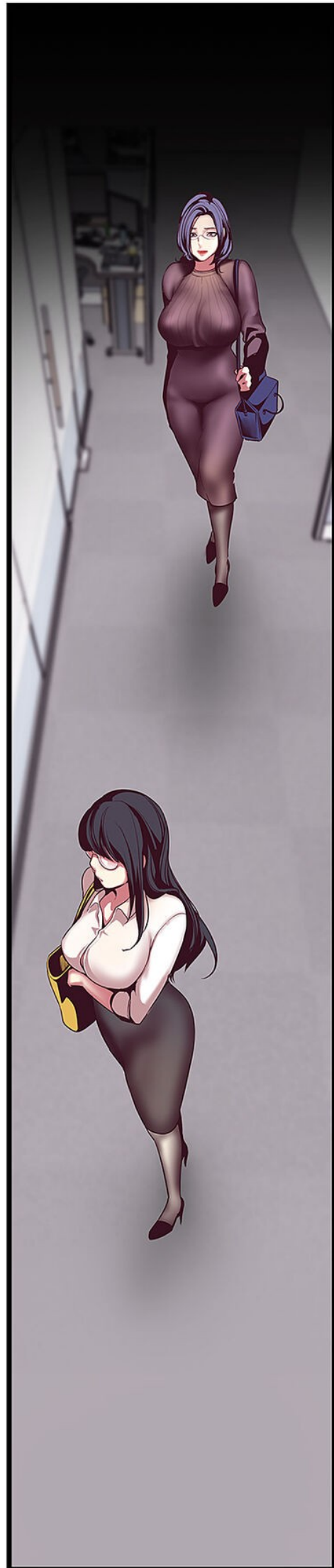
興奮が

収まら
なかった



射精後の
虚脱感も

束の間…

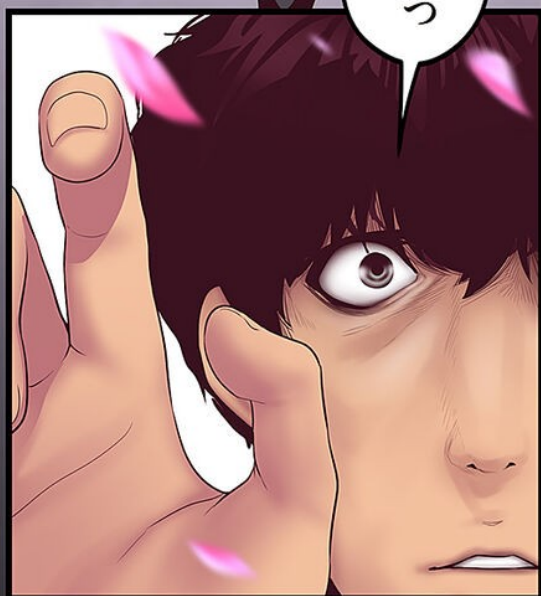


そんな
新しい世界が

目の前に
広がっていた



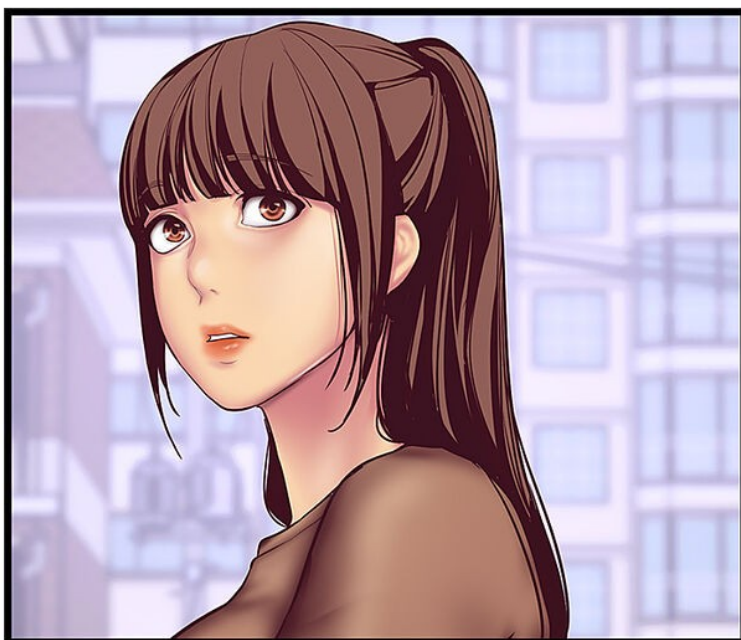
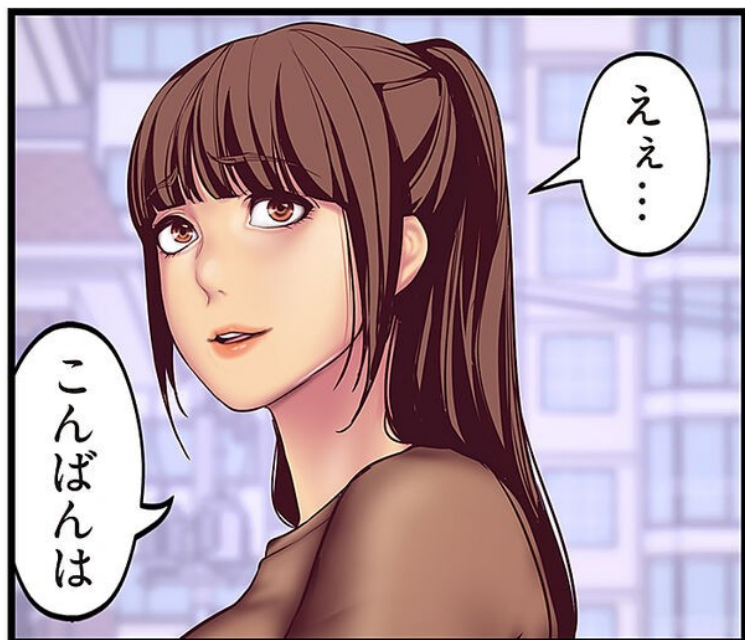
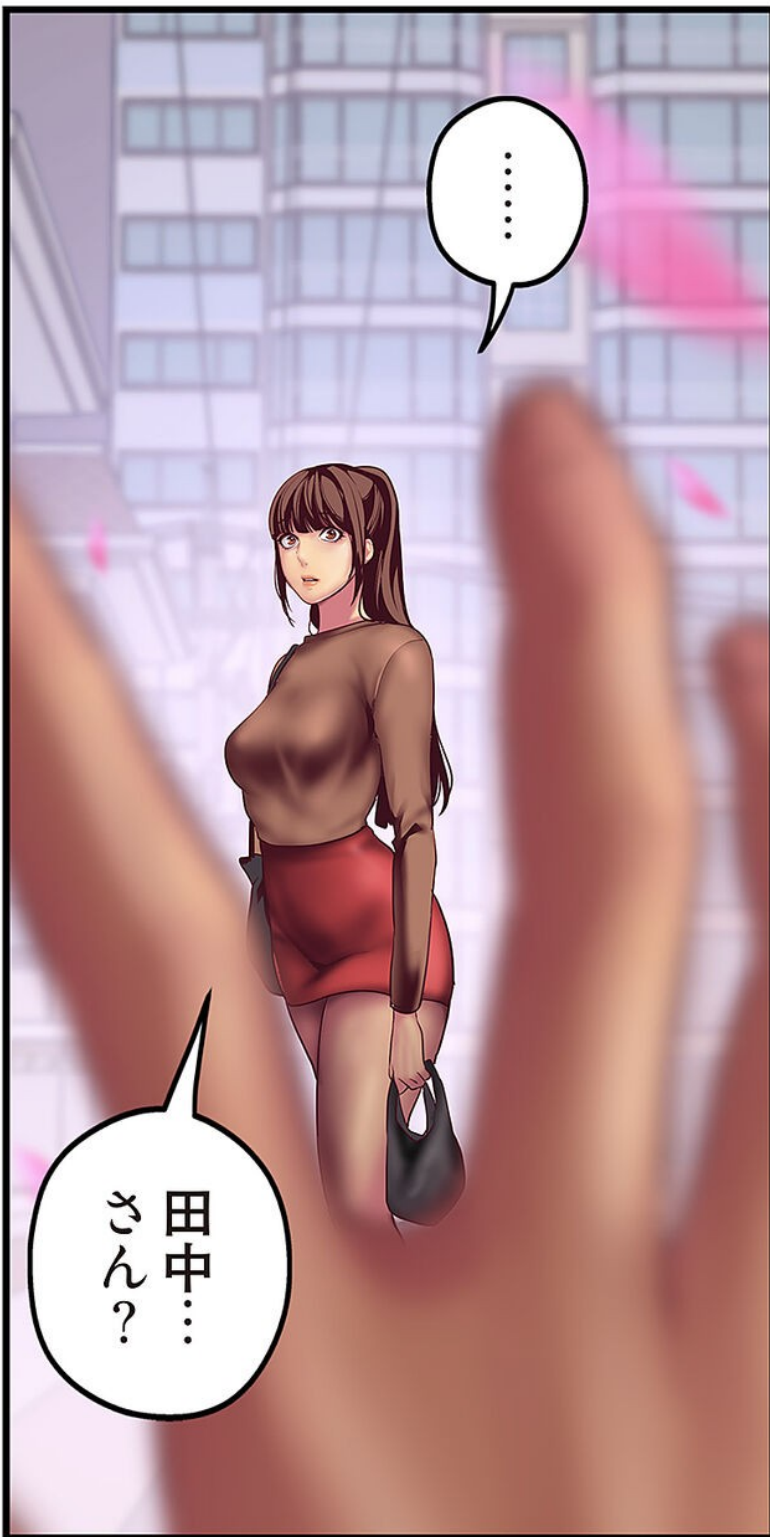
…あつ

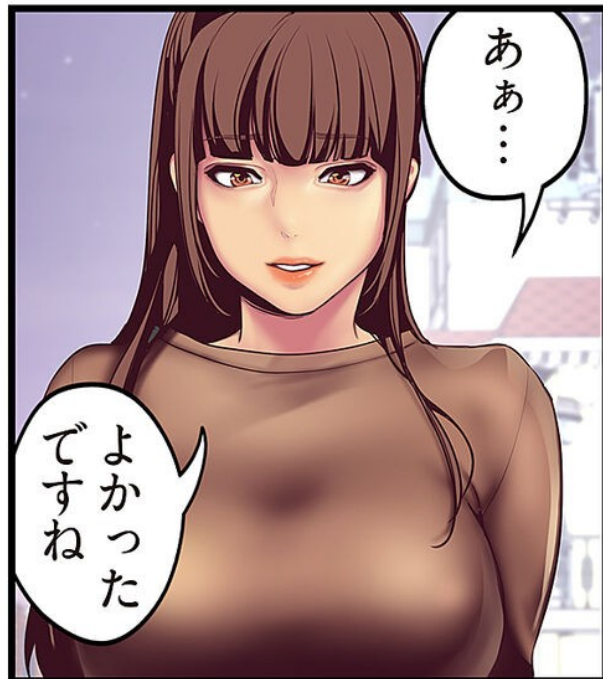


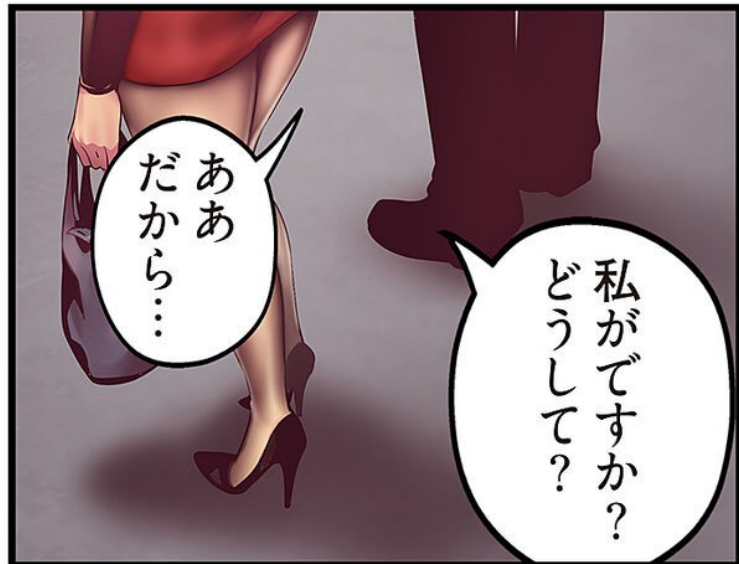
手を
伸ばしさえ
すれば

望むものが
なんでも
手に入りそう









ああ
だから…

私がですか？
どうして？



その…
それが…

美紅さんのおかけ
なんです



……

今から
飲むん
ですか？

眠れなさそう
なので

それなら
一緒に…



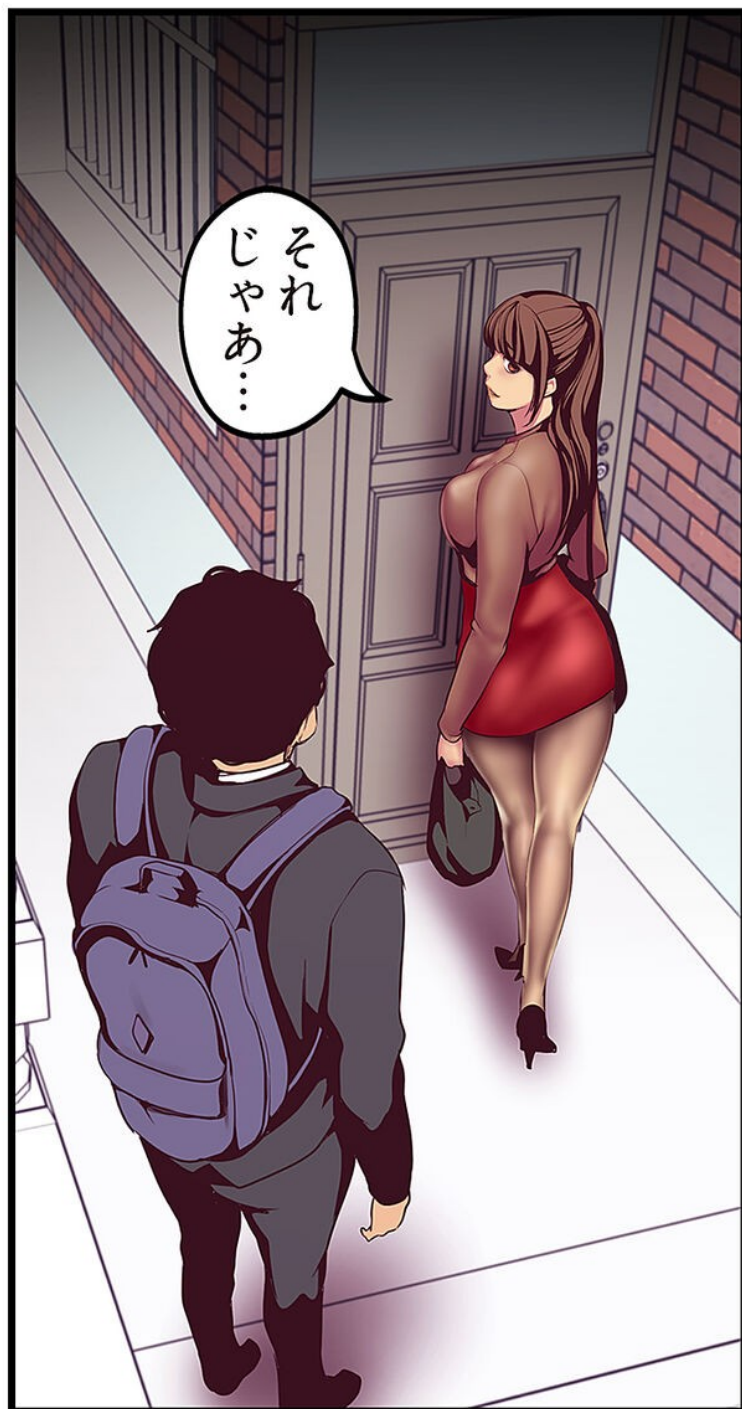
よかったです
少しでも助けに
なれたのなら

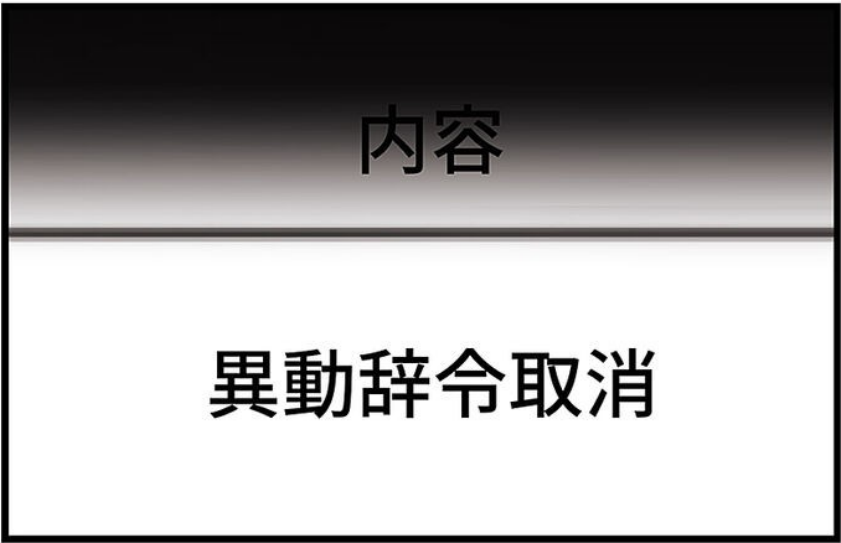
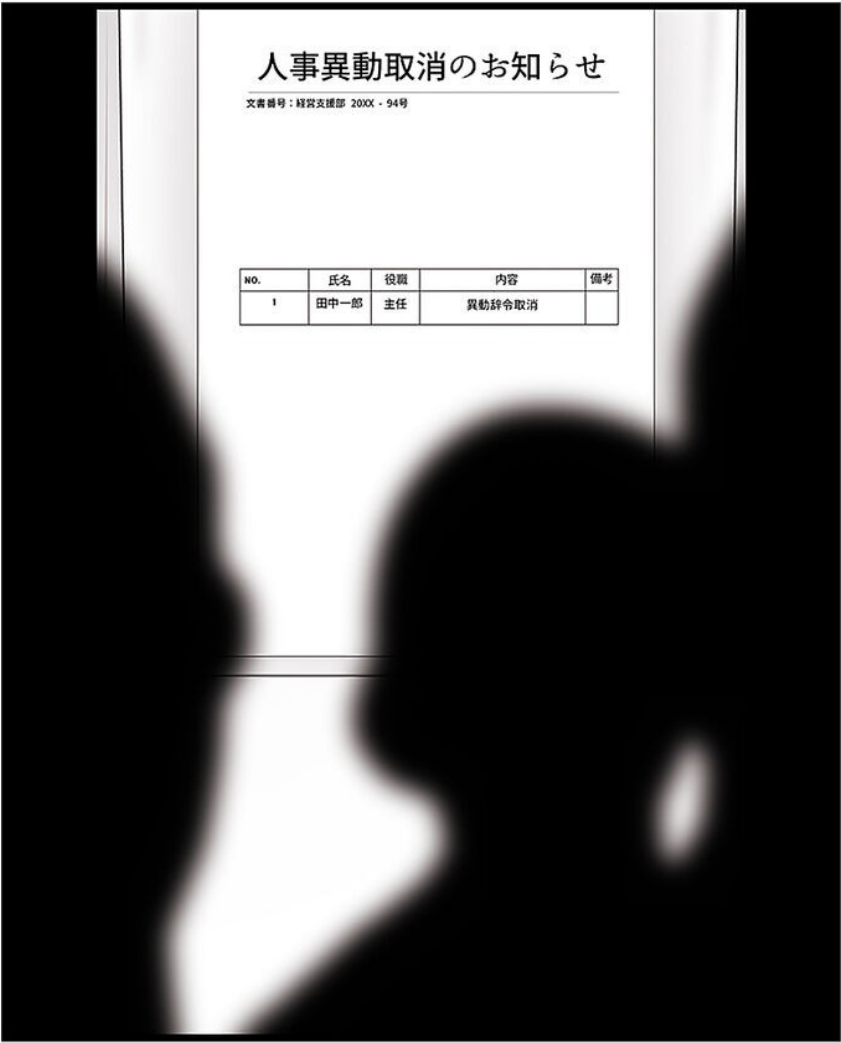
と…とにかく
美紅さんのおかけ
なんです

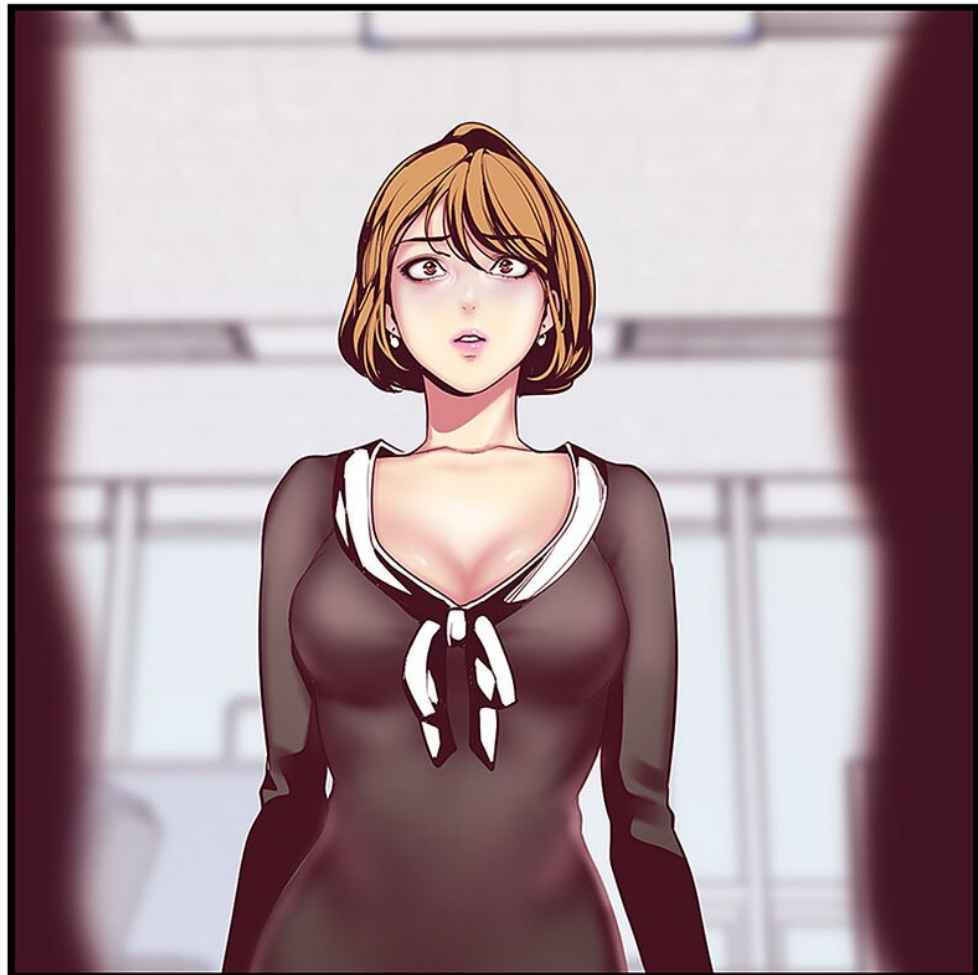


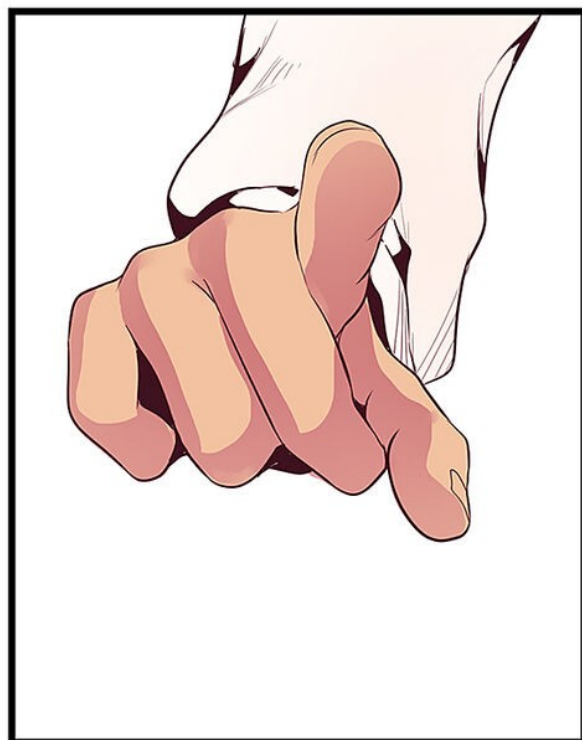
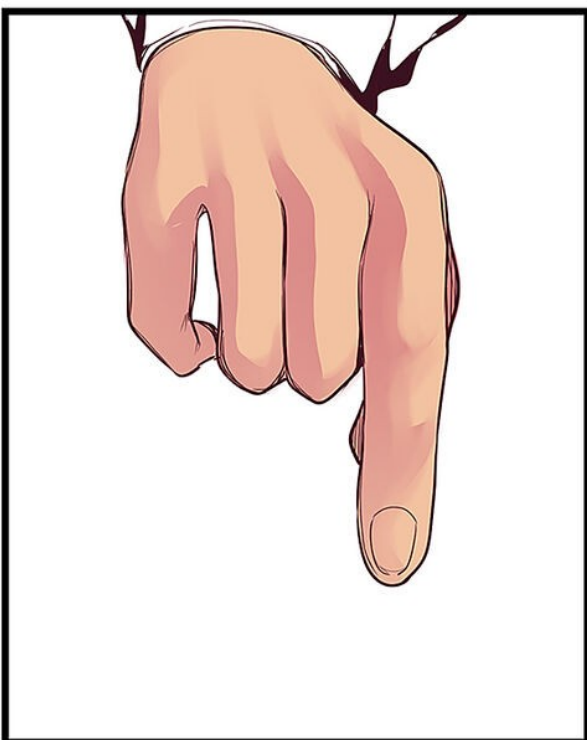
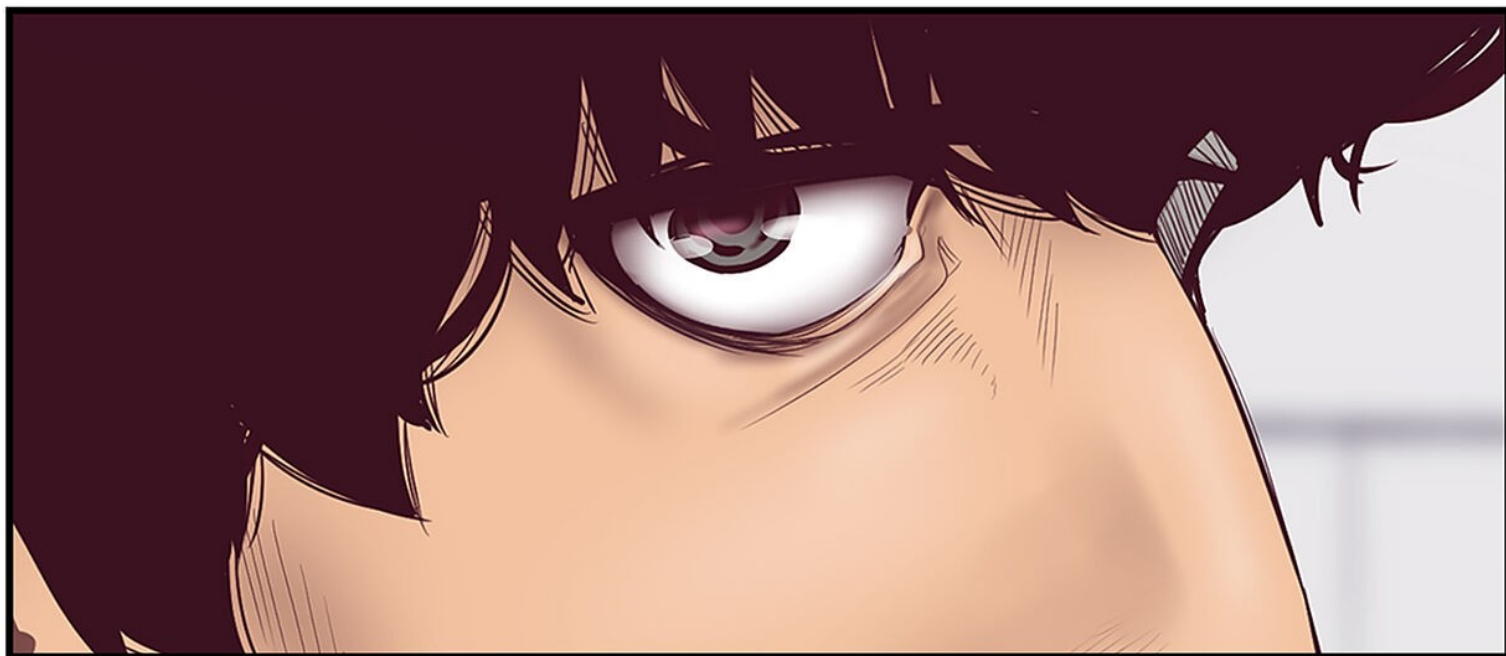
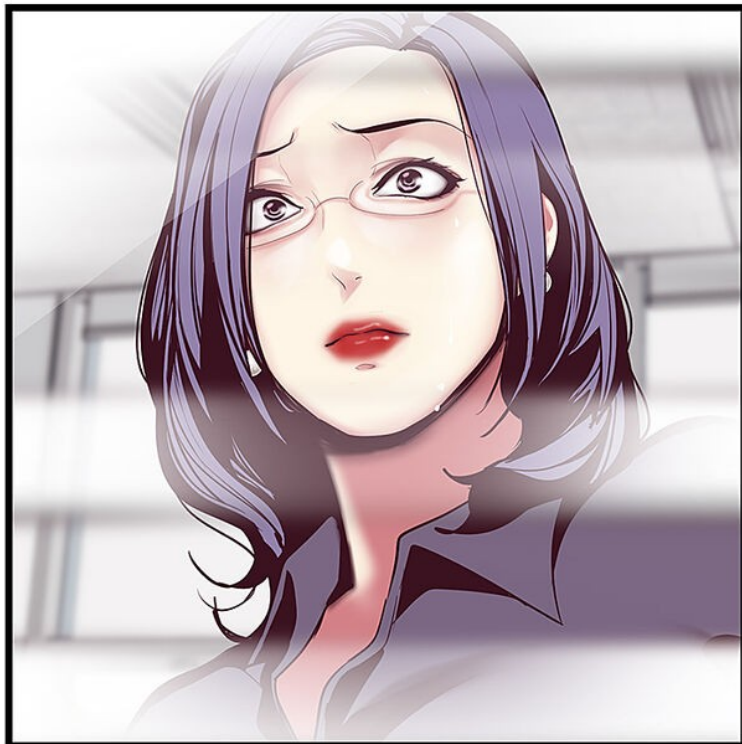
それでもダメなら
いっそ悪いヤツに
なつてしまえば
いいのよ

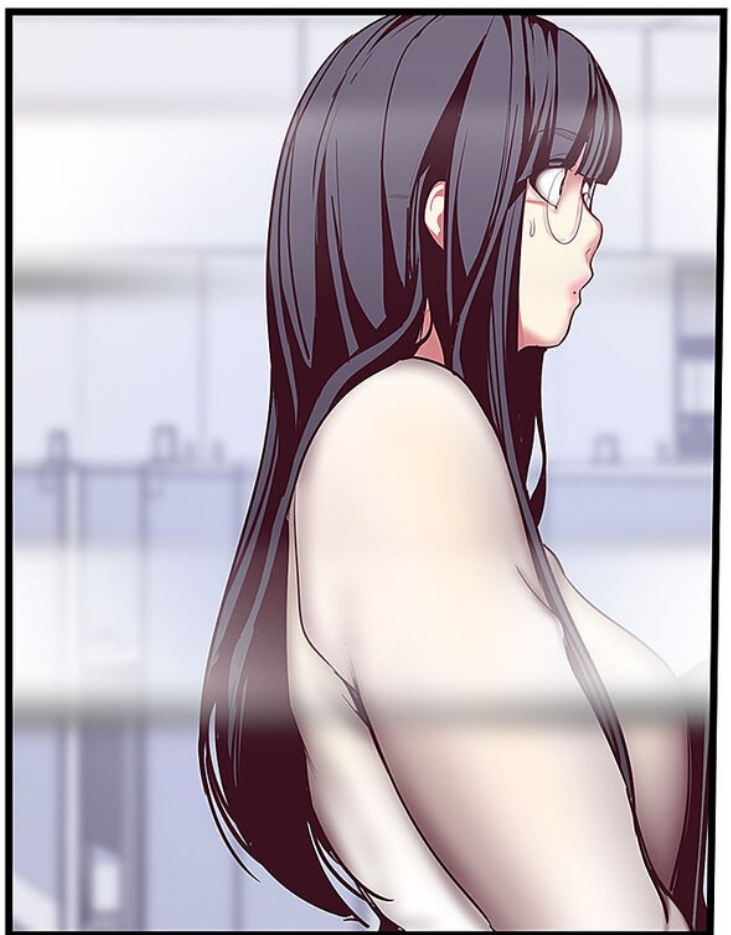
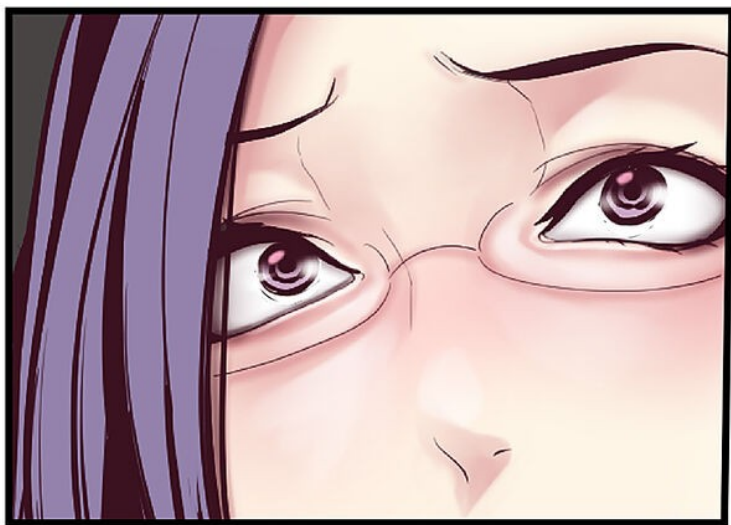
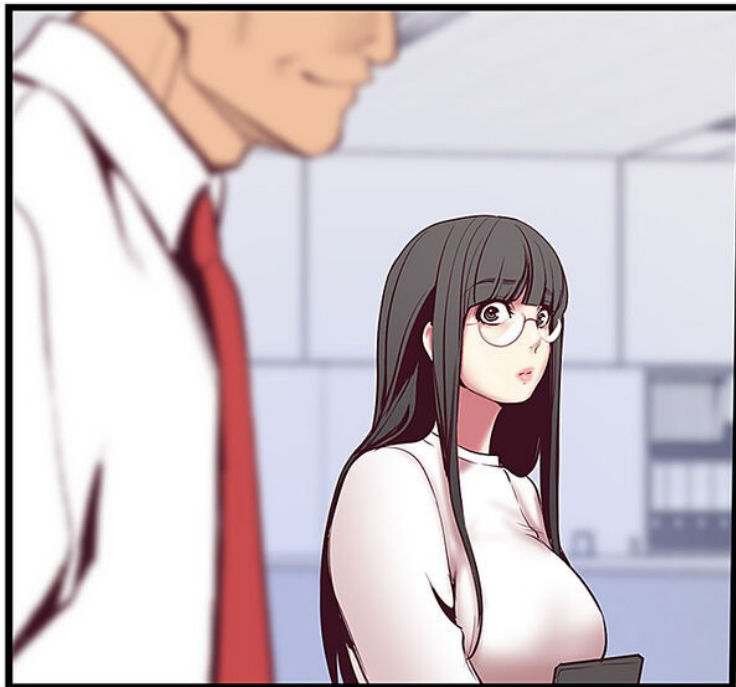
その人たちが
思ったより
もつともつと
悪い人間にね！

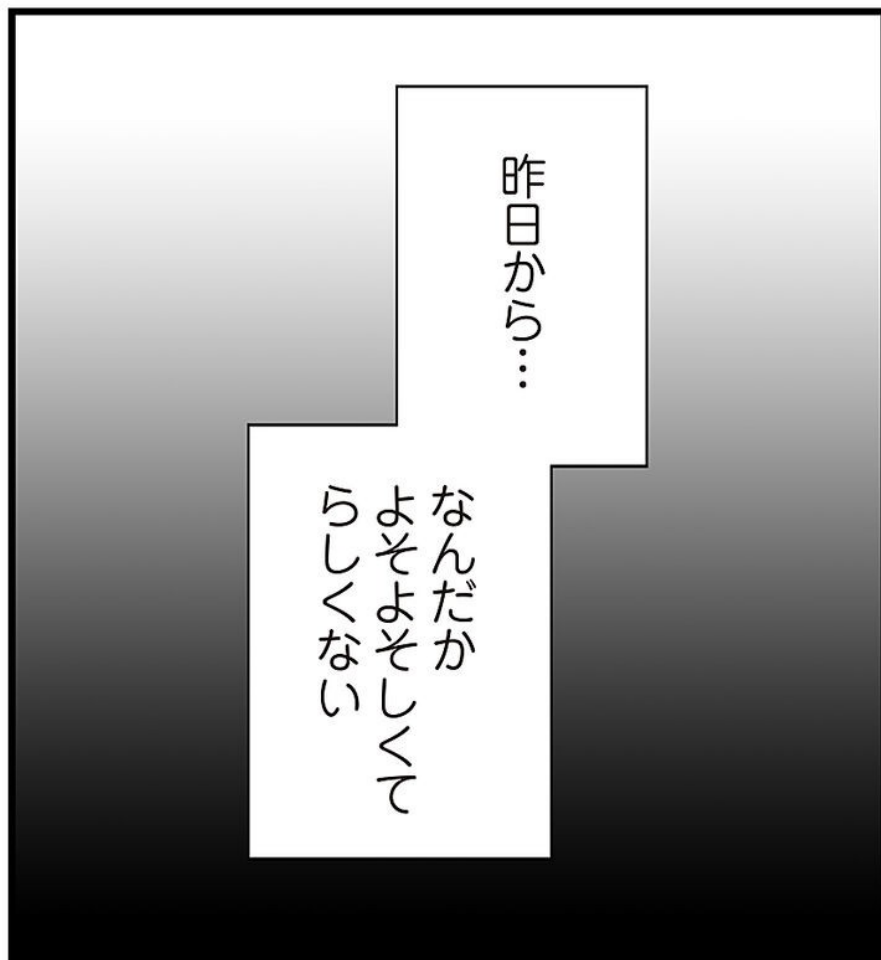












なんでこんなに
気になるんだ？

お

お昼一緒にどうですか？

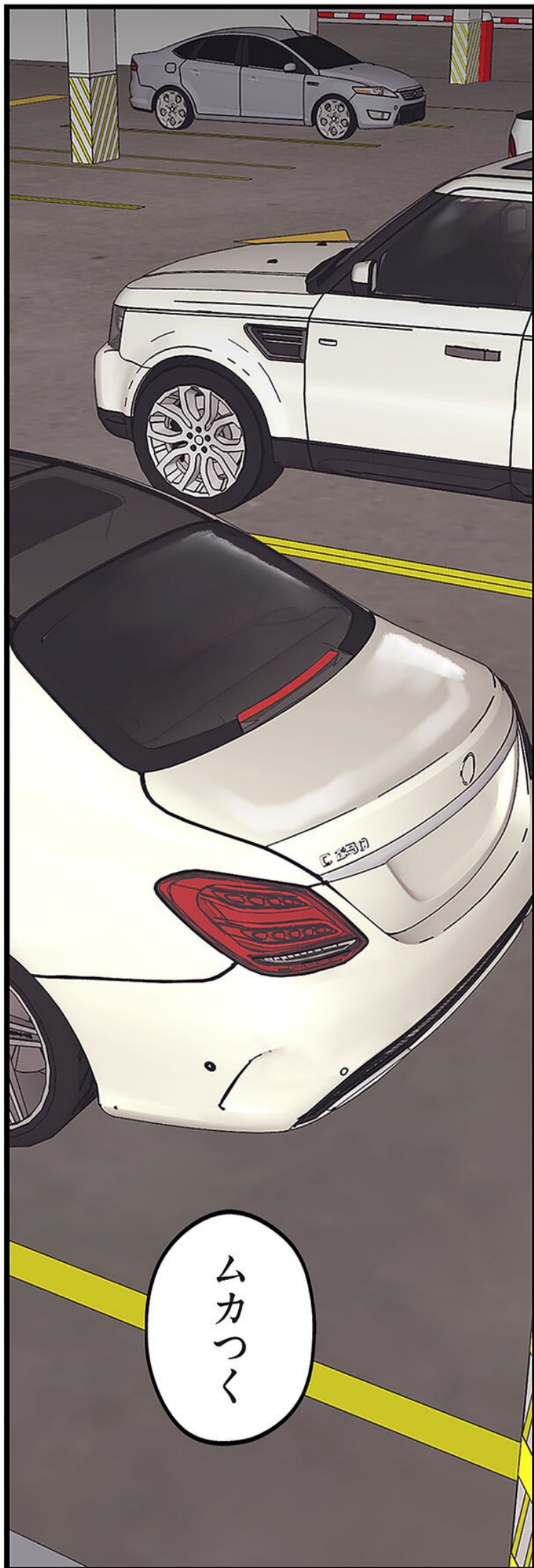
あの…
白鳥美紅さんは
いらつしやい
ますか？

INFORMATION

用事があつて
早退しましたよ

……

何かせずには
いられない



ムカつく

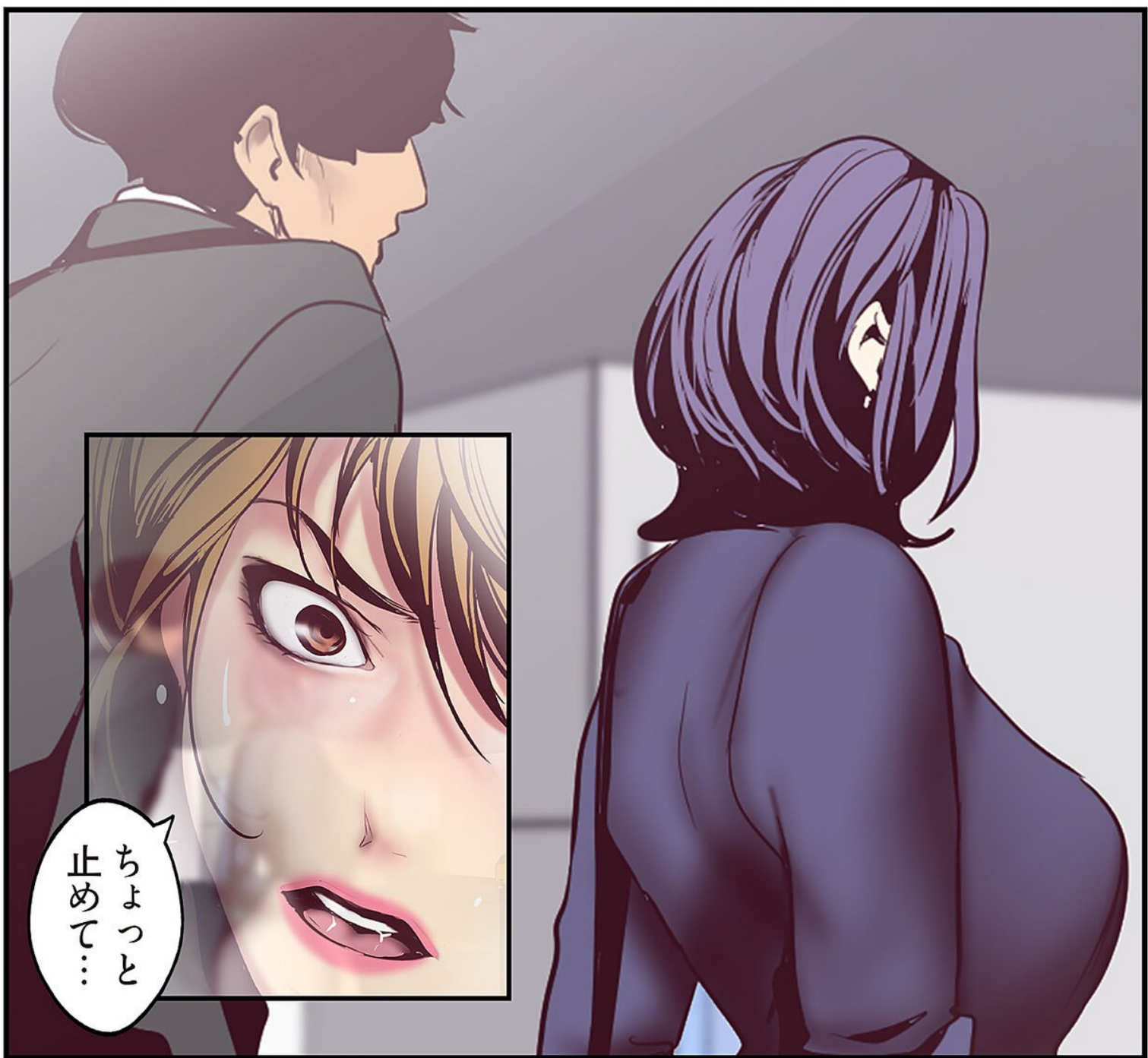
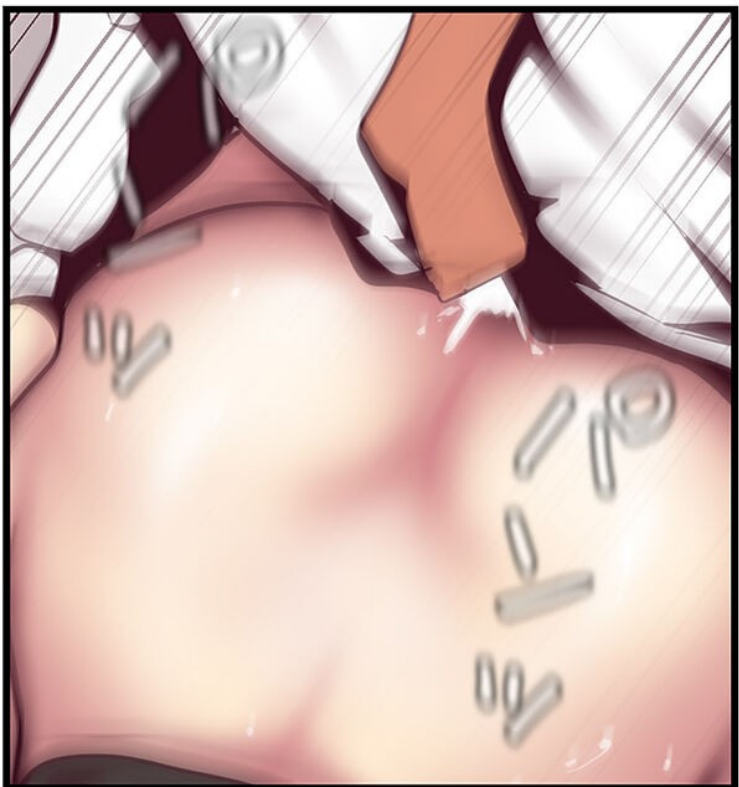


なんの
用事
ですか？

そこまでは
私も…

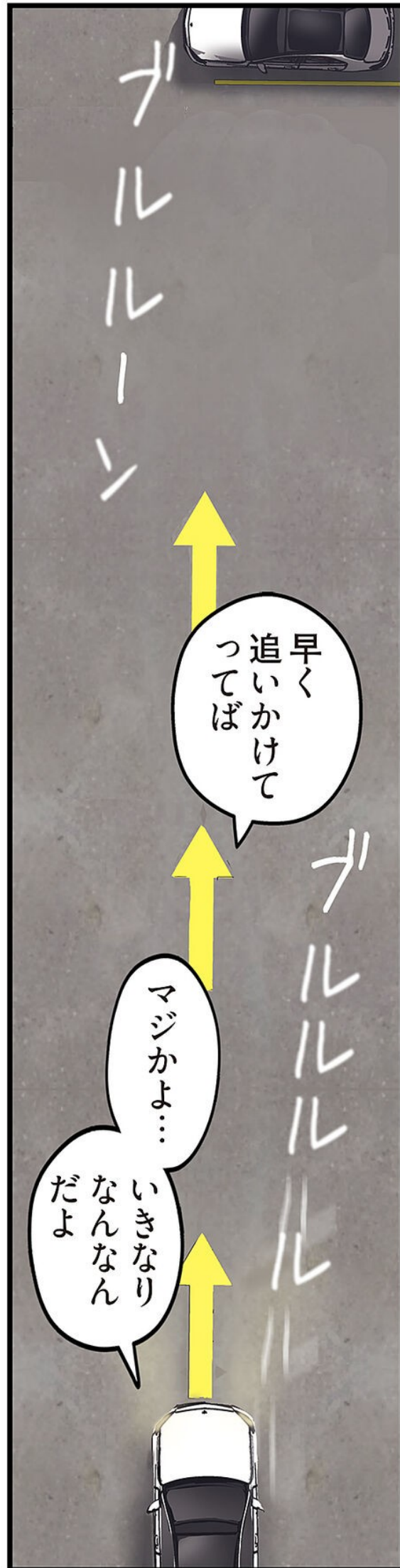
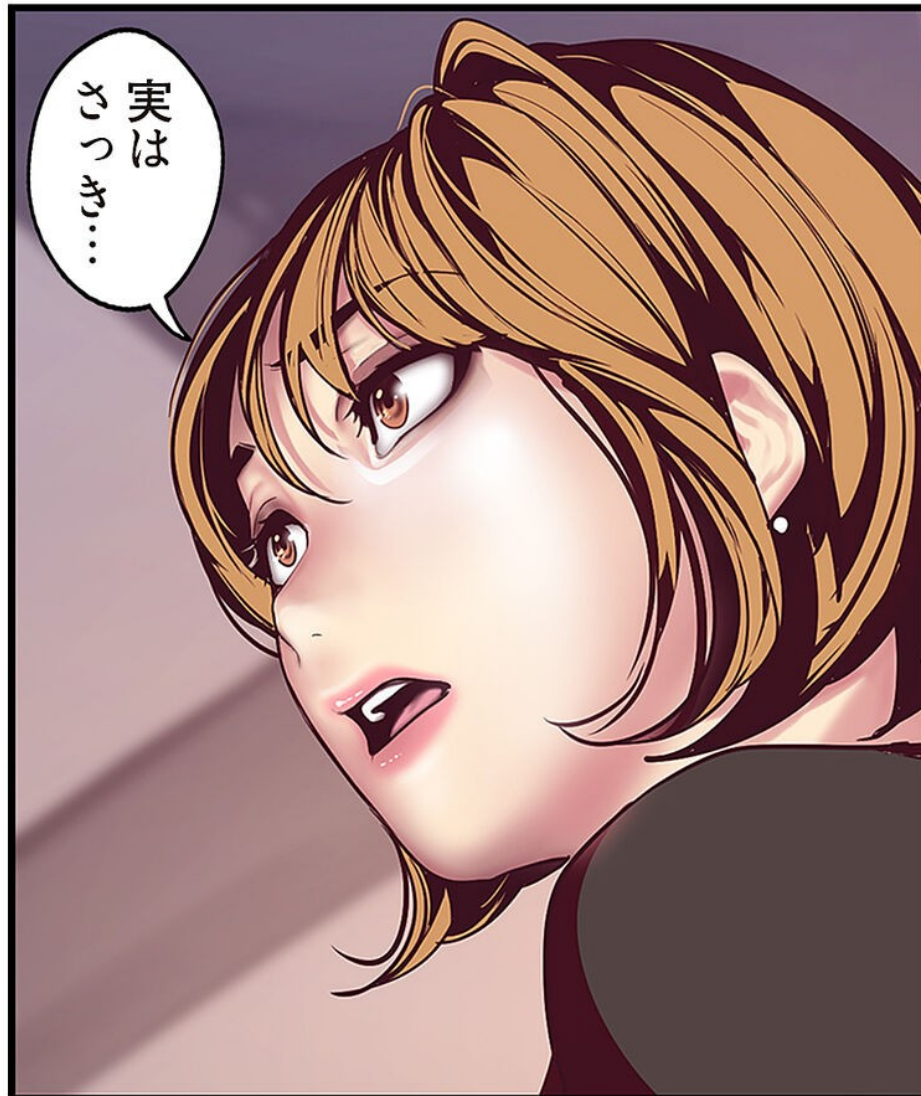


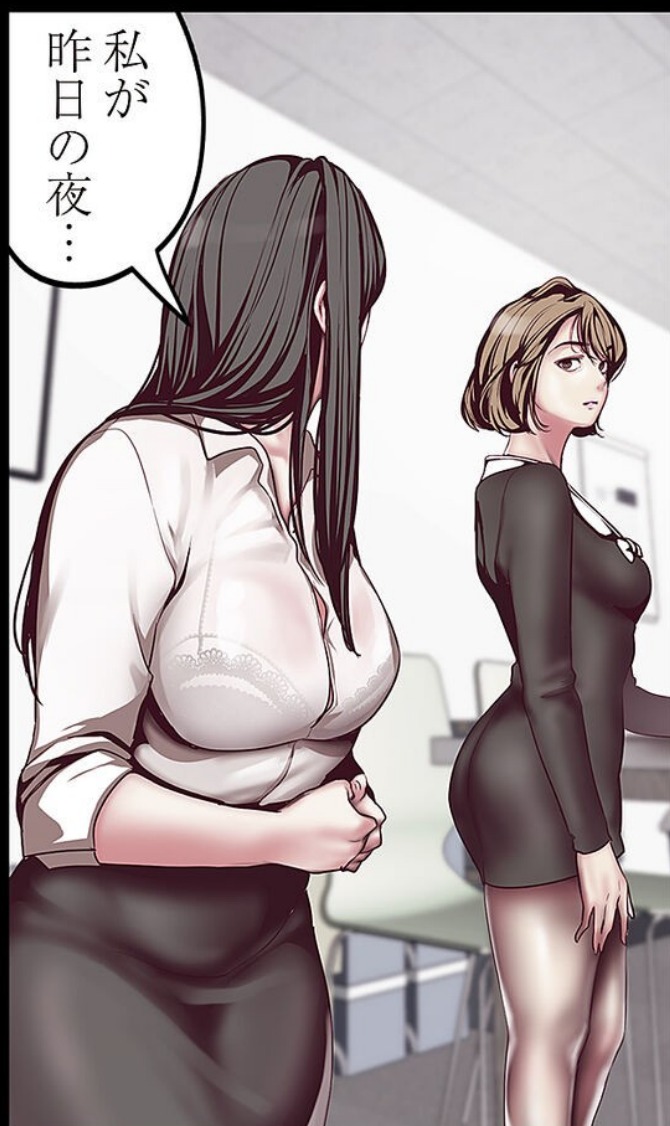




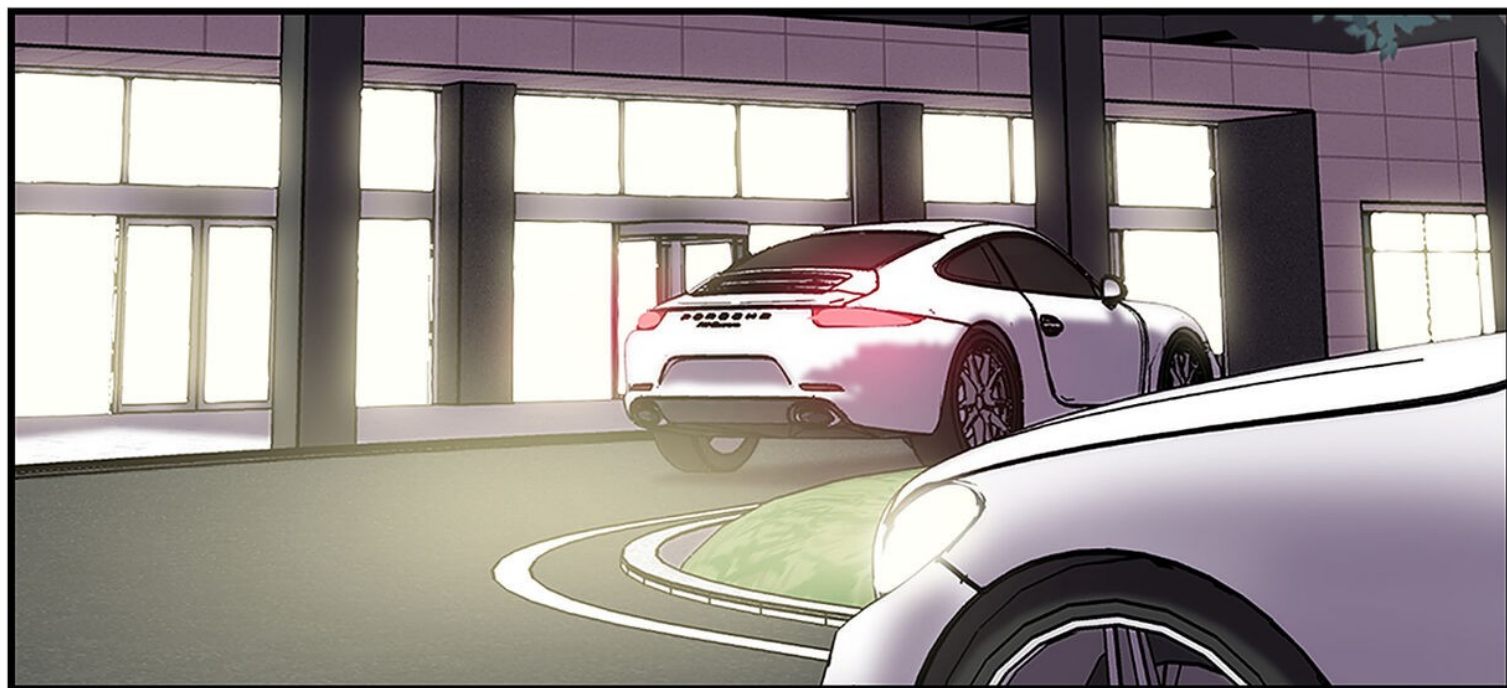
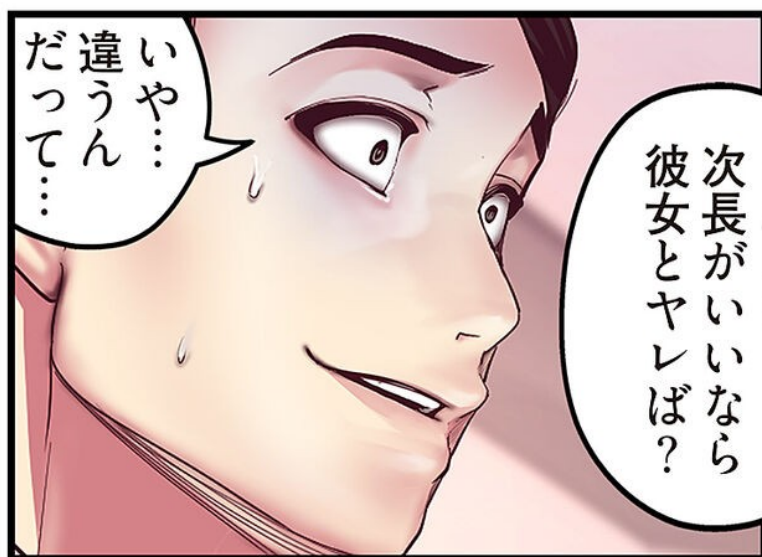
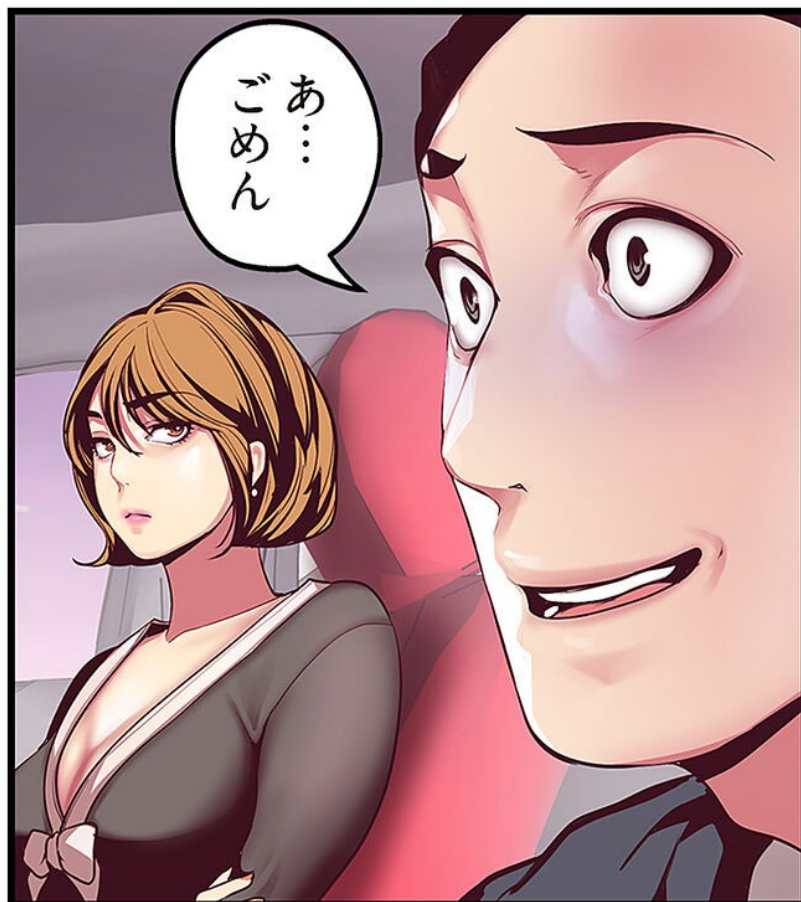
す
ば
ら
し
き
新
世
界

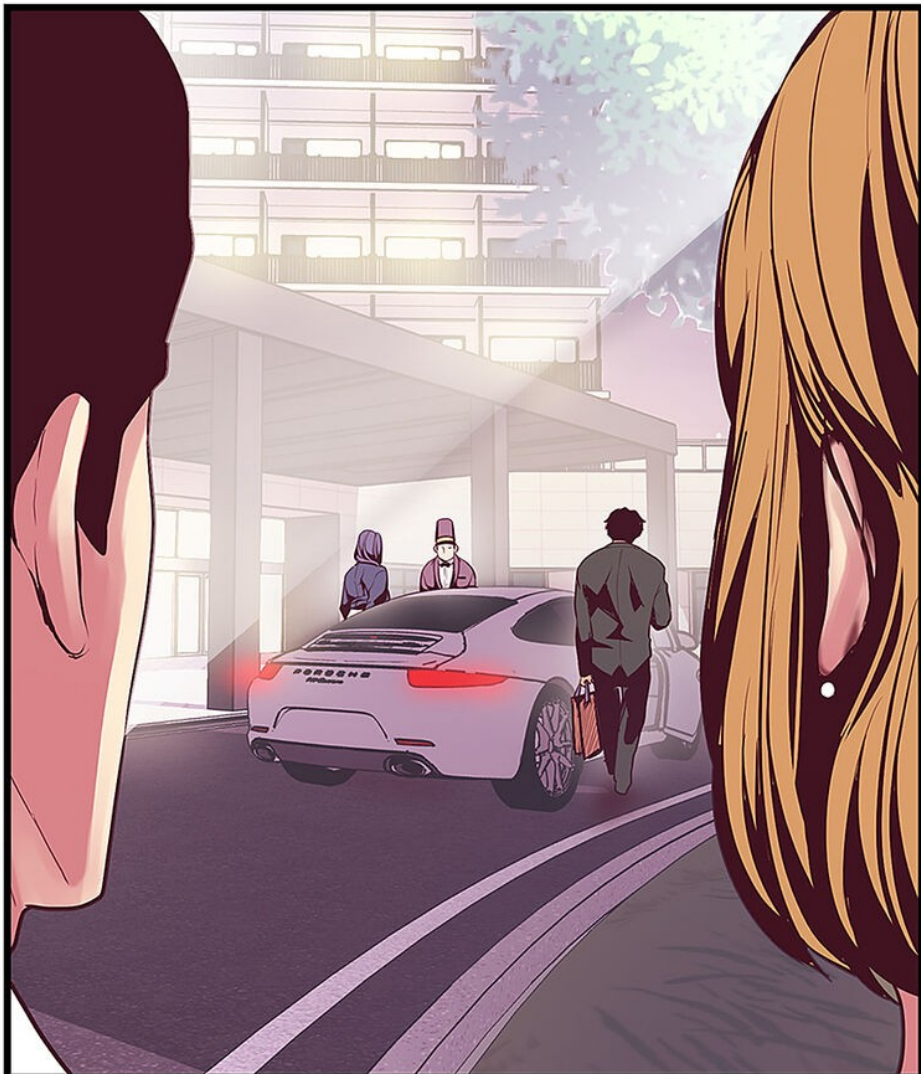
A WONDERFUL
NEW WORLD





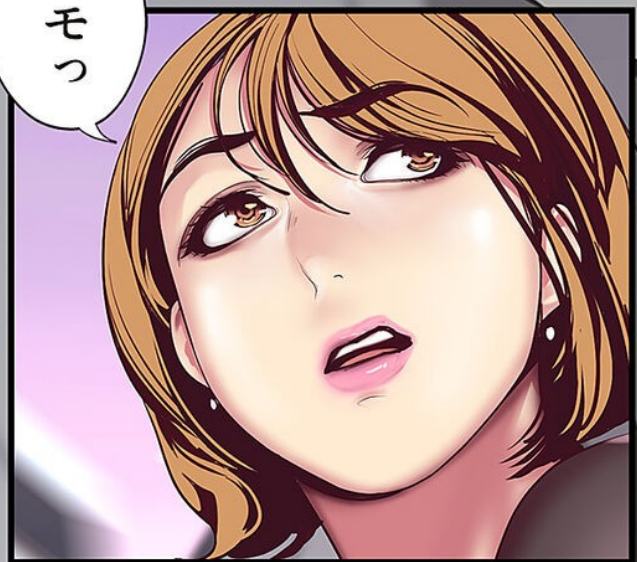








キモッ



ほらあたしの
言った通り
でしょ？

何かあるはず
だって

あたしたちも
入りましたよ

入る気かよ？

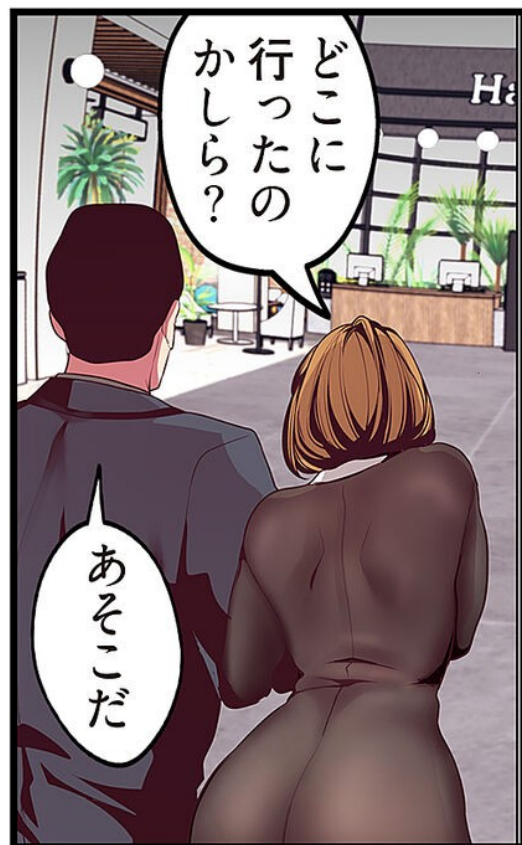
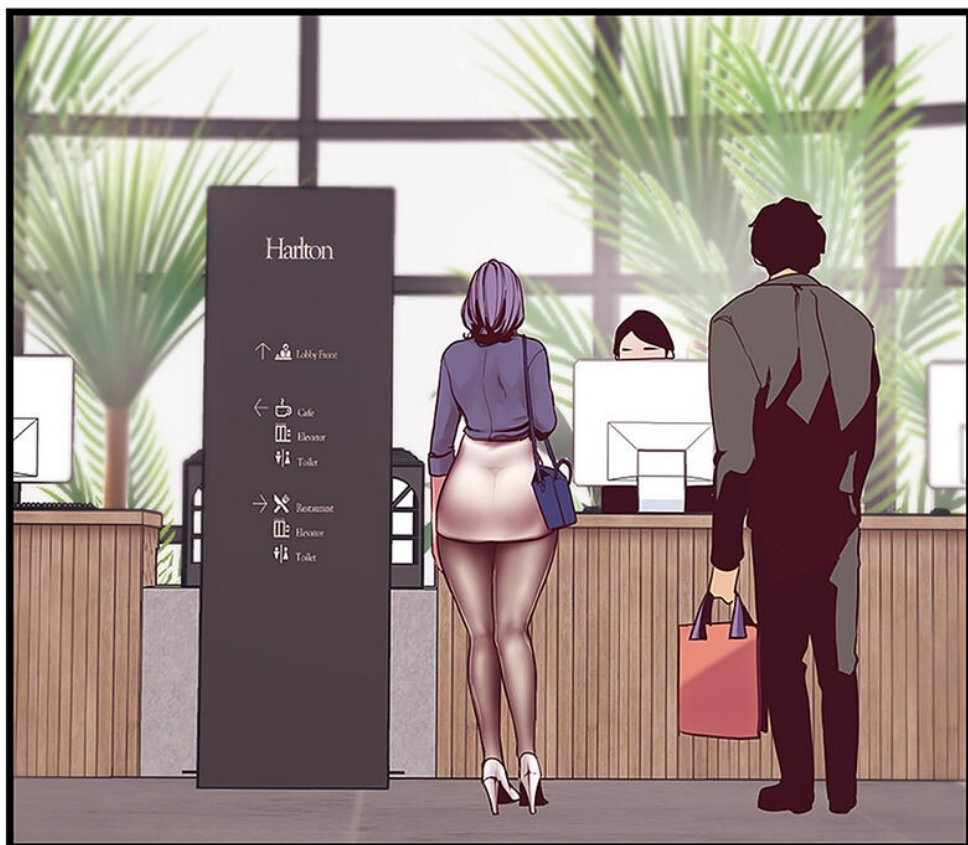
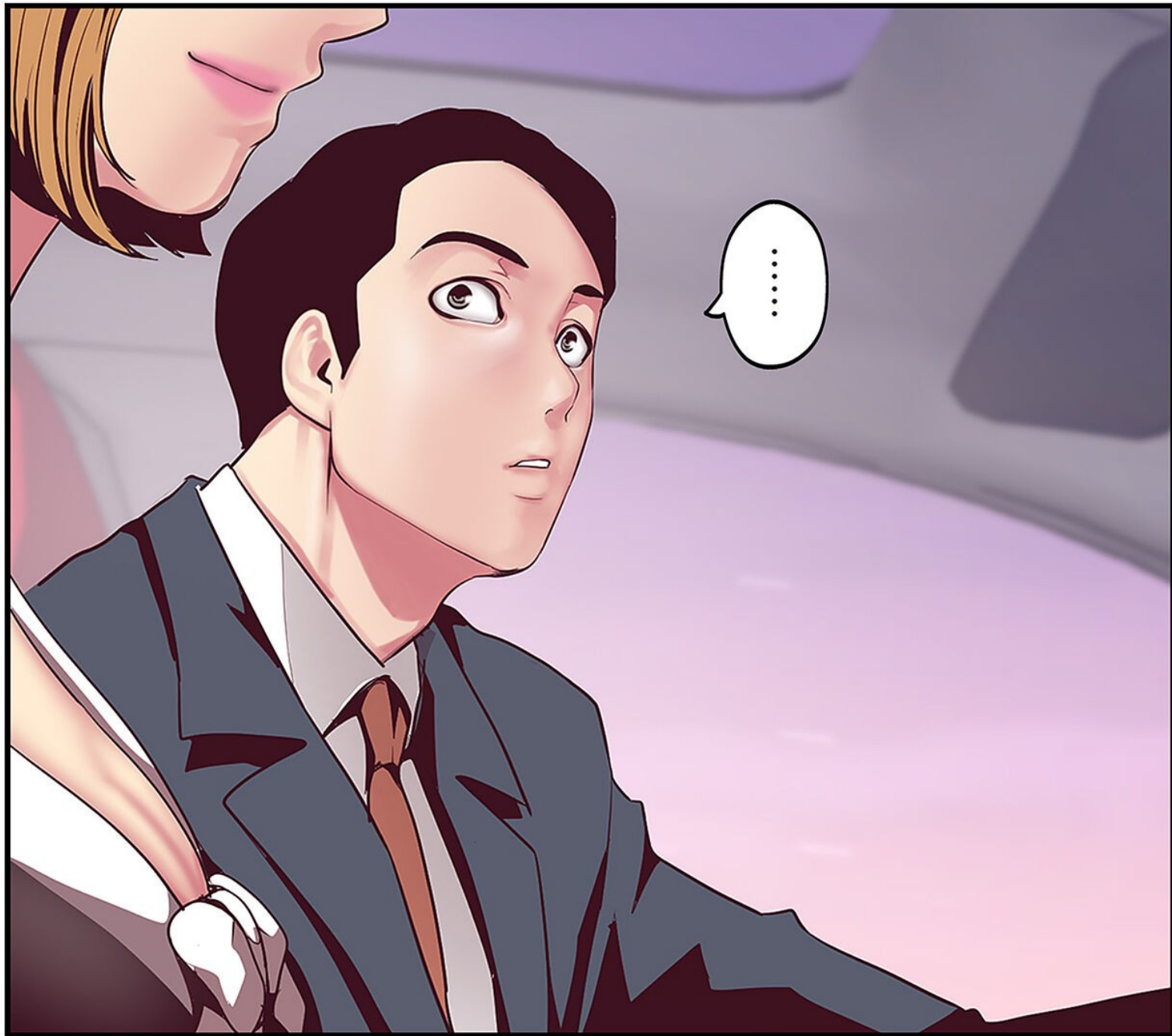
こうなった以上
やってやるわよ

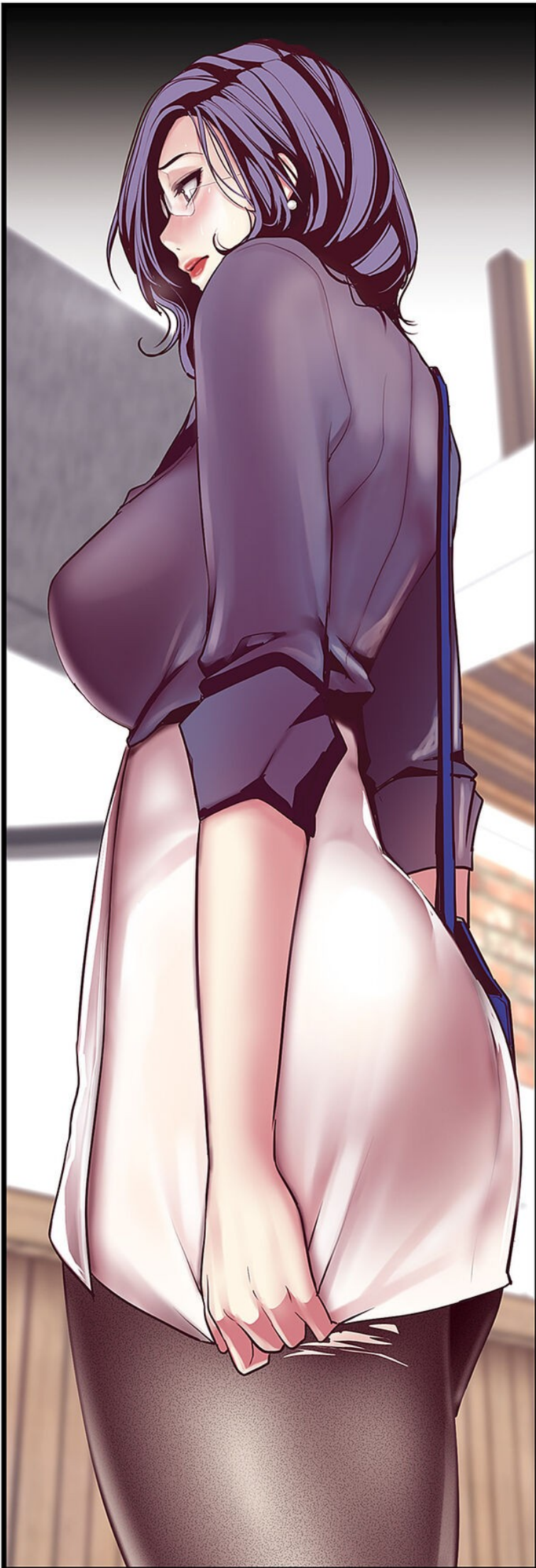
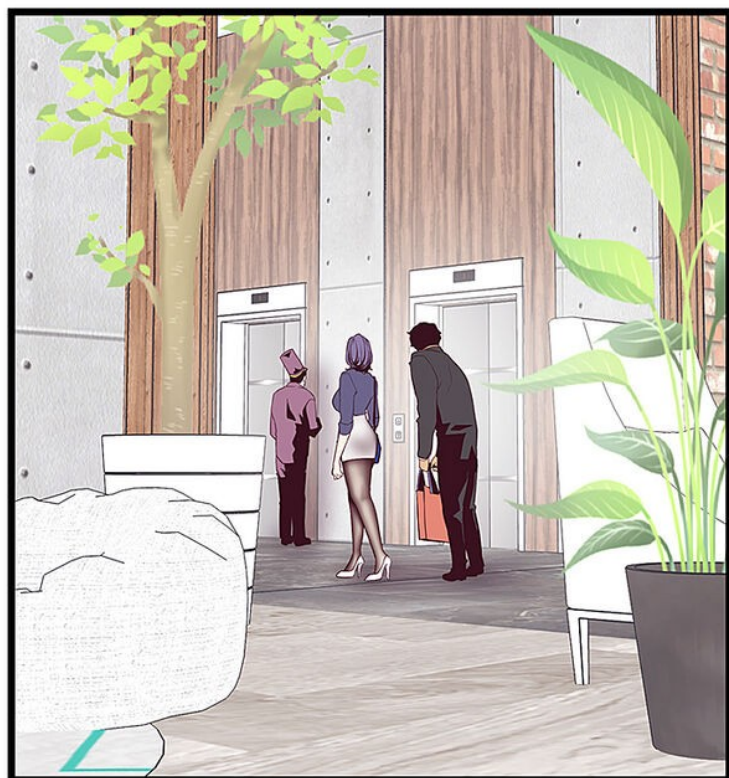
あのコネ野郎
今度こそ地方に
飛ばしてやるん
だから

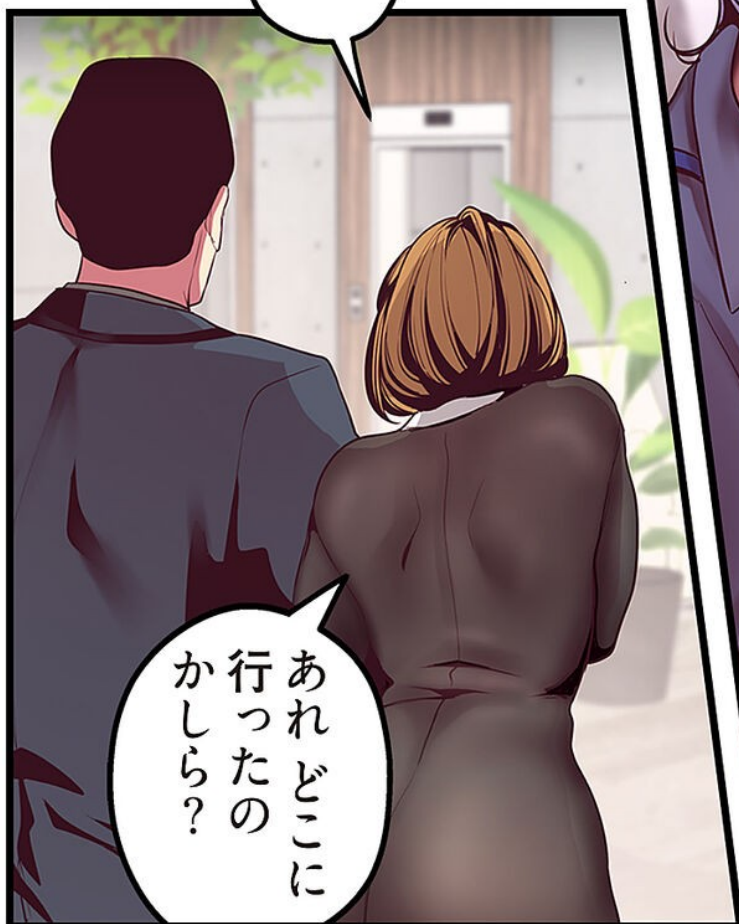
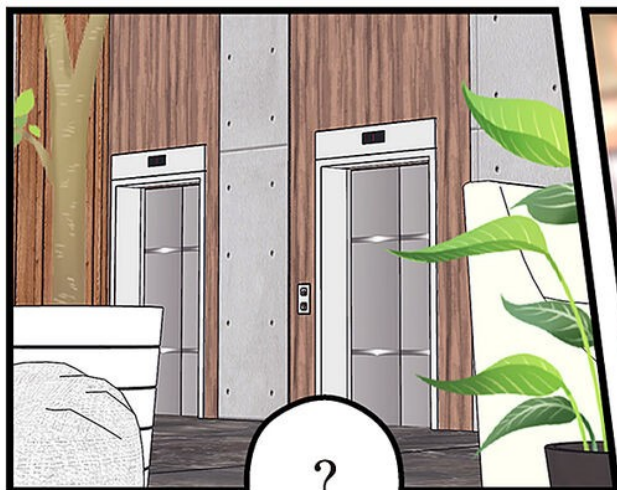
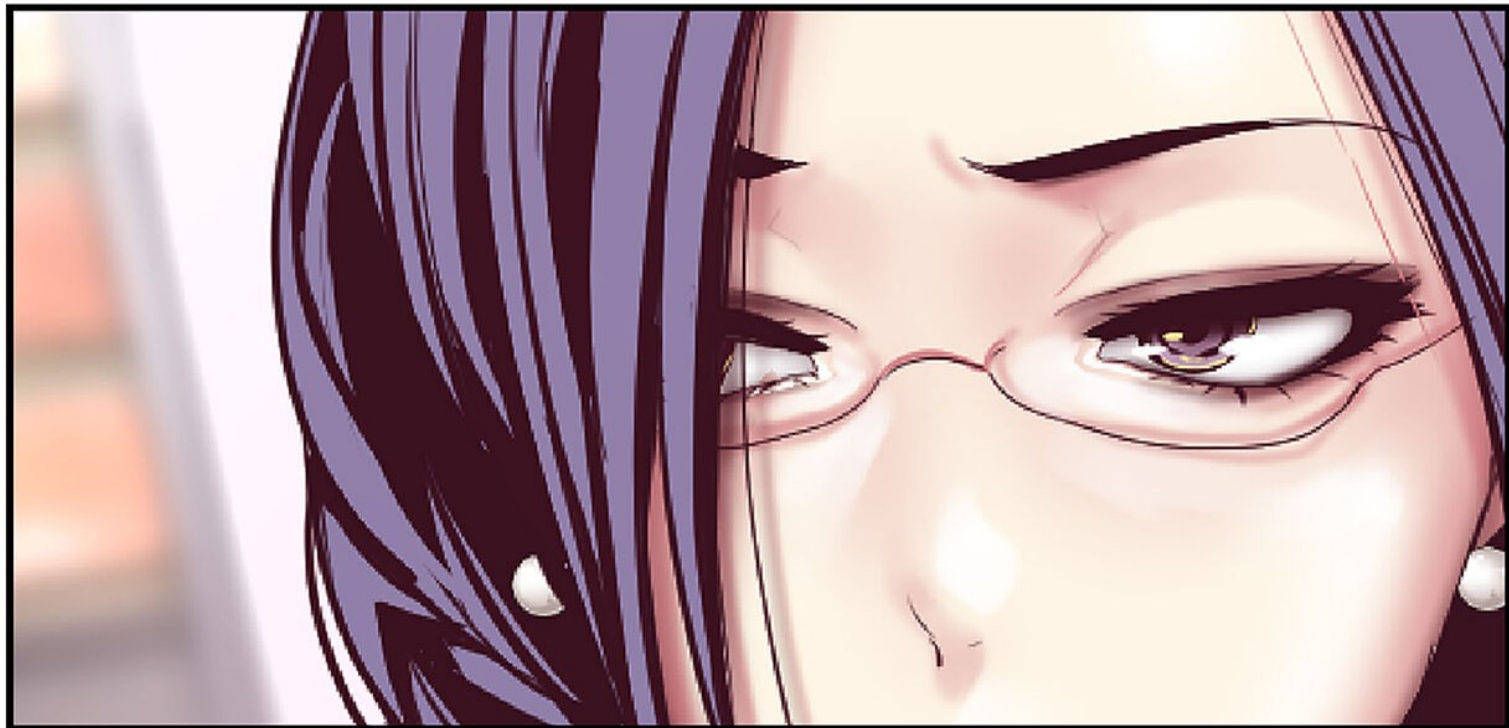
次長には
申し訳
ないけど…

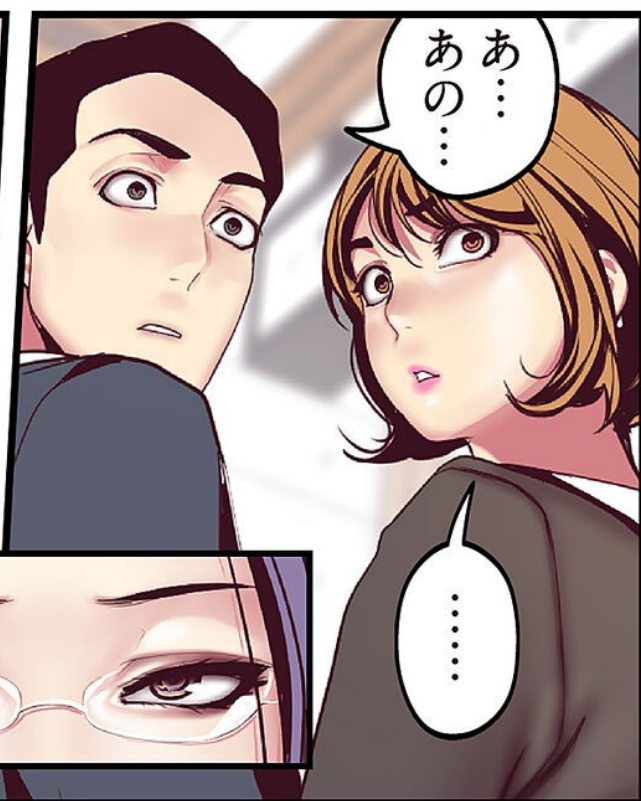
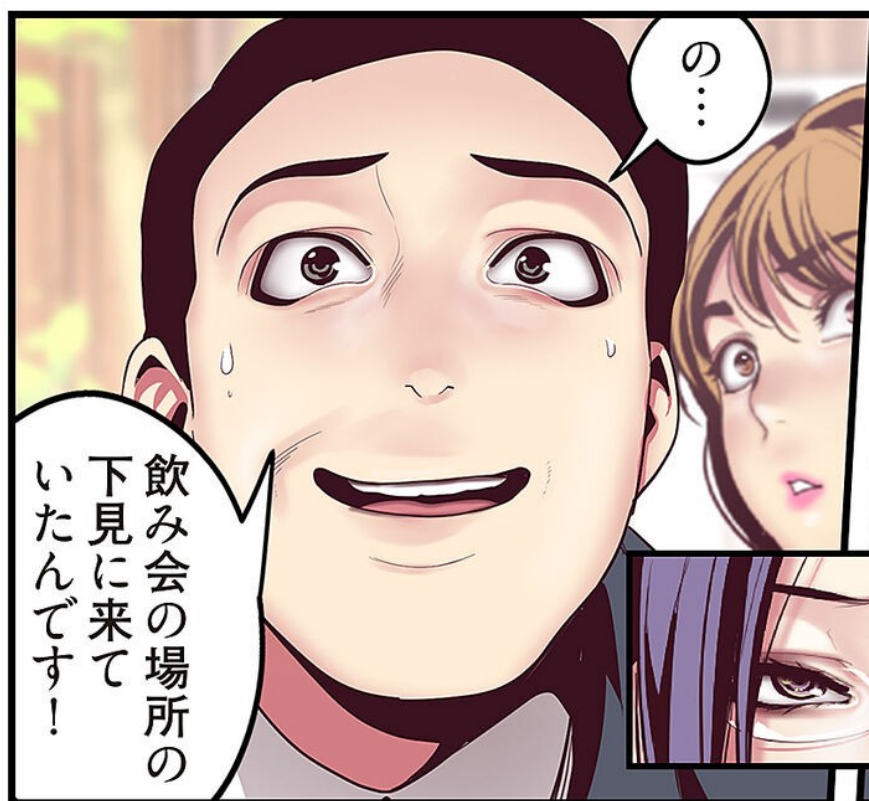
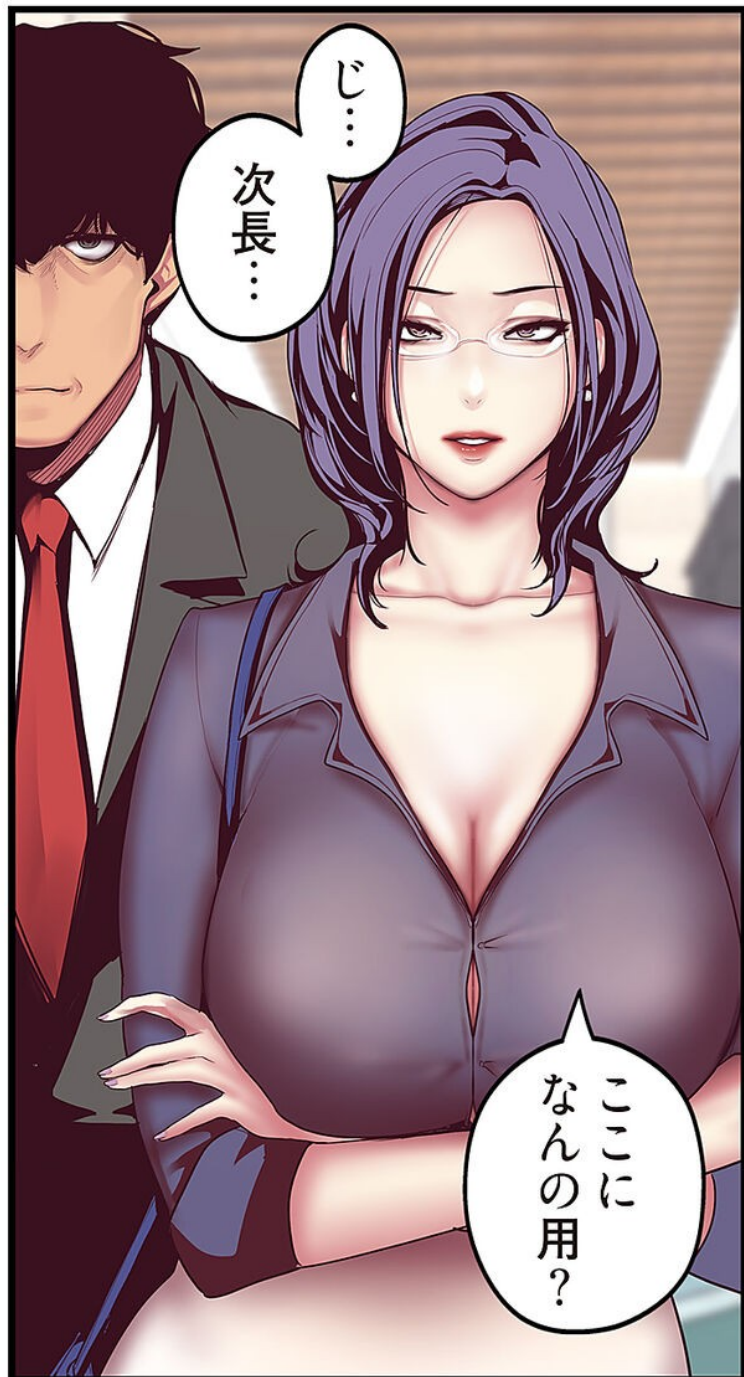
あんなヤツと
くつついてるから
いけないのよ
ふふっ

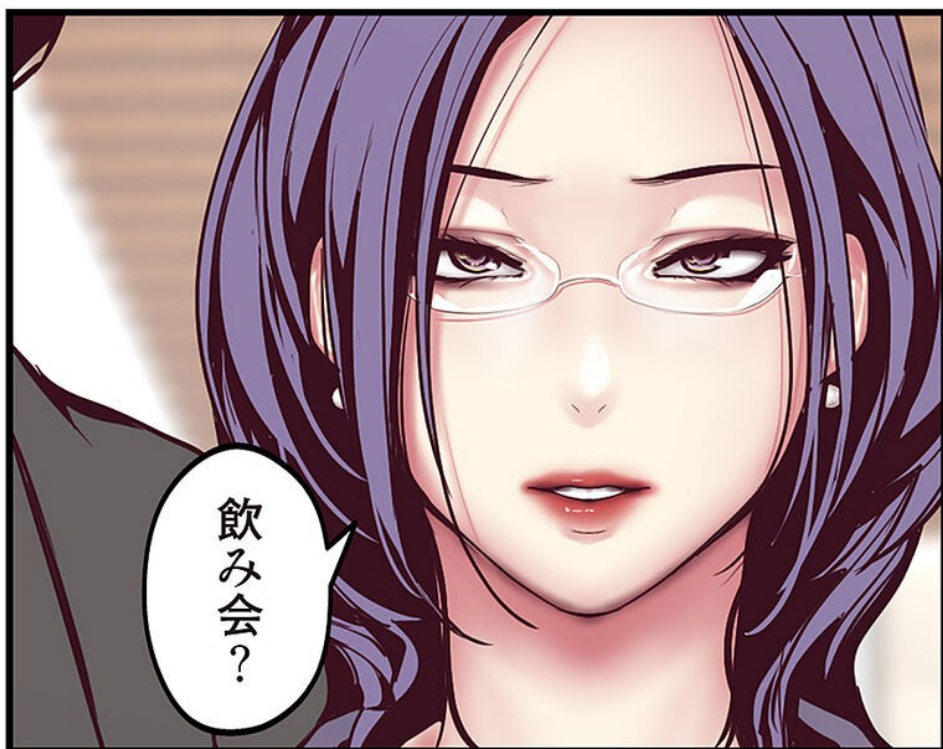


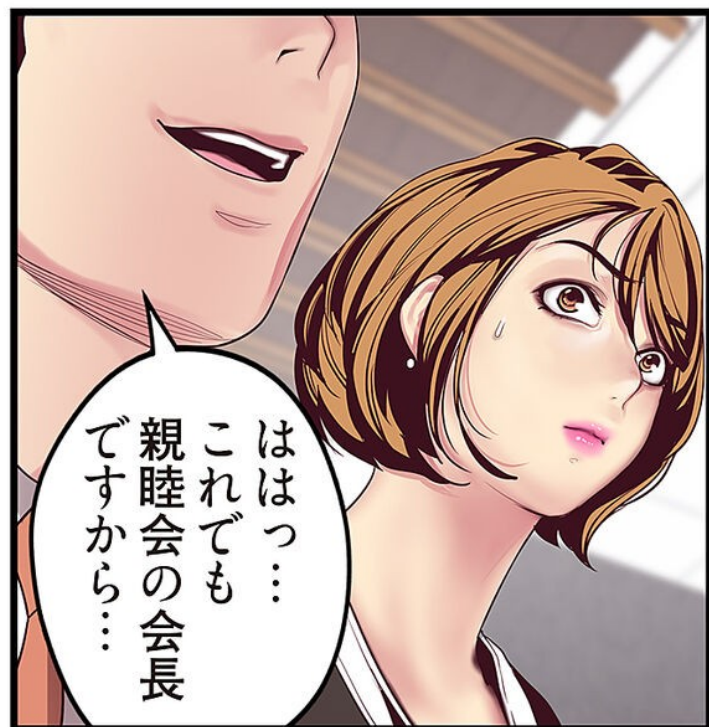
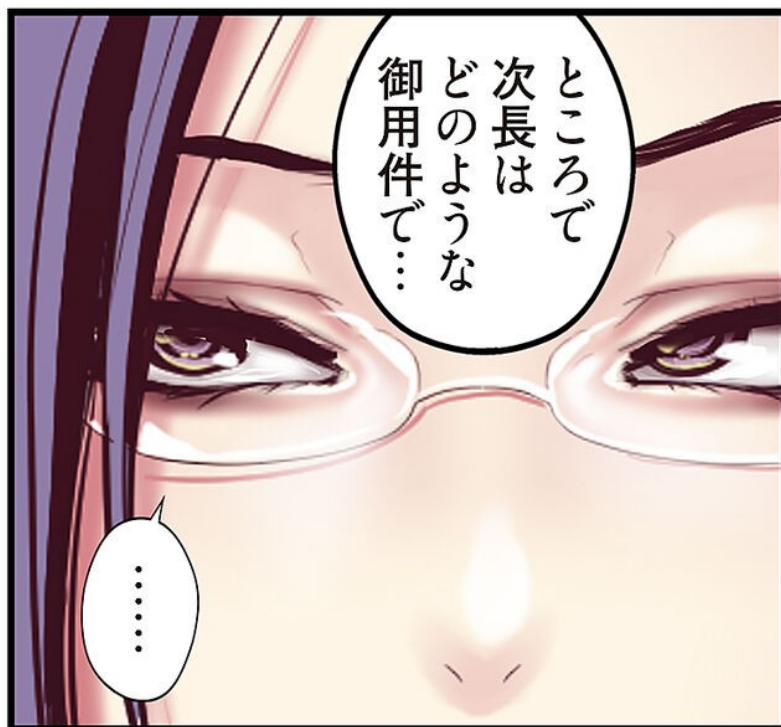


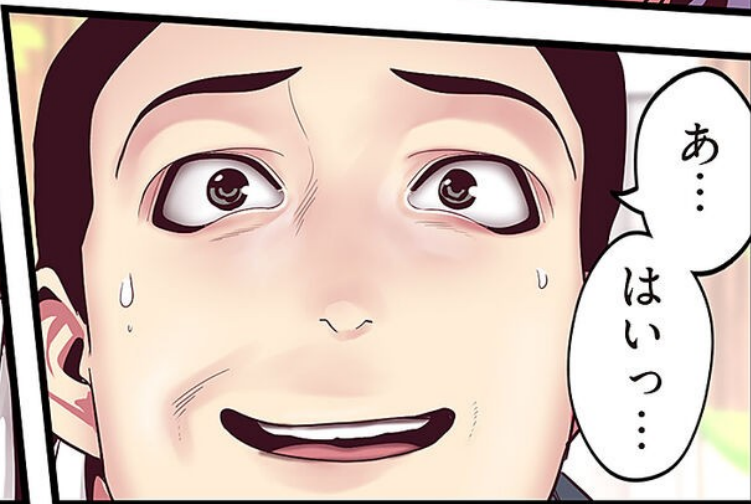
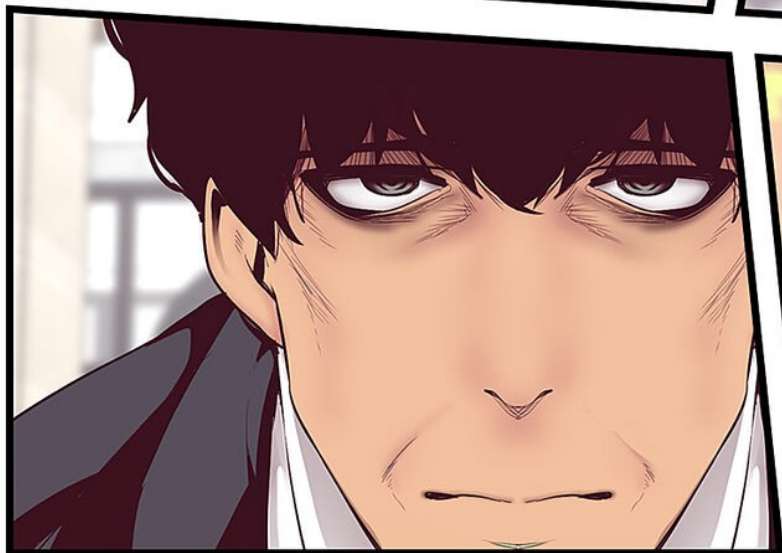
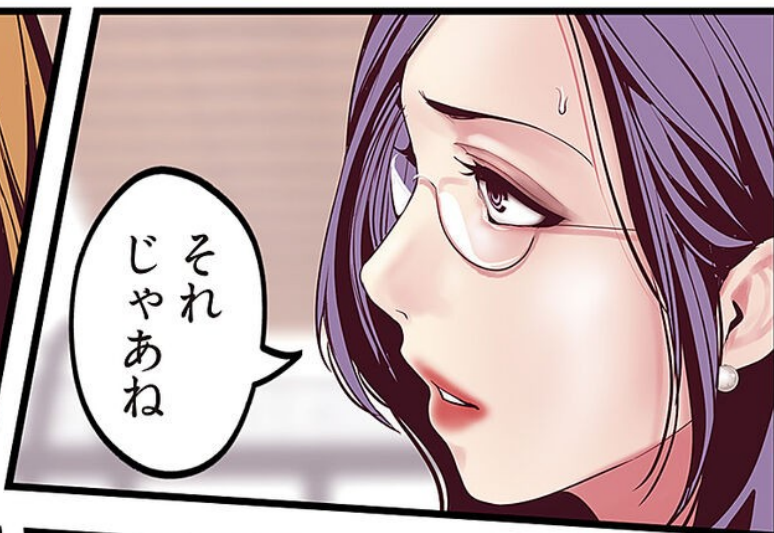
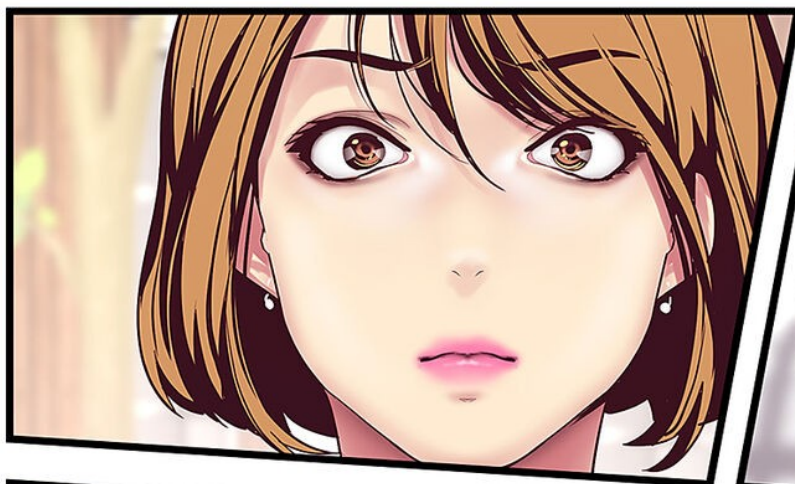
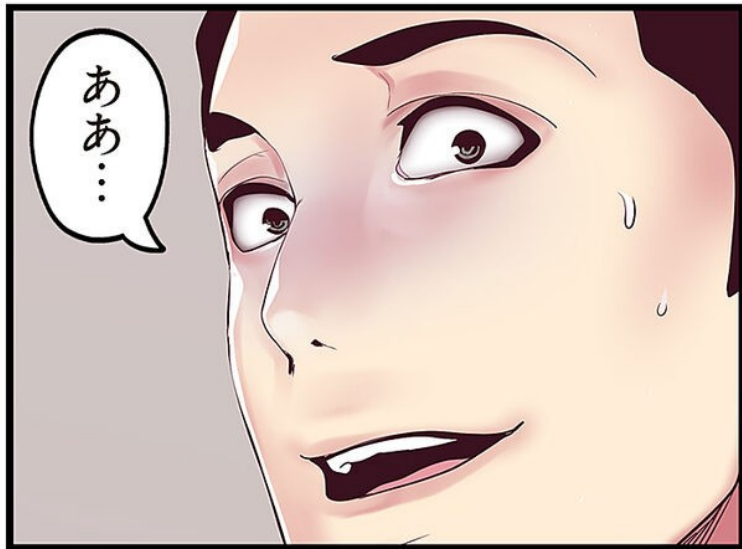












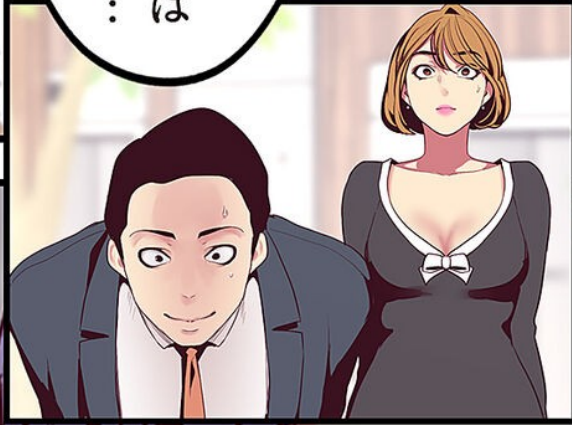


お疲れ様
です

あ…
それから
二人とも



そんなに
部署の雰囲気は
気になるのに…



自分たちが
こんな所に
出入りするの
は気にならない
ようね？

付き合うのは
かまわないけど
もう少し人目を
気にしなさい

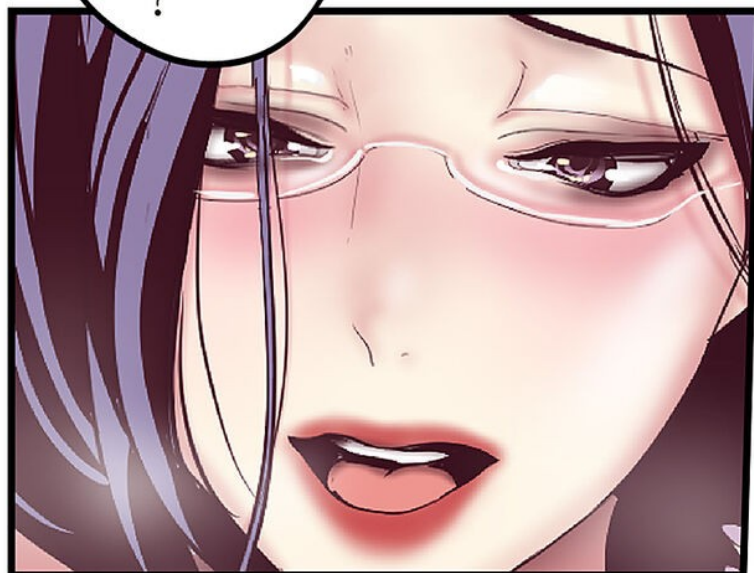
「部署の雰囲気」に
悪影響を
与えかねないわ





これから部下と
セックスします
なんて言えませ
んからね

それにしても
よくあの二人に
気付きましたね？



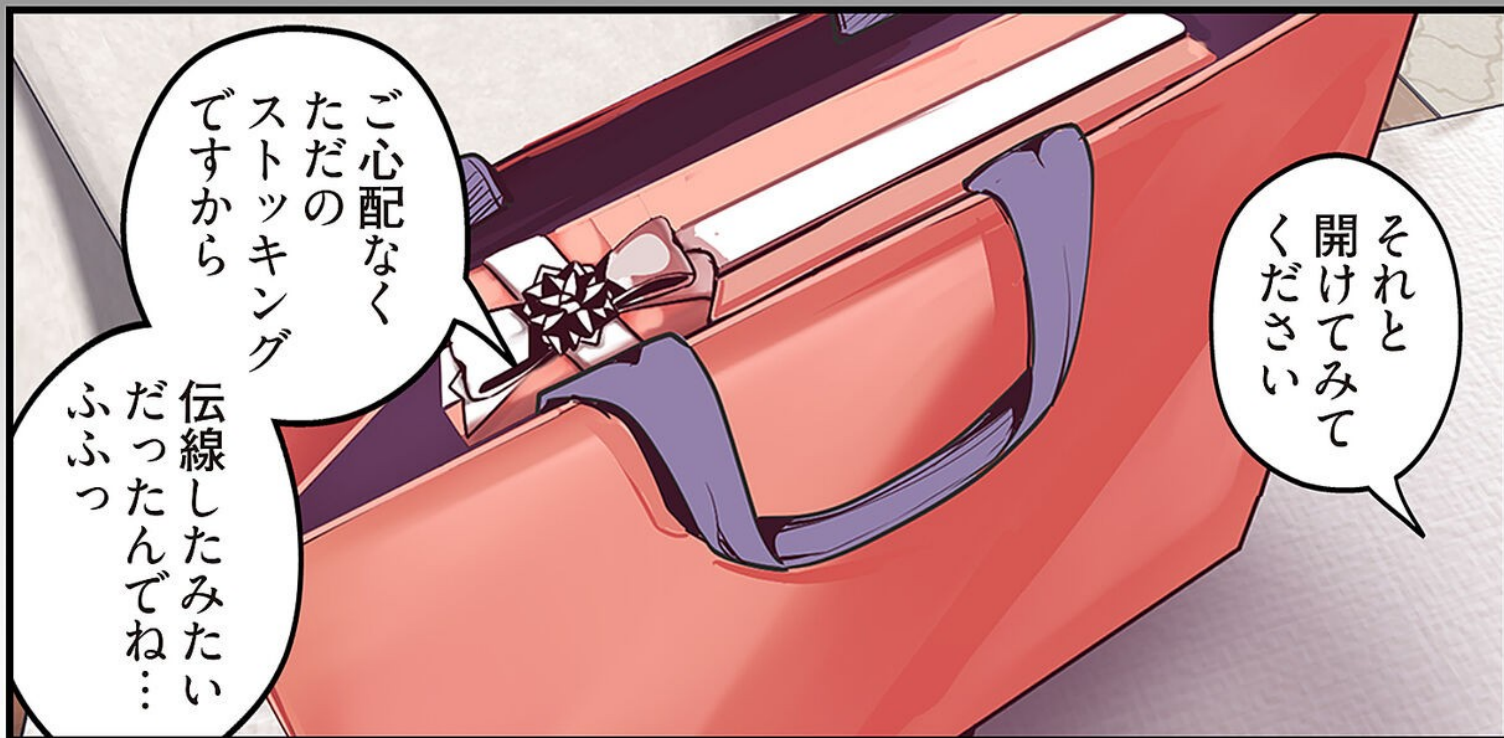
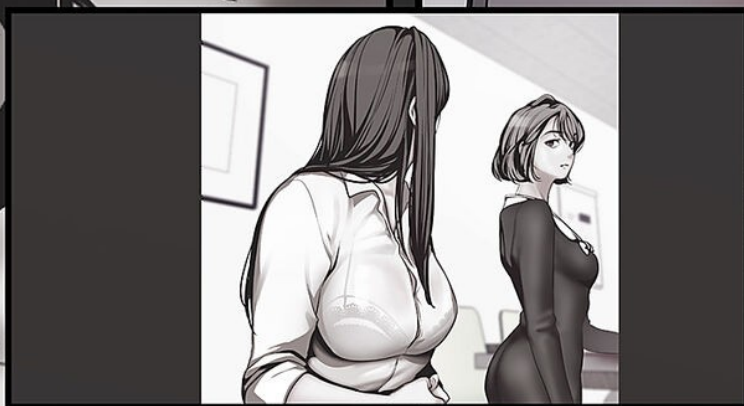
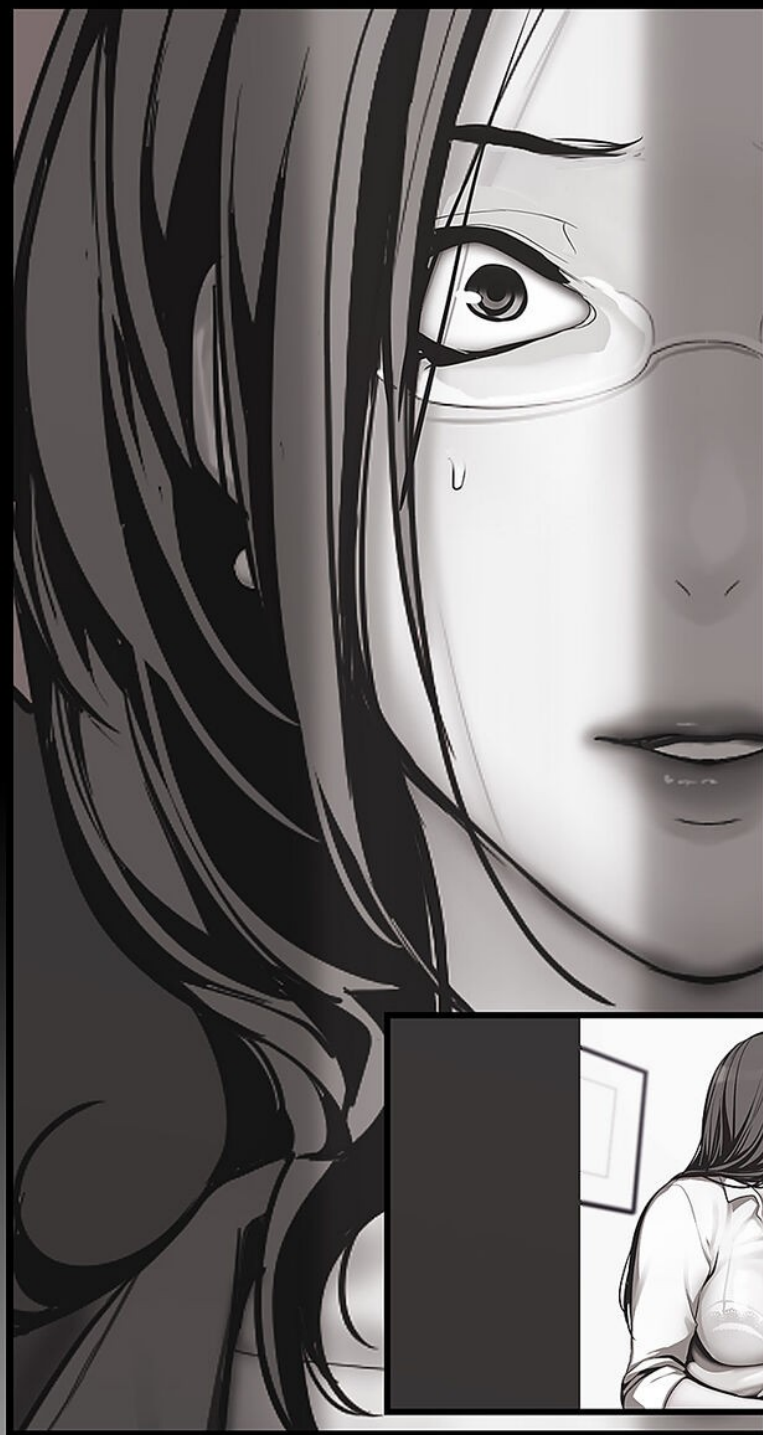
こいつだけで
這い上がって
きたわけじゃ
なかったん
ですな 次長

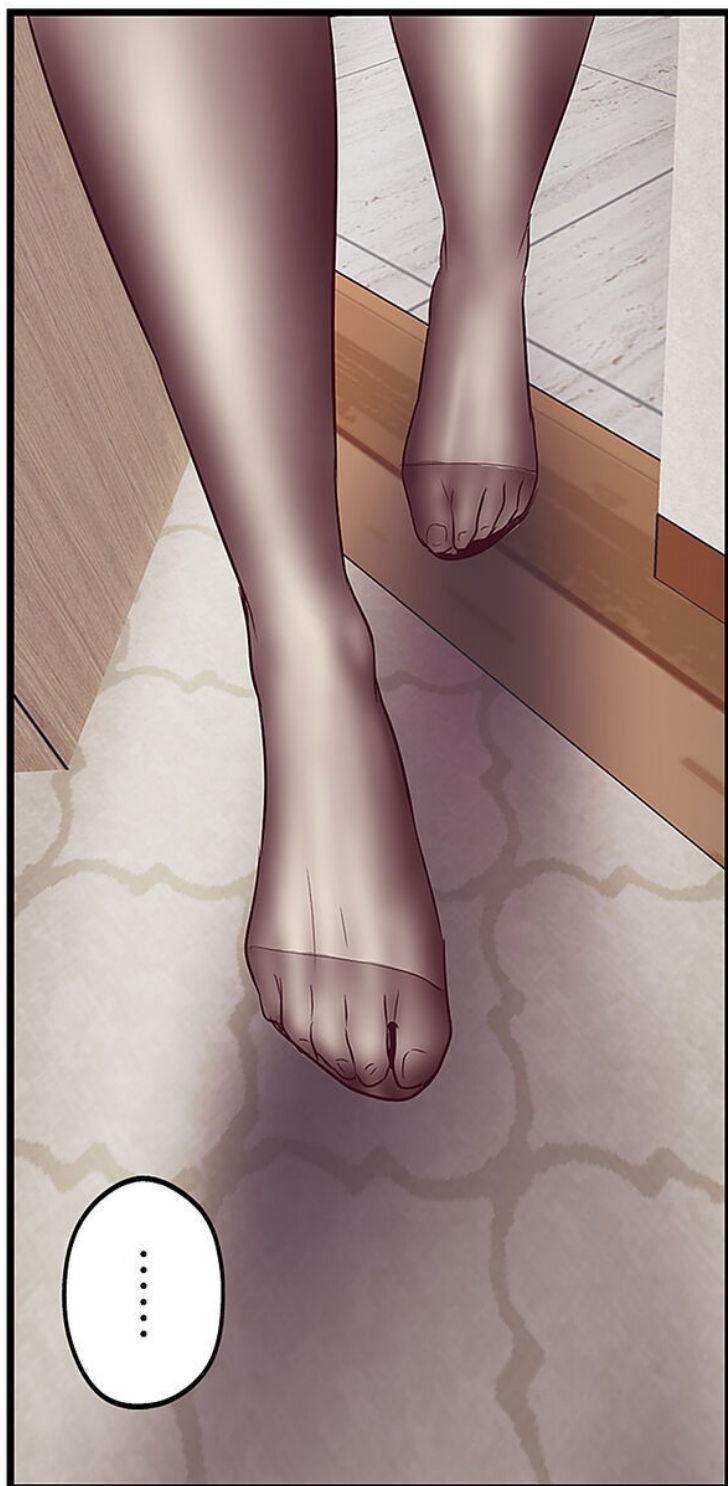
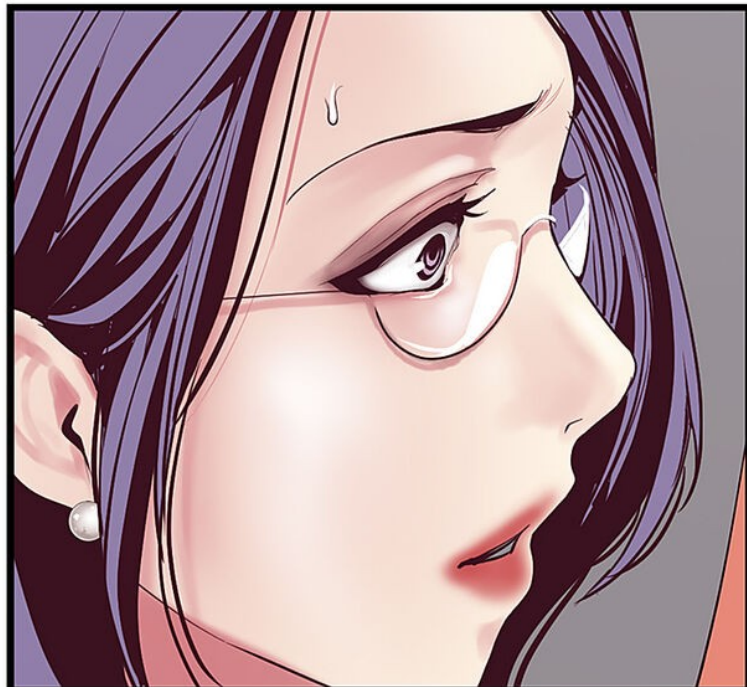
海外事業部の
担当者と面接？

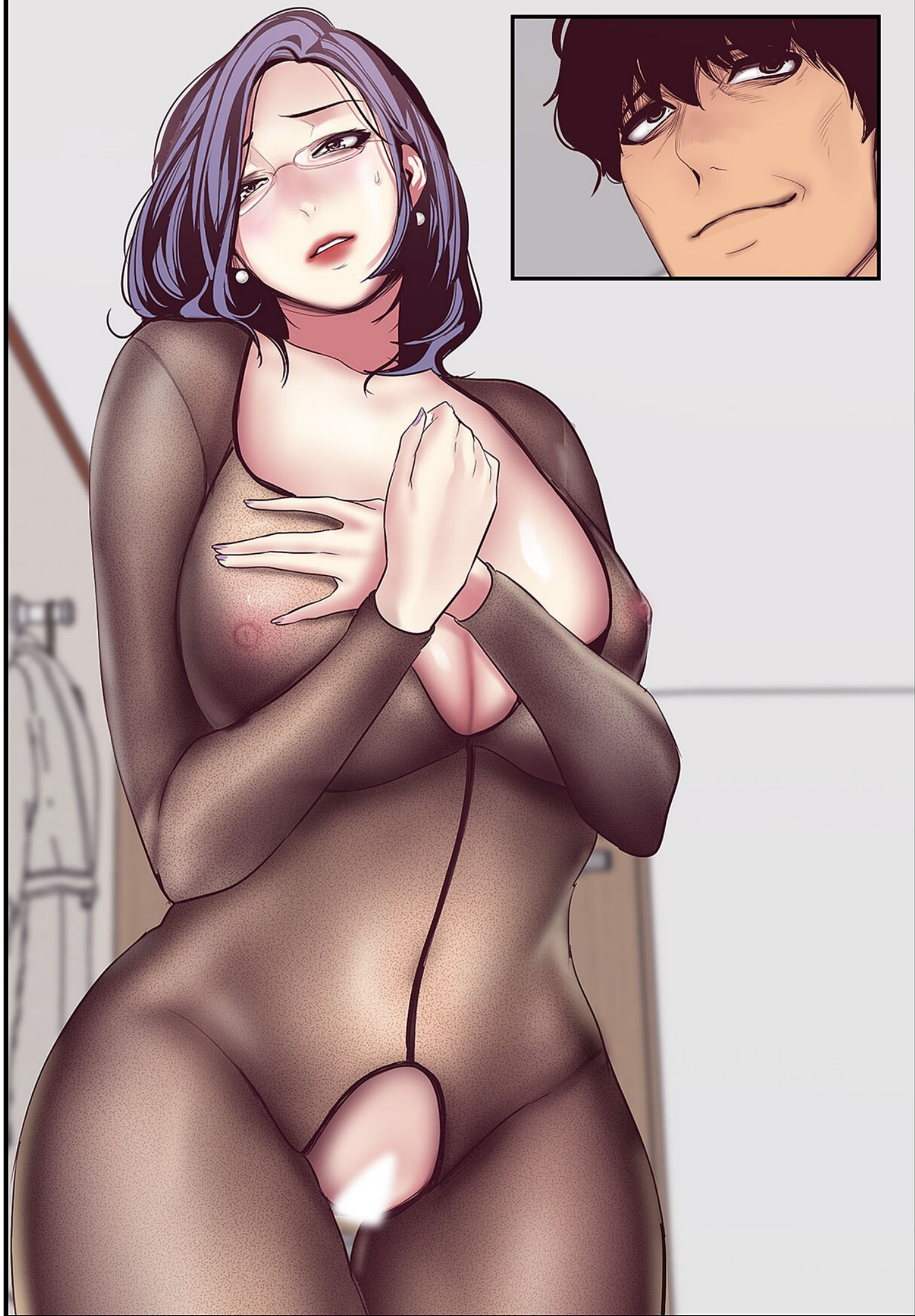
素晴らしい
アドリブ
でした



まあ何かと
言い訳は
いりますよね







京月葉

「純愛ジャンキー」
(秋田書店刊)

「CROSS
and CRIME」
(秋田書店刊)等

退屈を夢中に変える

圧倒的
刺激
!!!

「だってもう結婚してるから!」

奈 檎 マユミ

「あなたが
抱いているのは
私じゃない。」

(漫画) A r o
(原作) H a z y

待望の最新作!!

「パパと奏でる
EVERYDAY」

青年レーベル

「ズズズキューン!」
作品好評配信中!



「腐女子の園へ
ようこそ!!!」

狗 誅 か づ ろ



すばらしき新世界 【特装版】

著者 Yoongonji／Gosonjak

発行 ソルマーレ編集部

装丁 杉本龍一郎

★この作品はフィクションであり、実在の人物、団体、事件とはいっさい関係ありません。

© Yoongonji／Gosonjak/TOPCO/ソルマーレ編集部

※作家先生へのお便り、この作品に関するご感想などは以下までお願いします。

〒541-0041 大阪府中央区北浜4-7-28 住友ビル2号館2階
ソルマーレ編集部 Yoongonji先生、Gosonjak先生宛